

## 追分宿津軽屋保存修理工事図面リスト

番号		図面名	縮尺	番号		図面名	縮尺	番号		図面名	縮尺
1	A-01	特記仕様書 - 1	—	46	A-46	2階 小屋 梁伏図	S = 1:50	90	E-09	電灯設備 1階平面図	S = 1:50
2	A-02	特記仕様書 - 2	—	47	A-47	2階 小屋 母屋・垂木・流れ桟・野地板伏図	S = 1:50	91	E-10	電灯設備 2階平面図	S = 1:50
3	A-03	特記仕様書 - 3	—	48	A-48	桁行方向 軸組図 - 1	S = 1:50	92	E-11	コンセント設備 凡例	—
4	A-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 - 1	—	49	A-49	桁行方向 軸組図 - 2	S = 1:50	93	E-12	コンセント設備 1階平面図	S = 1:50
5	A-05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 - 2	—	50	A-50	桁行方向 軸組図 - 3	S = 1:50	94	E-13	コンセント設備 2階平面図	S = 1:50
6	A-06	鉄骨構造標準図 - 1	—	51	A-51	梁間方向 軸組図 - 1	S = 1:50	95	E-14	自動火災報知設備 系統図・凡例	—
7	A-07	鉄骨構造標準図 - 2	—	52	A-52	梁間方向 軸組図 - 2	S = 1:50	96	E-15	自動火災報知・消火器設備 1階平面図	S = 1:50
8	A-08	ハイベースNEO工法設計施工標準図 - 1	—	53	A-53	梁間方向 軸組図 - 3	S = 1:50	97	E-16	自動火災報知・消火器設備 2階平面図	S = 1:50
9	A-09	ハイベースNEO工法設計施工標準図 - 2	—	54	A-54	梁間方向 軸組図 - 4	S = 1:50	98	M-01	機械設備 特記仕様書	—
10	A-10	設計概要・案内図・面積表	S = 1:100 S = 1:150	55	A-55	トイレ 平面詳細図	S = 1:20	99	M-02	機器表・器具表	—
11	A-11	配置図	S = 1:50	56	A-56	階段・台所 平面詳細図	S = 1:20	100	M-03	配置図・衛生設備	S = 1:100
12	A-12	外部・内部 仕上表	S = 1:50	57	A-57	階段 断面詳細図	S = 1:20	101	M-04	1階 平面図(給排水衛生設備図)	S = 1:50
13	A-13	解体撤去概要 1階 平面図	S = 1:50	58	A-58	断面詳細図 - 1 (階段・台所・通り土間)	S = 1:20	102	M-05	1階 平面図(換気・空調設備図)	S = 1:50
14	A-14	解体撤去概要 2階 平面図	S = 1:50	59	A-59	断面詳細図 - 2 (中の間・板の間8通り)	S = 1:20	103	M-06	2階 平面図(換気・空調設備図)	S = 1:50
15	A-15	解体撤去概要 南・東側 立面図	—	60	A-60	断面詳細図 - 3 (奥の間・部屋1)	S = 1:20				
16	A-16	解体撤去概要 北・西側 立面図	S = 1:100	61	A-61	部分詳細図 (軒先・ケラバ・棚・カウンター)	S = 1:20			参考 現況 図面	
17	A-17	1階 平面図	S = 1:50	62	A-62	物置 平面図・立面図・軸組図	S = 1:50	104	現況-01	現況 1階平面図	S = 1:50
18	A-18	2階 平面図	S = 1:50	63	A-63	物置 基礎伏図・土台伏図・小屋伏図・展開図	S = 1:50	105	現況-02	現況 2階平面図	S = 1:50
19	A-19	1階 屋根伏図	S = 1:50	64	A-64	物置 矩計詳細図	S = 1:20	106	現況-03	現況 南・東側立面図	S = 1:50
20	A-20	2階 屋根伏図	S = 1:50	65	A-65	板塀・門扉等 詳細図	S = 1:50 S = 1:20	107	現況-04	現況 北・西側立面図	S = 1:50
21	A-21	南・東側 立面図	S = 1:50	66	A-66	建具キープラン	—	108	現況-05	現況 矩計図	S = 1:50
22	A-22	北・西側 立面図	S = 1:50	67	A-67	木製建具表 - 1	S = 1:50	109	現況-06	現況 展開図 - 1 (1階)	S = 1:50
23	A-23	梁間方向 矩計詳細図	S = 1:30	68	A-68	木製建具表 - 2	S = 1:50	110	現況-07	現況 展開図 - 2 (1階)	S = 1:30
24	A-24	桁行方向 矩計詳細図	S = 1:30	69	A-69	木製建具表 - 3	S = 1:50	111	現況-08	現況 展開図 - 3 (1階)	S = 1:30
25	A-25	トイレ 矩計詳細図	S = 1:20	70	A-70	鋼製建具表・トイレブース・サイン	S = 1:50	112	現況-09	現況 展開図 - 4 (1階)	S = 1:30
26	A-26	展開図 - 1 (1階)	S = 1:50	71	A-71	参考 仮設図	S = 1:100	113	現況-10	現況 展開図 - 5 (2階)	S = 1:50
27	A-27	展開図 - 2 (1階)	S = 1:50	72	A-72	外構計画平面図	S = 1:100	114	現況-11	現況 展開図 - 6 (2階)	S = 1:50
28	A-28	展開図 - 3 (1階)	S = 1:50	73	A-73	現況平面図(外構)	S = 1:100	115	現況-12	現況 展開図 - 7 (2階)	S = 1:50
29	A-29	展開図 - 4 (1階)	S = 1:50	74	A-74	舗装計画平面図	S = 1:100	116	現況-13	現況 1階天井伏図	S = 1:50
30	A-30	展開図 - 5 (2階)	S = 1:50	75	A-75	植栽計画平面図	S = 1:100	117	現況-14	現況 2階天井伏図	S = 1:50
31	A-31	展開図 - 6 (2階)	S = 1:50	76	A-76	雨水排水抑制計算用求積図	S = 1:100	118	現況-15	現況 礎石伏図	S = 1:50
32	A-32	展開図 - 7 (トイレ)	S = 1:50	77	A-77	舗装・施設詳細図	S = 1:5 S = 1:10	119	現況-16	現況 土台伏図	S = 1:50
33	A-33	1階 天井伏図	S = 1:50	78	A-78	門扉・サイロベンチ・支柱詳細図	S = 1:20 1:25 S = 1:30	120	現況-17	現況 大引・根太伏図	S = 1:50
34	A-34	2階 天井伏図	S = 1:50	79	A-76	浸透雨水樹詳細図	S = 1:20	121	現況-18	現況 1階荒床伏図	S = 1:50
35	A-35	鉄骨基礎伏図・配筋図・鉄骨詳細図 - 1	S = 1:20 1:30 S = 1:50	80	A-77	排水施設詳細図 (U字溝詳細図)	S = 1:10	122	現況-19	現況 2階床伏図・1階小屋伏図	S = 1:50
36	A-36	鉄骨詳細図 - 2	S = 1:100	81	A-78	排水施設詳細図 (グレーチング詳細図)	S = 1:10	123	現況-20	現況 2階荒床伏図	S = 1:50
37	A-37	鉄骨詳細図 - 3	S = 1:20					124	現況-21	現況 小屋伏図	S = 1:50
38	A-38	基礎・礎石伏図	S = 1:50	82	E-01	電気設備 特記仕様書	—	125	現況-22	現況 小屋伏図(母屋・垂木)	S = 1:50
39	A-39	木造基礎 配筋図	S = 1:50	83	E-02	配置図(幹線・弱電設備)	S = 1:100	126	現況-23	現況 軸組図 - 1	S = 1:50
40	A-40	土台伏図	S = 1:50	84	E-03	電気分電盤	—	127	現況-24	現況 軸組図 - 2	S = 1:50
41	A-41	大引・根太伏図	S = 1:50	85	E-04	幹線・弱電設備 1階平面図	S = 1:50	128	現況-25	現況 軸組図 - 3	S = 1:50
42	A-42	1階 床板・敷居等伏図	S = 1:50	86	E-05	幹線・弱電設備 2階平面図	S = 1:50	129	現況-26	現況 軸組図 - 4	S = 1:50
43	A-43	1階 小屋・2階床伏図	S = 1:50	87	E-06	照明姿図-1	—	130	現況-27	現況 軸組図 - 5	S = 1:50
44	A-44	木造部材と鉄骨の接続詳細図	S = 1:20	88	E-07	照明姿図-2	—	131	現況-28	現況 軸組図 - 6	S = 1:50
45	A-45	2階 床板・敷居等伏図	S = 1:50	89	E-08	電灯設備 凡例	—	132	現況-29	現況 軸組図 - 7	S = 1:50

## § 1 工事概要

### 1. 工事名称

令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事

### 2. 所在地

北佐久郡 軽井沢町 大字追分 568

### 3. 建物の概要

津軽屋は旧中山道の追分宿で茶屋を営んでいた歴史的建造物である。追分宿の西側入口の枳形に近い位置であることから、「枳形の茶屋」と呼ばれて多くの場面で語り継がれてきた家で、追分宿を語る上では欠かせない存在である。建物は、嘉永2年（1849）作成の宿場簾絵図の津軽屋の間取と一致し、街道に面した前土間から幅3間の広い通り土間が裏二ワまで続き、さらに通り土間の中央に腰掛床が残存している稀有な間取りである。建築基準法上は、主屋は既存不適格建築物とし、トイレと物置は増築として建築確認申請する。

### 4. 工事の目的と方針

(1) 工事の目的と工事範囲

昭和30年代に建物を一部解体し、2階の床を上げる等の大きな改修をしているが、本工事では全面的な復元はせず、現状の規模の範囲で耐震補強と活用のための付加工事を行い、同時に可能な範囲で昭和13年当時に近付けて復元する。また、残存する腰掛床などは残して文化財的価値を失わないことを基本に工事を行い、将来に文化財として保存・活用することを目的とする。

(2) 工事の方針

この建物は軽井沢町の文化財指定を視野に入れた歴史的建物であることから工事に際しては極力文化財的価値を落とさない仕様と工法で行うことを優先し、丁寧で慎重に行う。図示した変更、修理以外は基本的に現状の状態を維持することとし、図示以外で保存、維持管理上支障のあると認めた軽微な事象は対処するが、金額の変更を伴うものについては関係者で協議する。耐震補強の他、活用のための工事である台所、階段等の改修、トイレと物置の増築は違和感のない程度に現代の仕様・工法を用いる。

### 5. 修理工事の概要

(1) 保存修理工事

損傷修理工事等は、構造から造作、仕上げに至るまで損傷部分を修理し、屋根は瓦葺きから鉄板葺きにし、間取りは通り土間、板の間、吹抜等を復元する。損傷箇所等の修理方法は、可能な限り既存部材を残して継木や刳木、埋木等で伝統的技法を用いて修理する。耐震補強工事、電気、給排水等の設備工事は全て現代仕様で新規に行う。

(2) 構造補強工事

1階は胴差を鉄骨で補強し、2階は構造用合板と土壁で補強する。鉄骨の基礎はできるだけ現状の礎石付近の地盤に影響を与えない形状にしているが、工事に当たっては慎重に根切を行う。

(3) 活用を優先した工事

別棟のトイレ、物置、階段、台所は活用に伴う付加工事で基本的に現代仕様・工法で行う。奥の間の床間や案内所、2階の部屋1、展示室、事務室等は現状に活用のための改修をして整備するもので、歴史的建造物に違和感のない仕様とする。

### 6. 既存寸法や部位・部材の扱い

本工事は既存の建物が基準となるので、寸法は既存建物を優先するが、設計図書との相違で重要と判断されるものについては、監督員と協議し承諾を得る。また、既存の部位や部材で、耐久性や機能、意匠上支障のないものについては、修理をして再用することを基本とする。再用に際しては、耐久性や機能、意匠上支障がないと判断される小さい傷や汚れ、欠損等は修理の必要はないが、監督員より指摘のあった場合は速やかに対処する。補足材料等は、基本的に既存材と同材種の同等品を使うことを原則とするが、設計図書との相違が生じたときには、監督員の承諾を得て既存の材種と変えることができる。

#### 7. 修理工事の内容

(1) 屋根

a.瓦と野地板の合板、その下のトントン葺きを解体撤去し、既存小舞板の上に新規にトントン葺きしてその上に流れ椼を垂木の間隔に配して野地板を張り、ガルバリウム鋼板を平葺きする。また、石置き屋根の仕様である軒先等の堰板を設ける。
b.下屋は新規垂木、野地板の上にガルバリウム鋼板を平葺き・立ハゼ葺きするが、東側の下屋の垂木は再使用する。
c.庇（霧除）は、2階東面は腕木以外は新規材で造り直し、出桁の上に目板葺きしてその上を銅板で葺く。同西面は1間増設するが、既存部分は腕木、出桁以外は新規材で作り直し、その上をガルバリウム鋼板で平葺きする。

(2) 外壁

a.外壁は全ての下見板を解体撤去し、新規さらこ下見板張りする。
b.2階の構造補強の合板が外側に張られる所は、合板の上に見板張りとする。
c.正面の漆喰レリーフは室内側に合板を張り、ビス等で剥離防止しを施した後、黒漆喰等で修復する。修復の方法によっては、同時に現状の立体記録を検討する。

(3) 構造補強

a.1階は、東西の下屋部分に8本、中央付近に2本の計10本の鉄骨柱を立てて、2階の胴差部分を補強する。鉄骨の基礎は既存礎石にできるだけ影響を及ぼさない形状で鉄筋コンクリートの基礎を造る。
b.鉄骨柱は南北方向は上部を鉄骨梁で繋ぐが、東西方向は桁方向の床梁の上で金物により木造軸組と緊結している。
c.2階は構造用合板と土壁を用いた補強を行い、室内は真壁仕様で、外壁は大壁仕様とする。
d.耐力壁とする土壁は厚さを70 mmに塗り増す。

(4) 木部修理工事

・土台
主要な軸組となる柱下には土台は入っていないが、当初の土間境で框下となる部分には蹴込板の受けとして土台がある。また、一旦解体する東西の下屋には土台があるが、これらは全て新規土台に取り替える。その他間取りの変わる階段、台所、奥の間、小縁は図示の通り新規土台とする。

・柱
図示の通り、当初柱は全て残しプランに応じて必要な新規柱を立てる。

・梁等
a.2階の「13通」と「へ通」の一部には補強の新規梁を補足する。
b.部屋1の「9通」の床梁は欠損が多いので新規材に替える。
c.事務室の梁と根太は当初の仕口の 残る位置まで約281mm上げる。
d.1階北側の「16通」の新規桁の高さを東側の下屋の高さまで上げる。西側の下屋も既存の桁の上に新規桁を 東立てする。
e.2階小屋組、北側の桁の東西の端部が破損、腐朽しているので、既存の桁の外側に新規桁を添えて軒先を支え、既存の損傷部分は切断する。
f.耐力壁等で必要箇所には横架材を新設する。

・床組
a.1階の床板、荒床、根太、大引等は「**腰掛床**」を除いて一旦全て取り外す。
b.大引は既存との間隔が3尺となる位置に新規大引を補足する。
c.1階の荒床は全て新規材で、下に断熱材入れて下張りをする。
d.「腰掛床」荒床は既存のままとし、損傷板は上記不使用する荒床を補足する。根太は既存根太の間に新規根太を補足する。
e.板の間の床板、下張も全て新規材で、下に断熱材入れて下張りをする。
f.2階の床は吹抜となる和室9と部屋2の床は全て撤去するが、部屋境の敷居と差鴨居は残す。部屋1の北側半分の荒床は新材とし、廊下の床板も幅広い松板に取り替える。

・各部の主な修理内容

a.東西の下屋は一旦全て解体し、構造補強の鉄骨工事完了後復帰する。東側の垂木は再使用するが、西側は桁の高さを上げ、垂木も東側の寸法に合わせて新規とする。
b.店の間:天井を撤去して根太天井を表し、前土間側の変形した鴨居を新材で造り直す。
c.中の間:中の間:天井の中央にある梁を取り替えるので、天井は必要部分を一旦取り外し復帰する。天井廻縁と竿縁は再使用するが天井板は杉板の羽重張りとする。東側の地袋の甲板は既存の2箇所の内、状態の良いものを再使用する。奥の間境の差鴨居の付ヒバタを新規材に取り替える。窓には障子を入れる。
d.奥の間:8畳間に広げるが、南北方向の梁を支えるために145mm狭くなっており、天井は新規に造り直すが、天井廻縁や長押、鴨居等は一部は既存材を残す。床の間は活用のために新規に造るもので、こは色付けはしない。付書院の建具と欄間は既存を移設する。

e.縁側: 床、壁、天井全て新規作成。
f.板の間: 框は既存、囲炉裏は位置を移動して新規作成し、階段は廊下から移設するが、階段本体の大きな修理や加工はない。西側の下屋部分に戸棚などを新規に設ける。
g.階段: 2階の活用のための側桁階段を新設する。階段下は図示した部分以外はデットスペースである。
h.台所: 活用のための厨房で、床はコンクリートの現代仕様で新設する。
i.部屋1: 既存の2室の間仕切壁と押入等を撤去して一室とし、新規荒床の上に転し根太を入れて畳の高さで板張りとする。天井は既存の2室の天井を残した状態で壁の部分を無目で塞ぐ。北側の窓の位置を高くし、東側の窓と共に障子を入れる。
j.部屋2: 既存の状態で壁の漆喰や天井板の修理をする。
k.展示室・前室:ロ・1柱を新設し、出格子の後補の柱1本を撤去する。吹抜側の壁を新設し点検用扉を設ける。
l.事務室: 床を梁、根太、荒床共に当初の低い位置に下げる。前室との境の敷居は厚12の縁甲板に直接加工する。壁や天井は新規作成。

(5) 左官修理工事

a.1階の東西の下屋は一旦解体するので、主要な壁については小舞下地土壁で新設し、仕上げを施す。
b.吹抜の既存壁は漆喰を落とし、一部残存する煤けた土壁に喰い荒壁をコテで荒く押さえる。
c.既存の土壁を耐力壁とする場所は、漆喰を掻き落として荒壁土等で壁厚70mmに塗増しする。
d.2階正面の漆喰のレリーフは一部浮いているので、室内側のレリーフ背面に耐水合板を張り、ステンレスビスや麻、寒冷紗、ネット等を用いて剥落防止を行う。その後、伝統的製法で作られた漆喰を用いて表面を修理し、周囲を黒漆喰の磨き仕上とする。施工前に多面方から調査検討して慎重に修理方法を決める。

(6) 木製建具修理工事

a.修理する障子と襖の多くは横幅が不足していたり、高さが不足しており、他の場所からの転用と考えられる。しかし、昭和30年代の津軽屋の改修においての転用とも考えられるので、図示の通り少し無理な補修、補足をして再利用する。幅の不足は木工事において柱に補足材を取付ける。
b.2階出格子の雨戸は建具の框の緩みと板の釘の抜けを補修する。

(7) 塗装

a.外部に面する木部は、原則として既存部分も含め浸透性防腐塗装とする。
b.内部の修理箇所は見栄えの許す必要最低限の古色オイル拭取とする。
c.床の間等復元ではなく整備の部分の活用のための工事箇所においては、古色オイル拭取とせず無色のオイル拭取やワックス仕上げとする。

(8) 礎石

a.基本的に既存の礎石は動かさないが、浮いている礎石やずれている礎石は所定の位置に据え直す。50～70mm沈下している奥の間の既存柱の8箇所は可能な範囲で砕石やモルタルによる礎石の調整を行う。
b.礎石間に入れる狭間石は、既存のものや周辺の石を使用しても良いが、遊んでいるがきちんと据えられている礎石は痕跡の可能性があるので動かさず現状で残置する。

(9) その他

軸組の歪みや不動沈下の修正は、部分的にジャキアップや立て直しを行い修正するが、予算内の可能な範囲とする。

## § 2 総 則

### 1. 概要

工事に際しては、文化財に準じた歴史的建造物の保存修理工事として、文化財保護の趣旨を理解し誠意をもって工事に当たる。指示された部分に関してはオリジナル材料の尊重と伝統的諸技法を踏襲して施工に当たる。実施に当たっては、監督員と十分に打ち合わせを行い、その指示に従って施工する。なお、この仕様書に記載のない事項でも、当然必要と認められるものは、施工業者の責任において施工する。不明の点や疑問を生じた場合は監督員の指示に従って施行する。

#### 2. 本仕様書以外の仕様の適用

この他の仕様書および図面に示されていない事項は下記による。

(1)軽井沢町の定める工事仕様書
(2)公共建築工事共通仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
(3)建築工事標準詳細図(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
(4)公共建築木造工事共通仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
(5)公共建築改修工事共通仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
(6)公共電気設備工事共通仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
(7)公共機械設備工事共通仕様書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)

#### 3. 設計図書の優先順位

(1)現場説明書および質疑回答書
(2)設計仕様書
(3)設計図面
(4)建築工事共通仕様書他(前記載)

#### 4. 用語の定義

(1)監督員：本仕様書の監督員とは、設計監理者または行政の管理者をいう。
(2)施工者：工事請負契約書に記載されている請負者、またはその代理人、またはそれらが委任する現場代理人をいう。
(3)承認：施工者がその責任において事前に計画、立案した事項について、監督員が承認すること。または、既成事実の正当性の内容に対して同意することをいう。
(4)検査：機械、材料および工事を設計図書と照合して、点検・考察を行い工事を完成するために、合否を判定することをいう。
(5)立会：施工者がその責任において行う検査、試験または確認業務に監督員が同席してその内容を見届けることをいう。
(6)指示：監督員が指示事項を施工者に示し、実施を求めることをいう。
(7)報告：施工者がその責任において、調査、計画、立案、選定または実施した事項を監督員に通知することをいう。

#### 5. 疑義及び条件の変更

本工事の設計図書に疑義を生じた場合は、監督員に申告し、その指示に従い施工する。また、現場の納まり、取り合わせなどの関係で軽微な変更を行う場合は、監督員の指示による。この場合は請負金額は増減しない。

#### 6. 官公署等への手続および提出書類等

(1)工事施工に必要な関係官公署等への諸手続は、請負者において迅速に処理これらの諸手続に要する費用は請負者の負担とする。
(2)関係官公署、付近住民等に対して交渉を要するとき、又は交渉を受けたときは速やかにその旨を監督員に申し出て協議する。
(3)請負者は、監督員の指示により、指定する期日までに関係の書類を提出する。

#### 7. 一般的注意事項

(1)請負者は、関連法令等に従い工事現場における安全衛生について必要な措置を講じる。また、工事現場への労働者、その他関係者の出入りを適切に管理し、火災、盗難、その他の事故の防止に努める。
(2)敷地内での火気の使用は所定の場所で行い、防火対策を厳重に行う。
(3)7月25日から8月31日は定期工事自粛期間のため現場内での作業はできない。

●●	協同組合	<b>伝統技法研究会</b>	一級建築士事務所
	管理建築士	一級建築士	大臣登録 第235045号
			市村康子

	<b>軽井沢町</b>

総括技術者	大平茂男	工 事 名  場 所	令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事
管理技術者	市村康子		
構造技術者	安達幸一		

図 名	特記仕様書 - 1		
縮 尺		図 面 番 号	A-01

## 8. 勤務

- 施工者は本工事現場に常時勤務することを原則とし、建設業法第26条による監理技術者を勤務させなければならない。
- 現場代理人は、監理技術者等も含めて経歴書を添付して提出する。
- 作業員
  - 大工は職業訓練法による1級技能士の資格を有するか、同等以上のと技能経験を有するもの。
  - 大工の中より、工事中の全期間就業の可能な主任技術者(文化財経験者が望ましい)を選任し、工事の円滑な進捗と統率をはかる。また、その選任については監督員の承認を得ること。
  - 本工事における諸作業や材料の搬入搬出は等は原則として夜間に行ってはならない。ただし、事前に書面を提出して関係者と協議し、許可を得たものについてはこの限りではない。
  - 施工者は工事着工に先立ち、下請業者および資材業者の名簿を提出する。名簿には、指定の有無、製造会社および施工会社(代理店は併記)、電話番号、担当者名、摘要欄、他
  - 工事に従事する作業員で、本工事に就労することが適当でないと監督員が判断した者は、直に交替させる。

### 9. 別契約の関連工事

- 請負者は、工事現場が隣接し、又は同一場所において別途工事がある場合は監督員の指示により、当該工事関係者と協力し、工事全体の円滑な進捗を計らなければならない。
- 請負者は、既に設置した仮設道路、定置する足場、棧橋等の類を別契約の関係工事請負者に無償で使用させること。

### 10. 住民等に対する広報等

請負者は、施工の方法等が周辺住民や通行者に影響を及ぼすおそれがある場合には、協力を求めるための広報など必要な措置を講じなければならない。

### 11. 事故発生時の措置

請負者は、工事施工中、工事の実施に影響を及ぼす事故、人身に損傷を生じた事故又は第三者に損害を与えた事故が発生したときは、直ちに応急処置等所要の措置を講ずるとともに、事故発生の原因及び経過、事故による被害の内容等について速やかに監督員に報告しなければならない。

### 12. 関係書類の常備

請負者は工事に係る関係書類を備え、監督員が随時閲覧できるよう整理しておく。

### 13. 実施工程表

- 請負者は、工事現場において着工するのに先立ち、工事実施に必要な工程表(以下「実施工程表」という。)を作成し、監督員の承諾を受け提出すること。ただし、軽易な工事については監督員の承諾を受け提出を省略することができる。
- 実施工程表上の工程及び工事内容等に変更の必要が生じ、その内容が重要な場合は、変更実施工程表について上記(1)と同様とする。
- 監督員の指示により、実施工程表を補足する週間と月間の工程表及び工種別工程表その他を作成し提出すること。

### 14. 施工計画書

- 着工に先立ち、工事の総合仮設をまとめた施工計画書を作成し、監督員に提出すること。
- 各工種別に材料工法等を具体的に定めた施工計画書を作成し、監督員の承諾を受けること。ただし、軽易な工事については、監督員の承諾を受け作成を省略することができる。

### 15. 施工図・原寸図等

請負者は、施工図、製作図、加工図、原寸図等を、必要に応じて速やかに作成し、係員の承諾を受けること。これらの図面は工事終了時にA3版に縮小して必要に応じて製本する。

### 16. 施工の立会い、確認

請負者は、工事の進捗が主要な工事段階の区切り又は監督員と協議して定めた工程に達したときは、監督員の確認を受けて次の工程に移行すること。

### 17. 工事の報告及び記録

- 施工業者は毎日天気、気温、工事進捗状況、職人数、主な出来事等について、記録簿を作成し、これらをまとめた旬報を提出する。
- 請負者は、監督員が指示した事項及び協議した事項について記録し、これを系統的に整理し提出する。また、下記の記録も整理し提出する。
  - 既存部分を解体する場合の仕様や寸法、作業前と作業中、作業後の写真他
  - 損傷部で取替えた材料の場所、寸法と材種、木拾表
  - 工事終了後、既存と本工事による取替材や塗替え部分を区別した図面
  - 使用した材料の産地等と実施仕様書
  - その他
- 請負者は、工事全般にわたって工事写真を撮影し、一週間毎に主要な工事写真を提出する。写真は、工事完了後に撤去又は隠べいされて確認が不可能となる部分については、設計図書通りに施工されていることが確認できるように主要な部分を撮影すること。また、これとは別に写真家と同程度の技量のある者の撮影した工事着手前と工事完了時に外観と各部屋4面を撮影し、写真帳としてデジタルデータと共に提出すること。
- 提出物
  - 竣工図(上記実施工事範囲が記入されたもの) 製本3部
  - 施工図 製本3部
  - 工事写真帳 3部 (月日と解説入)
  - 工事着手前の外観と全ての部屋(竣工写真は主な部屋)の 竣工写真帳 3部
  - デジタルデータ(写真はインデックス添付)3部
  - 上記(1)(2)の工事記録 3部
    - 提出した写真等は、軽井沢町に帰属する。

# S3 特記事項

### 1. 仮設工事

- 概要**

現場事務所や作業場は敷地 西側の駐車場付近に設ける。必要な工事範囲全体を仮囲いし、建物外周に仮設足場、養生シートをかけて解体時の飛散防止と工事の安全を図る。本工事では素屋根は設けない。内部は一部吹抜になることや、床、壁、天井を部分的に解体するので、既存部分の損傷や汚れ防止、工事後の丁寧な清掃など文化財建造物に準じた 工事であることを十分認識し、養生は方法や材料を良く検討して念入に行なう。

#### (2) 仮設物の内容

- 共通仮設
  - 現場事務所、作業場、仮設便所、その他必要とする施設。
  - 敷地内は必要に応じてシート又は鋼板等で養生する。
  - コンクリート打ち、鉄骨の搬入等必要に応じて交通整理員を配置する。
- 直接仮設
  - 外部足場は手摺先行クサビ緊結式で 建地幅900とし、建物全周に設置する。階段は2カ所以上で防音シート等を掛ける。
  - 屋根工事はシート養生で行い、雨漏りの無いように十分注意する。
  - 内部の柱や造作材は、傷や汚れが付かないように緩衝材やビニール養生を行い、養生テープ痕の残らないように注意する。
  - 2階の梁下には、必要に応じて水平安全ネットを設置する。

#### (3) 材料・構造

- 現場事務所は組立ハウス程度。
- 足場は手摺先行クサビ緊結式、単管ブラケット足場等
  - 材料はいずれもJIS8951(鋼管足場)の定める規格に適合する物。
- 鋼板、シート、フェンス、カラーコーン、他
- 外部養生 足場板 その他

### 2. 解体工事

- 概要**

歴史的建造物の一部分の解体であることから、解体に先立ち解体方法や範囲を監督員と協議し、仕様を確認しながら慎重に解体する。解体は各職種の職人が行うのが望ましく、特に木部は大工職人が解体を行ない、修理を進める上での知見を養う。解体部分の仕様と現状、解体中、解体後を写真で記録する。

#### (2) 主な内容

- 屋根の瓦や鉄板、その下の野地板合板、トントン葺きを解体撤去。
- 外壁の南京下見板、アルミサッシ、他解体撤去。
- 図示されている内部の修理、改修される部分の解体撤去。
- 必要可能な範囲の給排水・ガス、AC設備関係配管、電気配線、照明器具、テレビアンテナ他撤去。

- 東西の下屋の基礎、土間、ブロック壁のムロ、コンクリートの便槽等を解体撤去。
- ムロは上部300mmまでコンクリートブロックを解体撤去し、内部は残土等で埋める。
- 敷地境界等にあるブロック塀、ネットフェンス等を解体撤去。

### 3. 土工事・基礎工事

#### (1) 概要

- 土工事

構造補強鉄骨の基礎工事に際しては、東西の下屋部分は一旦解体して建物の外側から施行を行う。建物の周辺は地面が高いので、図示する範囲の掘取を行い、残土は場外搬出し適切に処分する (一部外構工事)。
- 基礎工事

構造補強鉄骨の基礎は鉄筋コンクリートで、独立基礎を地中梁で結ぶ基礎を造る。既存の建物の基礎は礎石で、基本的には動かさない。改修に応じて鉄筋コンクリートの布基礎、新規礎石、玉石の地覆等、図示による。

#### (2) 内容

- 構造補強鉄骨基礎：鉄筋コンクリート基礎は、地盤の高さや礎石の位置などを正確に実測して図面と照合した後、型枠を製作し、配筋、コンクリートの打設を行う。
- 建物改修部分の基礎：鉄筋コンクリートの布基礎と独立基礎で、下屋は補強鉄骨の基礎と一体化する。
- トイレ：鉄筋コンクリートベタ基礎

#### (3) 材料

- 型 枠 普通型枠合板、トイレは打放用合板他。
- 鉄 筋 構造特記仕様書参照 鉄筋SD295A
- セメント 構造特記仕様書参照 コンクリート FC24スランブ18 土間コンクリートFC21スランブ18

### 4. 鉄骨工事

#### (1) 概要

1階は鉄骨による耐震補強を行う。南北方向の3筋に鉄筋コンクリート基礎の鉄骨柱10本を立て、2階の胴差と梁部分と金物で緊結する。東西方向には鉄骨の梁は入らない。

#### (2) 内容

- 東西の下屋部分に側柱から400mm離して鉄骨柱を対象の位置に4本ずつ立て 頂部を角パイプの梁で繋ぎ、さらに直行する木梁と緊結する金物を取付けるためのプレートを加工する。木部取付は金物共木工事とする。
- 台所と階段部分も上記同じ補強を1スパンのみ行う。

#### (3) 材 料

- 鉄骨 SPKR400□-100×100×3.2、□-200×200×9、□-250×150×6 □-200×100×4.5、H-200×100×5.5×8、PL16、PL6、FB6、M16 他
- その他 柱は錆止の上、GL+1m迄常温亜鉛めっき塗 (ROV AL同等品以上)

### 5. 木工事

#### (1) 概要

建物は、歴史的建造物であることから、修理に際しては、極力文化財的価値を落とさない仕様と伝統工法で行うことを優先し、丁寧に慎重に行う。オリジナル材料は最大限繕い残すことを心掛け、明らかに後補と判断できる物以外は再使用する。工事中に図示と現状の違い等異議が生じた場合は監督員と協議する。また、可能な範囲で不同沈下や歪みを修正する。活用のための改修部分は現代の工法を用いるが、可能な範囲で建物全体の調和に配慮する。トイレと物置は現代工法の増築である。

#### (2) 保存修理の主な内容

建設当初の柱、梁、小屋組小屋組等の軸組や主要な造作や土壁、根太、垂木などはほぼ健在である。損傷修理は、外壁、屋根、開口部、内部の仕上などを修理し歴史的建造物に相応しい仕様と材料に取替えるものである。外壁は下見板張りに、屋根は板葺きの軒先を復元した鉄板葺きする。また、奥の間と縁側にかけての沈下や全体の歪みも可能な範囲で修正する。

- 既存土台の修理は通り土間の一部のみである。新設土台は後補の東西の下屋や新規壁の部分で、現代仕様で、下には基礎パッキンを挟み外側に付属品の鋼製(防虫)水切を設置する。
- 既存柱の下に新規土台が入る場合は、できるだけ柱にホゾを加工し、土台のホゾ穴間を移動させるか、雇いホゾを用いて固定する。

- 大引と根太は一旦全て取り外して位置を下げて復帰する。既存大引は1間スパンなので3尺の位置に新規大引を補足する。根太は丸太の天端を均した形状なので、大引と接する下端も均すが、止むを得ない場合のみ飼木をする。
- 2階の屋根は既存小舞板の上に柿板を2枚重ね(葺き足60)、その上に流枿を454.5mm間隔に配し、その間に断熱材を入れ軒先の堰板を支える棒(コズナ)を固定して持ち出す。さらにこの上に野地板を張る。
- 1階の屋根は東側の垂木は再使用するが、他は母屋、垂木、野地板共に撤去し、3寸勾配で新規に造る。
- 外壁の下見板張りは、柱の外面に透湿性防水紙を張り、縦胴縁を1.5尺間隔に入れた上に張り、押縁はささり子とする。東面の小屋梁から上の壁は小屋梁の小口を隠しているので、胴縁の背を100mmとする。
- 事務室の床は、当初の高さに残る梁の仕口と根太彫の位置に下げる。既存床板で損傷しているものは吹抜等で不要になった煤けた板を補足する。移設する既存階段はこの下げた床梁に側板を取り付ける。
- 部屋1の9通の床梁は後補材であるが、欠損が大きいので、取替えて金物で補強する。
- 2階北側の13通は、胴差や床梁が細いので既存梁の上に新規梁を補足する。
- 1階板の間、小縁、縁側と2階廊下の床板張りは和釘打ちとする。その他の部屋1、展示室、事務室は現代仕様の縁甲板張りとし、押入や棚等で見掛りは潰し釘打ちとする。
- 天井は既存の廻縁と竿縁を使い、2階の一部を除いて天井板のみ無垢の杉板羽重張りとする。
  - その他損傷部を継木、剥木等で修理、または取替える。
- 1階の各和室、板の間等の既存荒床の板は、再使用が可能なものは新材に優先して使う。量が不明なため設計では全て新材としているが、これは既存材の修正手間と新材価を同程度としたことによる。

#### (3) 構造補強工事

- 1階の鉄骨による耐震補強は、東西の下屋と階段から台所所で行い、2階の胴差や梁と金物で緊結する。鉄骨と木部は木工事において、図示の通り金物で緊結する。
- 2階は塗増した土壁と構造用合板を用いた耐力壁で補強する。構造合板は外壁は柱の外に張り、内部は真壁造りに納め、図示の通り受材や必要な横架材を補足する。

#### (4) 活用を優先した改修

階段、台所は活用のための施設で現代の仕様と工法で行う。東側下屋部分の押入や、地袋、床の間は後補のものであるが、活用に寄与するため意匠は時代考証に沿って整備する。

#### (5) トイレ・物置

- 現代の軸組木構造である。トイレは通路側の軒下を深くした出桁造の平屋建で、法的に屋根を主屋と接続できないので、主屋の屋根と重ねている。物置は正面部分を出桁造として軒下を深くしている。
- 柱はトイレ105角で、物置は一部貫を外部に見せているので120角である。
  - トイレは、外周の梁と桁は外面を柱面に合わせて内側に芯ブレスさせ、柱外面に構造用合板を張る。
  - 女性と男性トイレは天井を張らず小屋裏を化粧で見せ、明り取りに複層ポリカーボネート板を押縁で固定する。
  - ライニングの甲板と壁の取り合い部にはアルミ板の雑巾摺を付ける。
  - 物置は、内壁にH2700まで構造用合板を張り、2方向に2段の棚を設ける。。
  - 物置の延焼の恐れのある範囲の壁は、内部に40mm厚の土壁を塗る。

#### (6) 材 料

##### ・新材

- 木材の断面寸法は換立寸法とする。ただし造作の寸法は仕上寸法とする。
- 材料は乾燥した材料 (A種) とし、主屋は赤身勝材(7割以上)を使用する。
- 造作材は原則として心去り材で上小以上とする。
- 構造材の品等は特記のない場合は特一等とするが、特に化粧で現れる材料については、事前に見本を提出の上監督員の承認を受ける。

##### ・構造材・野物材

- 土台 　　　：桧、ヒバ (トイレ・物置は特一等材)
- 柱 　　　　：杉、桧 (トイレ桧105角・物置杉120角 共に特一等材)
- 横架材 　　　：地松 (トイレ・物置は松又は杉)
- 大引、根太他：桧、松、杉
- その他 　　　：松、杉

##### ・造作材

- 補足の場合は既存部材と同材種同寸法同等品とする。
- 外壁 　　　：下見板(杉ア12mm幅210mm)、押縁(杉40×45mm)、水切(杉90×25mm)は杉上小以上
- 内部床板 　：地松(ア15mm幅180mm)、杉縁甲板(ア15mm幅150mm)
- 天井 　　　：杉板(ア7mm上小材)
- その他 　　　：カラマツ、松、杉(小節以上) イペ

●● 協同組合	<b>伝統技法研究会</b>	一級建築士事務所
	管理建築士	一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子

	<b>軽井沢町</b>
	総括技術者 大平茂男
	管理技術者 市村康子
	構造技術者 安達幸一

	<b>工事名</b>	令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事
	<b>場所</b>	津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568

<b>図名</b>	特記仕様書 - 2		
<b>縮尺</b>		<b>図面番号</b>	<b>A-02</b>

- 合板・ボード類**
  - 構造用合板　2級C-D　ア9mm
  - 合板1類（JAS）ア12mm、15mm
  - 珪酸カルシウム板　ア6mm、8mm
- 金物**　：JIS規格に適合した金物を用いる。
- 接着剤**：構造上重要な場所はエポキシ系接着剤を用いる。

(7) その他

- 防腐処理**

見隠れとなる地面から高さ1mの範囲の木材は既存、新旧を問わず防腐剤を2回刷毛で塗布する。防腐剤はキシラモントラッド同等以上とする。土台や大引、束等の地面に近い材や、コンクリートや石に接する材は取付前に塗布する。荒床は下張り板両面までとし、板の間は下張りの裏面（根太面）までとする。
- 焼印**

新材や補足材(埋木、翹ぎ木除く)には、見隠れ部分に修理年度を表示する焼印を押す。床や天井下地等多くの部材が新材の場合は、適度な位置に数カ所押す。その文面は「令和8年修補」とし、外形60×20mm程度とする。消耗材や明らかに後補とわかる板材等は省略できる。トイレと物置は除外する。

## 6. 板金工事

(1) 概要

屋根は、新規野地板の上に防水紙を敷き、ガルバリウム鋼板で平葺き・立ハゼ葺きする。庇（霧除）は、東側は目板葺きの上を銅板葺きし、西側はガルバリウム鋼板で平葺きする。大屋根の軒先の堰板と破風板は笠木等を銅板で覆う。雨樋は2階南側と這樋は銅製とするが、他はガルバリウム鋼板とし、図示の場所では軒樋から短い堅樋を付けて直接雨水を落とす。

(2) 主な内容と工法

- ガルバリム鋼板平葺きは、働き幅は150mm程度とし、規定の間隔で釣子を打つ。隅棟は棟包せず折重による。工事に先立ち大屋根の軒先、破風板の納まり等について関係者で協議する。
- 大屋根の軒先で持出した堰板は笠木と内側を、破風板は笠木を銅板で覆う。また、東西の下屋の南側の破風板も同様に笠木を銅板で覆う。
- 庇は、東側は目板張りの上に銅板を葺き、西側はガルバリム鋼板を平葺きする。
- 外壁の下見板下部の水切板、2階東側の木製窓の敷居は銅板で水切を施す。
- 土間とトイレの出入口の方立の足元は銅板で根巻する。
- 樋は銅又はガルバリウム鋼板製とし、軒樋は半丸120・105φ、堅樋は60φとする樋受金物は間隔を455mm以下とし、既製品の落葉ネットを設置する。
- 雨樋は落葉対策のため一部を除いて、出来るだけ曲げ部分を少なくして堅樋を設ける。また、長さ300mm程の堅樋を付けて落し口とする。
- 屋根には雪止金物を千鳥に設置する。
- 台所の厨房器具周囲の壁はライニングの甲板も含めステンレス張りとする。
- 台所のフードは図示の通りステンレスで製作し、上部に換気扇が付く。
- トイレの一部外壁も屋根に倣いガルバリウム鋼板平葺きとする。
- 西側の塙の内側は、カラーガルバリウム鋼板小波板張りとする。
- M.

(3) 材 料

- カラーガルバリウム鋼板t=0.35
- 銅板t=0.35　水切等の役物　t=0.4
- 軒樋半丸:銅120 φ ガルバリウム鋼板120 φ、105 φ、堅:共に60 φ、這い樋銅製
- ステンレス(ヘヤーライン)t=0.4
- ルーフィング94(Gムアス系)

## 7. 左官工事

(1) 概要

1階の土壁は全て新規であるが、2階の土壁の多くは既存である。耐力壁となる壁は塗り増して70mm以上にし、経年劣化の激しい壁は新規に塗り直す。新規土壁は小舞下地の伝統工法で行い、既存の壁は仕上げの漆喰等を落として仕上を塗り直す。土間は真砂土仕上げで、アプローチとトイレ前は豆砂利の洗出しである。物置の土壁は防火仕様のためで、下地は簡易的な現代仕様とする。

(2) 主な内容と工法

- 小舞は、真竹の割竹でシュロ縄で掻く。
- 荒壁土は、3ヶ月以上前に藁切を加えて水練りして寝かせたものを、途中3回以上藁切を加えながら切り返した物を使う。場所は敷地内を基本とする。
- 荒壁は、小舞によく押し付けて塗り上げ、裏返しは荒打が乾燥してから行う。
- 荒壁は1ヶ月以上乾燥させた後、大直し、中直し、砂ズリ等を行い乾燥後、中塗土を鏝で十分押し付け不陸のないように塗り上げる。

- 貫伏はシュロ、藁、寒冷紗等を用いて用いて貫にかぶせる。
- 壁厚の塗り増しや補修に際しては、砂漆喰と漆喰を塗重ねるが、塗り増し厚さが10mm以上の場合は、既存の仕上を撤去し、浸透性硬化剤等を塗布し、塗重ねる。
- 2階東側外壁筋の土壁は基本的に木舞から作り直すが、解体時の状況により、監督員との協議の上損傷部分の補修とすことも出来る。
- 漆喰の塗り直しは、既存の漆喰を落してから下地を調整し、中塗後漆喰を施す。
- 漆喰は1階と事務室、前室は鼠漆喰、2階は白色である。
- 2階南側正面の「☒」と「つがるや」の漆喰レリーフは一部浮いているので、室内側の背面に耐水合板を張り、ステンレスビスや麻、寒冷紗、ネット等を用いて剥落防止を行う。その後、伝統的製法で作られた漆喰を用いて表面を修理し、周囲を黒漆喰の磨き仕上とする。施工前に調査検討して慎重に修理方法を決める。
- 前土間、通り土間、踏込は現代仕様の碎石60mmの上に真砂土舗装厚40mmを施すが、これと同等の強度、風合いを有する土等にセメントを混入して叩き固めた土練り材とすることもできる。
- アプローチとトイレ前は豆砂利の洗出し仕上げで、図示の箇所に真鍮目地棒を入れる。
- 物置の土壁は壁ジャクリ、厚40mmとするが、下地は既成のパンプーネット等を用いる

(3) 材 料

- 土壁：　間竹(3年生以上の秋刈り材)、シュロ縄、荒壁土、藁スサ、寒冷紗、メッシュ、砂、他
- 漆喰：　レリーフ以外は既調合「白壁」(近畿壁材工業)と同等品以上レリーフ補修は消石灰、ツノ又、布海苔、麻スサ、又は乾燥調合海苔等を使って作った漆喰。
- 真砂土舗装、碎石、又は上記と同等の強度、風合いのセメント混入土練り材
- 豆砂利2〜3分程度

## 8. 木製建具工事

(1) 概要

既存建具の障子や建具の多くは柱間寸法に合っていないものが多いが、これは昭和30年代に津軽屋が大きな改装をしていることから、この場所からの転用の可能性が高いのでそのまま使用する。既存障子は組子や框の部分的破損や損傷の修理である。新規建具は復元時代に合わせた意匠としているが、厳冬期の活用を踏まえて一部はガラス窓と障子を組み合わせる。トイレ・物置は全て新規に建具を製作する。

(2) 主な内容と工法

- 既存障子と襖の框や組子の破損や割れを、取替や翹木、埋木で修理する。
- 既存建具は緩みや歪みなども含めて建具調整し、戸車とレールは全て取り替える。
- 前土間と通り土間の外部に面した腰付ガラス戸は両側組子の間にフロストガラスを上から落とし込む。
- 外部に面した新規建具で板戸や腰が板のものは内側に目板を入れる。
- A.Cの床置き室内機の前には横格子戸を引き違いで入れるが、左右で建具の幅が異なる。
- 部屋1と2のガラス窓の内側にはアルミ製の網戸をアルミアングル等で取り付け、必要に応じてピンチブロックを付ける。
- 2階前室の既存階段降り口に取り付ける開き扉は、現状2階の階段周囲の手摺に框等を付加して作成する。
- 障子、襖は全て張り替える。
- 多目的トイレ出入口の建具は自閉式の上吊戸で、間仕切はトイレブース。

(3) 材 料

- 杉、米松、合板
- フロストガラス5mm、型ガラス4mm、透明ガラス4mm
- アクリル板（ワーロンMPSプレート3mm)
- 襖紙（烏ノ子）、障子紙
- 金物（図示以外は既存と同等品)

## 9. 塗装工事

(1) 概要

基本的に内部で見え掛りとなる補修部分は古色塗して違和感のないようにするが、文化財的復元と整備（床の間等）が混在する場所は監督員の指示による。外部の木部は浸透性防腐塗装する。また、内部外部共に変色、摩耗して見苦しい場所は古色等で緩和する。

(2) 主な内容と工法

- 内部の古色塗りの目的は、見え掛りとなる主に新規材の補修部分と既存材を、また、既存材で変色、摩耗して見苦しい部分を整えることである。
- 外部の浸透性防腐塗装の範囲は全ての木部であるが、主屋2階の既存化粧野地板と柿板、トイレと物置の母屋、隅木、垂木、化粧野地板は塗装しない。

- 内部の新規床板は階段の段板を含め、着色の上オイル拭き取り3回。
- 文化財的復元と整備が混在する場所で古色塗しない場所には、汚れ防止のためのワックスやワニス等を施す。
- 古色は、ワトコオイルに墨、松煙、紅殻、等を混合して色合わせし、これを刷毛塗りした後布で拭き取る工程2回を基準とし、材種、木理によって発色が著しく異なる場合は回数を増やすか調合を変える。また、要所では同材で試し塗りをして調合や濃さを確認する。
- 煤けて真っ黒な部分の補修に用いる塗装は、黒色防腐剤等を用いる事もできる。
- 内部と外部の塗り分けは、建具等により境い目の目立たない位置で行う。

(3) 材 料

- オイル（ワトコオイル、エゴマ油 同等品)
- 松煙墨、ベンガラ、色粉、他
- 黒色防腐剤（木酢液と炭を原料とした炭コート又は渋墨、同等品)
- 合成樹脂調合ペイント
- 浸透性防腐塗料（キシラデコール 同等品)

## 10. 畳工事

(1) 概要

部屋2の6畳は既存畳の表替えとするが、その他は新規藁床の本畳一級品とする。

(2) 材 料

- 新規畳の床は標準仕様A種の藁床一級品、WR1
- 畳表はJAS・1等　熊本産　在来麻引き表
- 縁は純綿縁又は人絹

## 11. 断熱材工事

(1)概要

断熱材は、1階改修部の床下、外壁、2階と下屋下の天井、吹抜と展示室上の大屋根に入れる。トイレは床と壁に断熱材を入れる。

(2) 主な内容と材料

- 壁・天井：高性能グラスウール(16K)100mm同等品
- 屋根　：樹皮断熱材フォレストボード20mm同等品
- 床　　：フェノールフォーム1種2号 45mm同等品

## 12. サイン工事

- |             |   |
|-------------|---|
| <b>主な内容</b> |   |
| a.案　内       | 木製ブロック　90×280　1点 <p>2種の木材・アクリル切文字半埋込</p>  |
| b.トイレ誘導     | 120×345　1点 <p>木板・艶消アクリル文字・ビクト切半埋込</p>     |
| c.ト　イ　レ     | 120×150　3点 <p>アクリル艶消ビクト半埋込　＋　透明アクリル裏打</p> |
| d.室　名       | 70×240　4点 <p>木板　艶消アクリル切文字半埋込</p>          |

### 13. 雑工事

- 案内、階段、台所、トイレ、男子トイレ、多目的トイレ、女性トイレ、事務室、部屋1、部屋2、展示室には図示による表示板を設置する。
- 板の間の吊棚(蠅帳)は、図面の通り側板、天板、建具等を補足し、全体を修繕して古色で仕上げる。
- 土壌防蟻処理

環境負荷の少ない非リン系の薬剤で、日本アリ対策協会認定の土壌処理とする。範囲は建物の床下全面および外壁より1m以内の部分の全ての土壌を1㎡あたり液剤で5リットル以上、粉末剤で1.5kg以上を散布することを基本とするが、事前に施工計画書を作成して協議する。又、施工結果を報告書にまとめて提出する。
- 既存道路脇に設置されている「追分宿・つがるや」の案内灯籠は、基礎を解体して西側に移動して設置する。
- 囲炉裏は現状に倣い作り直す。周囲の石積は既存の石を使用し、盛土した後、中央を深くして灰墨モルタル出仕上げ、その上に灰を中央は深く周囲は薄く敷く。自在金物は別途（郷土館と協議)

### 14. 電気工事

(1)概要

電気配線は、道路の電柱近くに引込柱を立て、そこから地中配線で事務室の配電盤まで引込む。配線や器具は全て新規とし、スイッチ類は事務室で集中管理するが、利便上通り土間、北側出入口横にスイッチを設ける。又、電話や警備用として、引込柱から事務屋まで空配管を設置する。台所は子メーターをつけて電気使用量の個別計測をする。

(2) 主な内容と工法

電気設備図による。

### 15. 機械設備工事

(1)概要

給水は既存引込管 13A管を撤去し、新規に25A管で本館より引き込み、排水は敷地内に引き込まれた下水管に公設枓を設置する。配管や器具は全て新規でとする。暖冷房は必要箇所にそれぞれ電気によるA.Cを個別に設置する。台所は子メーターをつけて水道の使用量の個別計測をする。台所の湯沸器、コンロはLPガスを使用する。西側の敷地の既存引込み水道管は使用しない。

(2) 主な内容と工法

機械設備図による。

### 16. 外構工事

(1)概要

敷地東側の津軽屋の敷地は、建物周囲の整備を行い、北側の段状に上がる敷地については、文化財的見地から最小の整備を行こなう。主屋から西側敷地は、既存建物解体による土地の形状を活かして、高い位置に建設される物置への斜路と、主屋横に駐車スペースを整備する。

(2) 主な内容と工法

- 外構図による。
- 建物との関係から次の工事は主屋外部工事として行う。(A-11図参照)
  - 正面アプローチ(浸透側溝、グレーチング、柵を除く)の土間。
  - 北側の犬走り、トイレ前の土間と雨落。
  - 物置前の土間と雨落

●● 協同組合	<b>伝統技法研究会</b>	一級建築士事務所
	管理建築士	一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子



# 軽井沢町

総括技術者	大平茂男
管理技術者	市村康子
構造技術者	安達幸一

<b>工 事 名</b>	令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事
<b>場 所</b>	津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568

<b>図 名</b>	特記仕様書 - 3
<b>縮 尺</b>	
<b>図面 番号</b>	A-03

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

## 1 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
- d…異形鉄筋の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D…部材の成 R…直徑  
 ◎…間隔 r…半径 c…中心線 Q…部材間の内法距離 ho…部材間の内法高さ  
 STP…あばら筋 HOOP…帯筋 S, HOOP…補強帯筋 φ…直徑又は丸鋼

## 2 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋・壁筋の先端部またはスラブと隅隅に打込む下形およびL形建のキャップタイにのみ用いる。キャップタイ
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上				
※片持スラブ上端部の先端				

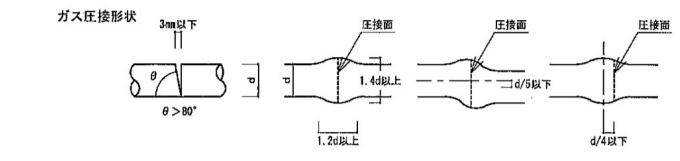
### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A SD295B, SD345	16φ以下 D16 19φ以上 D19	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235, SD295A SD295B, SD345	16φ以下 D16 19φ~25φ D19~D25 28φ~32φ D29~D32	4d以上 6d以上 8d以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽集約コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		特別の定着及び重ね継手の長さ(L1)
		一般(L2)	下端筋(L3)	
SR235	21 22.5 24	35dフックつき	25dフックつき	35dフックつき
		15 18	45dフックつき	16mフックつき
SD295A SD295B SD345	21 22.5 24	35dまたは25dフックつき	25dまたは10dかつ16m以上	40dまたは30dフックつき
		27 30 36	30dまたは20dフックつき	16dフックつき

- 継手** ※重ね継手の長さは、40dとする。
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
  2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
  3. 直徑の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
  4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
  5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



### (4) かぶり厚さ

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部位	設計かぶり厚さ(mm)	最小かぶり厚さ(mm)	
		土に接しない部分	土に接する部分
土に接しない部分	屋根スラブ	屋 内 30	30 (20)
	床スラブ	屋 外 40 (30)	30 (20)
土に接する部分	柱	屋 内 40	30 (30)
	耐力壁	屋 外 60 (30)	40 (30)
土に接する部分	梁	壁 60 (30)	40 (40)
	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	40 (40)
基礎・壁	70	60 (60)	

- (注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監督者の承認をうけて30mmとすることができる。  
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監督者の承認をうけて40mmとすることができる。  
 (3) コンクリートの品質および施工方法に並び、工事監督者の承認をうけて40mmとすることができる。  
 (4) 軽集約コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
 (5) ( ) 内は仕上げがある場合

## (5) 鉄筋のあき

- 丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値の1.5倍以上、相貫材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上
- 図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要
- 

## (6) 鉄筋のフック

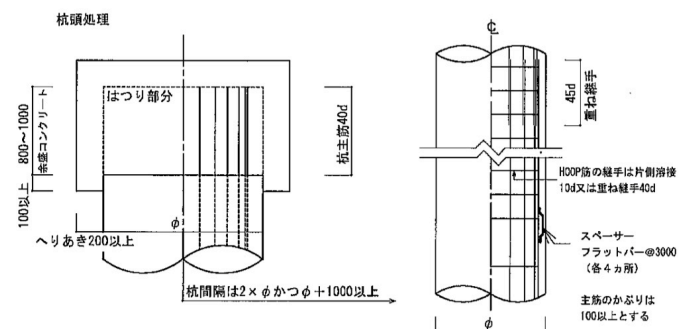
- (a~f)に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。
- 丸鋼
  - あばら筋、帯筋
  - 煙突の鉄筋
  - 柱、梁(基礎梁を除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
  - 単純梁の下端筋
  - その他、本配筋標準に記載する箇所

## 3 杭

### (1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

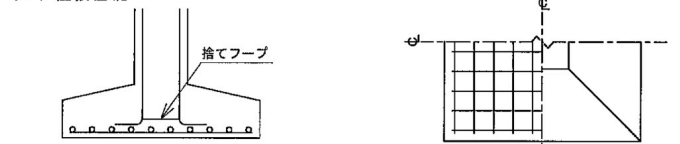
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
杭径 300φ, 350φ, 400φ	450φ, 500φ, 600φ
補強筋 6-D13	8-D13
HOOP	D10@150

### (2) 現場打ちコンクリート杭

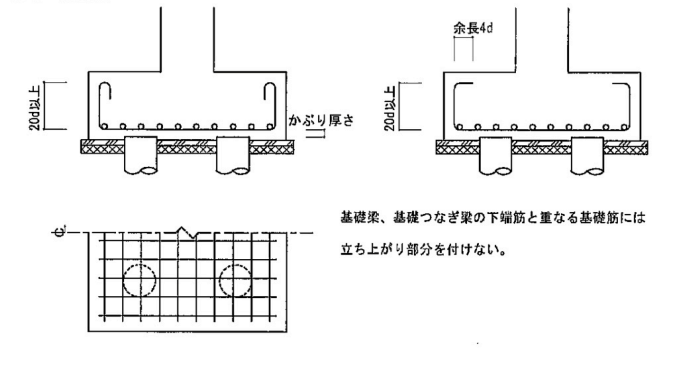


## 4 基礎

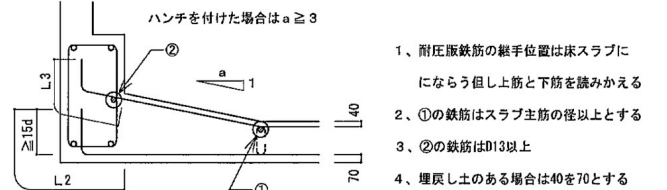
### (1) 直接基礎



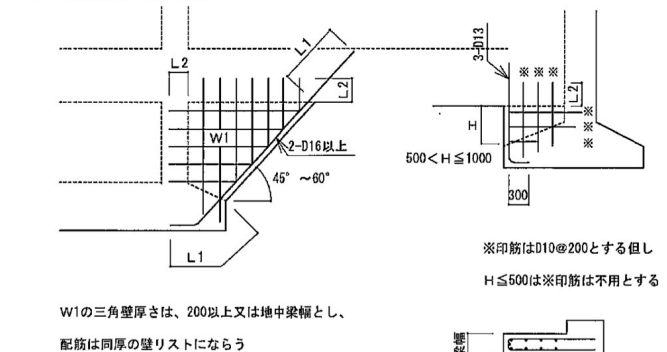
### (2) 杭基礎



## (3) べた基礎

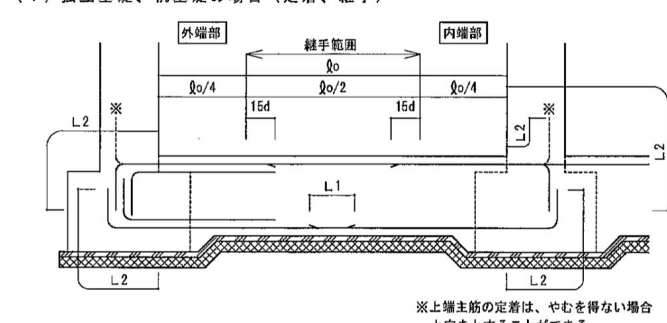


## (4) 基礎接合部の補強

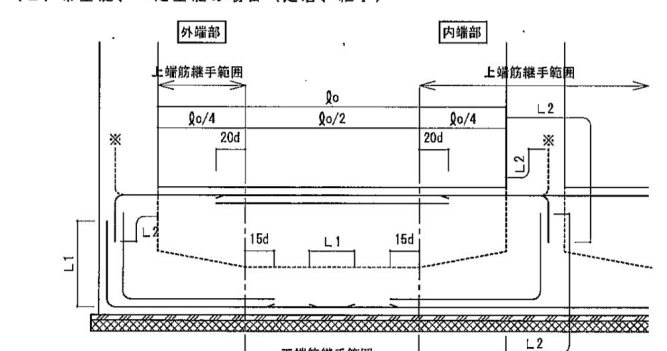


## 5 地中梁

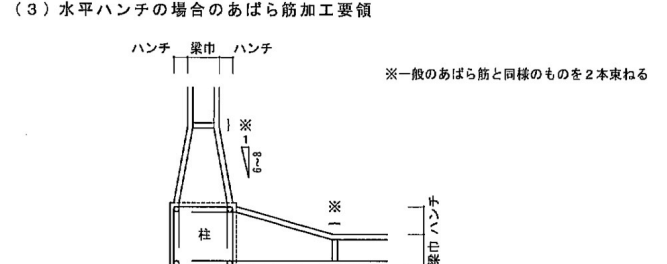
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



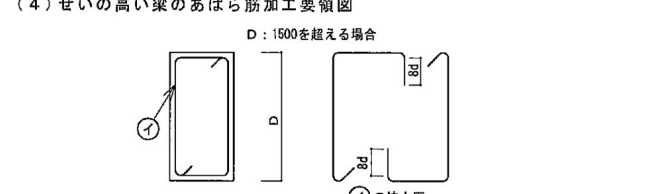
### (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



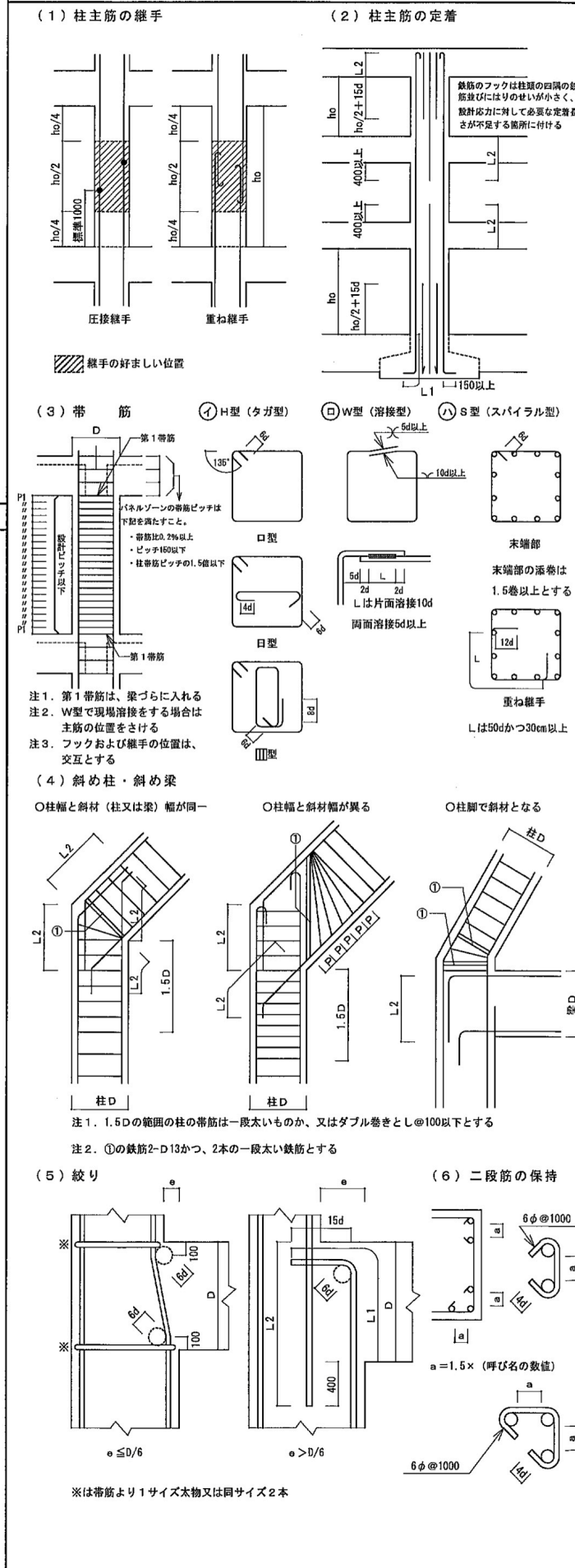
### (3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



### (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領



## 6 柱



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

## 7 大梁・小梁・片持梁

(1) 定着

① 大梁

② 小梁の定着

③ 片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋の型

(4) あばら筋、腹筋、の配置

(5) 幅止め筋の加工、配置

## 8 床版

(1) 定着および継手

① 片持床スラブ

② 一般床スラブ

上端筋	短辺方向	B
下端筋	短辺・長辺方向	A・C

(2) 出隅入隅部の補強

(3) 床版開口部の補強 (開口の径500程度の場合)

床版厚D	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16

(4) 床版段差

(5) 土間コンクリート

(6) 釜場

(7) 打継ぎ補強 (ダマ穴打継ぎ面について)

- 設計配筋の1/2ピッチ 長さ2L1以上
- 無筋部分D10@200 長さ800以上

## 9 壁

(1) 定着

① 梁への定着

② 柱への定着

③ スラブへの定着 (非耐力壁とスラブが取合う場合)

④ 壁交差部の納まり (平面図)

(2) 手摺・パラベット

(3) コンクリートブロック横壁

(4) 補強を必要とするスリーブ径

D	へりあきHc
< D ≤ 400	≥ 160
400 < D ≤ 750	≥ 175
750 < D ≤ 1000	≥ 200
1000 < D ≤ 1350	≥ 250
1350 < D	≥ 300

## (2) 梁

11 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

(2) 補強方法 (設計者または工事監理者と打ち合せの事)

(3) 梁の上部又は下部に補壁がある場合

(4) 補強を必要とするスリーブ径

(5) 鉄筋標準補強

スリーブ径	鉄筋標準補強
80 ≤ φ < 100	縦筋 ST 2-D13 × 2
100 ≤ φ ≤ 150	斜筋 各 2-D13 縦筋 ST 2-D13@100 横筋 各 2-D13
150 ≤ φ ≤ 250	斜筋 各 2-D13 縦筋 ST 2-D13@100 横筋 各 2-D13

## 10 柱・梁増打ちコンクリート補強

(1) 柱

補強タテ筋 (Aomf: ハッチ部分の面積)	A < 500	500 ≤ A < 1000	1000 ≤ A < 1500
	3-D16	4-D16	6-D16

## 12 増築予定

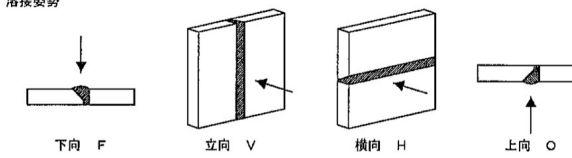
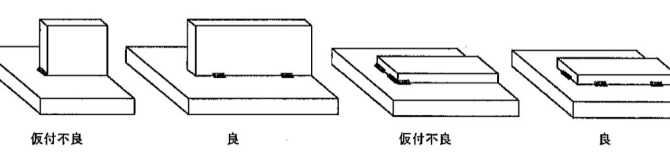
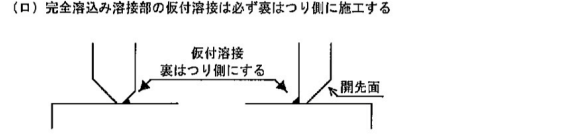
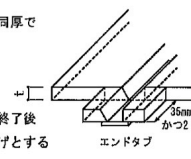
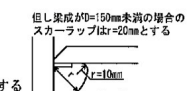
(1) 柱・梁

(2) 地中梁

(3) 床版・壁

# 鉄骨構造標準図 (1)

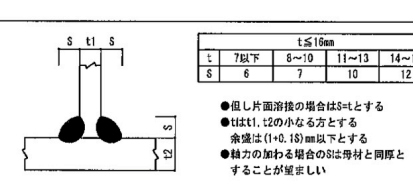
## 1 一般事項

- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による
  - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
  - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 作業一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
  - (b) 鋼管部分の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
  - (c) 高張力鋼の歪矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本締め使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者  
溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A
  - (ロ) アークエアージェン機(直流)
  - (ハ) サーマージアーク溶接機1式
  - (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
  - (ホ) 溶接電流を測定する電流計
  - (ヘ) 溶接棒乾燥器
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接(MC)
  - セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC)
  - ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
  - アークエアージェン機(AAG)
- (d) 溶接姿勢
- 
- (e) 仮付溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置  
仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 
- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 
- (リ) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- I 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
  - II エンドタブの材質は、母材と同質とする
  - III エンドタブの長さは、MC: 35mm以上  
NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合、溶接終了後母材より10mm程度度押し切断して、グラインダー仕上げとする
  - IV プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る
- 
- (ロ) 裏あて金  
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- 
- (ハ) スカラップ 半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする
- (ニ) ノンスカラップ工法  
開先加工などの資料を提出し、構造設計者又は工事監理者の承認を得る
- (ホ) 裏はつり  
基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を履行し、部材に確認マークをつける
- (ヘ) 現場溶接の開先面のは、溶接に支障のない防錆剤を塗布する。  
又、開先部を痛めない様に、養生を行う
- (5) 塗装  
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

## 2 溶接標準図

(注) f:余盛 G:ルート間隔 R:フェース S:脚長 (単位mm)

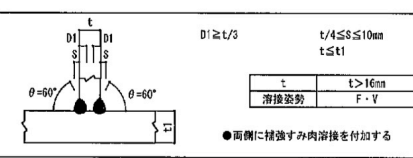
(1) 隅肉溶接



t ≤ 16mm				
t	7以下	8~10	11~13	14~16
S	6	7	10	12

- 母材片側溶接の場合はS=tとする
- tはt1, t2の小さな方とする
- 余盛は(t+0.15)mm以下とする
- 軸力の加わる場合はSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所注意)

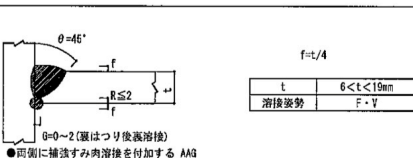


D ≥ t/3		t/4 ≤ S ≤ 10mm
t ≤ t1		t > 16mm
溶接姿勢		F・V

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

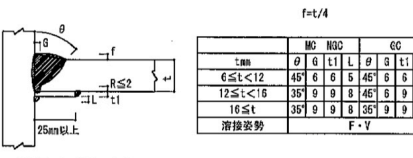
(3) 完全溶込み溶接 (平継手・T形継手)

③



f=t/4		t < t1 < 19mm
溶接姿勢		F・V

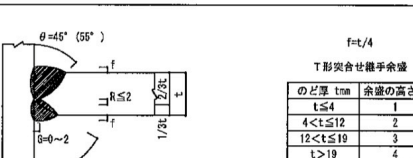
④



f=t/4		MC	NGC	GC				
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6 < t < 12	45°	6	6	5	46°	5	6	5
12 ≤ t ≤ 16	35°	9	9	8	46°	8	9	5
16 ≤ t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢		F・V						

- 補強すみ肉溶接を付加する

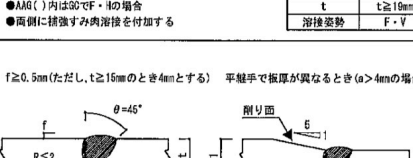
⑤



f=t/4		T形突合せ継手余盛	
のど径 tmm		余盛の高さmm	
t ≤ 4		1	
4 < t ≤ 12		2	
12 < t ≤ 16		3	
t > 16		4	

- AAG( )内は30°でF・Hの場合
- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

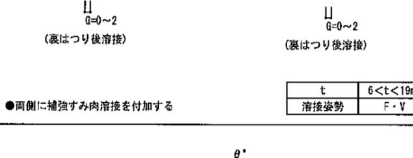
⑥



f ≥ 0.5mm (ただし、t ≥ 15mmのとき4mmとする)		平継手で板厚が異なる場合 (a > 4mmの場合)	
θ=45°		隅肉	
R ≤ 2		E	
G=0~2		G=0~2	
(裏はつり後溶接)		(裏はつり後溶接)	

- 両側に補強すみ肉溶接を付加する

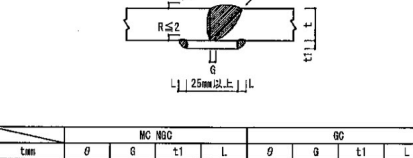
⑦



f=t/4		GC						
tmm	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6 < t < 12	45°	6	6	5	46°	5	6	5
12 ≤ t ≤ 19	35°	9	9	8	46°	8	9	5
t > 19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢		F・V						

(4) フレアー溶接

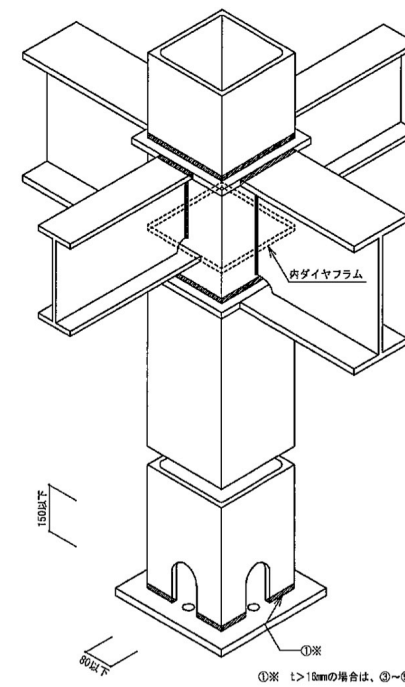
K形の場合



寸法(mm)		
φ	6	8
t	7	4
t	13	6
t	16	4.5
t	19	5
t	22	11
t	25	12
t	8	8

- フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
- φ=9mm~16mmは1/4寸以上、19mm以上は2/4寸以上とする
- 溶接傾角θは30°~40°とする

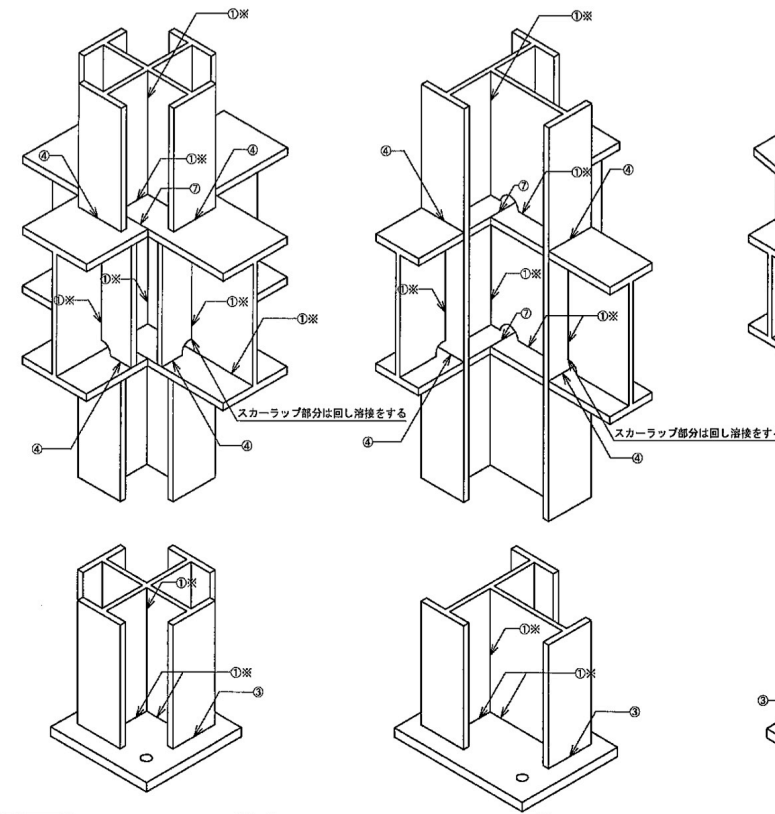
## ● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



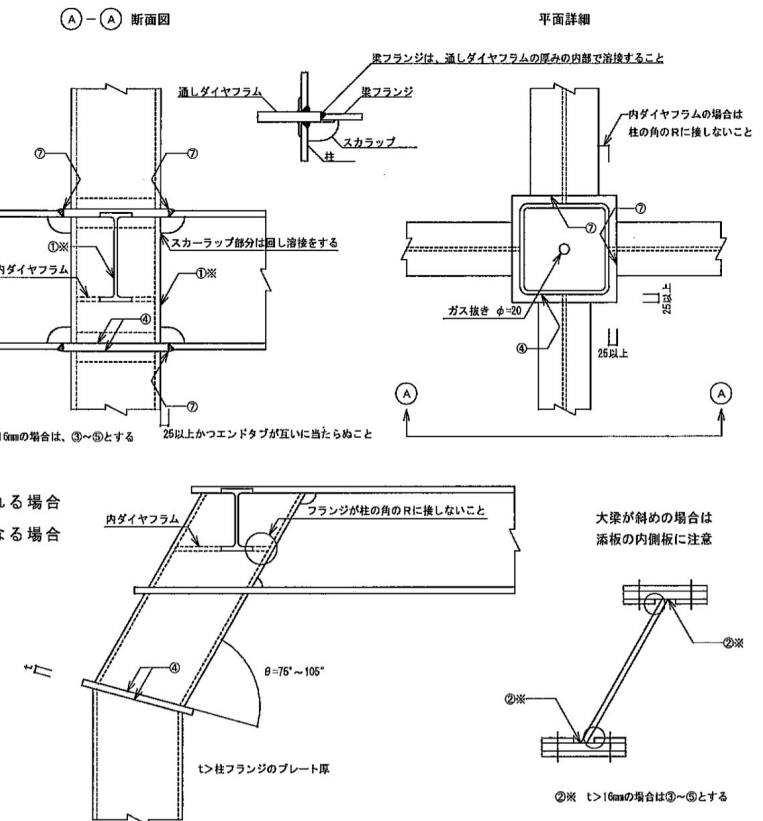
## ● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス温度 (°C)
400級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
490級鋼	YGW-11, 15	40以下	350以下
	YGW-18, 19		
	YGW-50M, 60P		

## ● H型



## ● B・H方式





# ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCF T造に適用)

2021/8

大臣認定  
BCJ評定

MSTL-0404, 0180 (Gタイプ用ベースプレート)  
MBLT-0042~0046 (アンカー用ボルトセット)  
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)  
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計規程、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書 同解説 JASS 6 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

## 設計

### 1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136 TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B 板厚40mm以下 板厚40mm超	SN490相当 降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A	SS400

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	H490B H490E (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	メートル並目	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	—	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSTL-0404, 0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)  
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第2号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

中心塗部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)  
○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

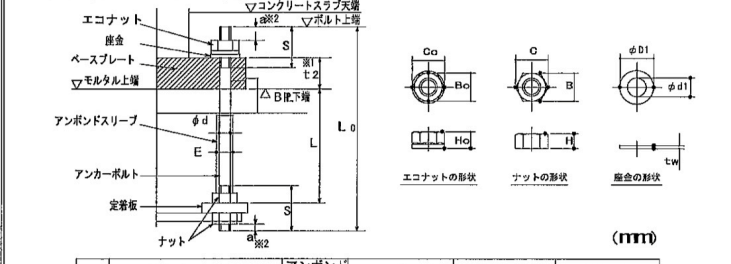
### (3) 基礎・基礎ばり

コンクリート ○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート  
○設計基準強度は、 $f_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$

鉄筋 JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

柱形 へりあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

### 2. アンカーボルトのセット寸法

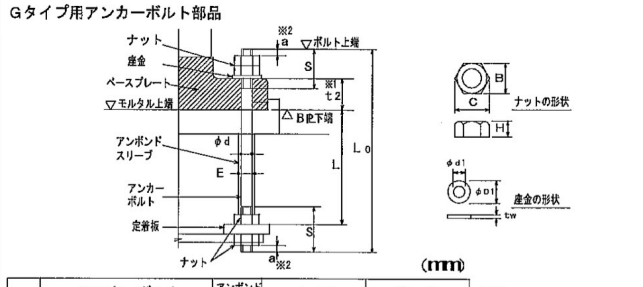


ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		エコナット		ナット		座金							
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ						
M24	24	3	105	10	480	550	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	130	13	600	690	35	27	50	59	24	46	53	6	31	80
M36	36	4	155	16	720	825	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	185	18	840	1000	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1  $t_2$  はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。  
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。  
※3 上段は印型式及びEM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの寸法です。

注意

- エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしており、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。
- コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。
- その場合、せん断耐力が異なる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。
- アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。



Gタイプアンカーボルト部品

ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ		ナット		座金						
	軸径	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ	長さ						
M24	24	3	105	10	480	545	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	670	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	155	16	720	795	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	185	18	840	915	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	215	22	960	1035	54	38	75	87	9	50	92
M54	54	5.5	245	24	1080	1155	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	285	28	1260	1335	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	325	30	1440	1515	78	58	105	121	12	74	125

注意

- Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
- 一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。
- 一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。

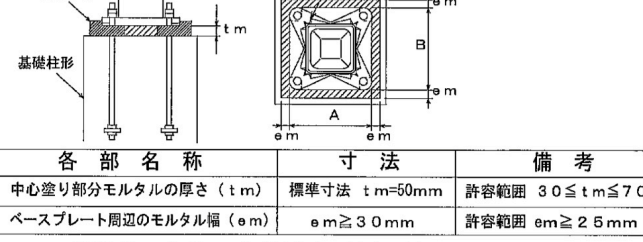
ベースプレートのアンカーボルト孔径

ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M54	M64	M72
エコタイプ孔径	38	44	50	57	—	—	—	—
Gタイプ孔径	—	38	45	53	61	70	79	87

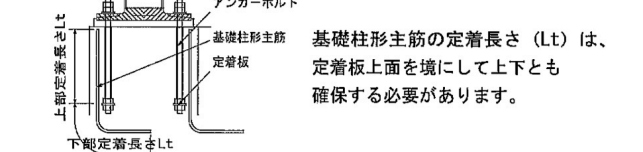
定着板 (エコタイプ、Gタイプ共通)

ねじの呼び	4本タイプ用			6本タイプ用			12本タイプ用				
	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ		
M24	16	70	27	—	—	—	—	—	—		
M30	16	90	33	9	180	65	33	—	—		
M36	19	100	39	9	215	75	39	—	—		
M42	22	120	45	9	240	85	45	9	225	85	45
M48	25	140	52	9	270	95	52	9	260	95	52
M54	28	160	60	9	305	110	60	9	295	110	60
M64	32	180	68	12	330	130	68	12	340	130	68
M72	—	—	—	16	380	145	76	16	375	145	76

### 3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



### 4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (Lt) は、定着板上面に境にして上下とも確保する必要があります。

## 工場加工

1. 溶接材料

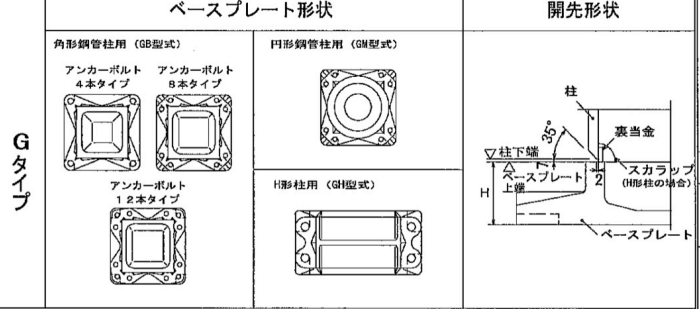
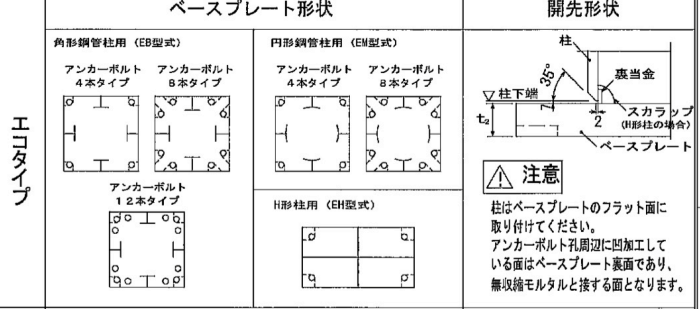
被覆アーク溶接 低水素系 490N/mm<sup>2</sup> 級高強度鋼 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上

ガスシールドアーク溶接 軟鋼及び 490N/mm<sup>2</sup> 級高強度鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

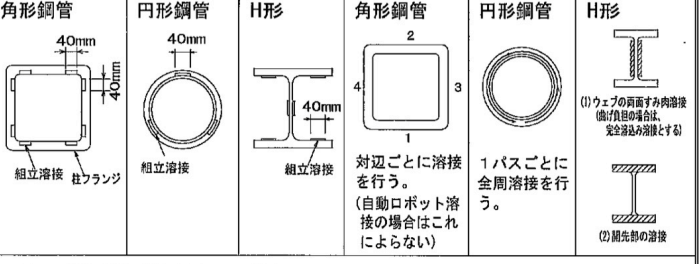
※高強度材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

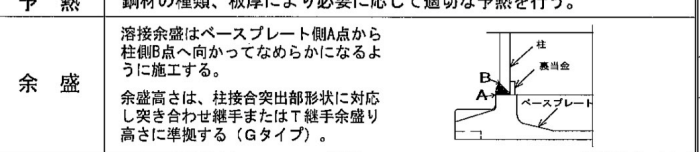
※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接  
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考



### 3. 組立溶接



### 4. 本溶接の手順



### 5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

余盛 溶接余盛はベースプレート側A点から柱側B点へ向かってなめらかになるように施工する。

余盛高さは、柱接合突出部形状に対応し突き合わせ継手またはT継手余盛り高さに準拠する (Gタイプ)。

### 6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。探傷は柱フランジ側から行う。

不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。  
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

## 現場施工

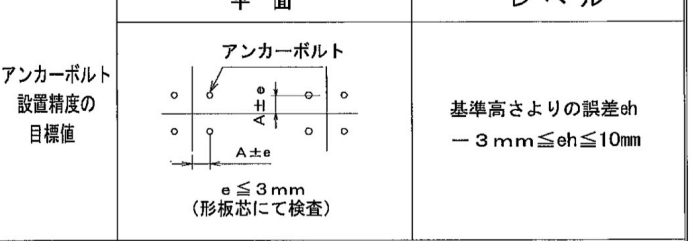
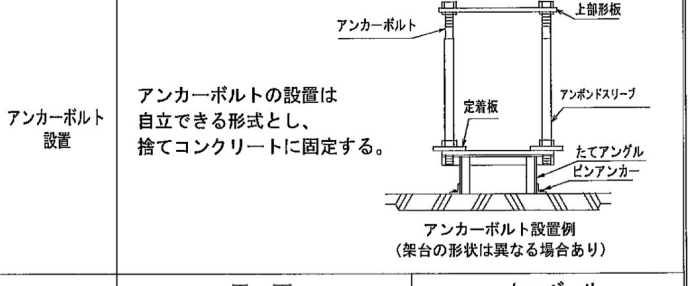
(注) : センクシアの担当範囲

1. 捨てコンクリート打設  
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

2. 墨出し

3. アンカーボルト搬入 (#)

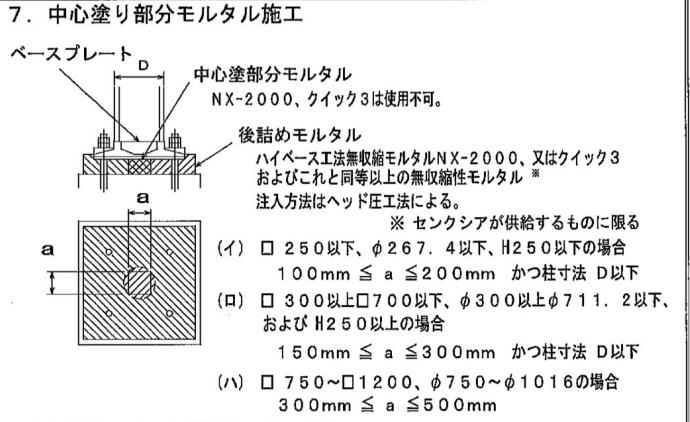
4. アンカーボルト据付 (#)



5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

6. 基礎コンクリート打設  
基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生  
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH型式	GH型式
8. 鉄骨建方 アンカーボルト締付 アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。	8. 鉄骨建方
9~10. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) アンカーボルト締付確認 (#) ベースプレートと座金とナットが密着していることを確認。	9. モルタル注入枠設置 (#) 後詰めモルタル充填 (#) 10. アンカーボルト締付 (#) 予備締め マーキング ナット回転法による本締め (30° 回転、許容差 : +10° -0°)

11. モルタル注入枠取り外し  
施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

### センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932  
札幌 TEL 011-708-1177  
東北 TEL 022-213-5595

関東 TEL 027-322-9411  
中部 TEL 052-582-3356  
北陸 TEL 076-233-5260

関西 TEL 06-6395-2133  
中国 TEL 082-240-1630  
九州 TEL 092-452-0341

URL <https://www.senqcia.co.jp/>

● ● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所  
管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子

軽井沢町

総括技術者 大平茂男  
管理技術者 市村康子  
構造技術者 安達幸一

工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事  
場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568

図名 ハイベースNEO工法設計施工標準 - 1  
縮尺 図面番号 A-08



# 追分宿津軽屋保存修理工事 設計概要

## 1. 事業内容

- ・ 工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事
- ・ 工事場所 北佐久郡軽井沢町大字追分568、567-1、567-2、1285-1
- ・ 工事種別 保存修理工事

## 2. 敷地概要

- ・ 敷地面積 (登記簿) 893.46㎡ (270.27坪)
- 敷地面積 (確認申請) 866.27㎡ (262.05坪) ※道路後退部分27.19㎡
- 用途地域：市街化区域・第1種住居地域(60/200)/高度地区(第1種)/法22条区域

## 3. 保存修理部分概要

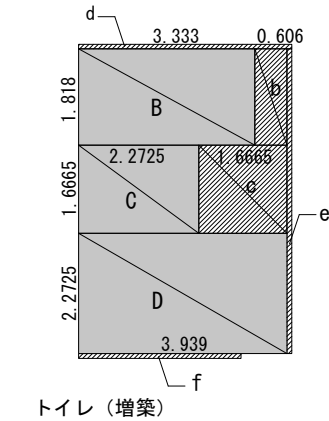
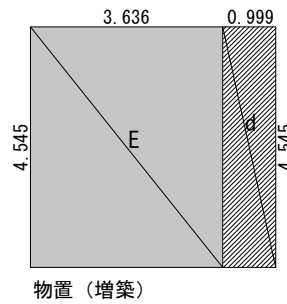
- [主屋]
- ・ 構造規模 木造2階建
  - ・ 延床面積 229.48㎡ (69.4坪) 1階 144.93㎡ 2階 84.55㎡
  - ・ 建築面積 153.85㎡ (46.54坪)
  - ・ 建物高さ 軒の高さ 5.540m  
最高の高さ 7.300m

## 4. 増築部分概要

- [トイレ]
- ・ 延床面積 18.80㎡ (5.7坪)
  - ・ 建築面積 23.83㎡ (7.21坪)
  - ・ 建物高さ 軒の高さ 2.550m  
最高の高さ 3.980m
- [物置]
- ・ 延床面積 16.53㎡ (5.0坪)
  - ・ 建築面積 21.07㎡ (6.4坪)
  - ・ 建物高さ 軒の高さ 3.100m  
最高の高さ 3.815m



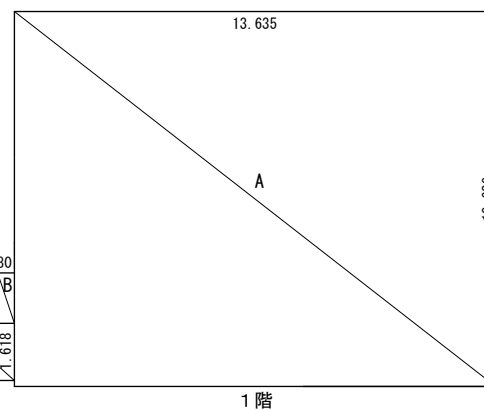
案内図



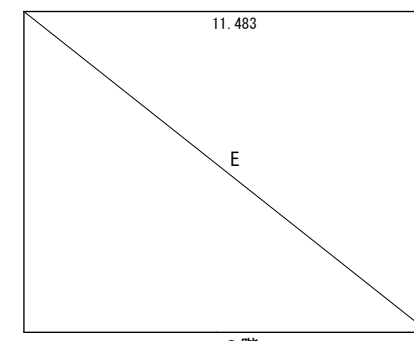
増築部求積表

		計算式	面積 (㎡)	四捨五入 (㎡)
床面積 1階	B	3.333 × 1.818	6.059	
	B-D	2.2725 × 1.6665	3.787	
	D	3.939 × 2.2725	8.951	
	小計		18.797	18.80
E	E	3.636 × 4.545	16.525	
	小計		16.525	16.53
建築面積	床面積 1階	B-D	18.797	
	b	0.606 × 1.818	1.101	
	c	1.6665 × 1.6665	2.777	
	d	4.029 × 0.090	0.362	
	e	0.090 × 5.757	0.518	
	f	3.0725 × 0.090	0.276	
	小計		23.831	23.83
E	E	16.525		
	小計		21.065	21.07

		(㎡)	(坪)
建築面積	既存改修部分	153.85	46.54
	トイレ	23.83	7.21
	物置	21.07	6.40
	合計	198.75	60.64
建ぺい率	198.75/866.27 × 100	22.943	
		22.94 %	≥60%



1階



2階  
既存求積図 S=1:150

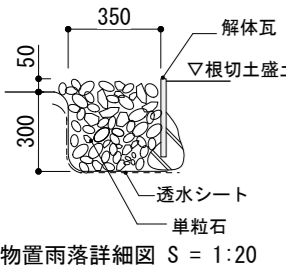
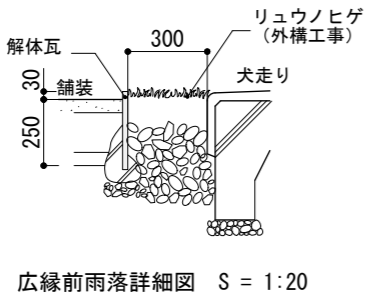
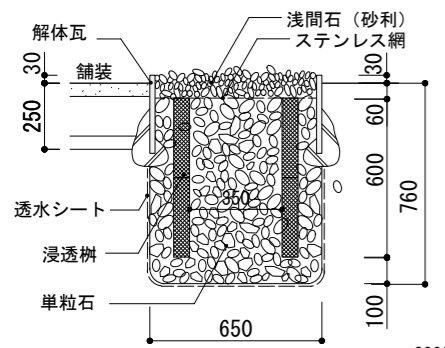
求積図 S=1:100

既存改修部分 求積表

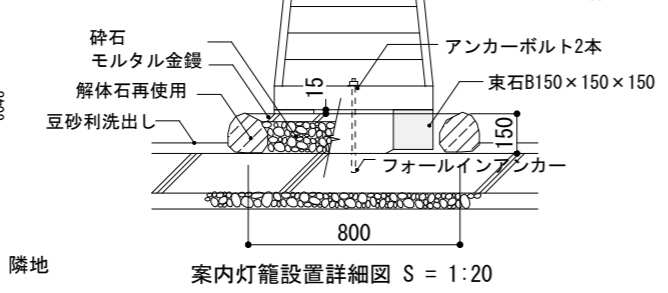
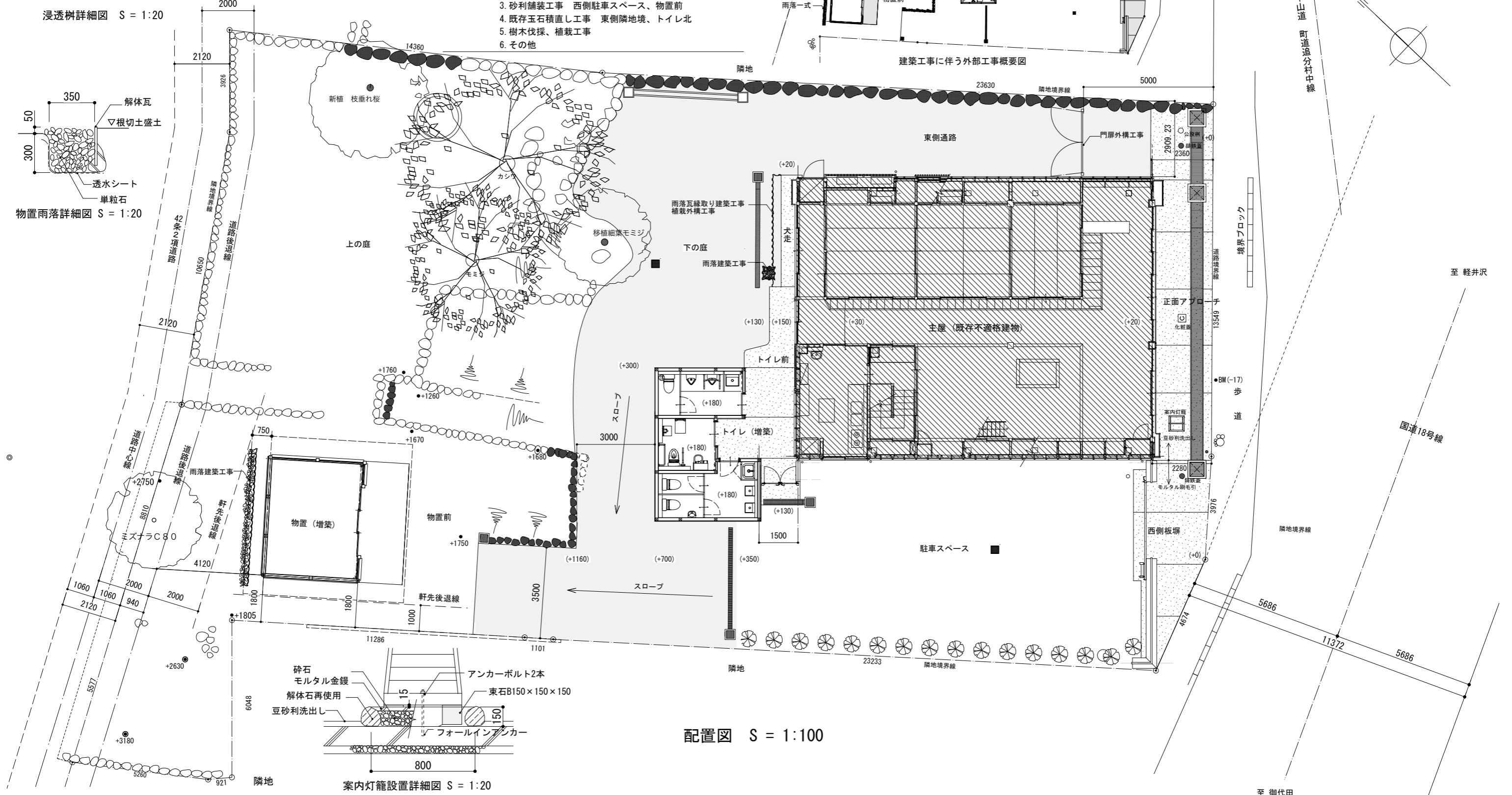
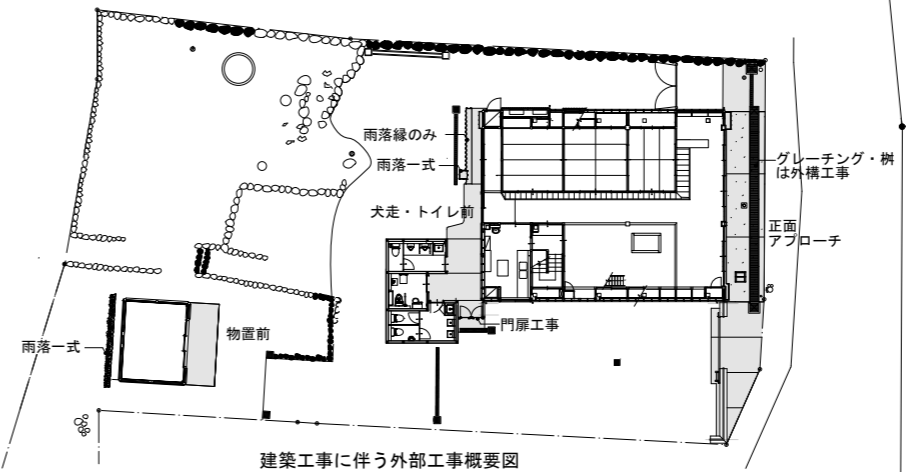
		計算式	面積 (㎡)	四捨五入 (㎡)
床面積 1階	A	13.635 × 10.629	144.926	
	小計		144.926	144.93
床面積 2階	F	5.454 × 9.090	49.576	
	F+G-H	5.454 × 5.454	29.746	
	H	0.575 × 9.090	5.226	
小計		84.549	84.55	
延床面積	床面積1+2階	144.93+ 84.55		229.48
建築面積	床面積 1階		144.926	
	H		5.226	
	a	0.300 × 2.032	0.609	
	e	0.340 × 9.090	3.090	
	小計		153.851	153.85
述床面積	既存改修部分		229.48	69.40
	トイレ		18.80	5.70
	物置		16.53	5.00
合計		264.81	80.10	
容積率	264.81/866.27 × 100	30.568		
		30.57 %		≥200%

既存求積表

		計算式	面積 (㎡)	四捨五入 (㎡)
床面積 1階	A	13.635 × 10.629	144.926	
	A+B+C+D-E	0.480 × 1.430	0.686	
	C	1.818 × 1.618	2.941	
	D	0.909 × 0.200 × 0.5	0.090	
小計		148.643	148.64	
床面積 2階	E	11.483 × 9.090	104.380	104.38
延床面積	床面積1+2階	148.64+ 104.38		253.02
建築面積	A+B+C+D		148.643	148.64



- 主屋棟外部工事 (これ以外の外部は外構工事)
1. 正面アプローチ土間工事
  2. 犬走・トイレ前
    - ・四角形の雨落一式
    - ・縁側の雨落の内部植栽は外構工事
    - ・門扉工事
    - ・軒下の土間
    - ・雨落一式
  3. 物置前
    - ・軒下の土間
    - ・雨落一式
- 主な外構工事
1. 浸透側溝、浸透樹工事
  2. 透水性舗装工事 東側通路、北側庭、スロープ
  3. 砂利舗装工事 西側駐車スペース、物置前
  4. 既存玉石積直し工事 東側隣地境、トイレ北
  5. 樹木伐採、植栽工事
  6. その他



●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 配置図	縮尺 S = 1:100 (A2)	図面番号 A-11
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一				

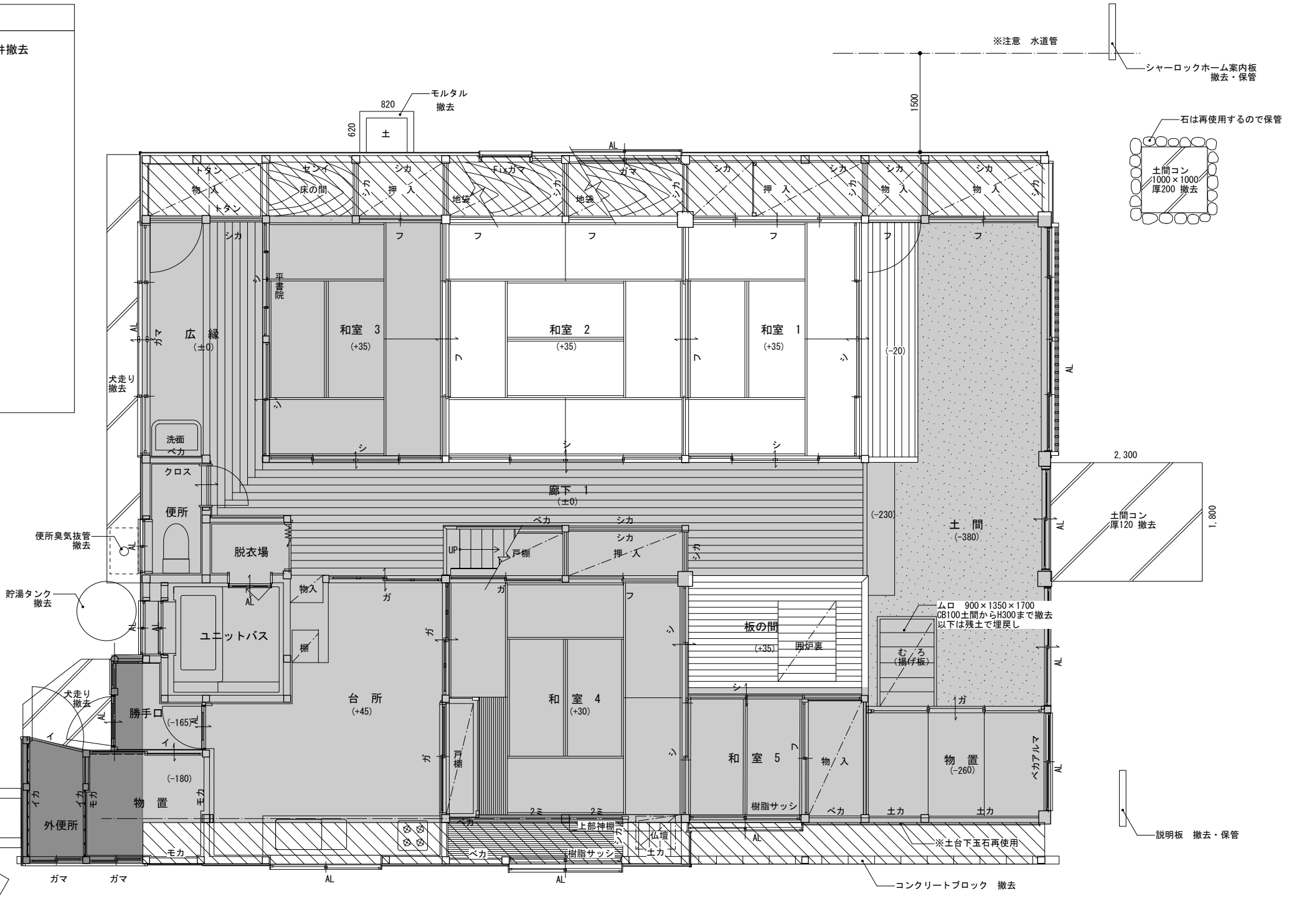
外部仕上表							
部位	場所	仕上	補足材	下地・備考			
屋根	1階屋根	ガルバリウム鋼板 t0.35mm 平葺・立ハゼ葺き 東・南・西側雪止金物	100	野地板ア15、ゴムアス系防水紙ア1.2	基礎パッキン	120(100)×214×20 + 防鼠水切(鋼板) WMF-N45 ※城東テクノKK同等品	
	2階屋根	ガルバリウム鋼板 t0.35mm 平葺 北・南側雪止金物2列	100	小舞板20%補足 一部トントン葺 断熱材ア20mm 流れ棧 野地板 ゴムアス系防水紙ア1.2	下見板下はMSKP-21(樹脂)		
	トイレ	ガルバリウム鋼板 t0.35mm 平葺 南・東・西側雪止金物	100	野地板ア15mm二重張り ゴムアス系防水紙ア1.2	表示板	展示室、各トイレ、台所、事務室(図面参照)	
庇	霧除 東側	銅板 t0.35mm 目板葺	100	ゴムアス系防水紙ア1.2			
	西側	ガルバリウム鋼板 t0.35mm 平葺	100	ゴムアス系防水紙ア1.2	厨房器具	二槽シンク 1500×600×800(BSM2-156L) コンロ台 600×600×650(BWG-066)	
樋・他	軒樋	2階南銅製、他 ガルバニウム鋼板 t0.4mm 2階 120φ半丸、他 105φ半丸、落葉止ネット	100	落葉除ネットはアルミ又は銅			
	堅樋	2階南銅製、他 ガルバニウム鋼板 t0.4mm 60φ	100		調理台 600×600×800(BW-066) ガスコンロ 595×420×160 2口14.5kw(M-212C)		
	集水器・這樋	2階南銅製、他 ガルバニウム鋼板 t0.4mm、這樋銅製	100		吊戸棚・ガス戸 1500×300×600(BCS6-1530)パイプ棚 1500×250×240(BPS25-15B)		
水切・雨押え	場所	破風、堰板、下見板水切、2階窓敷居 銅板 他 ガルバニウム鋼板 t0.4mm	100		( )は、マルゼン品番と同等品		
外壁	1階・2階	杉ア12mm ささら子下見板張り 浸透性防汚塗装(※)	100	透湿性防水紙 断熱材	ピクチャーレール	許容荷重30kg・MC-10(黒) MC-16(白) 引掛金物 MC0-2-20ケ	
	トイレ	杉ア15mm 目板張り 浸透性防汚塗装(※)、一部漆喰調塗装	100	構造用合板ア9mm 透湿性防水紙 ケイカル板ア6			
軒裏	1階・2階	化粧野地板表し 浸透性防汚塗装 一部小舞板トントン葺 2階化粧野地板既存	40		物置	屋根	ガルバリウム鋼板 t0.35mm 平葺 雪止金物 野地板ア15mm ゴムアス系防水紙ア1.2
	トイレ	化粧軒裏表し ケイ酸カルシウム板ア6 EP	100			樋	ガルバニウム鋼板 t0.4mm 105φ半丸 堅樋 同 60φ
開口部	1階・2階	木製 複合アルミサッシ	100	2階東側窓 鴨居、敷居上板金水切		水切	ガルバリウム鋼板 t0.4mm
基礎	図面参照	既存礎石 下屋、トイレRC布基礎打放し・新規東石ブロック・新規玉石	100	布基礎アンカーボルトM12@2700以内 基礎パッキン		外壁	杉板ア15 目板張り(一部土壁下地ア30以上) 透湿性防水シート
舗装	駐車場、他	外構工事図面参照				軒裏	化粧軒裏表し
舗装	南側・トイレ前 他	豆砂利洗出し仕上 目地切(真鍮)	100	土間コンクリート		開口部	木製
雨落	浸透樹	主屋北側、物置北側のみ建築工事 縁既存瓦転用 上部浅間石	100	土木シート 単粒度砕石		基礎	鉄筋コンクリート打放し 基礎パッキンロングタイプ
外物入他	外物入 室外機置場	モルタル金鍍 杉板ア15 ケイ酸カルシウム板ア6 EP 天井共					

内部仕上表												
階	室名	床		幅木	壁		廻り縁		天井		備考	
		仕上	補足材		仕上	補足材	仕上	補足材	仕上	補足材		
1階	前土間・案内	仕上	真砂土舗装 ア40 小縁松ア15幅210以上和釘打	100		中塗仕上 棚 杉板 ア12 古色オイル拭取	100	ナン		既存根太天井 一部吹抜	0	棚、カウンタ、踏台 120×300×1500
		下地	クラッシャーラン RC40ア60転圧 古色オイル拭取	100		木舞下地土壁	100					
	通り土間	仕上	真砂土舗装 ア40 小縁松ア15幅210以上和釘打	100		既存板 一部 中塗仕上		ナン		既存根太天井 一部根太補足、床板補足、古色オイル拭取	50	3~7通りまでの、2階廊下新規床板の裏面を古色オイル拭取
		下地	クラッシャーラン RC40ア60転圧 古色オイル拭取	100		一部 ラスポード ア7.5						
	店の間	仕上	畳 表替	100				ナン		既存根太天井	0	ピクチャーレール 6m
		下地	荒床 杉ア15 転し根太45×40 断熱材ア45 下張 杉ア15	100						(既存天井撤去)		
	中の間	仕上	畳 表替	100		鼠漆喰	100	既存		新規天井板 杉板 ア7、廻り縁と棹縁は既存	100	
		下地	荒床 杉ア15 転し根太45×40 断熱材ア45 下張 杉ア15	100		木舞下地土壁	100			新規化粧梁(取替 古色オイル拭取)	100	
	奥の間	仕上	新規畳	100		鼠漆喰 一部長押・鴨居新規	100	既存 一部 新規 45×50	15	新規 棹縁、天井板 杉板 ア7 廻り縁一部新規	100	床柱：杉 磨き丸太 太鼓落し 床板・框：ケヤキ練付
		下地	荒床 杉ア15 転し根太45×40 断熱材ア45 下張 杉ア15	100		木舞下地土壁	100			一部断熱材ア100	100	床の間上差鴨居溝埋木 古色オイル拭取
縁側	仕上	松板 ア15 幅210以上和釘打 古色オイル拭取(※)	100		鼠漆喰	100	新規 45×50	100	新規 棹縁、天井板 杉板 ア7	100		
	下地	転し根太45×40 断熱材ア45 下張 杉ア15	100		木舞下地土壁	100			断熱材ア100			
板の間	仕上	松板 ア15 幅210以上和釘打 古色オイル拭取	100		中塗仕上 棚部分 杉板 ア12 古色オイル拭取	100	既存 棚部分 30×30	100	吹抜 一部根太天井 古色オイル拭取	100	階段移設、吊棚修理取付、囲炉裏框 90×120栗 古色オイル拭取	
	下地	下張 合板ア12 転し根太45×40 断熱材ア45 下張杉ア15	100		木舞下地土壁 断熱材	100			(事務室の床を梁、根太共に336mm下る)		囲炉裏の自在(別途)	
台所	仕上	硬質骨材練込特殊防滑シート(※)	100	シート立上 アルミ見切	珪酸カルシウム板 ア6 EP 一部ステンレス張り	100	塩ビ	100	化粧石膏ボード 9.5×445×910	100	天井点検口 600×600 アルミ	
	下地	シンダーコンクリート 断熱材ア50 土間コンクリート	100		断熱材 耐水合板 ア12	100			断熱材ア100 耐水プラーボード ア9.5	100	ステンレスフード 750×600×600 製作	
押入・物入・AC置場	仕上	既存(復帰)・新規物入合板ア12・AC置場黒色塗装	100	雑巾摺	杉板 ア12(相ジャクリ)一部漆喰、楕合板ア5.5、AC置場黒色塗装	100	既存 新規 30×30	90	既存天井 一部杉板 ア7 楕合板 ア5.5	100	一部断熱材	
	下地								断熱材ア100			
階段	仕上	杉材 着色オイル拭取(※)・松板ア15 着色モルタル金ゴテ	100	側桁 木H60 土間コンクリート	漆喰 一部 P.B ア12.5 EP	100	杉 40×45 棹 30×30		棹縁天井 杉板 ア7 無目 90×45 1階突板合板	100	一部勾配天井 断熱材 手摺集成材35φ ノンスリップ真鍮38×14	
	下地	土間コンクリート			木舞下地土壁	100			断熱材ア100			
2階	部屋1	仕上	縁甲板張り 杉板 ア15幅210以上 古色オイル拭取	100		漆喰	100	既存 新規 45×50	既存棹縁天井・一部新規棹縁天井 突板合板 旧部屋塀無目120×20	100	押入と壁を一部撤去 断熱材	
		下地	荒床既存 +補足 +遮音シート+転し根太	100		既存土壁 一部塗増			断熱材ア100			
	部屋2	仕上	畳 表替	0		漆喰	100	既存	既存棹縁天井・新規天井板 杉板 ア7	100	断熱材	
		下地	既存荒床	0		既存土壁			断熱材ア100			
	展示室	仕上	縁甲板張り 杉板 ア15幅210以上 古色オイル拭取	100	木 H60	漆喰 一部 漆喰調塗装	100	ナン		屋根裏現し(小舞板・杉皮)	100	ピクチャーレール 6.8m
		下地	既存荒床+遮音シート+転し根太	100		木舞下地土壁(東面) 一部構造用合板 79 PB 79.5目地処理				桤板上断熱材ア20		
	事務室(前室共)	仕上	縁甲板張り 杉板 ア21幅210以上	100	杉 H60	鼠漆喰 一部 P.B ア9.5 EP	100	杉 40×45 棹 30×30	100	前室屋根裏現し 新規棹縁天井(既製品) 突板合板	100	断熱材 前室手摺移設
		下地	既存荒床を移動再使用+遮音シート	100		木舞下地土壁 一部既存土壁 塗増 構造用合板 ア9	100			断熱材ア100		
	吹抜	仕上				荒壁コテ押エ 目板張り ア12 古色オイル拭取	100			屋根裏現し(小舞板・トントン葺)	100	
		下地				既存土壁 既存漆喰剥離	100			桤板上断熱材ア20		
デッドスペース	仕上	杉板 ア15 重張り	100		レリーフ補強用耐水合板 ア12	100	ナン		ナン	0		
	下地	既存荒床(現状のまま保存)	100						桤板上断熱材ア20			
廊下	仕上	松板 ア15 幅210~180 和釘打 古色オイル拭取	100		漆喰 一部 漆喰調塗装	100	既存		新規天井板 杉板 ア7、棹縁既存古色オイル拭取	100	一部勾配天井 断熱材	
	下地	3~7通り間裏面 古色オイル拭取			既存土壁一部塗増 一部構造用合板 79 PB 79.5目地処理	100			断熱材ア100		手摺	
押入	仕上	既存板	0		漆喰	100	既存		既存		断熱材	
	下地	既存荒床	0		既存漆喰				断熱材ア100			
トイレ	男性トイレ	仕上	磁器質タイル 300×300(※) 一部便器下専用タイル(600×800 2枚)	ステンス H60	P.B ア12.5 EP 基礎コンクリート打放し VP 一部複層リネックス板 ア10		梁下見切塩ビ		小屋裏表し 垂木、化粧野地板 一部P.B ア9.5 EP		照明前幕板 180×21 雑巾摺 アルミ15×5 甲板*ストフォーム マシン150×19	
		下地	土間コンクリート		ライニング 耐水合板ア12+メラミン化粧板ア3練付				P.B ア9.5 EP		天井点検口 雑巾摺 アルミ15×5 甲板*ストフォーム マシン150×19	
	多目的トイレ	仕上	磁器質タイル 300×300	ステンス H60	P.B ア12.5 EP 基礎コンクリート打放し VP		塩ビ目透し				天井点検口	
女性トイレ	仕上	磁器質タイル 300×300	ステンス H60	P.B ア12.5 EP 基礎コンクリート打放し VP 一部複層リネックス板 ア10		梁下見切塩ビ		小屋裏表し 垂木、化粧野地板 一部P.B ア9.5 EP		照明前幕板 180×21 雑巾摺 アルミ15×5 甲板*ストフォーム マシン150×19		
	下地	土間コンクリート		ライニング 耐水合板ア12+メラミン化粧板ア3練付						天井点検口		
物置	物置	仕上	コンクリート木ゴテ押え	コンクリート打放しH200	構造用合板 ア9 910×2730			小屋裏表し 垂木、化粧野地板				
共通	※ 床下の木部は全て防腐剤(キシラモントラッド程度)を2回塗りする。		※磁器質タイル 300×300 Morges II 14 (ADVAN) 同等品			※ 台所 シート立上幅木金物 アルミ 17×4.5×9 54027 (創建) 同等品						
	※ 古色オイル拭取 着色材は、ベンガラ、松煙等、ワトコオイル、エゴマ油、3回拭取		※ 遮音シート Sandam E-40 (ゼオン化成(株))同等品									
	※浸透性防汚塗装 キシラデコール(日本バイエルン)同等品		※ 硬質骨材練込特殊防滑シート VM-20 (ABC商会) 同等品									

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所		軽井沢町	総括技術者	大平茂男	工 事 名 場 所	令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事	図 名	外部・内部 仕上表
			管理技術者	市村康子				
			構造技術者	安達幸一				
管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子					津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	縮 尺	図面 番号	A-12

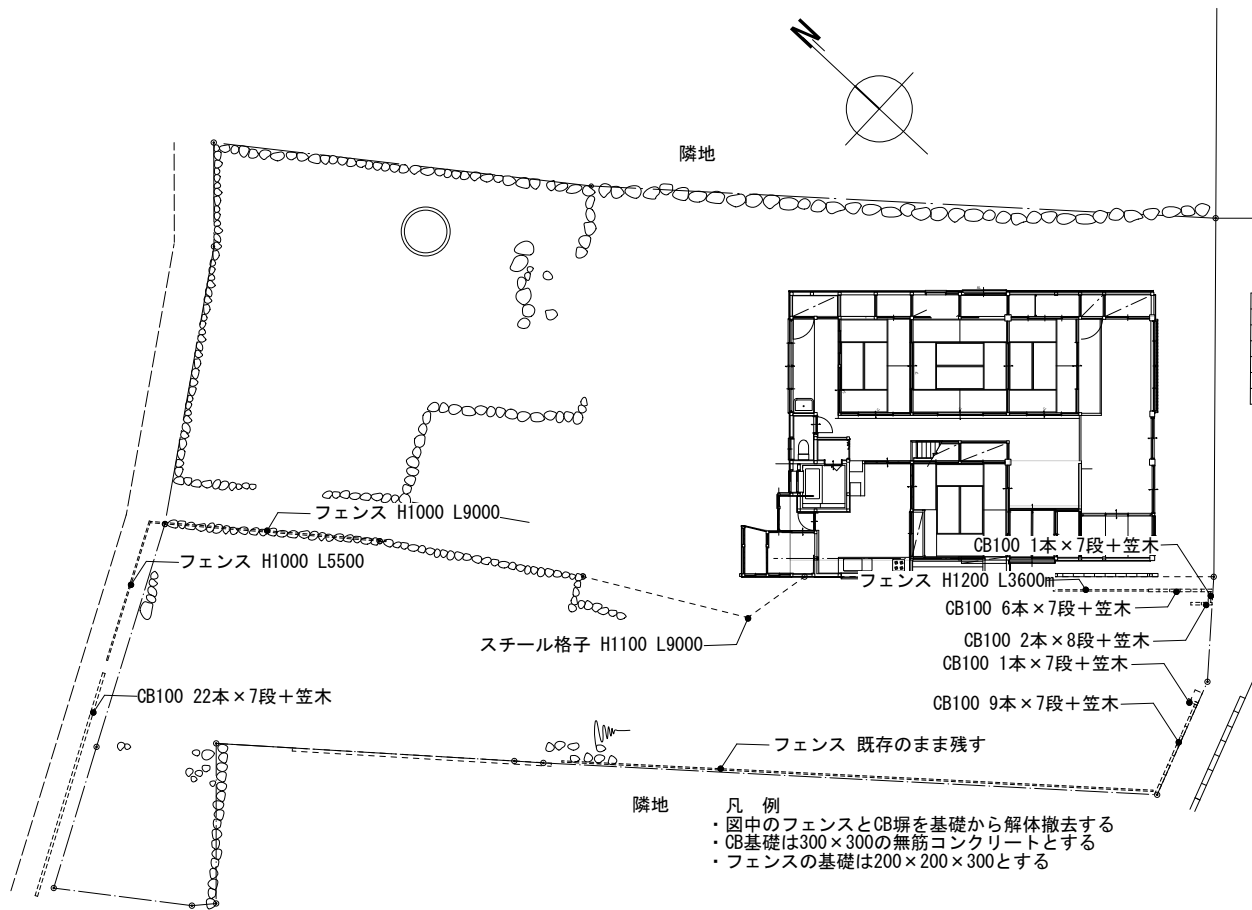
部分解体撤去部分の主な内容		
1階	土間 和室1(店の間) 和室2(中の間) 和室3(奥の間) 板の間・和室5 和室4 台所 浴室 脱衣室 便所 勝手口の一部 物置の一部 広縁 廊下1	土間コンクリート、ムロ、物置撤去、正面建具撤去、一部天井撤去 床組一旦解体、天井撤去、欄間撤去、畳撤去 床組一旦解体、梁取替のため天井一旦解体復、畳撤去 床組一旦解体、天井解体、広縁側柱撤去、畳撤去 床組一旦解体、和室5物入撤去、囲炉裏移動、一部天井撤去 床組一旦解体、戸棚、押入、畳撤去、 当初構造材を残し床、壁、天井、棚厨器具撤去 当初構造材を残し床、壁、天井、間仕切壁撤去 当初構造材を残し床、壁、天井、間仕切壁撤去 当初構造材を残し床、壁、天井、間仕切壁撤去 当初構造材を残し床、壁、天井、間仕切壁撤去 当初構造材を残し床、壁、天井、間仕切壁撤去 床撤去、天井一部撤去

- 一凡例一
- 当初柱
  - シカ 漆喰壁
  - イカ 板壁
  - ベカ ペニア壁
  - モカ モルタル壁
  - セカ 石膏ボード壁
  - ガ ガラス壁
  - ガマ ガラス窓
  - イ 板戸
  - シ 障子
  - フ 襖
  - AL アルミ
- 全解体撤去
- 内装・仕上等の部分解体撤去
- 一旦全て解体して構造補強後軸組等復帰



解体撤去概要 1階平面図 S=1:50

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 解体撤去概要 1階平面図 縮尺 S = 1:50 図面番号 A-13
---	------	--	---	---

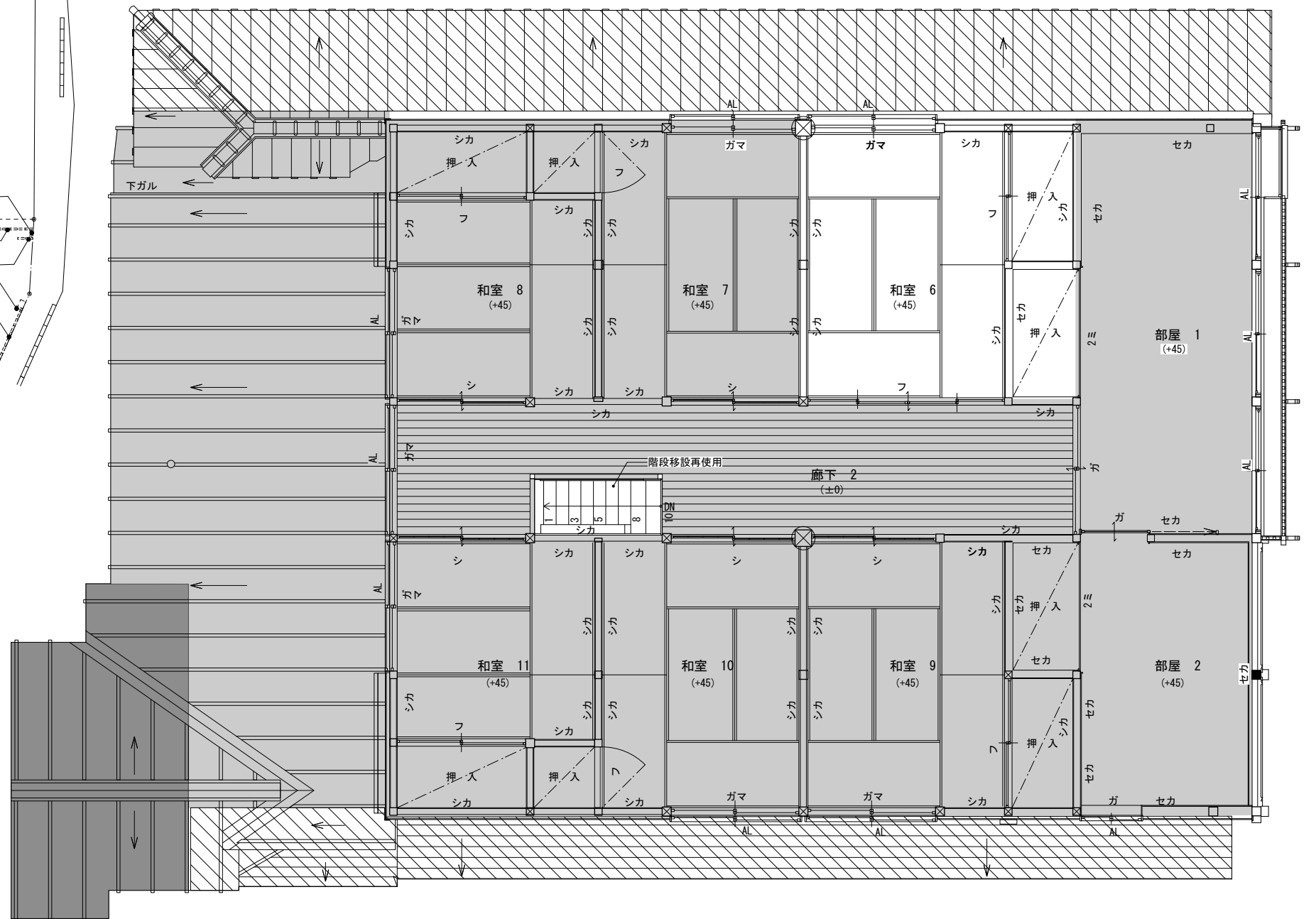


フェンス・C.B塀解体撤去図 S=1:200

- 凡例
- ・ 図中のフェンスとCB塀を基礎から解体撤去する
  - ・ CB基礎は300×300の無筋コンクリートとする
  - ・ フェンスの基礎は200×200×300とする

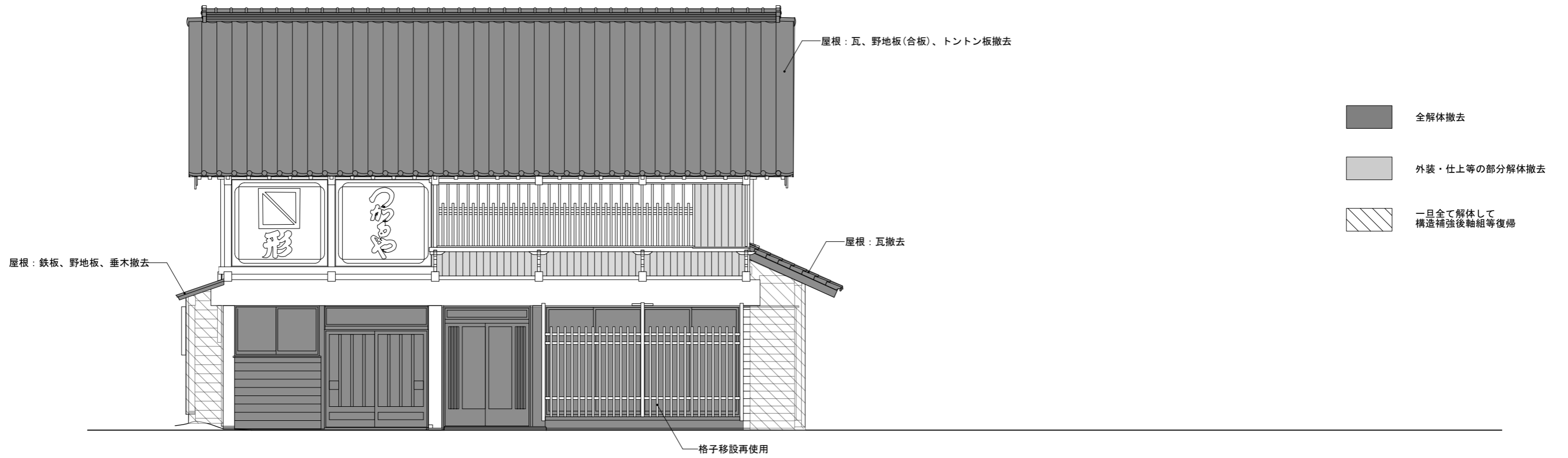
部分解体撤去部分の主な内容		
2階	和室7・8(部屋1)	押入、間仕切壁、畳、荒床、北側開口部、天井板撤去
	和室9・部屋2(吹抜)	押入、床組、畳、天井撤去
	和室10	和室11側間仕切、押入、畳、天井撤去 床組・床板は一旦解体後、位置を下げて復帰
	和室11	押入、間仕切壁、床組、畳、北側開口部、天井撤去
	部屋1	床板、壁と天井仕上材撤去、出格子境の柱1本撤去
	廊下2	床板、天井板、北側開口部撤去

- 一凡例一
- 当初柱
  - シカ 漆喰壁
  - イカ 板壁
  - ベカ ペニア壁
  - モカ モルタル壁
  - セカ 石膏ボード壁
  - ガ ガラス壁
  - ガマ ガラス窓
  - イ 板戸
  - シ 障子
  - フ 襖
  - AL アルミ
- 全解体撤去  
 内装・仕上等の部分解体撤去  
 一旦全て解体して構造補強後軸組等復帰

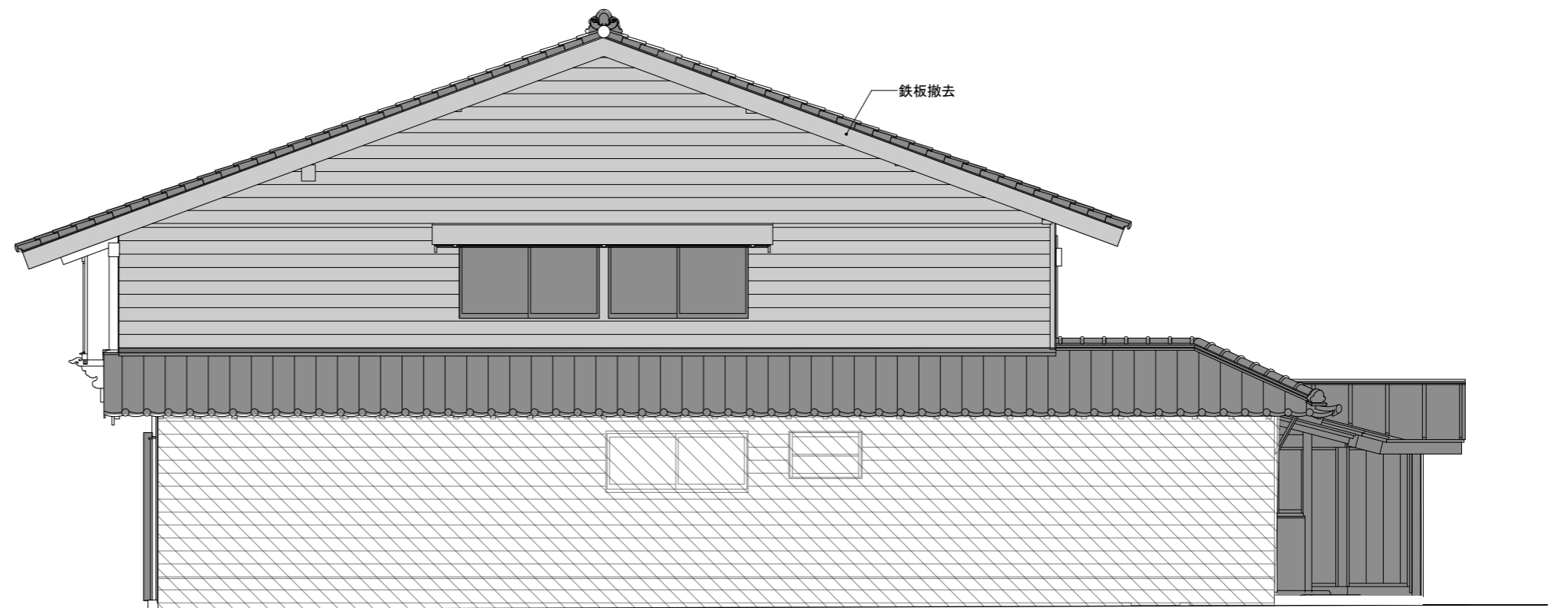


解体撤去概要 2階平面図 S=1:50

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	<b>軽井沢町</b>	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 解体撤去概要 2階平面図 縮尺 S = 1:50	図面番号 <b>A-14</b>
---	-------------	--	---	--------------------------------	------------------



解体撤去概要 南側立面図 S=1 : 50



解体撤去概要 東側立面図 S=1 : 50



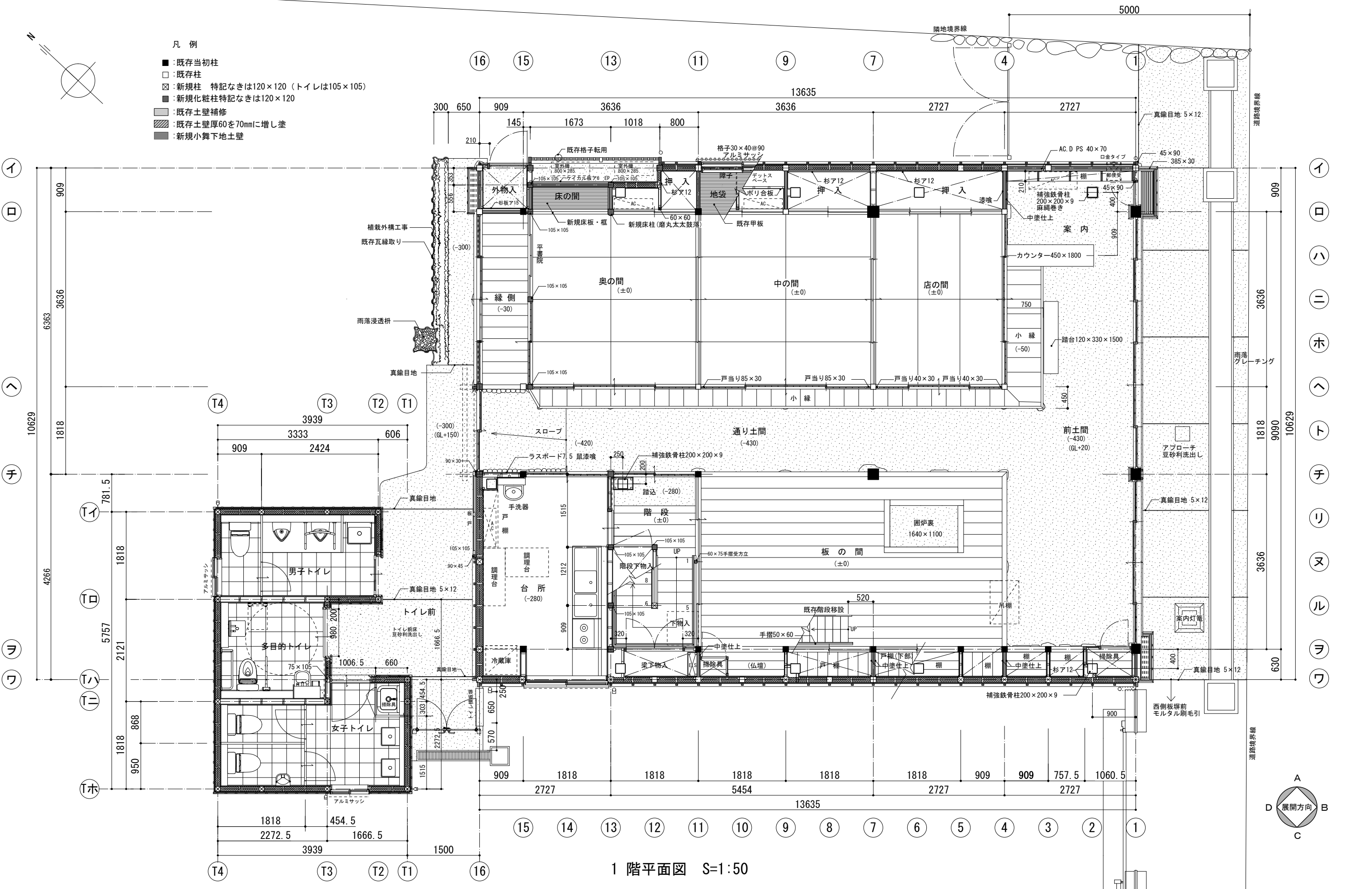
- 全解体撤去
- 外装・仕上等の部分解体撤去
- 一旦全て解体して  
構造補強後軸組等復帰

解体撤去概要 北側立面図 S=1 : 50




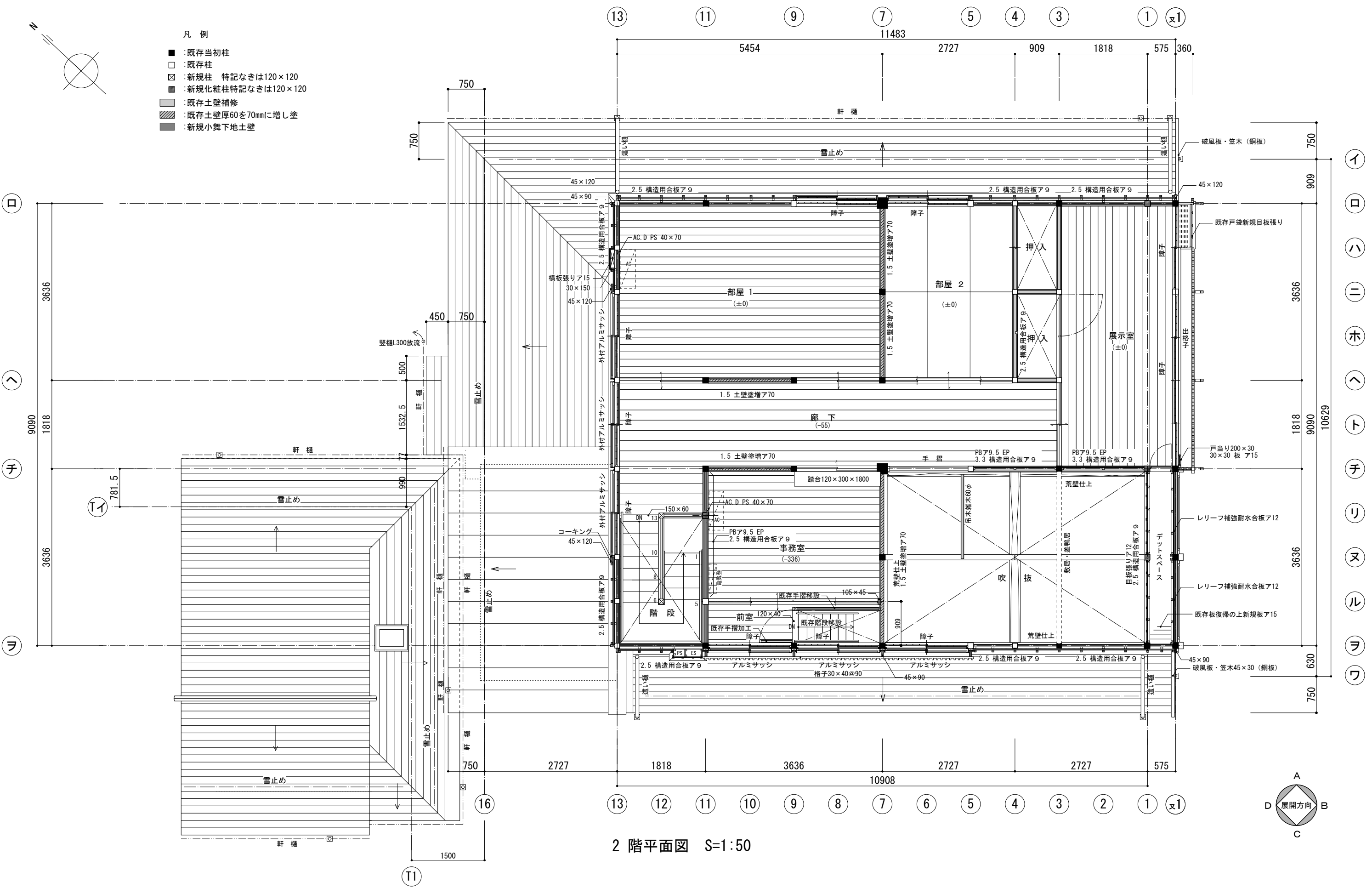
解体撤去概要 西側立面図 S=1 : 50

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	<b>軽井沢町</b>	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 解体撤去概要 北・西側立面図	縮尺 S = 1:50	図面番号 <b>A-16</b>
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一				



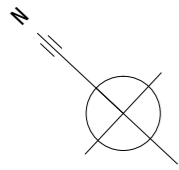
1階平面図 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 1階平面図 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-17	



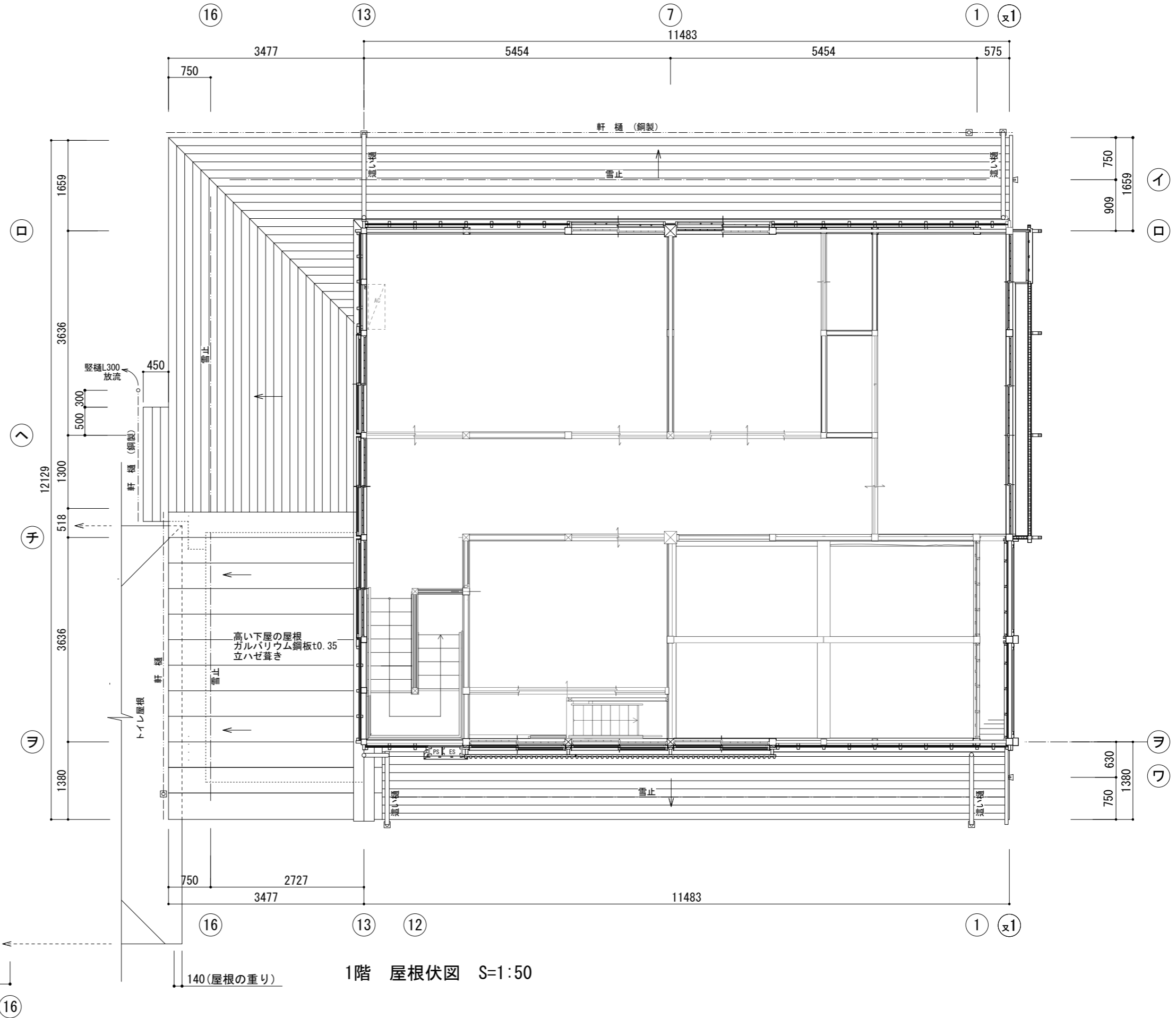
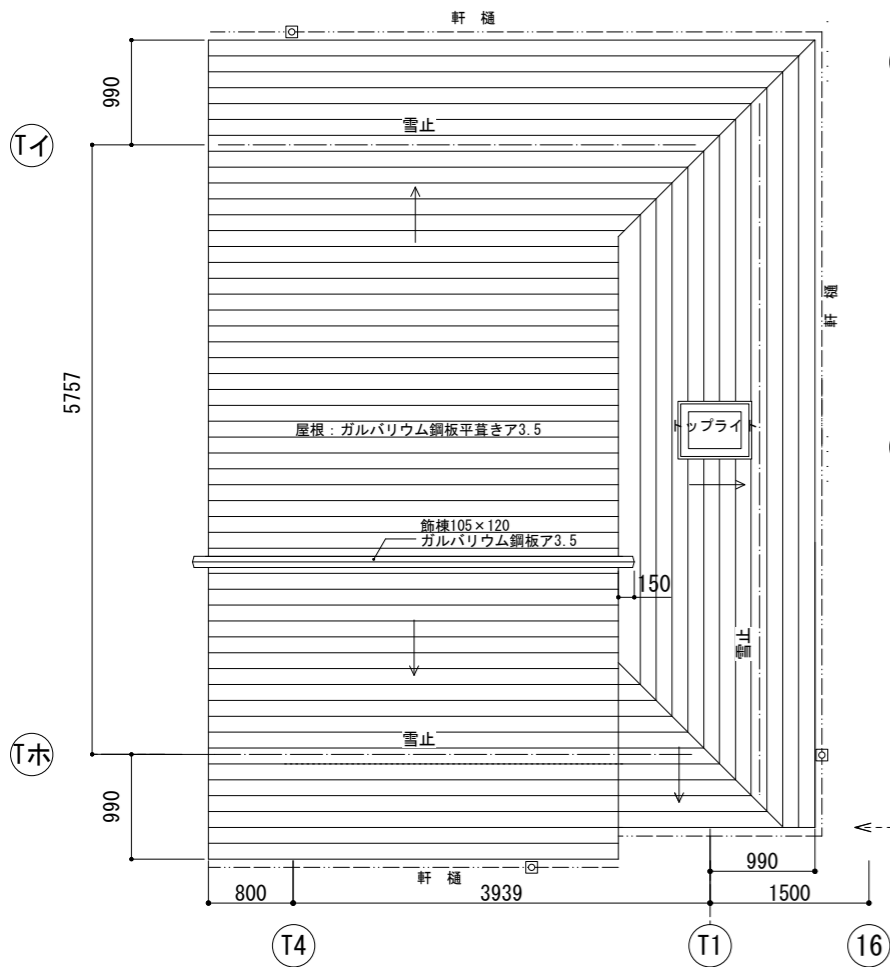
2階平面図 S=1:50

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 2階平面図	縮尺 S = 1:50	図面番号 A-18
		管理技術者 市村康子		図名 2階平面図		
		構造技術者 安達幸一		縮尺 S = 1:50		



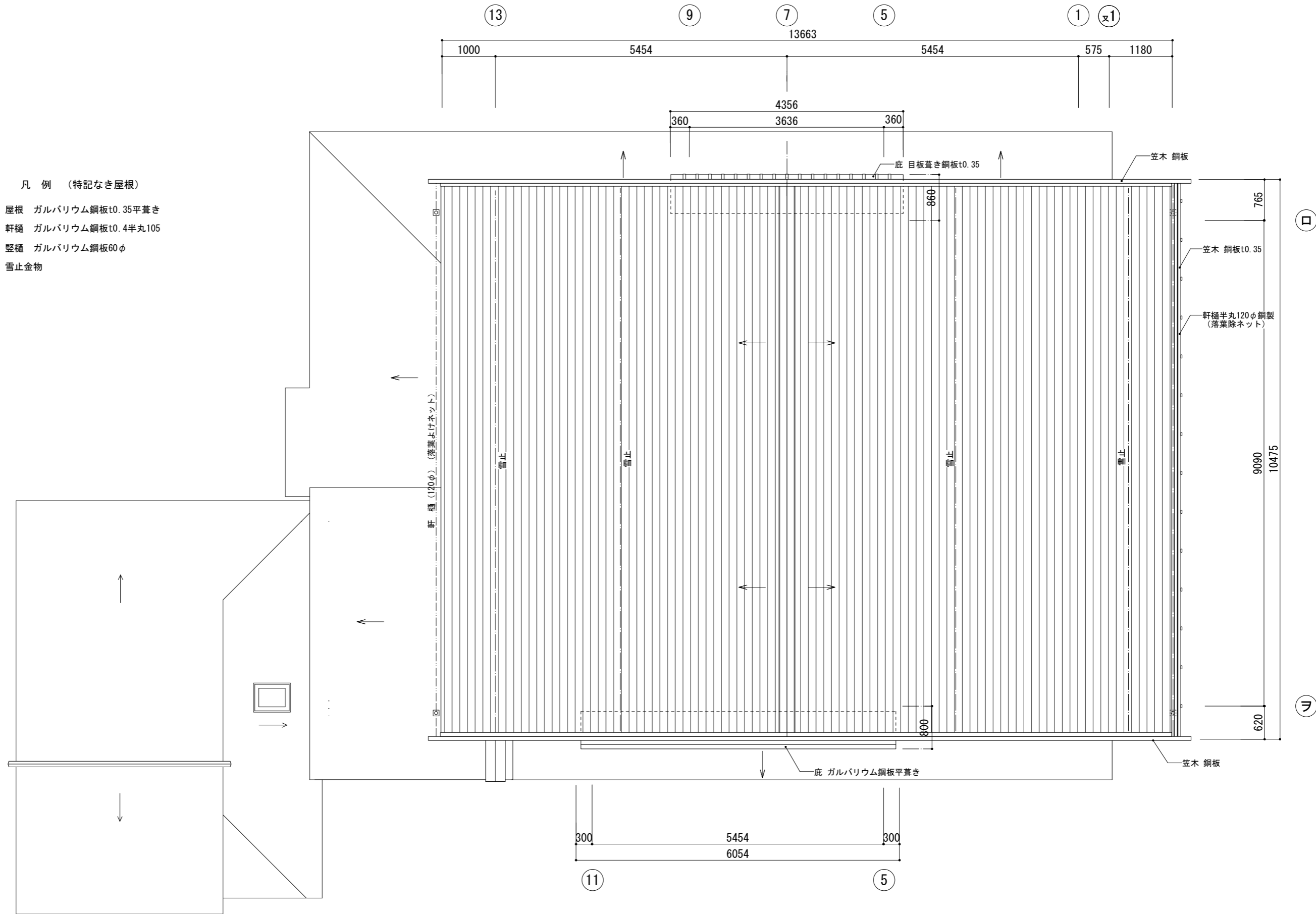
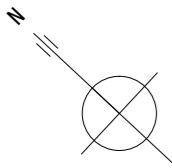
凡例 (特記なき屋根)


- 屋根 ガルバリウム鋼板t0.35平葺き
- 軒樋 ガルバリウム鋼板半丸105
- 縦樋 ガルバリウム鋼板60φ
- 雪止金物

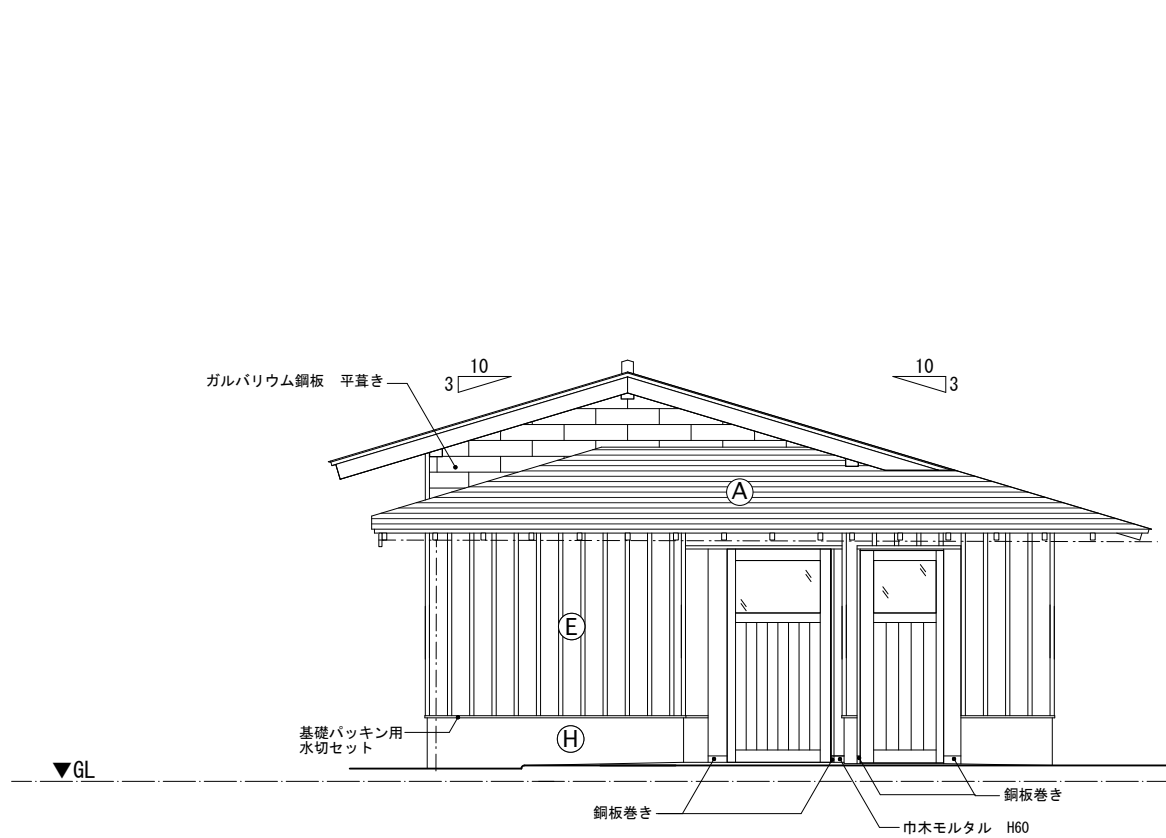


1階 屋根伏図 S=1:50

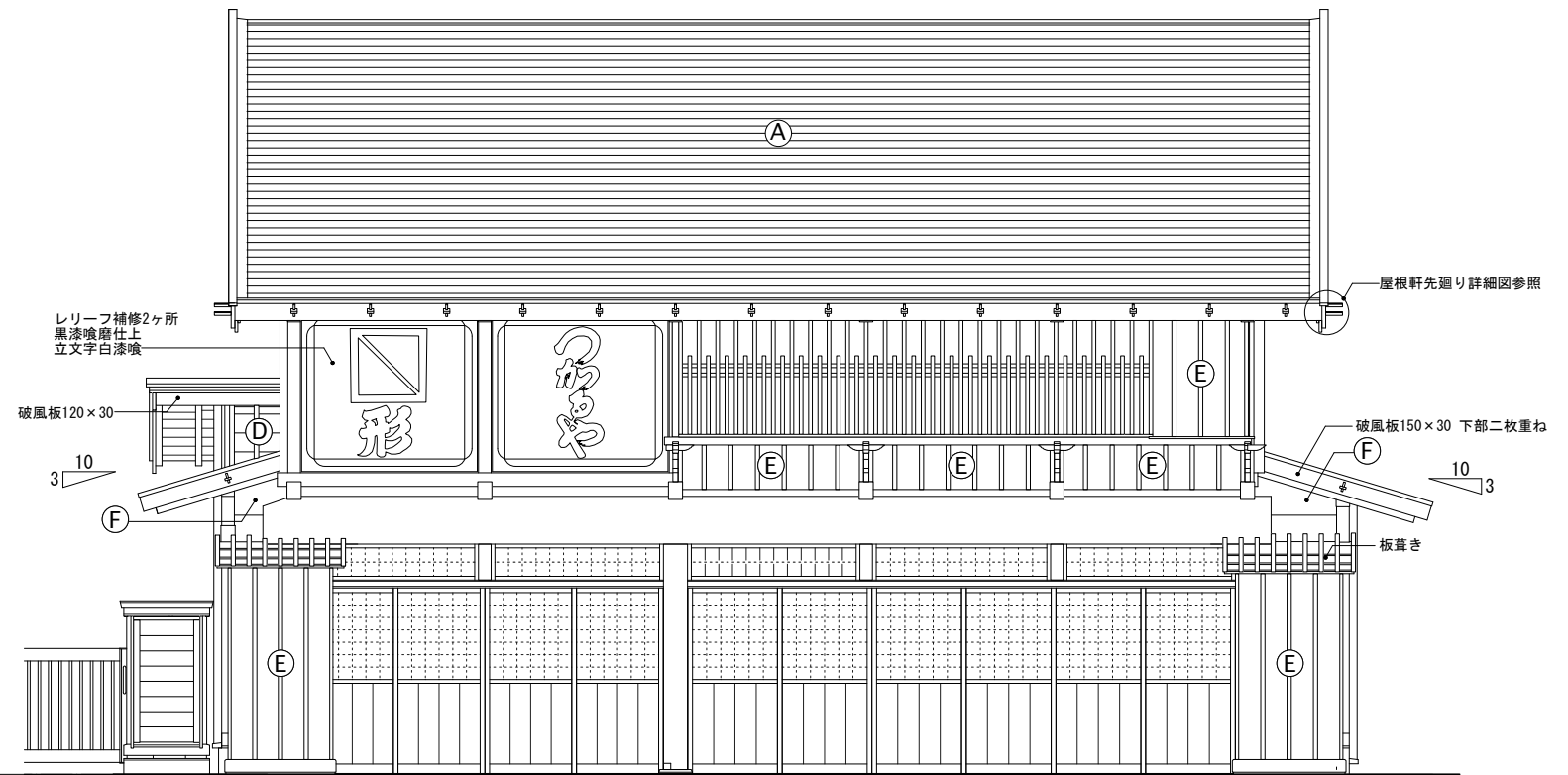
●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子		<b>軽井沢町</b>	総括技術者	大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事	図名 1階屋根伏図	縮尺 S = 1:50	図面 番号 A-19	
			管理技術者	市村康子					場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568
			構造技術者	安達幸一					



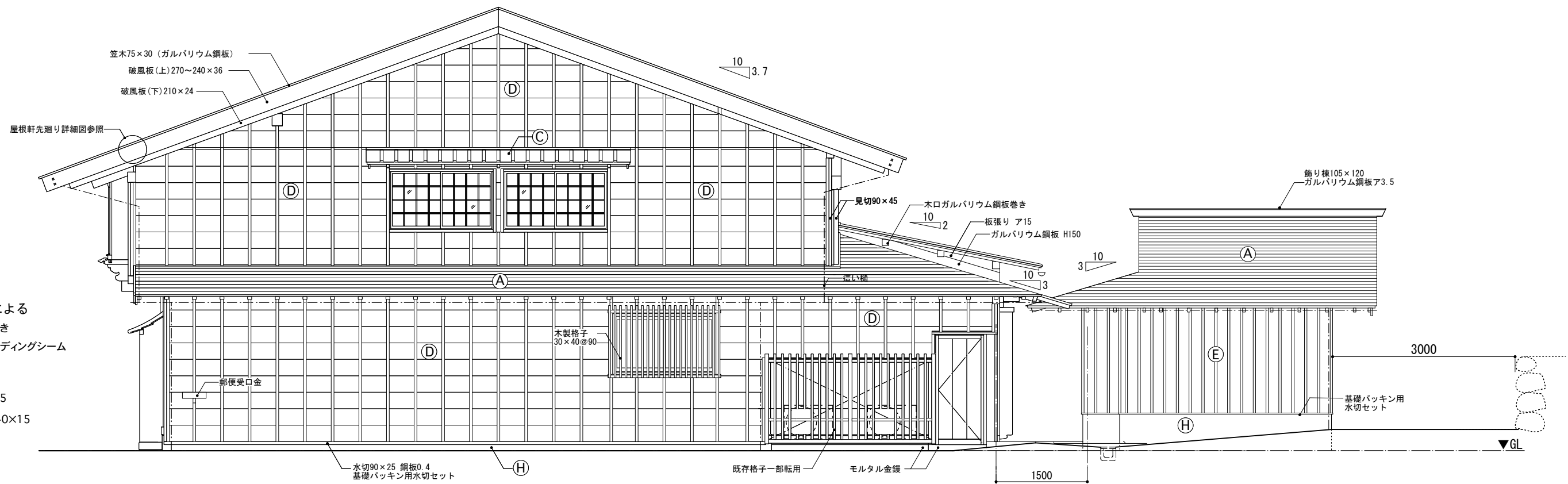
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 2階屋根伏図 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-20
		管理技術者 市村康子			
		構造技術者 安達幸一			



トイレ南側立面図



南側立面図 S=1:50




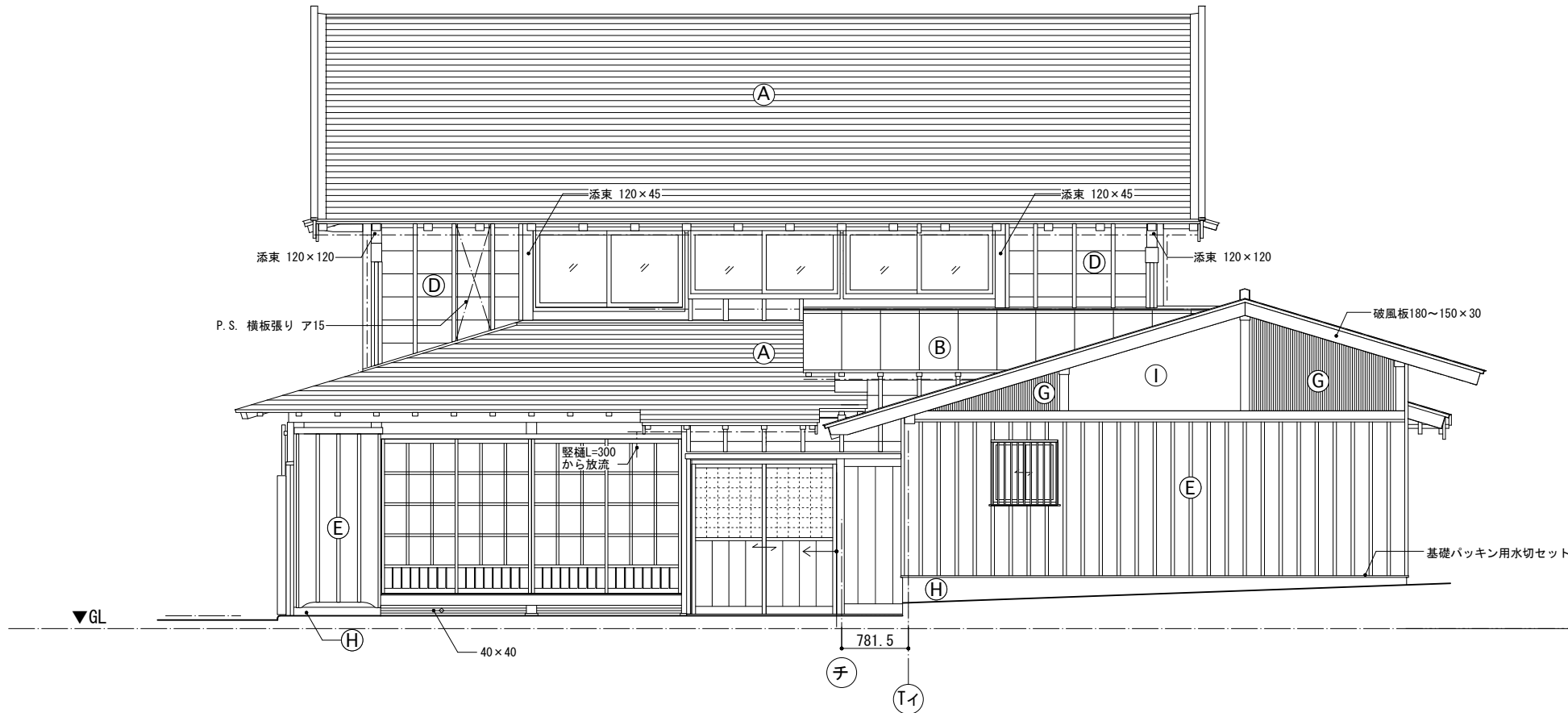
東側立面図 S=1:50

凡例 \* 特記無きは下記による

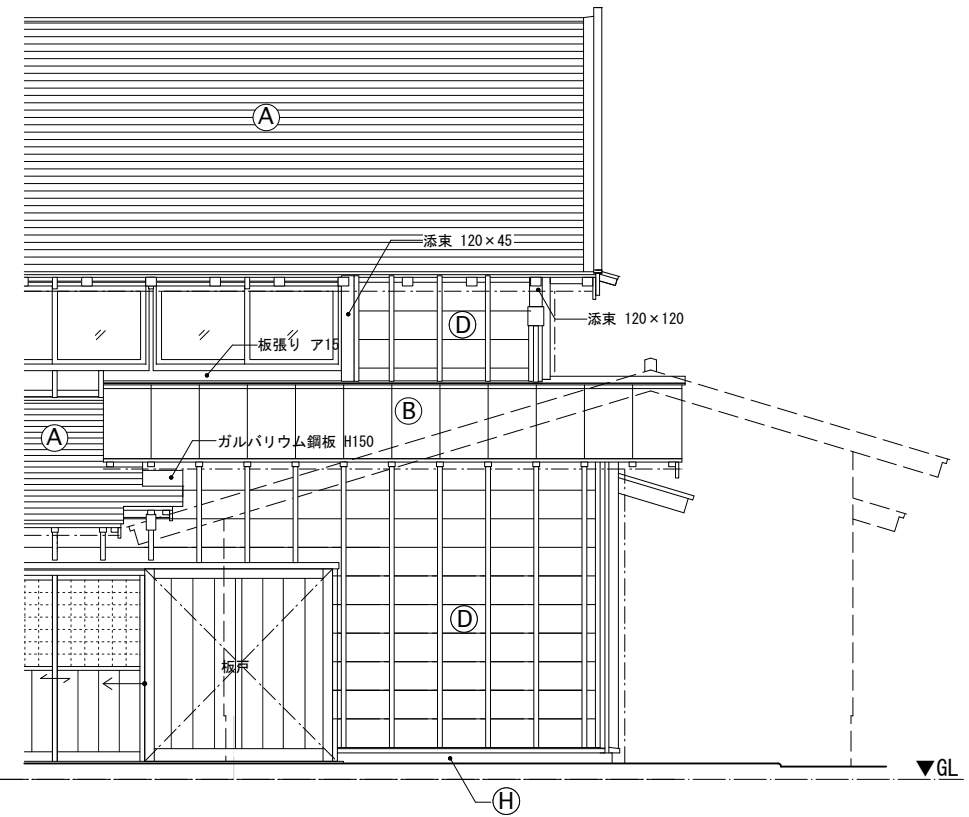
- (A) ガルバリウム鋼板0.35平葺き
- (B) ガルバリウム鋼板0.4スタンディングシーム
- (C) 鋼板0.35 目板葺き
- (D) ササラコ下見板張り  
杉板 ア12 ササラ子40×45
- (E) 目板張り 杉板 ア15 目板40×15
- (F) 鼠漆喰
- (G) 複層ポリカーボネート ア15
- (H) コンクリート打放し
- (I) 漆喰調塗装

--- 軒樋、竖樋

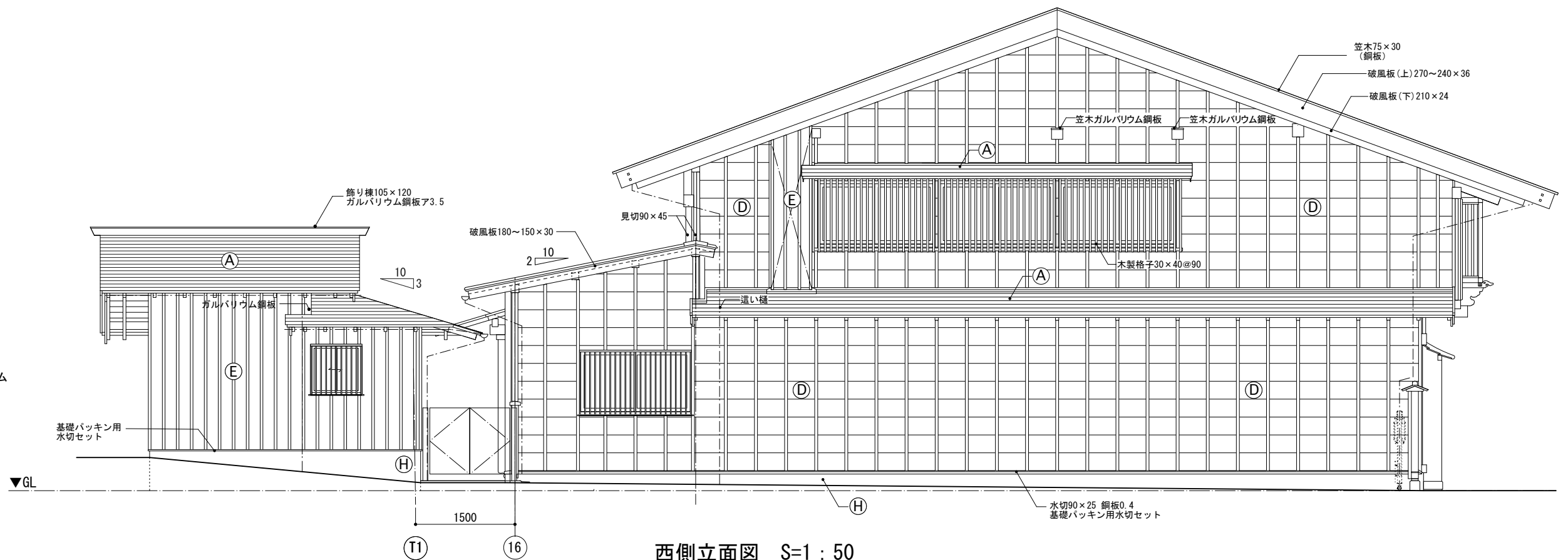
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 南・東側立面図 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-21



北側立面図 S=1 : 50



トイレ北側立面図

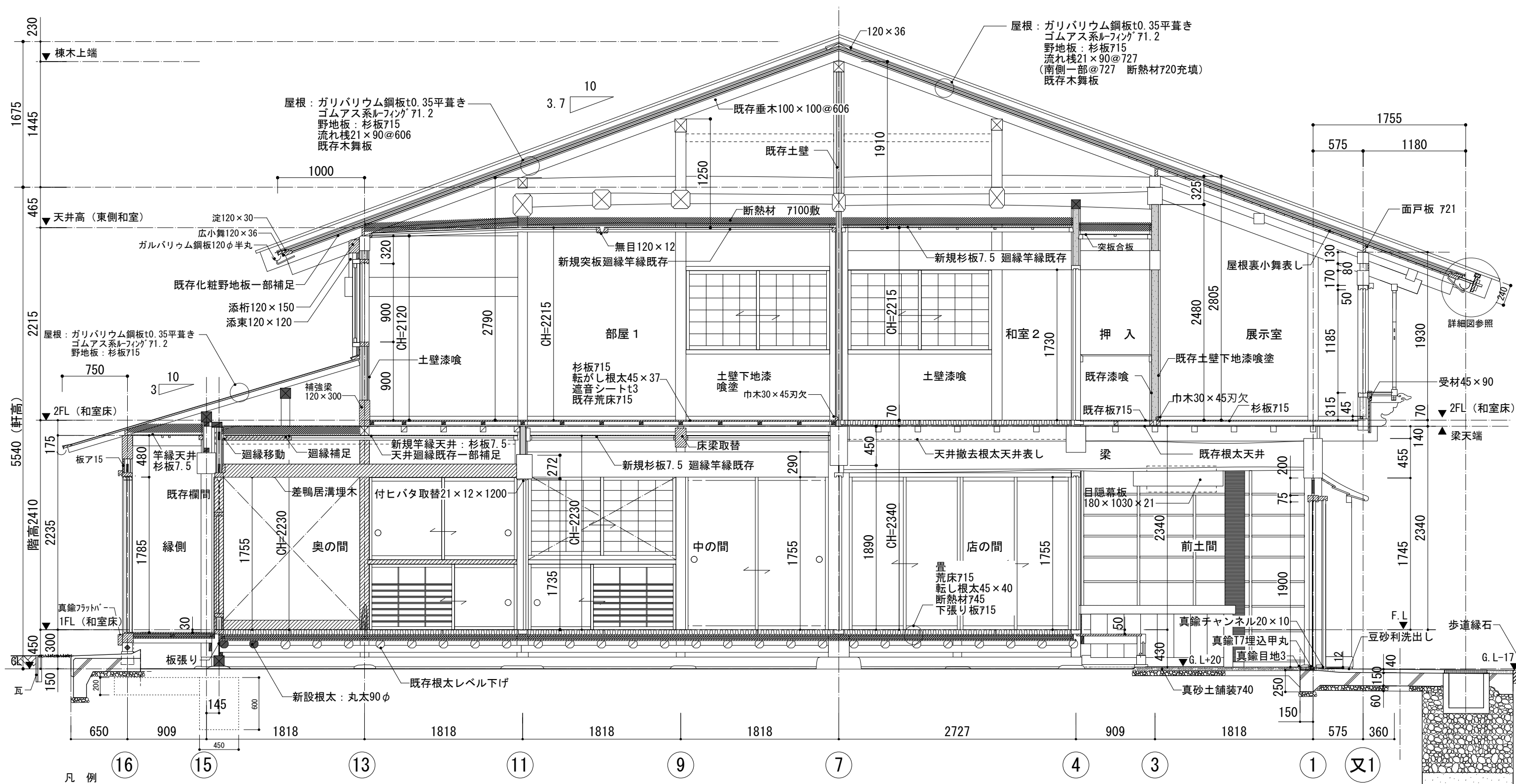


西側立面図 S=1 : 50

凡例 \*特記無きは下記による

- (A) ガルバリウム鋼板0.35平葺き
- (B) ガルバリウム鋼板0.4スタンディングシーム
- (C) 鋼板0.35 目板葺き
- (D) ササコ下見板張り  
杉板 ア12 ササ子40x45
- (E) 目板張り杉板 ア15 目板40x15
- (F) 鼠漆喰
- (G) 複層ポリカーボネート ア15
- (H) コンクリート打放し
- (I) 漆喰調塗装

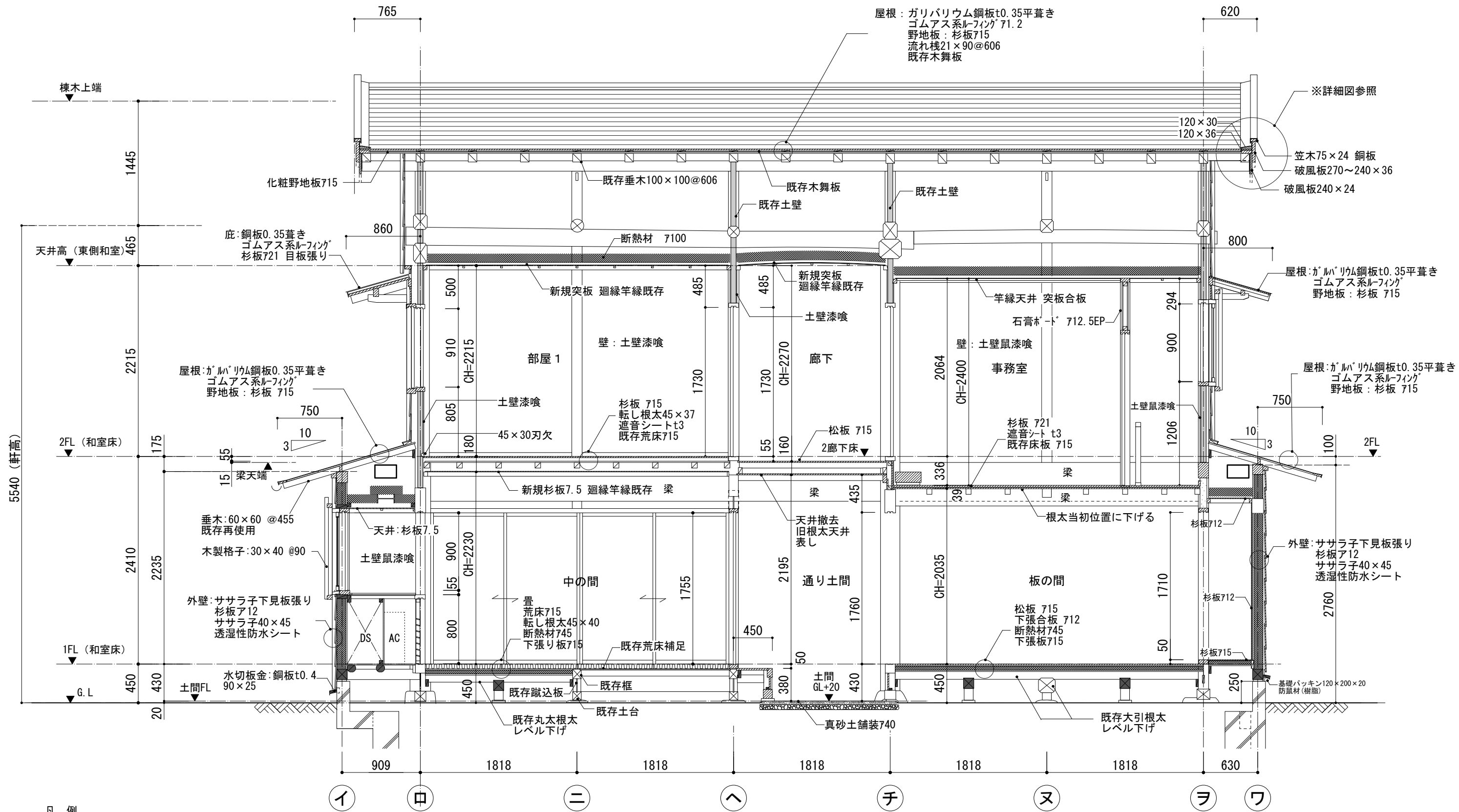
----- 軒樋、豎樋



梁間方向矩計詳細図 S=1:30

- :新設(取替)化粧材断面
- :新設構造、下地材断面
- :修理部材
- :土壁

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 梁間方向矩計詳細図	縮尺 S = 1:30 図面番号 A-23
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一		竣工年度 令和8年度	



屋根：ガリバリウム鋼板t0.35平葺き  
 ゴムアス系ルーフィング 71.2  
 野地板：杉板715  
 流れ桟21×90@606  
 既存木舞板

※詳細図参照

笠木75×24 銅板  
 破風板270~240×36  
 破風板240×24

屋根：ガリバリウム鋼板t0.35平葺き  
 ゴムアス系ルーフィング  
 野地板：杉板 715

屋根：ガリバリウム鋼板t0.35平葺き  
 ゴムアス系ルーフィング  
 野地板：杉板 715

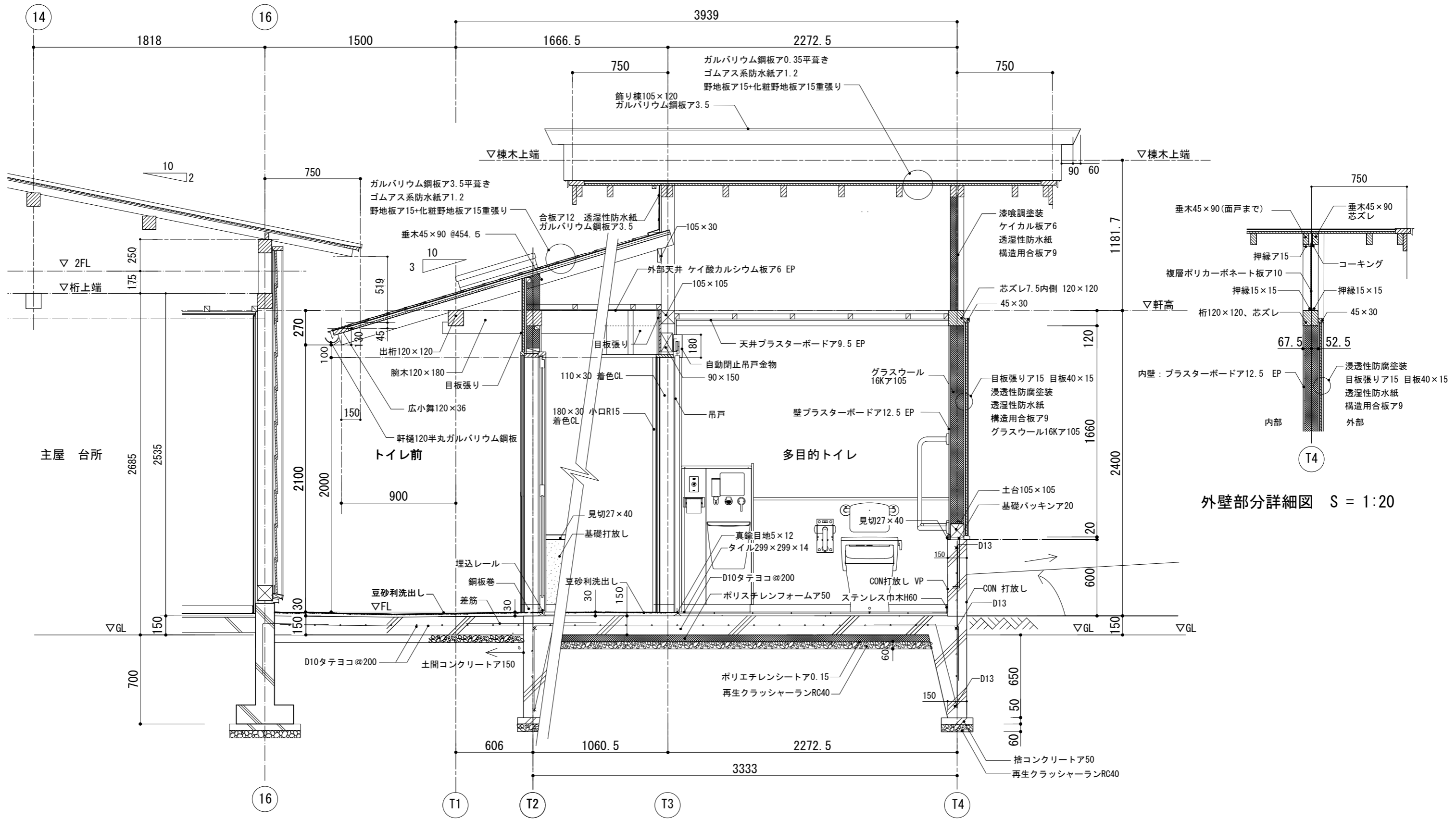
外壁：ササラ子下見板張り  
 杉板ア12  
 ササラ子40×45  
 透湿性防水シート

桁行方向矩計図 S=1:30

凡例

- :新設(取替)化粧材断面
- :新設構造、下地材断面
- :修理部材
- :土壁

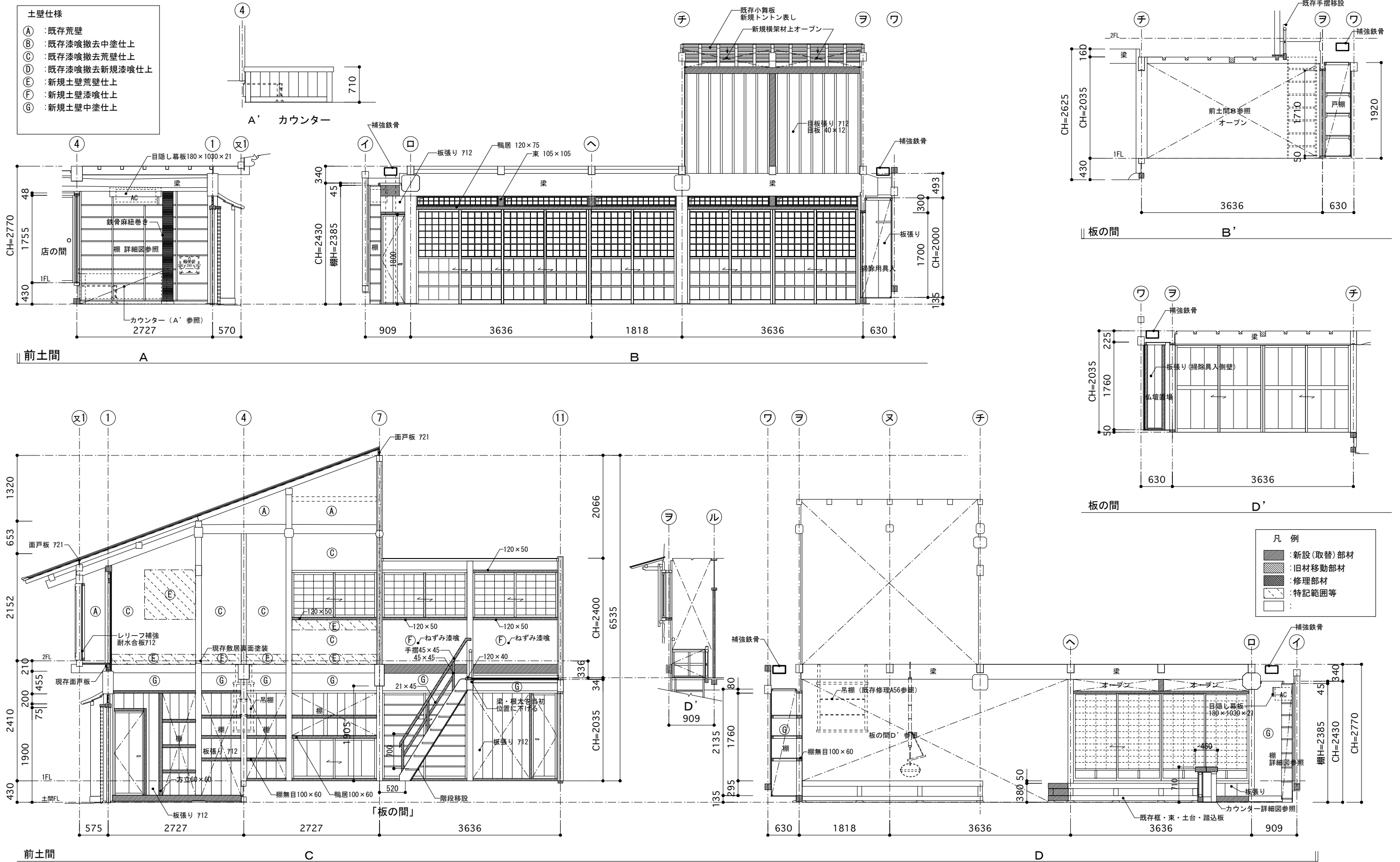
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 桁行方向矩計詳細図
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一		縮尺 S = 1:30



トイレ矩計詳細図 S = 1:20

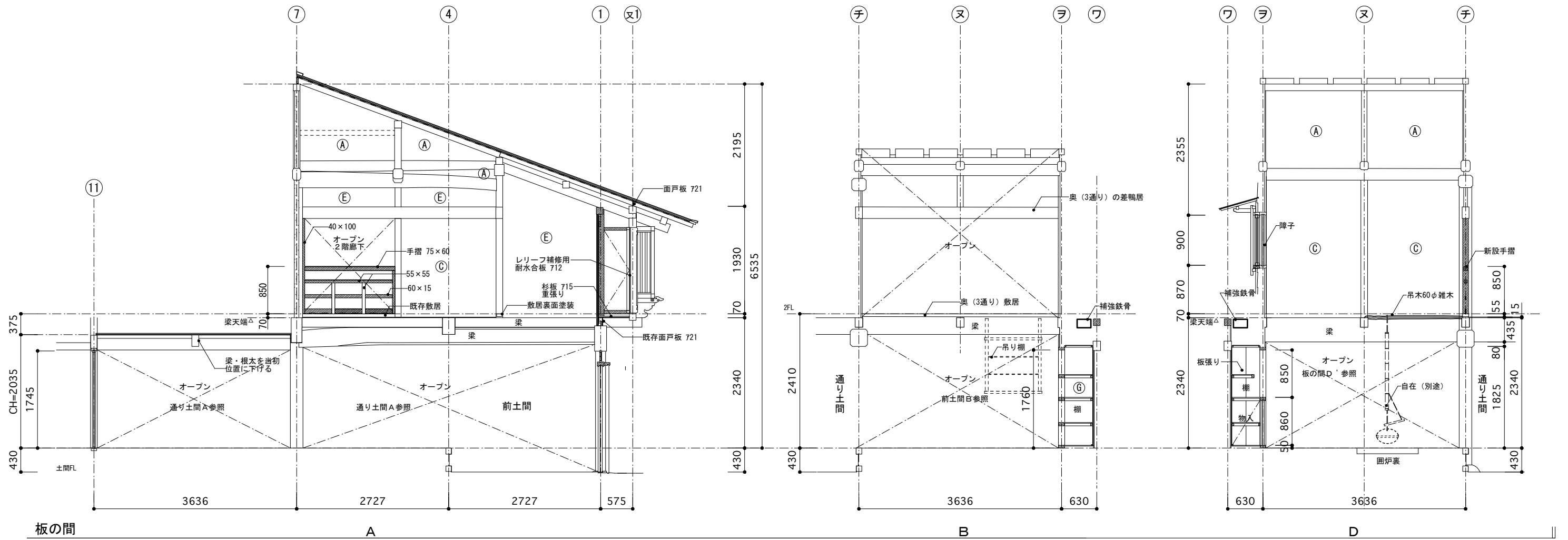
外壁部分詳細図 S = 1:20

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 トイレ矩計詳細図	縮尺 S = 1:20	図面番号 A-25
		管理技術者 市村康子				
		構造技術者 安達幸一				



展開図-1 S=1:50

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 1 (1階)	縮尺 S = 1:50	図面番号 <b>A-26</b>
		管理技術者 市村康子		図面番号		
		構造技術者 安達幸一		縮尺		

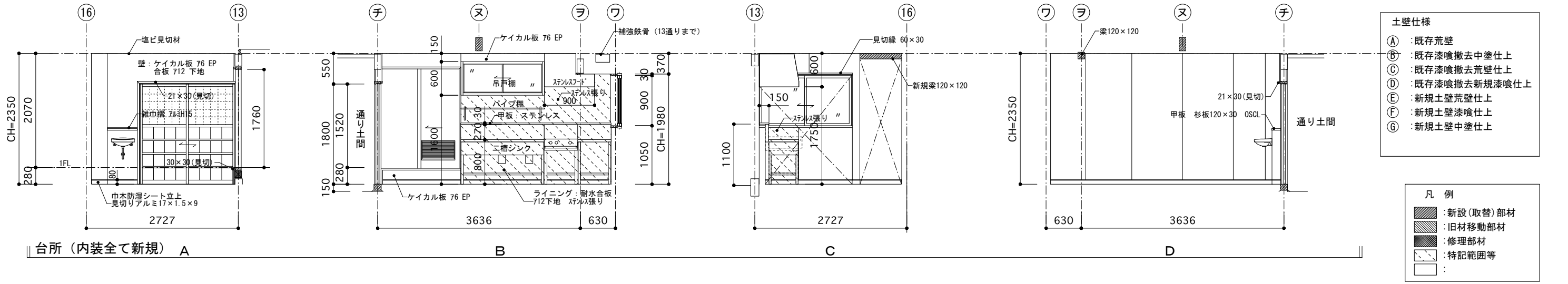


板の間

A

B

D



台所 (内装全て新規) A

B

C

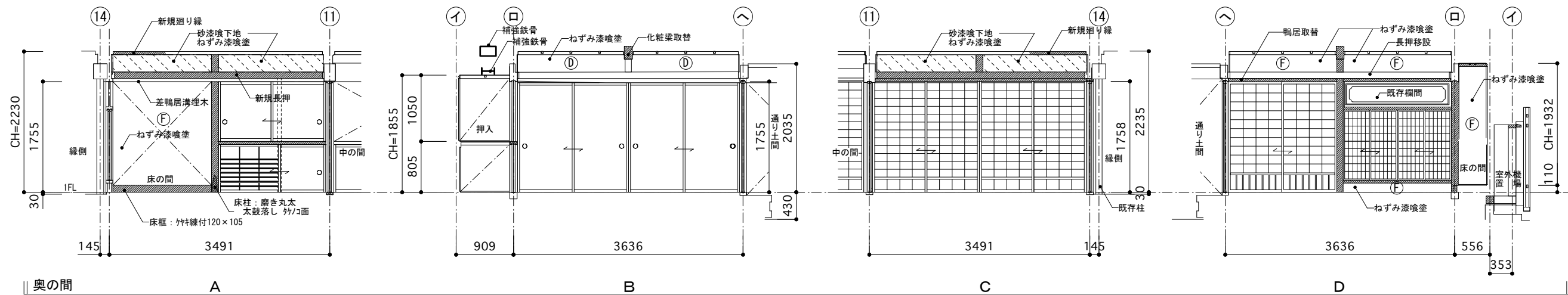
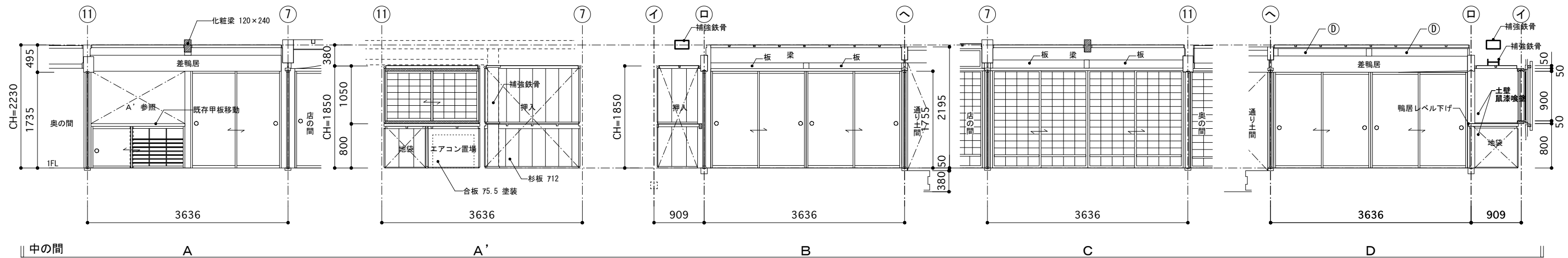
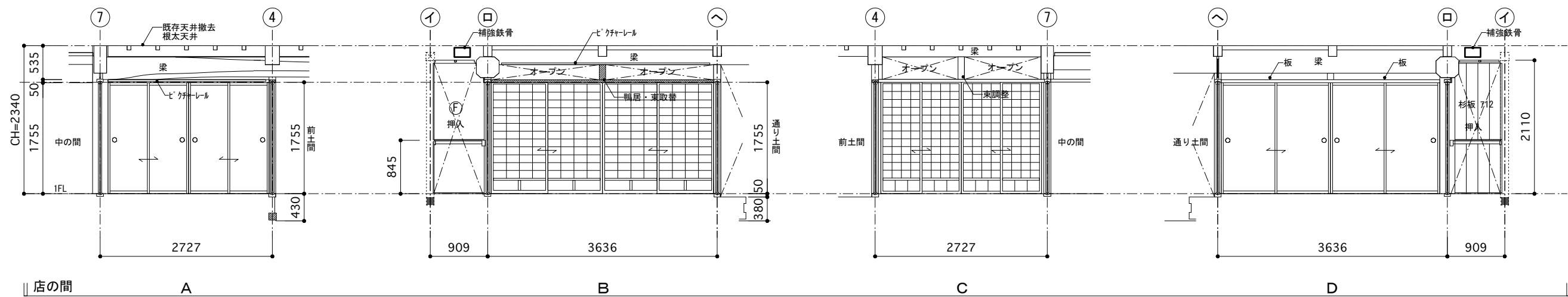
D

- 土壁仕様
- (A) : 既存荒壁
  - (B) : 既存漆喰撤去中塗仕上
  - (C) : 既存漆喰撤去荒壁仕上
  - (D) : 既存漆喰撤去新規漆喰仕上
  - (E) : 新規土壁荒壁仕上
  - (F) : 新規土壁漆喰仕上
  - (G) : 新規土壁中塗仕上

- 凡例
- (New pattern) : 新設(取替)部材
  - (Hatched pattern) : 旧材移動部材
  - (Dotted pattern) : 修理部材
  - (Dashed line) : 特記範囲等

展開図-2 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 2 (1階) 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-27
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一			

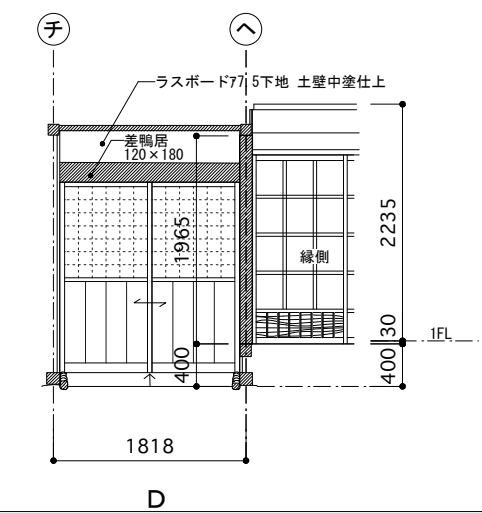
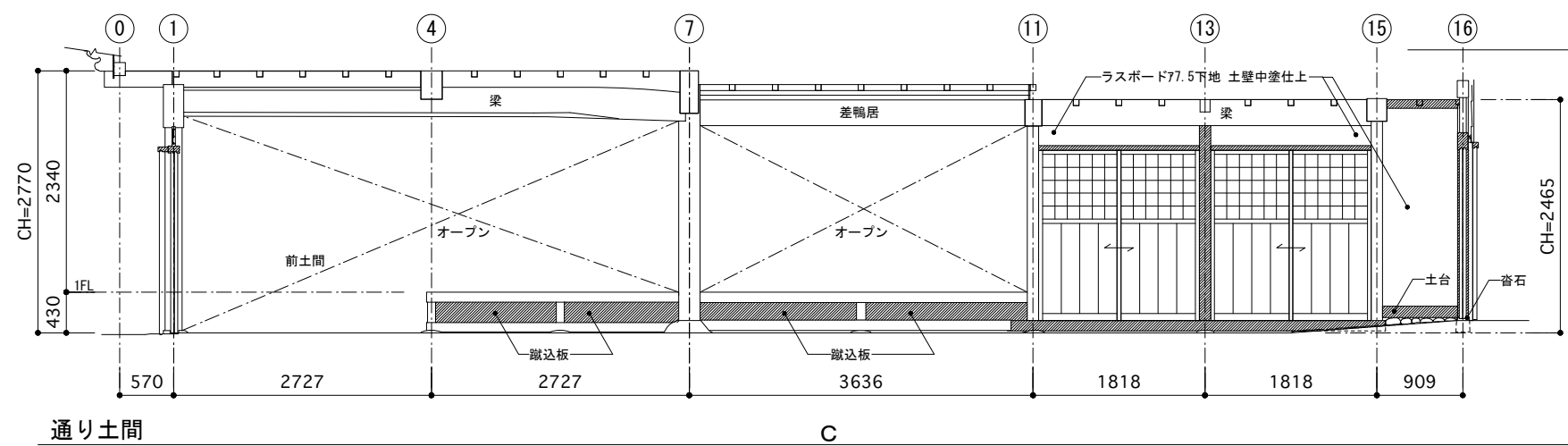
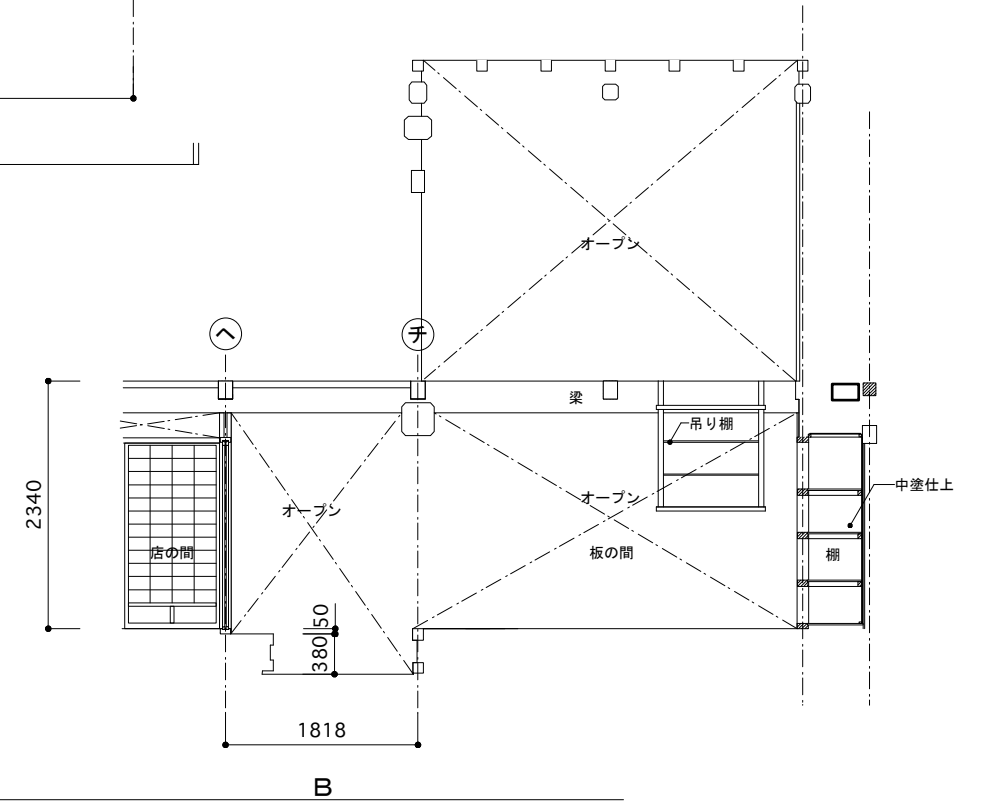
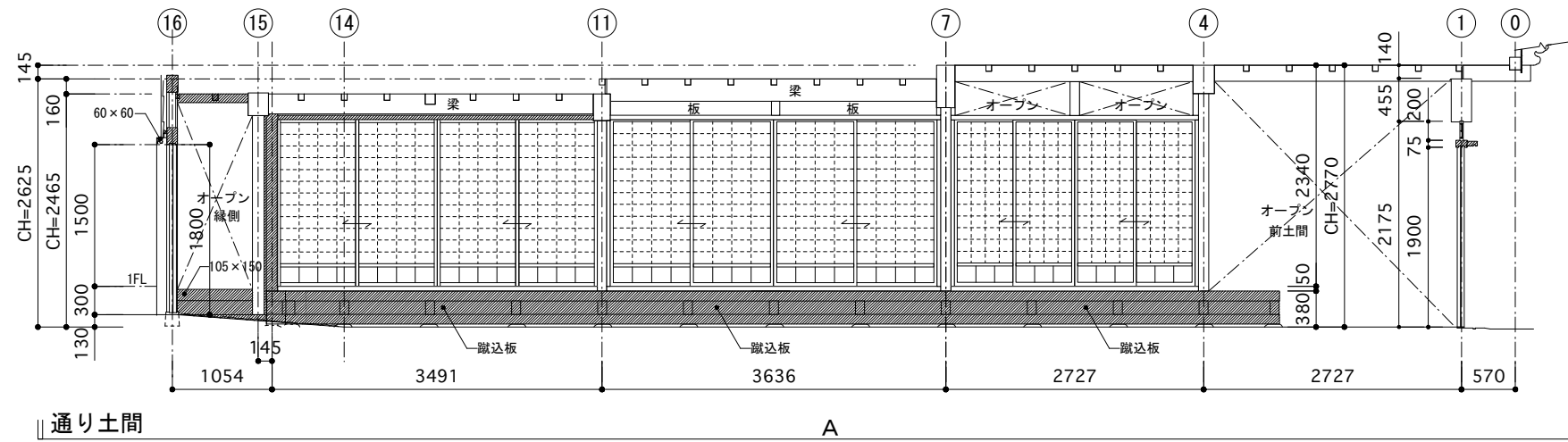
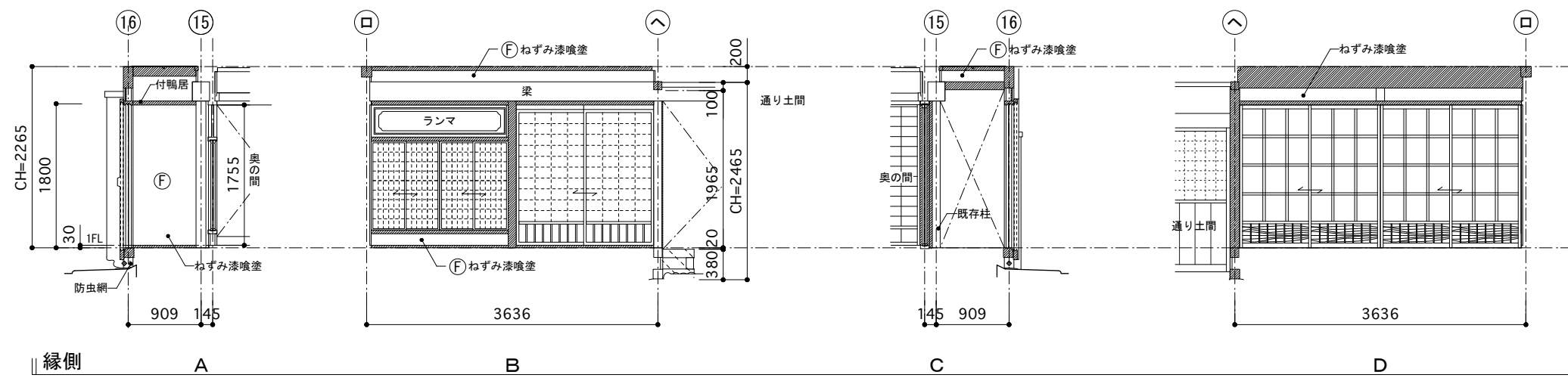


- 土壁仕様
- (A) : 既存荒壁
  - (B) : 既存漆喰撤去中塗仕上
  - (C) : 既存漆喰撤去荒壁仕上
  - (D) : 既存漆喰撤去新規漆喰仕上
  - (E) : 新規土壁荒壁仕上
  - (F) : 新規土壁漆喰仕上
  - (G) : 新規土壁中塗仕上

- 凡例
- : 新設(取替)部材
  - ▨ : 旧材移動部材
  - ▩ : 修理部材
  - ⊃ : 特記範囲等

展開図-3 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 3 (1階) 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-28
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一			

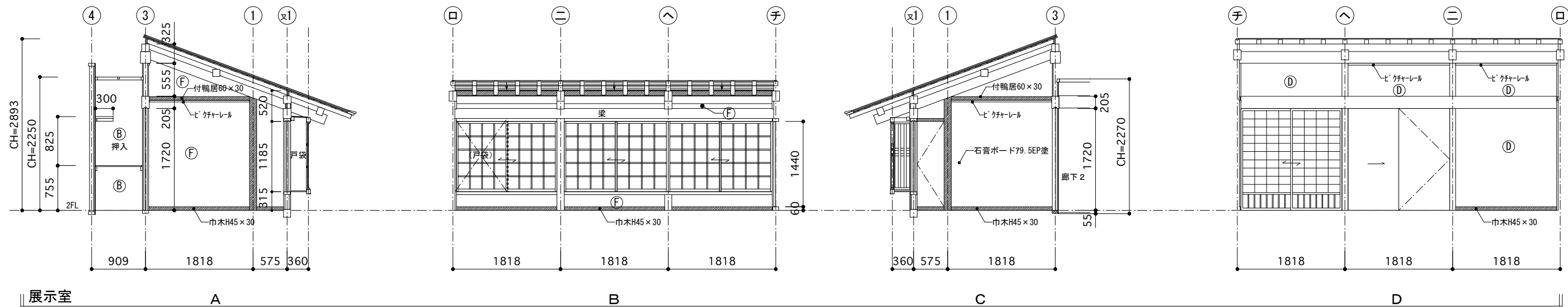


- 土壁仕様
- Ⓐ : 既存荒壁
  - Ⓑ : 既存漆喰撤去中塗仕上
  - Ⓒ : 既存漆喰撤去荒壁仕上
  - Ⓓ : 既存漆喰撤去新規漆喰仕上
  - Ⓔ : 新規土壁荒壁仕上
  - Ⓕ : 新規土壁漆喰仕上
  - Ⓖ : 新規土壁中塗仕上

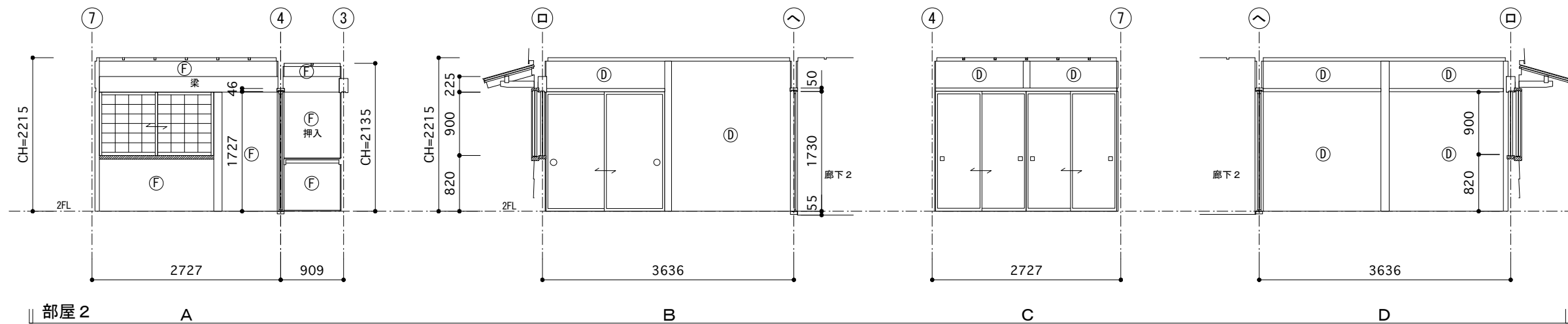
- 凡例
- : 新設(取替)部材
  - ▨ : 旧材移動部材
  - ▩ : 修理部材
  - : 特記範囲等
  - :

展開図-4 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 4 (1階)	縮尺 S = 1:50	図面番号 A-29
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一				



展示室 A B C D



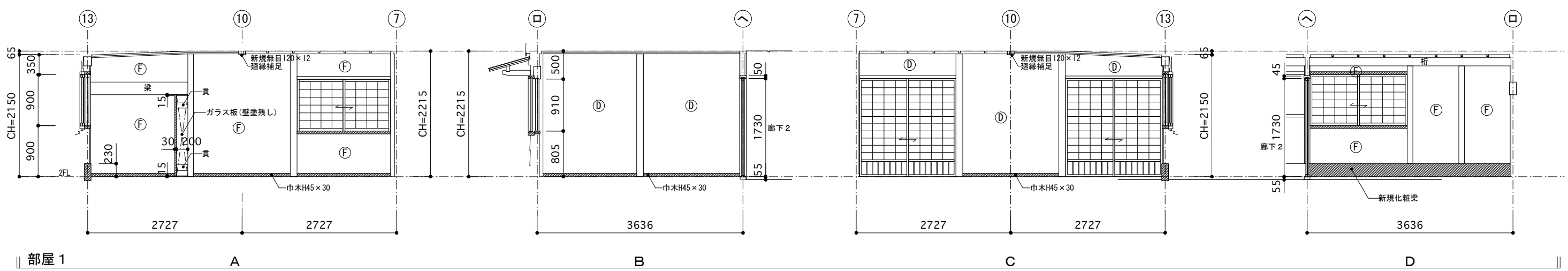
部屋2 A B C D

凡例

	新設(取替)部材
	旧材移動部材
	修理部材
	特記範囲等

土壁仕様

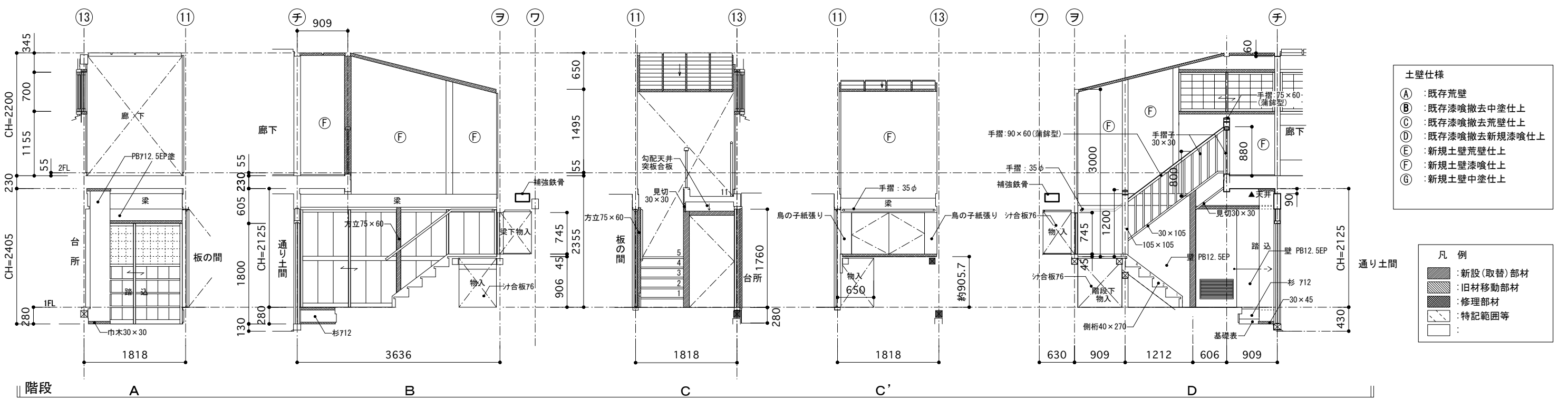
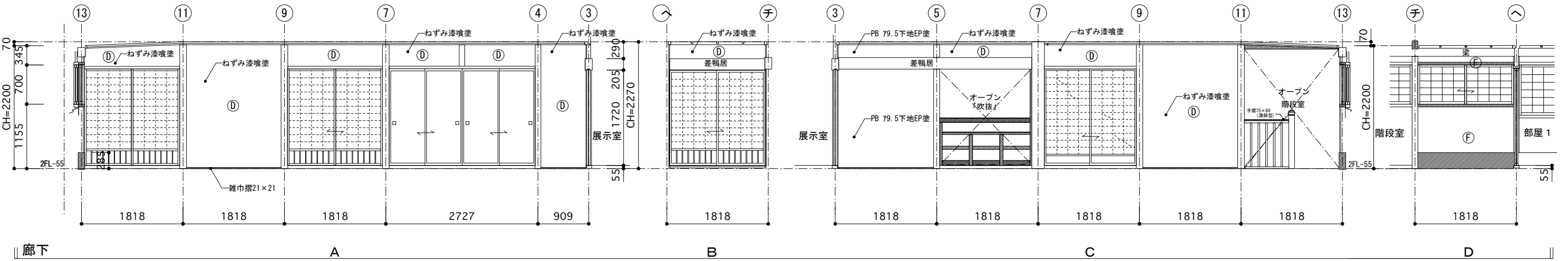
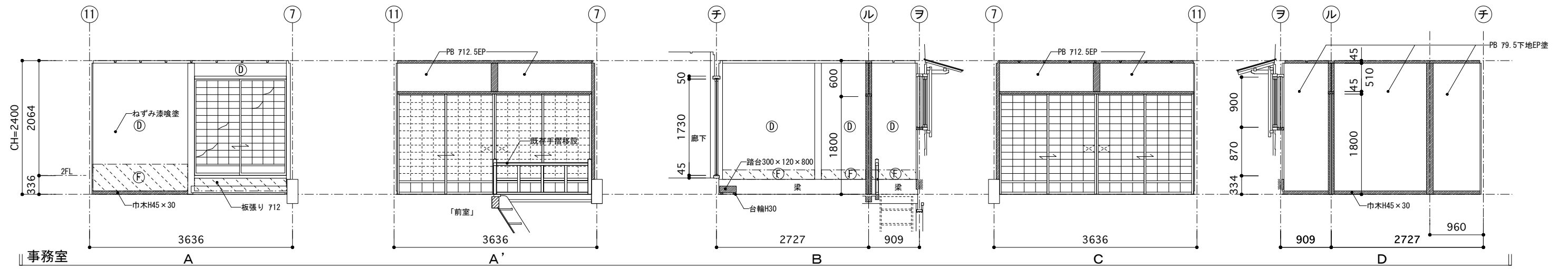
A	: 既存荒壁
B	: 既存漆喰撤去中塗仕上
C	: 既存漆喰撤去荒壁仕上
D	: 既存漆喰撤去新規漆喰仕上
E	: 新規土壁荒壁仕上
F	: 新規土壁漆喰仕上
G	: 新規土壁中塗仕上



部屋1 A B C D

展開図-5 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 5 (2階) 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-30
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一			

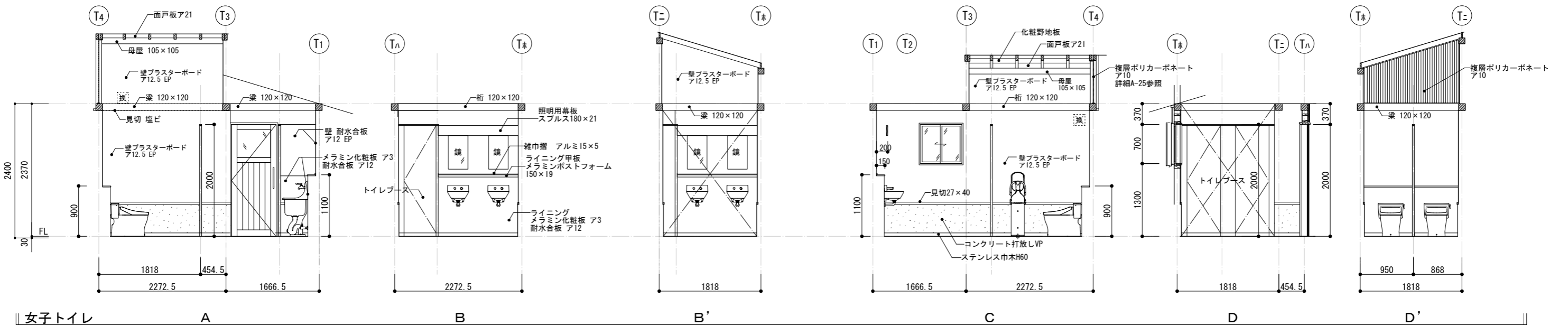
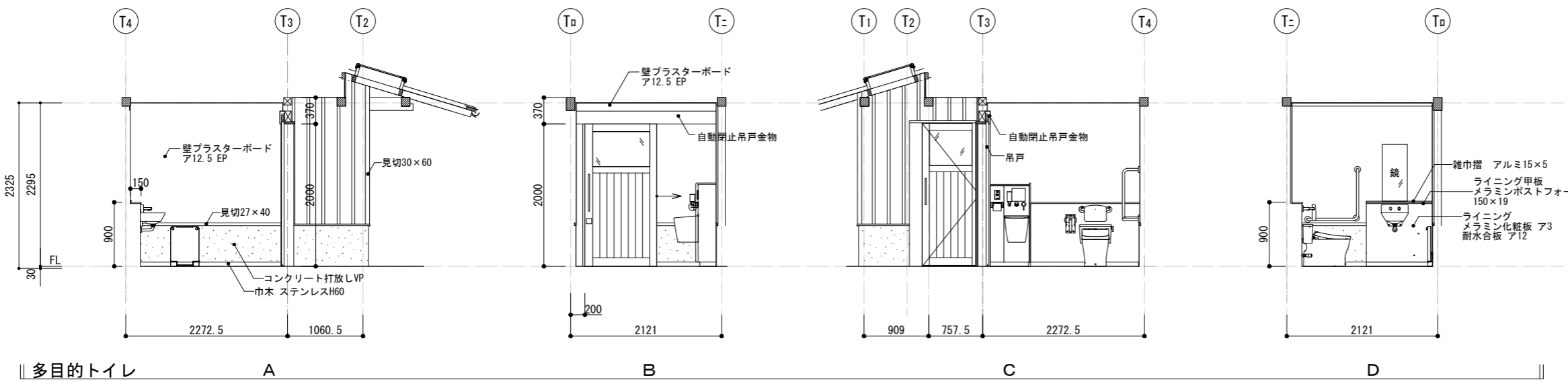
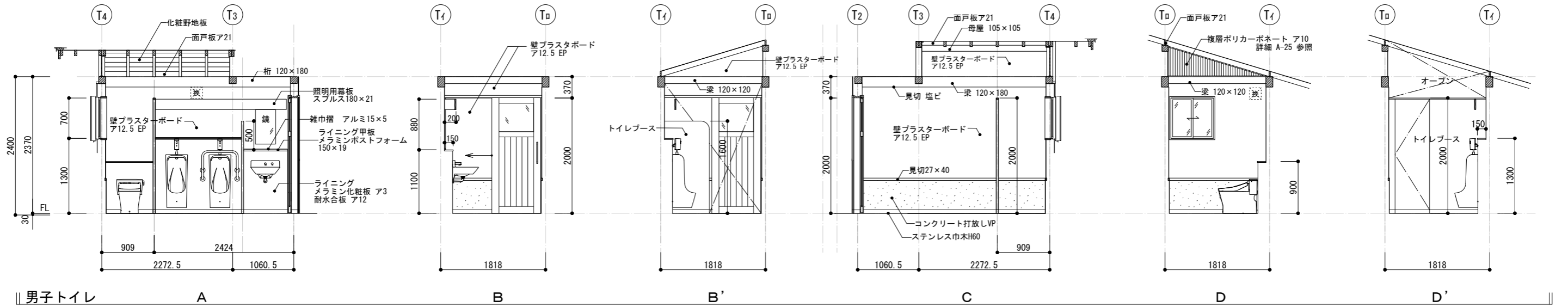


- 土壁仕様
- (A) : 既存荒壁
  - (B) : 既存漆喰撤去中塗仕上
  - (C) : 既存漆喰撤去荒壁仕上
  - (D) : 既存漆喰撤去新規漆喰仕上
  - (E) : 新規土壁荒壁仕上
  - (F) : 新規土壁漆喰仕上
  - (G) : 新規土壁中塗仕上

- 凡例
- : 新設(取替)部材
  - ▨ : 旧材移動部材
  - ▩ : 修理部材
  - ▧ : 特記範囲等

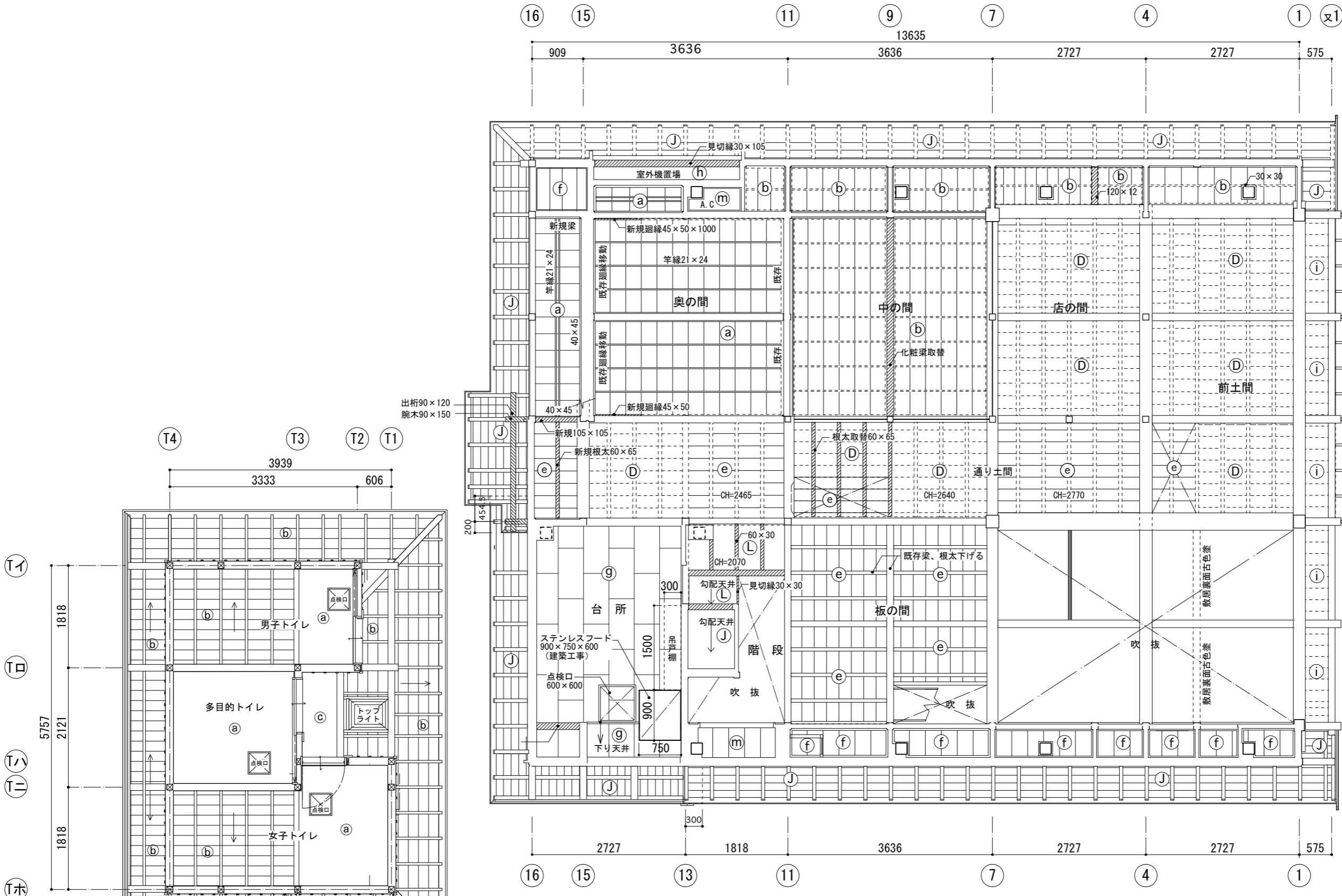
展開図-6 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 6 (2階) 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-31



展開図-7 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 展開図 - 7 (トイレ) 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-32
		管理技術者 市村康子			
		構造技術者 安達幸一			



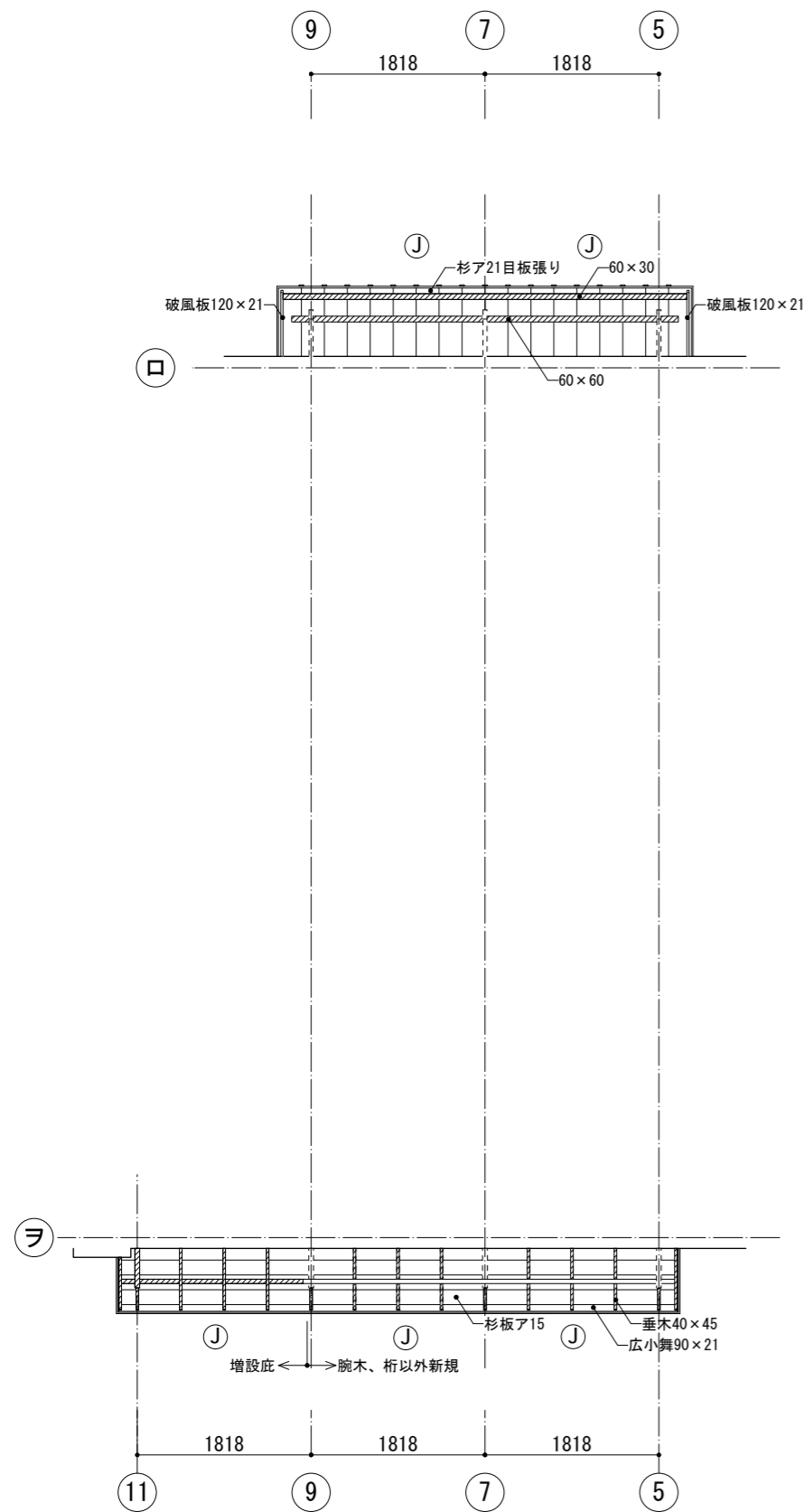
1階天井伏図 S=1:50

トイレ天井伏図 S = 1:50

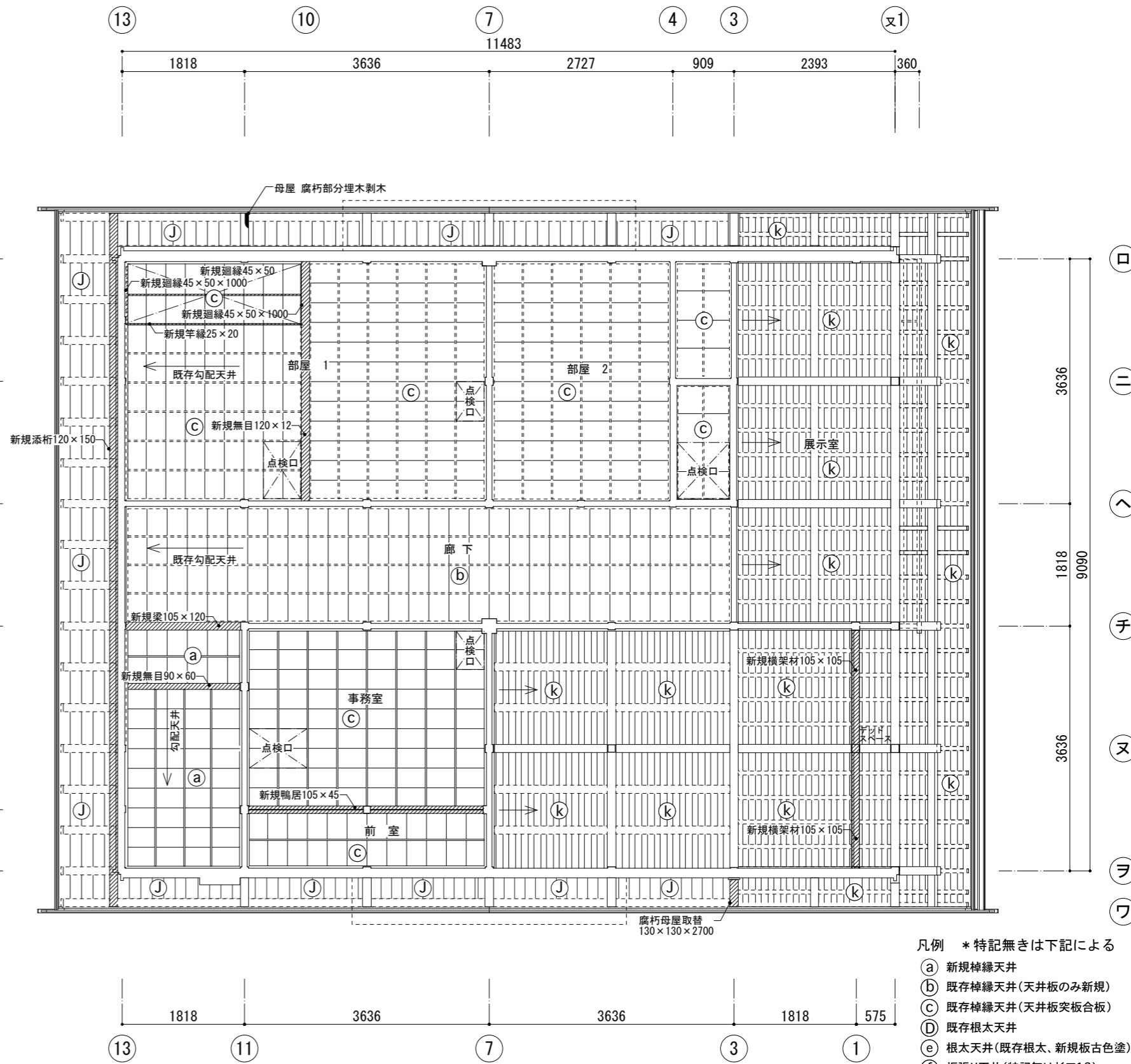
- 凡例 \*特記無きは下記による
- (a) 新規掉縁天井
  - (b) 既存掉縁天井(天井板のみ新規)
  - (c) 既存掉縁天井(天井板突板合板)
  - (D) 既存根太天井
  - (e) 根太天井(既存根太、新規板古色塗)
  - (f) 板張り天井(特記無は杉A12)
  - (g) 準不燃化粧石膏ボード9×445×910
  - (h) ケイカル板A6 EP
  - (i) 床板表し
  - (j) 化粧野地板表し
  - (k) 小舞、柿板表し
  - (L) 突板合板A6
  - (m) ラワン合板A5.5

- 凡例
- (a): プラスターボードA9.5 E.P
  - (b): 杉縁甲板A15
  - (c): ケイ酸カルシウム板A6 E.P

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 1階天井伏図 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-33	



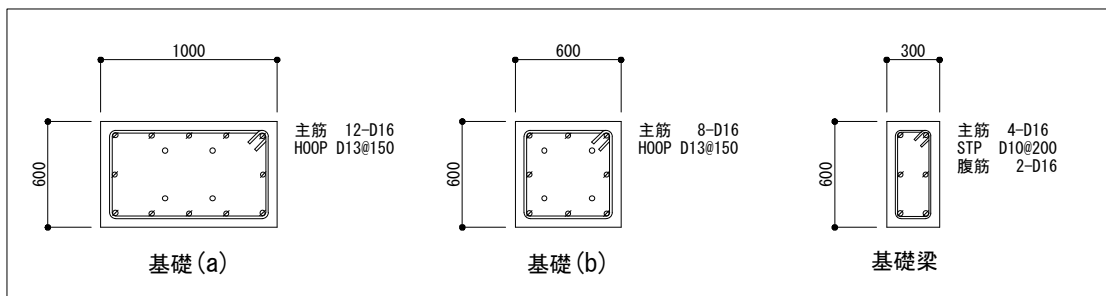
底見上げ図 S=1:50



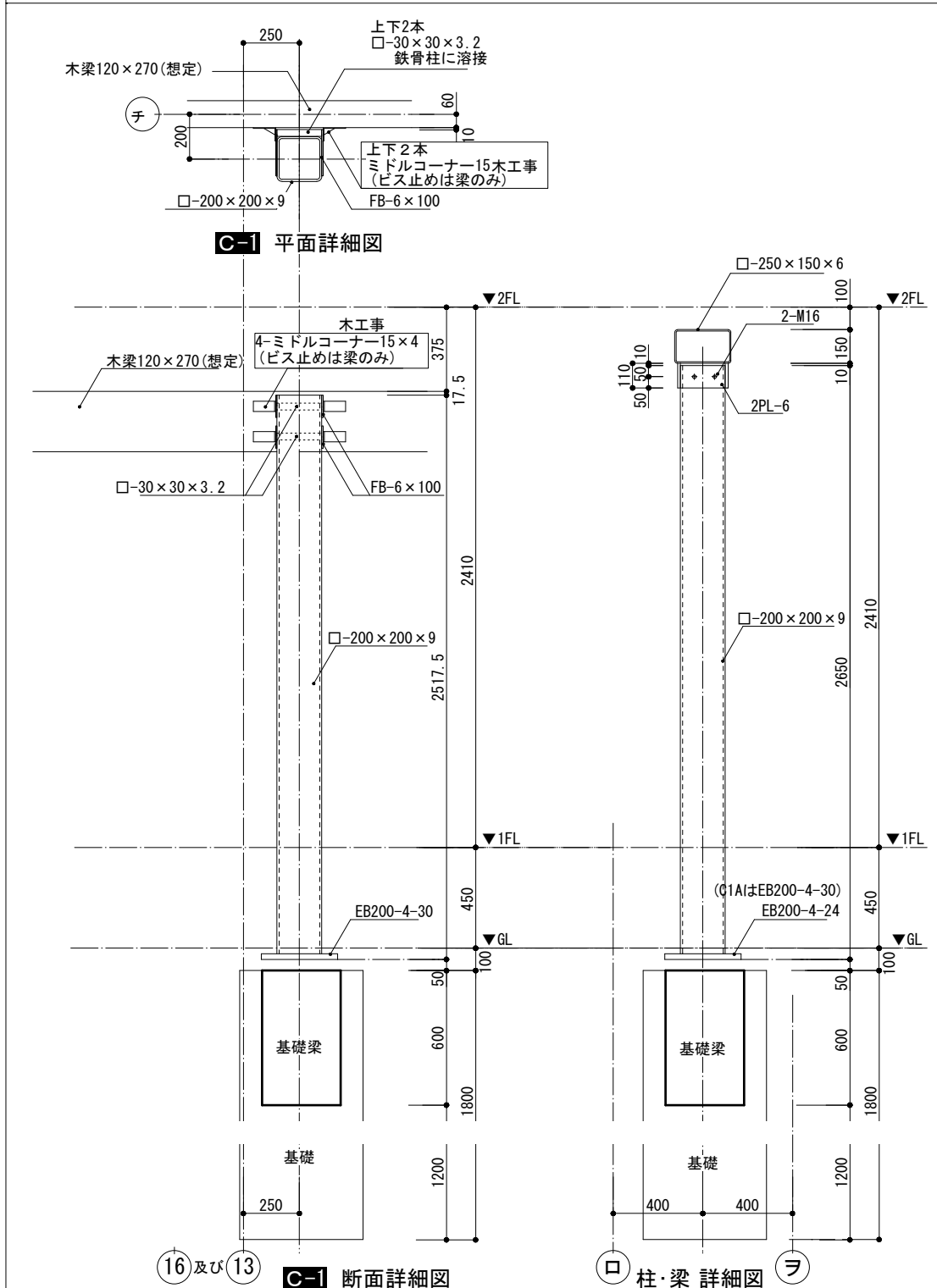
2階天井伏図 S=1:50

点検口：棹縁天井の点検口は天井板を固定せず、ズラして開口とする

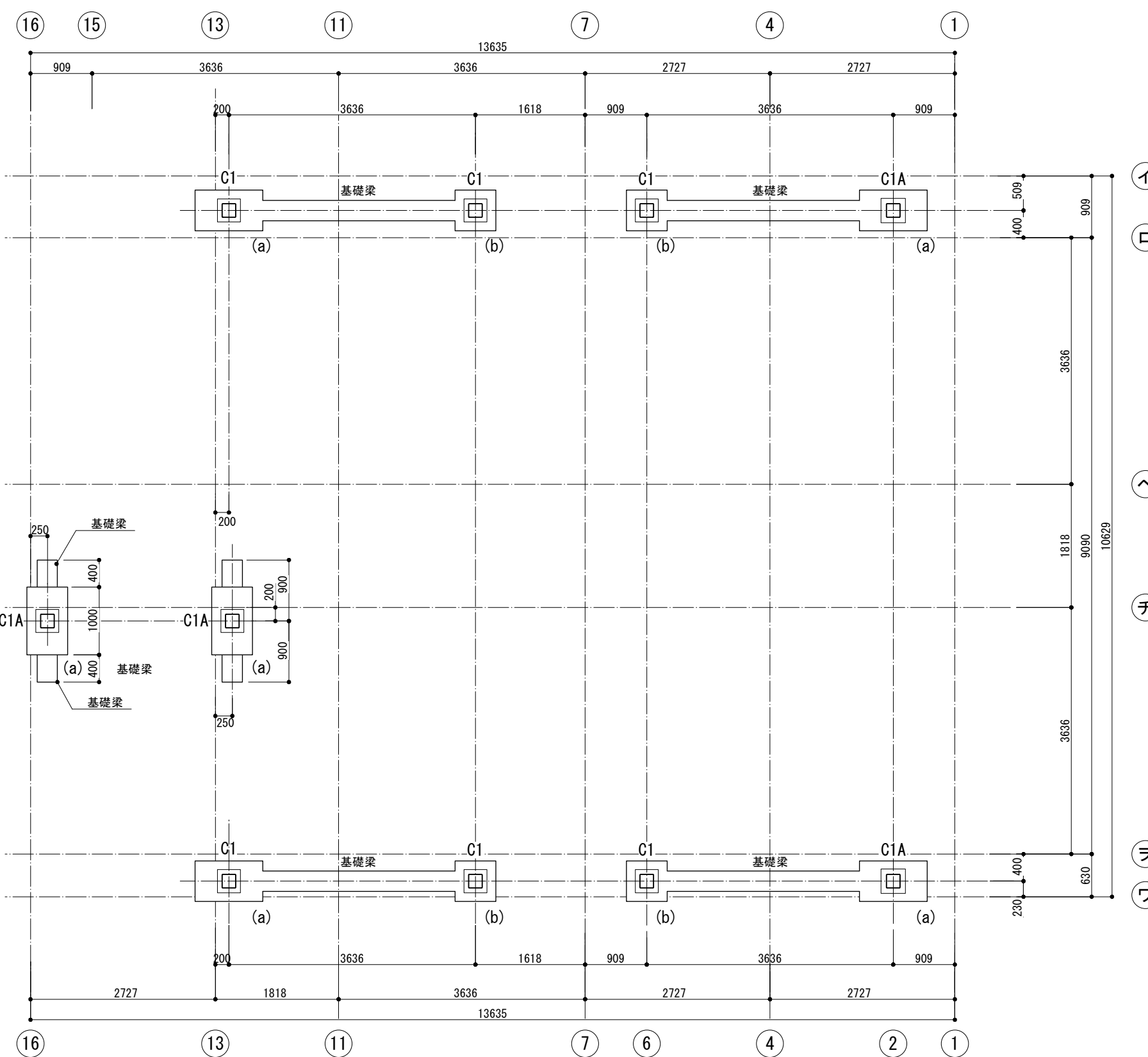
- 凡例 \*特記無きは下記による
- (a) 新規棹縁天井
  - (b) 既存棹縁天井(天井板のみ新規)
  - (c) 既存棹縁天井(天井板突板合板)
  - (d) 既存根太天井
  - (e) 根太天井(既存根太、新規板古色塗)
  - (f) 板張り天井(特記無は杉ア12)
  - (g) 準不燃化粧石膏ボード9×445×910
  - (h) ケイカル板ア6 EP
  - (i) 床板表し
  - (j) 化粧野地板表し
  - (k) 小舞、柿板表し
  - (l) 突板合板ア6
  - (m) ラワン合板ア5.5



鉄骨基礎配筋図 S=1:30



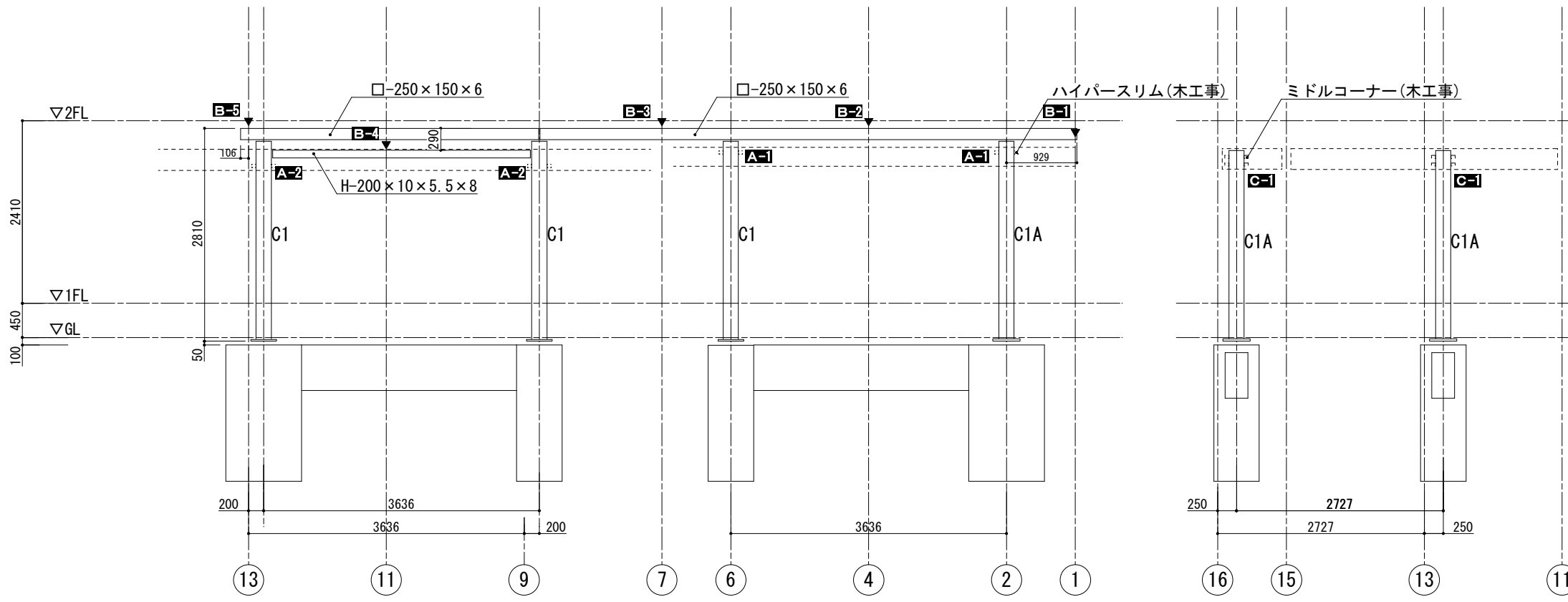
鉄骨柱詳細図 S=1:20



鉄骨基礎伏図 S=1:50

柱符号	鉄骨断面	柱脚
C1	□-200×200×9	EB200-4-24
C1A	□-200×200×9	EB200-4-30

鉄骨柱リスト ※柱脚により柱符号が異なる

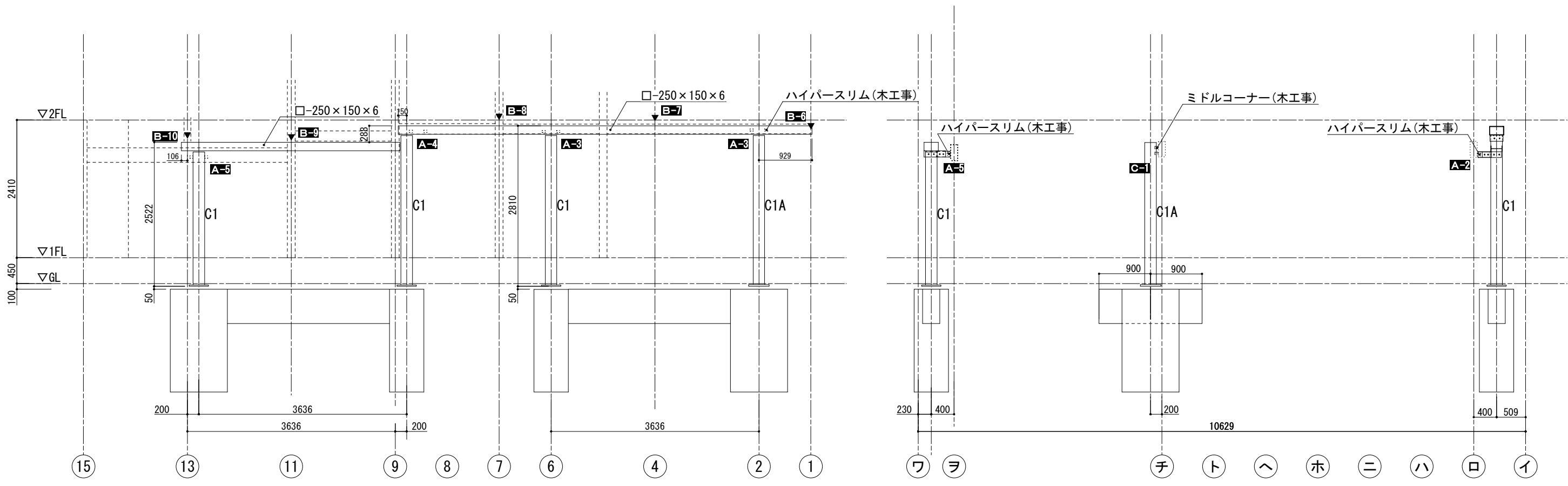


口通り横補強

チ通り横補強

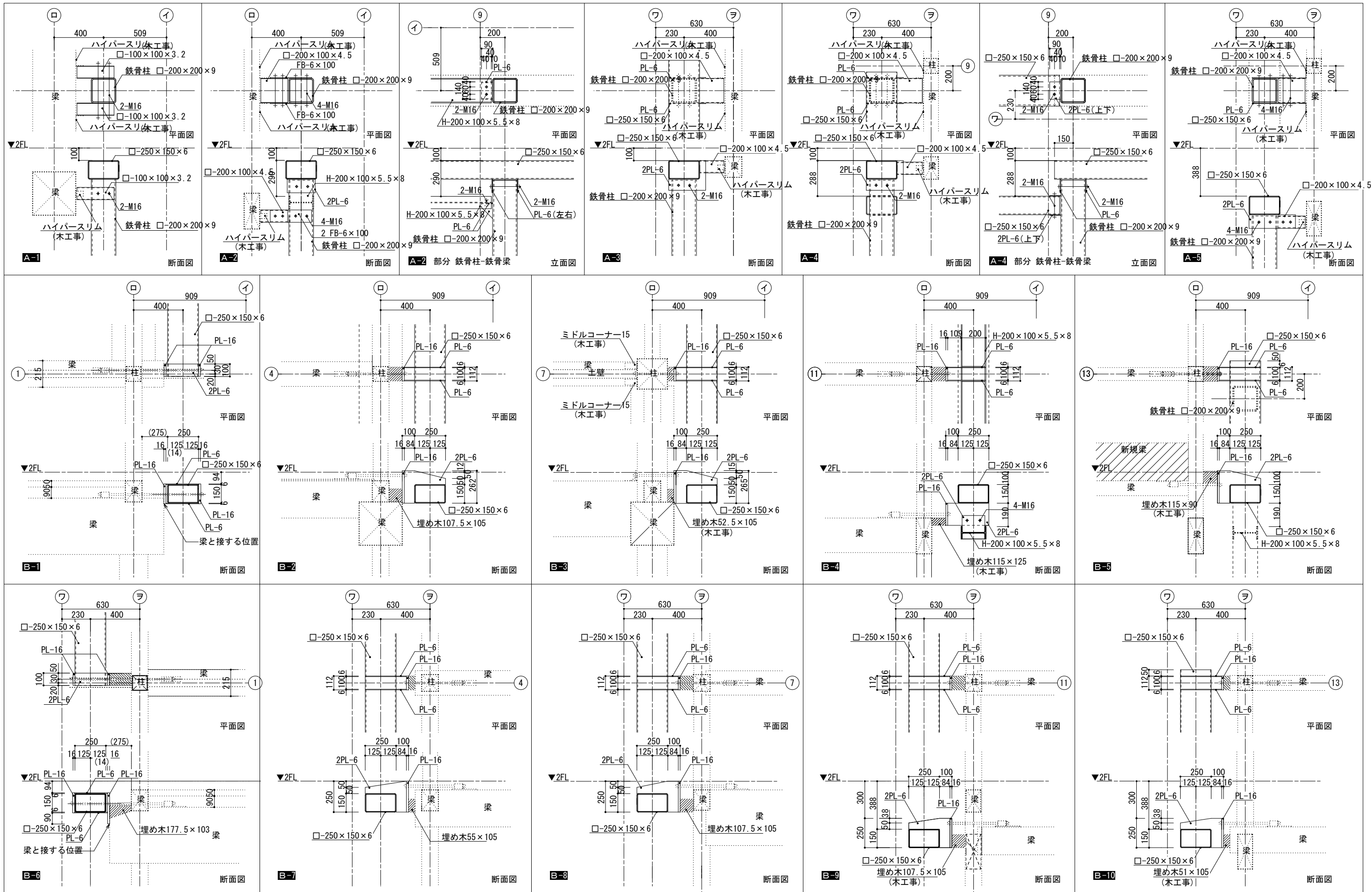
柱符号	鉄骨断面	柱脚
C1	□-200×200×9	EB200-4-24
C1A	□-200×200×9	EB200-4-30

鉄骨柱リスト ※柱脚により柱符号が異なる

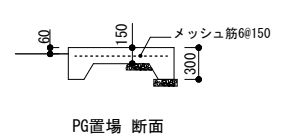
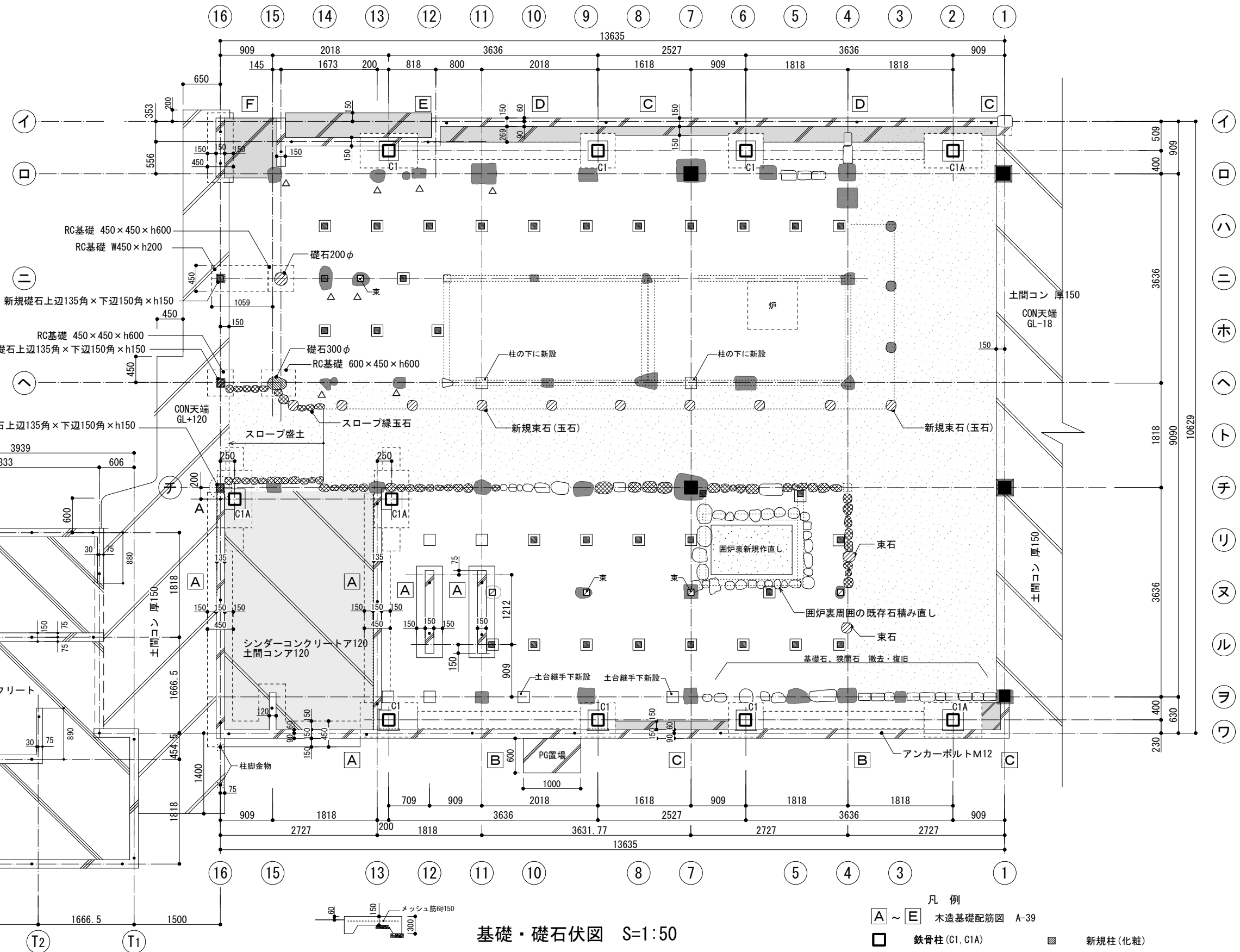
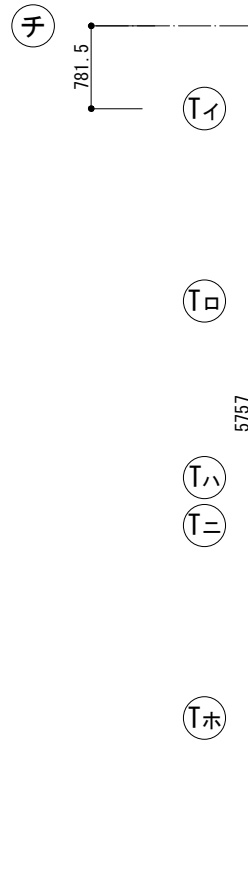
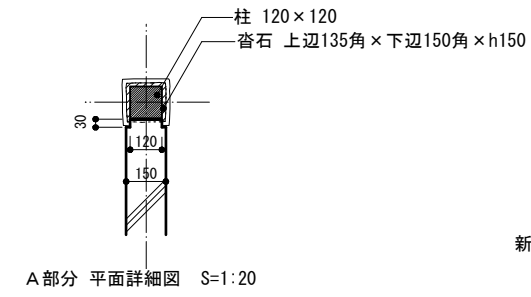
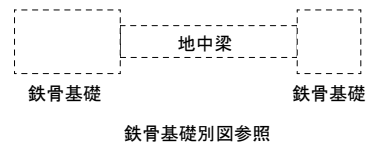


ヲ通り横補強

13通り横の位置関係



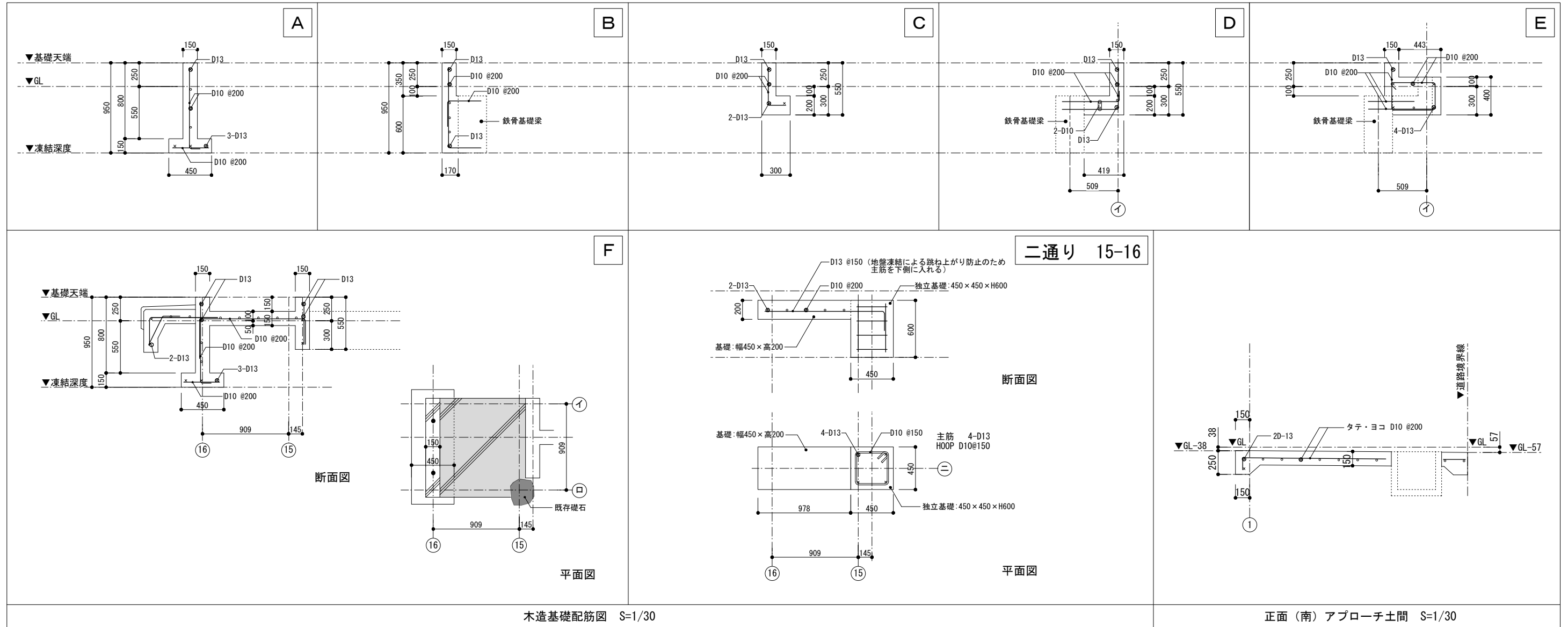
※梁の横に留めるハイバースリムとミドルコーナーは、梁だけにビス留めする



基礎・礎石伏図 S=1:50

- 凡例
- A ~ E 木造基礎配筋図 A-39
  - 鉄骨柱 (C1, C1A)
  - 既存柱
  - 既存床束
  - 既存礎石、束石
  - 既存狭間石 (玉石)
  - 玉石据直し45 ~70上げる
  - 新規柱 (化粧)
  - 新規柱 (野物)
  - 新規床束
  - 新規礎石、束石 (玉石)
  - 新規束石 (コンクリート製200x200x180)
  - 新規狭間石 (玉石)


●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 基礎・礎石伏図 縮尺 S = 1:50 図面番号 A-38

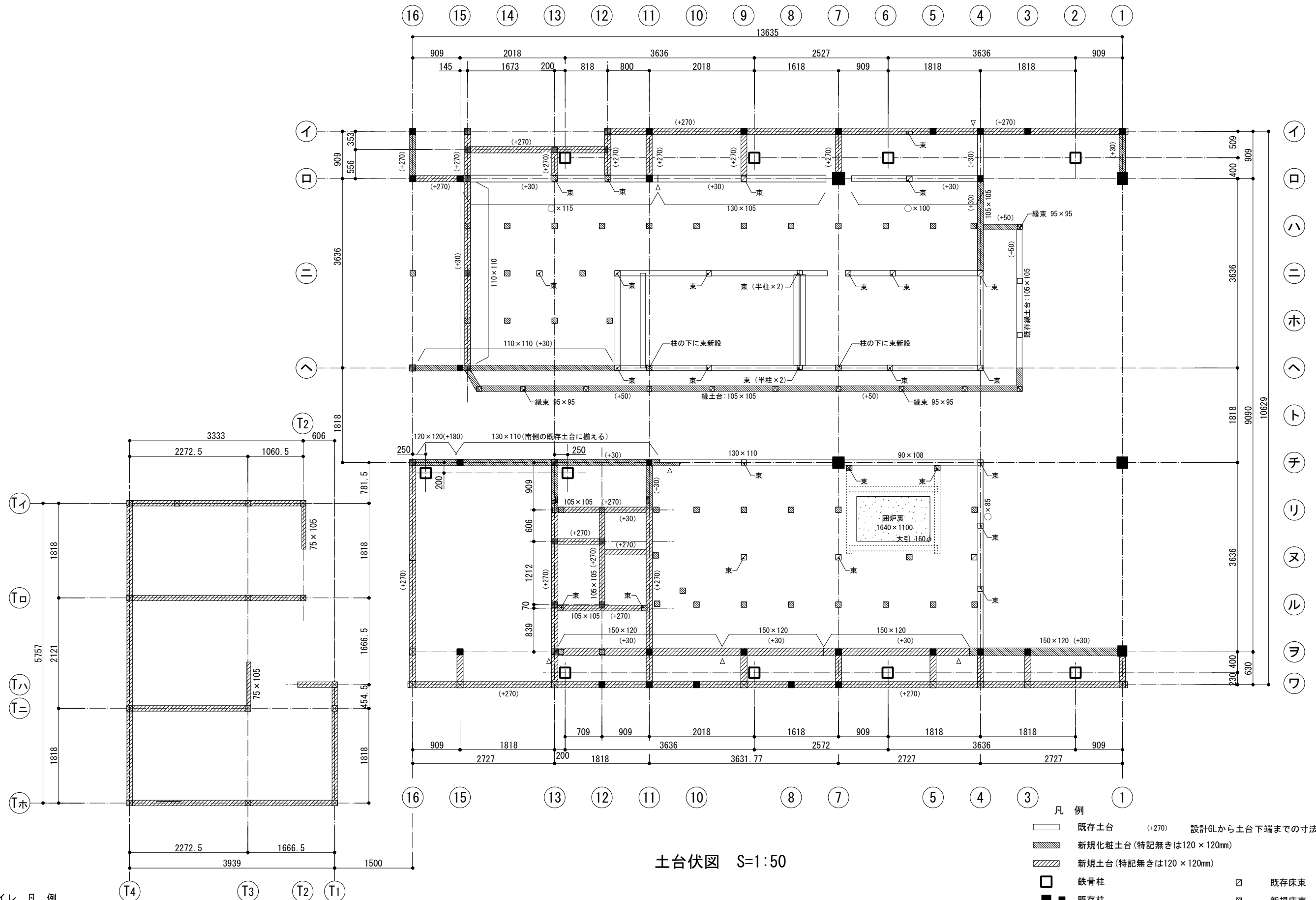


木造基礎配筋図 S=1/30

正面(南)アプローチ土間 S=1/30

※トイレ・物置は、矩計詳細図参照

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 <b>軽井沢町</b>	<b>総括技術者</b> 大平茂男	<b>工事名</b> 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 <b>場所</b> 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	<b>図名</b> 木造基礎配筋図	<b>縮尺</b> S = 1:30	<b>図面番号</b> A-39
		<b>管理技術者</b> 市村康子 <b>構造技術者</b> 安達幸一				



土台伏図 S=1:50

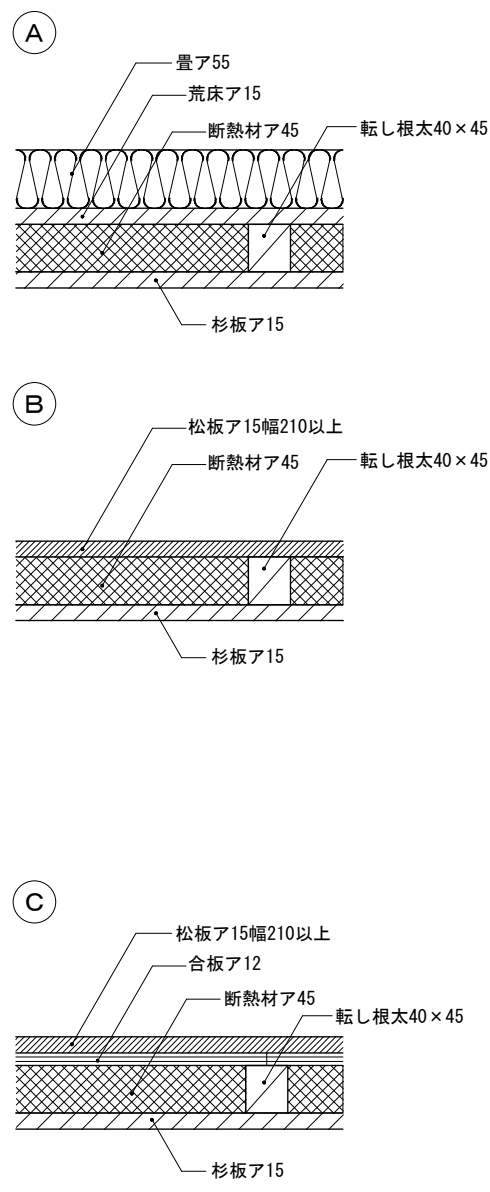
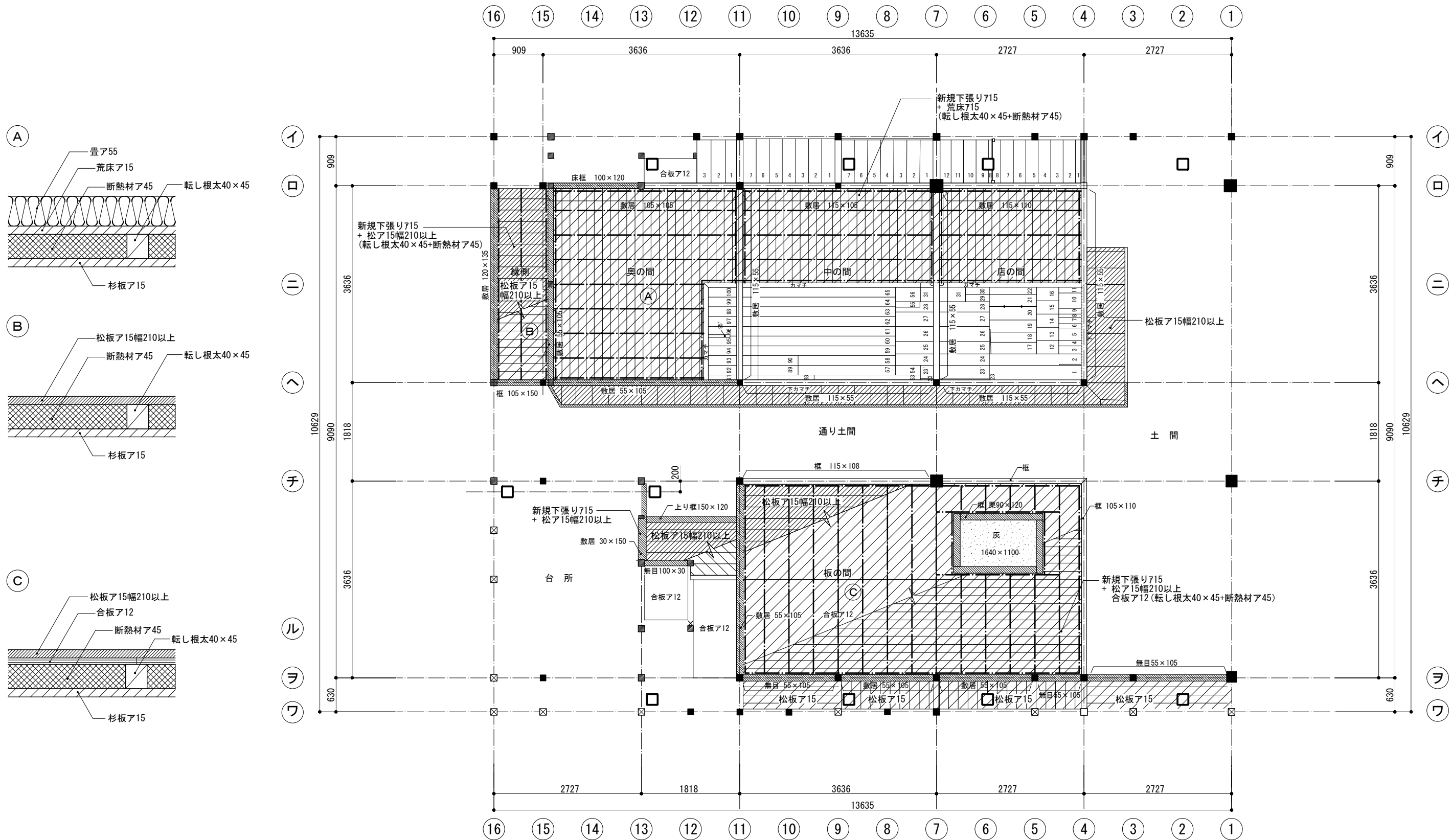
- 凡例
- 既存土台 (+270) 設計GLから土台下端までの寸法
  - ▨ 新規化粧土台 (特記無きは120×120mm)
  - ▧ 新規土台 (特記無きは120×120mm)
  - 鉄骨柱
  - 既存柱
  - 新規柱 (化粧)
  - ▨ 新規柱 (野物)
  - △ 継手
  - ▨ 既存床束
  - ▨ 新規床束
  - ▨ 新規縁束

トイレ 凡例

- ▨ 新規土台 (特記無きは105×105mm) 検特一等
- ▨ 新規柱 (野物) (105×105) 検特一等

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 土台伏図	縮尺 S = 1:50	図面番号 A-40
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一				

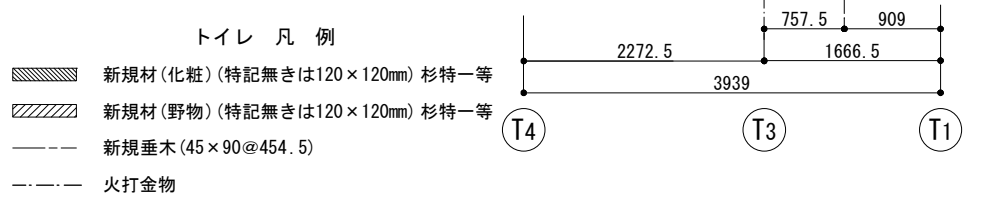
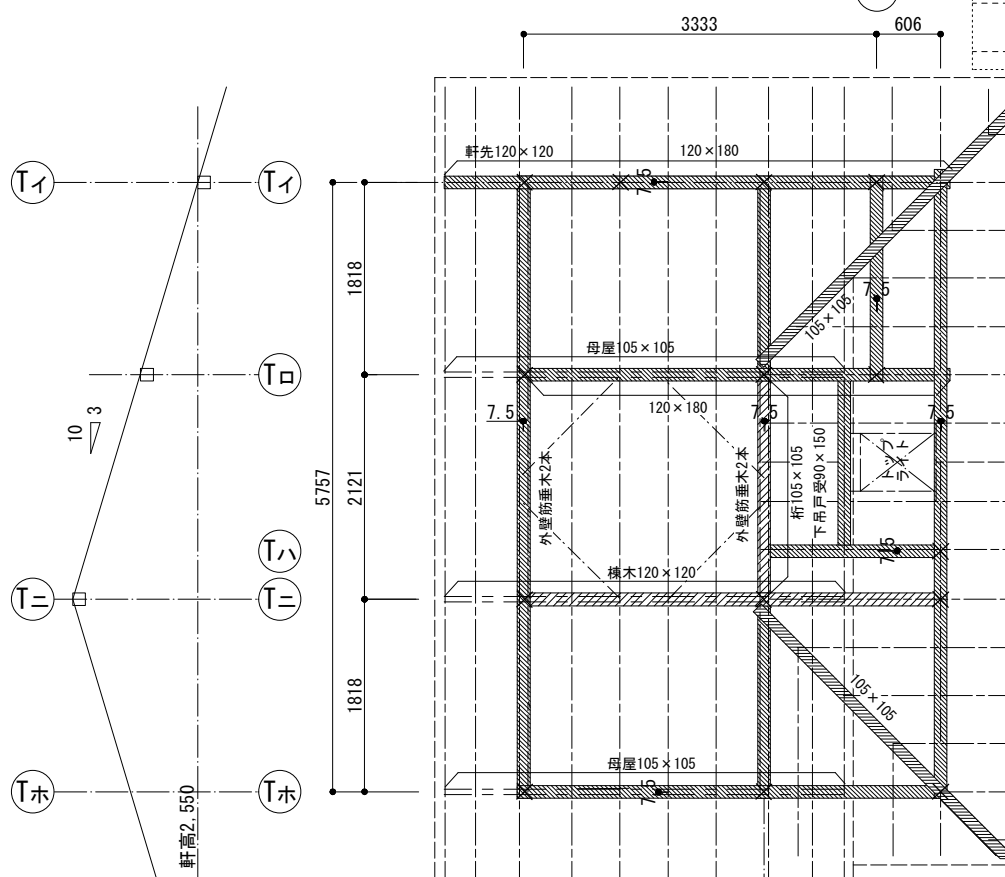
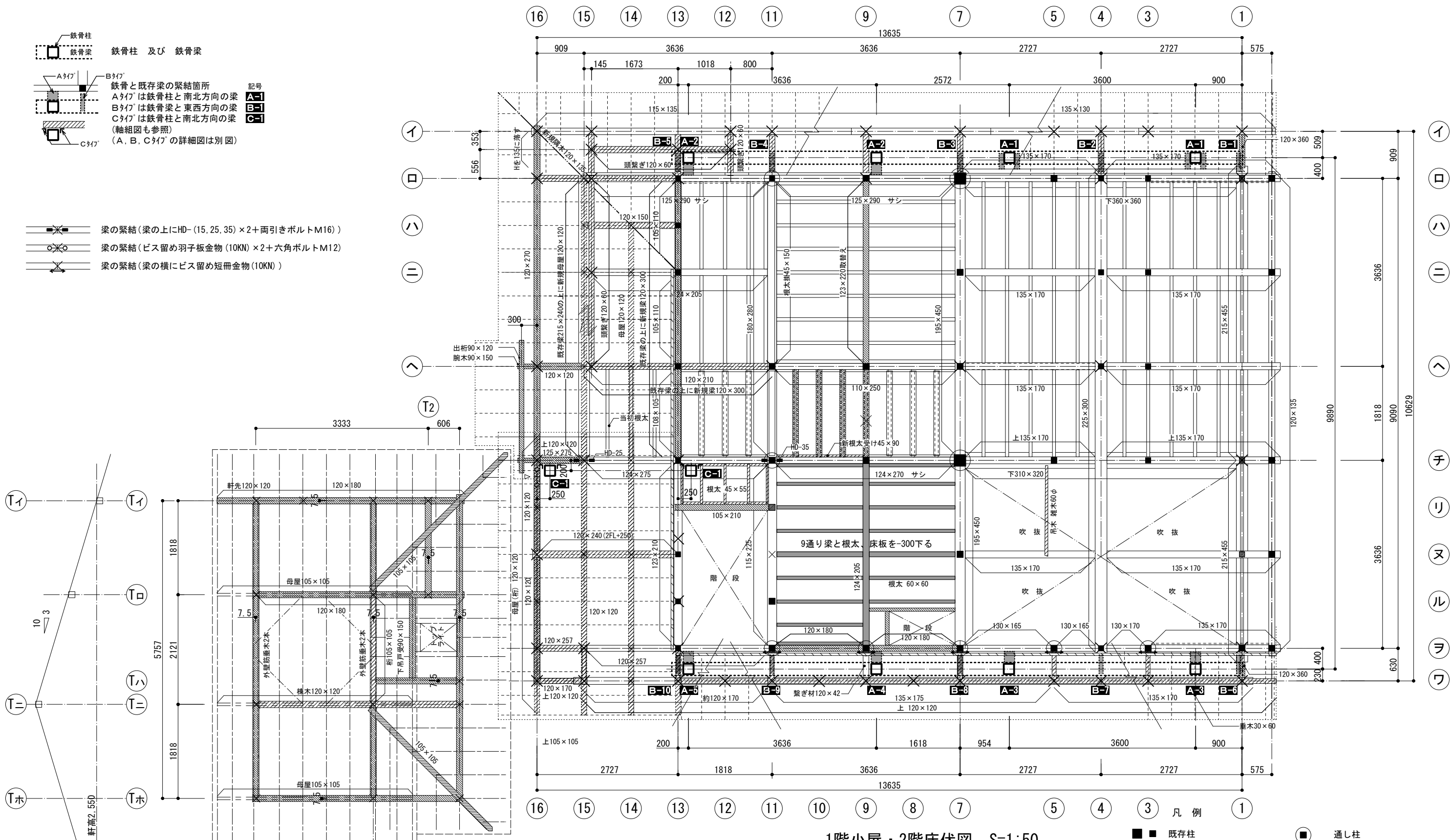
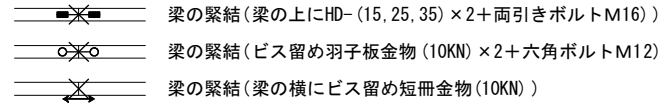
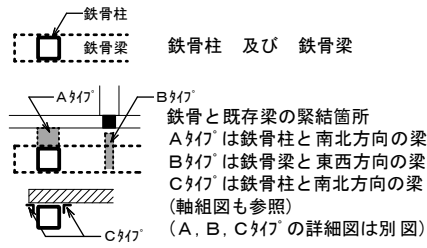




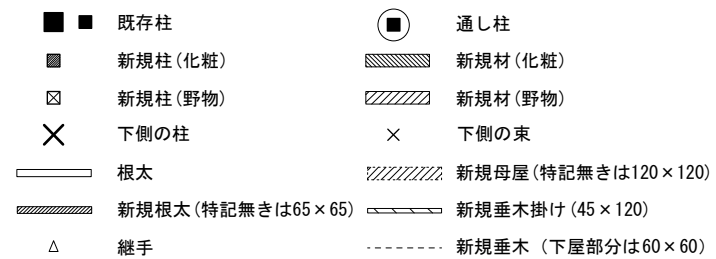
1階床板・敷居等伏図 S=1:50

- 凡例
- 鉄骨柱
  - 既存柱
  - 新規柱(化粧)
  - ⊠ 新規柱(野物)
  - 転がし根太(1階) 45×40
  - ⊞ 既存荒床 (イロ間は一旦外して復帰)
  - ▭ 既存材
  - ▨ 新規材(化粧)
  - ▧ 新規材(野物)
  - ▩ (A) 新規下張り715 + 新規荒床715(転し根太40×45+断熱材ア45)
  - ▩ (B) 新規下張り715 + (転し根太40×45+断熱材ア45)
  - ▩ (C) 新規下張り715 + 合板ア12(転し根太40×45+断熱材ア45)
  - ▨ 新規荒床: 715
  - ▨ 床板: 715(当初材に做った幅寸法)

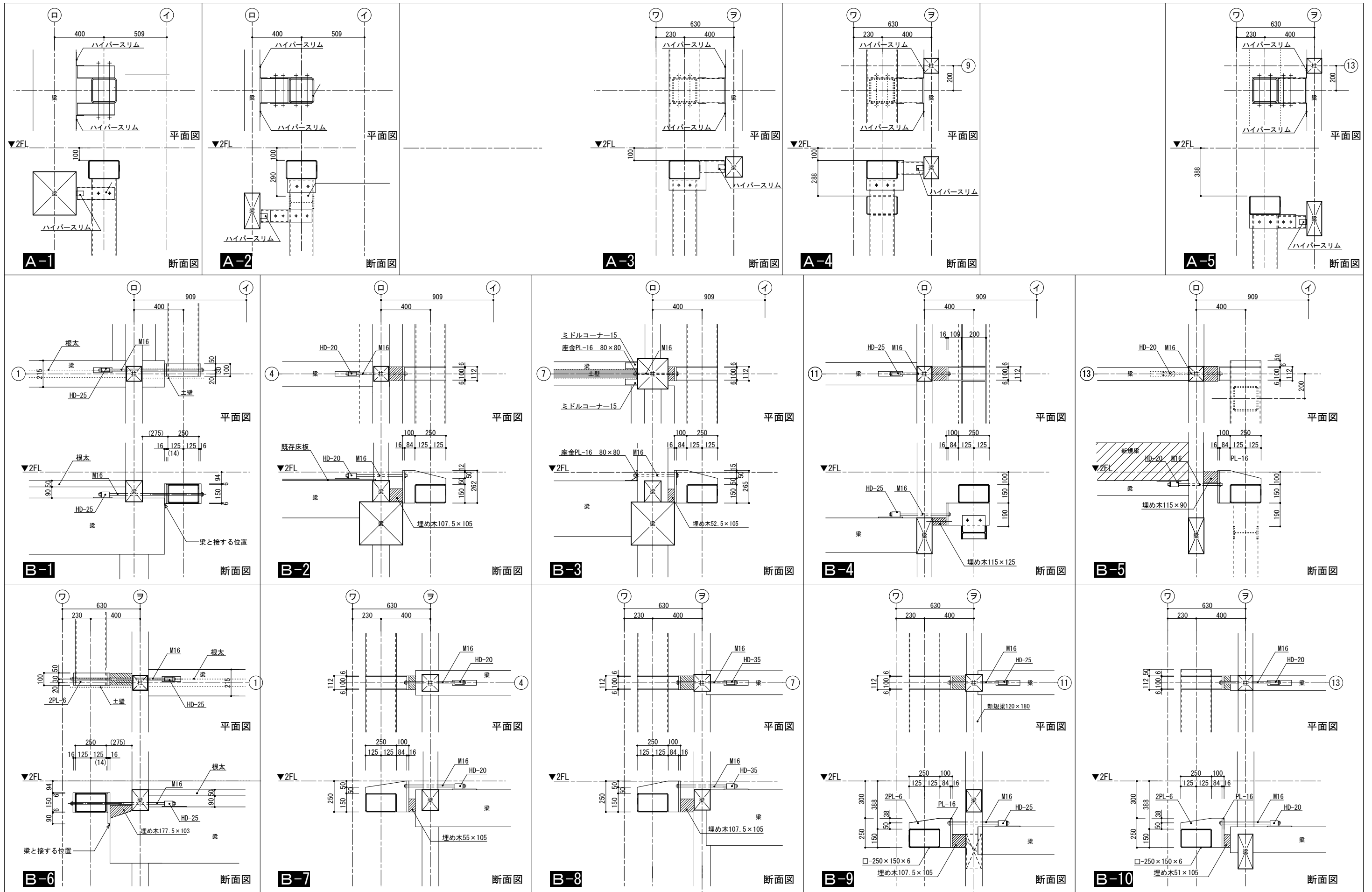
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 1階床板・敷居等床伏図 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-42
--	------	--	---	-------------------------------	-----------



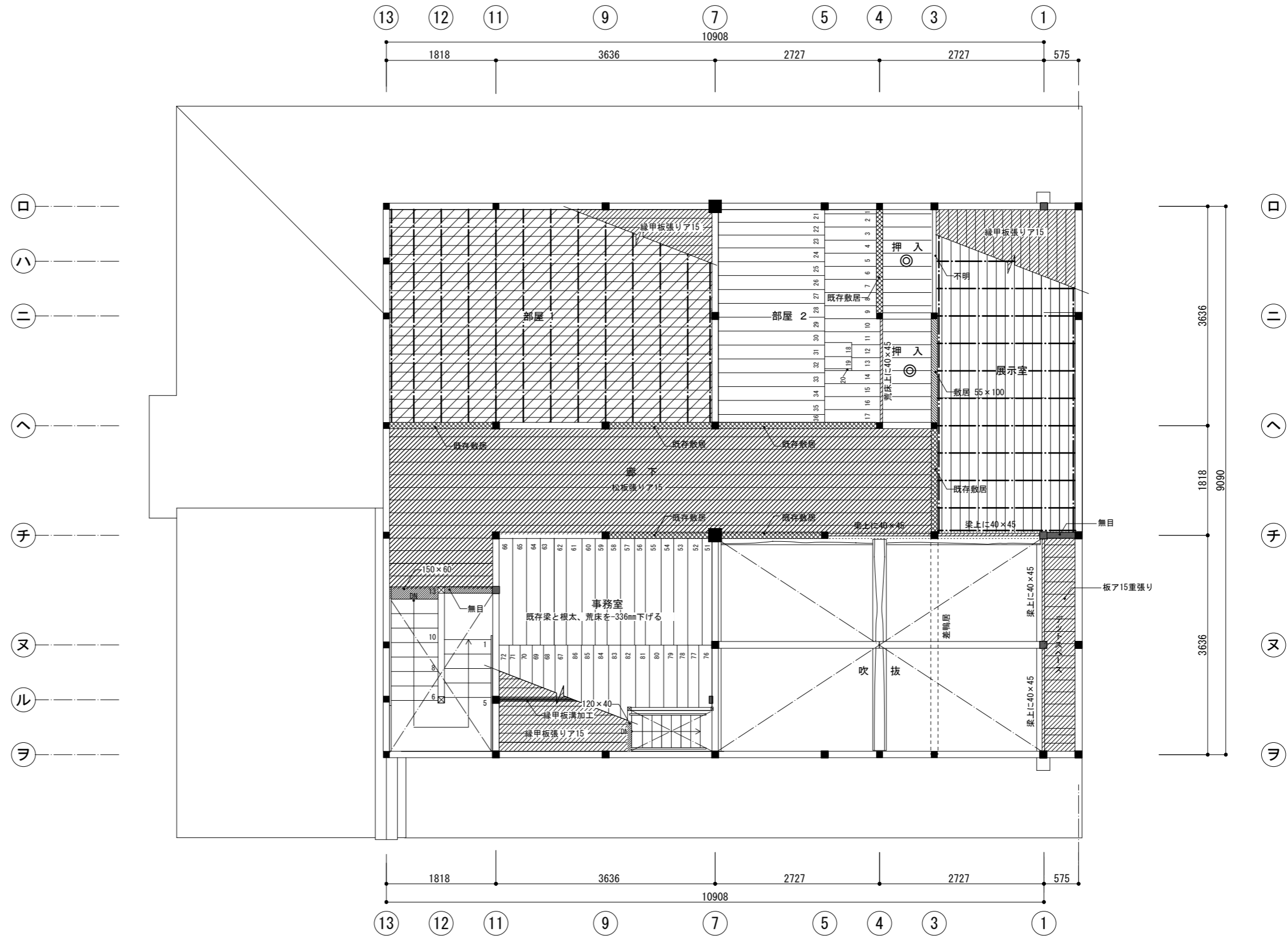
1階小屋・2階床伏図 S=1:50



●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 1階小屋・2階床伏図 縮尺 S = 1:50	図面番号 A-43
				継手	
				下側の柱 下側の束	

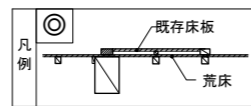


※梁の横に留めるハイバースリムとミドルコーナーは、梁だけにビス留める



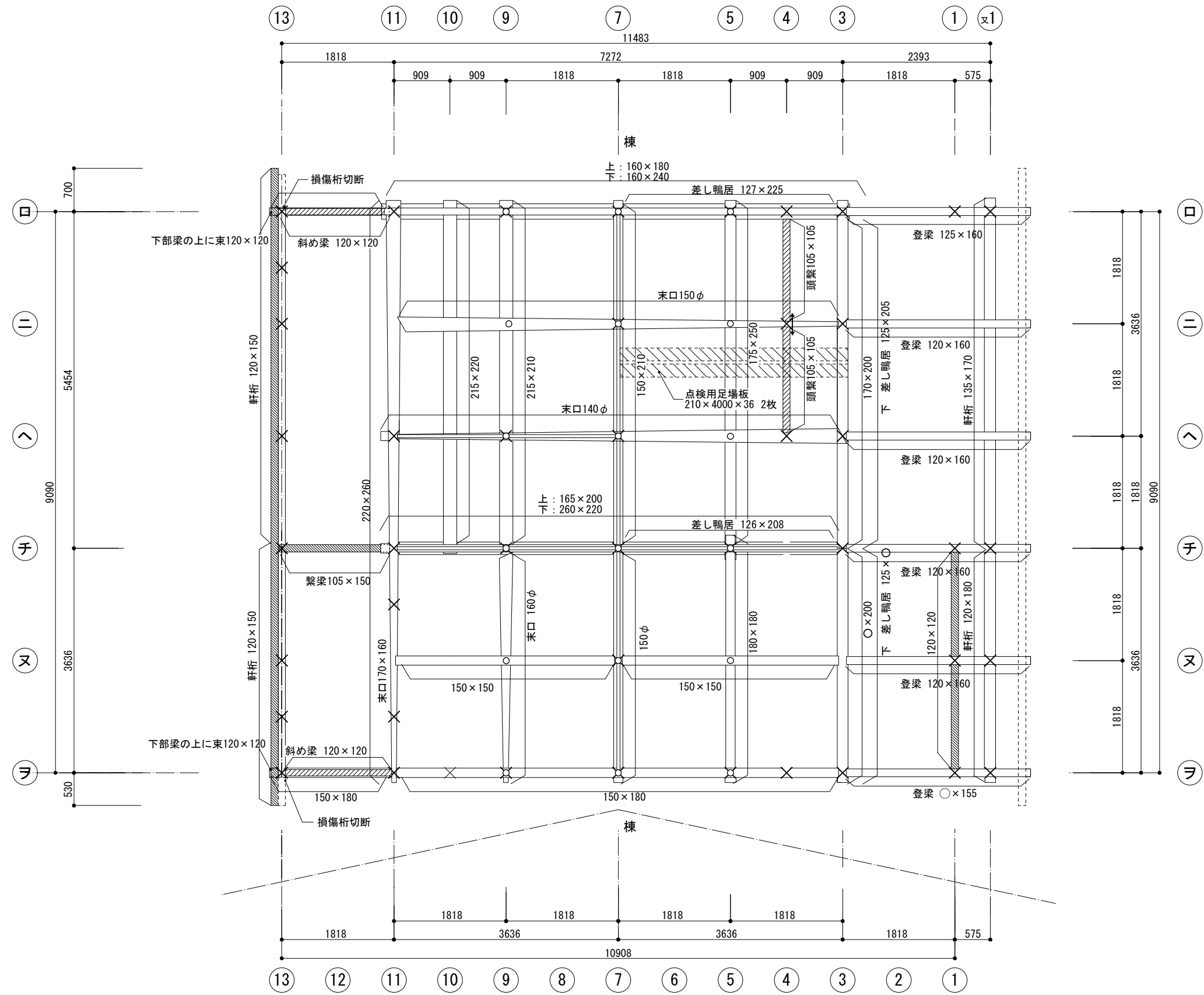
凡例

- 既存柱
- 新規柱(化粧)
- ⊠ 新規柱(野物)
- 転がし根太(2階) 45×37
- ▭ 既存床板
- ▭ 既存材
- ▨ 新規材(化粧)
- ▨ 新規材(野物)
- ▨ 新規荒床: 715
- ▨ 床板: 715(当初材に倣った幅寸法)



2階床板・敷居等伏図 S=1:50

●● 協同組合 <b>伝統技法研究会</b> 一級建築士事務所 <small>管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子</small>	<b>軽井沢町</b>	<b>総括技術者</b> 大平茂男	<b>工事名</b> 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 <b>場所</b> 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	<b>図名</b> 2階床板・敷居等伏図	<b>縮尺</b> S = 1:50	<b>図面番号</b>	<b>A-45</b>
		<b>管理技術者</b> 市村康子 <b>構造技術者</b> 安達幸一		<b>縮尺</b> S = 1:50			



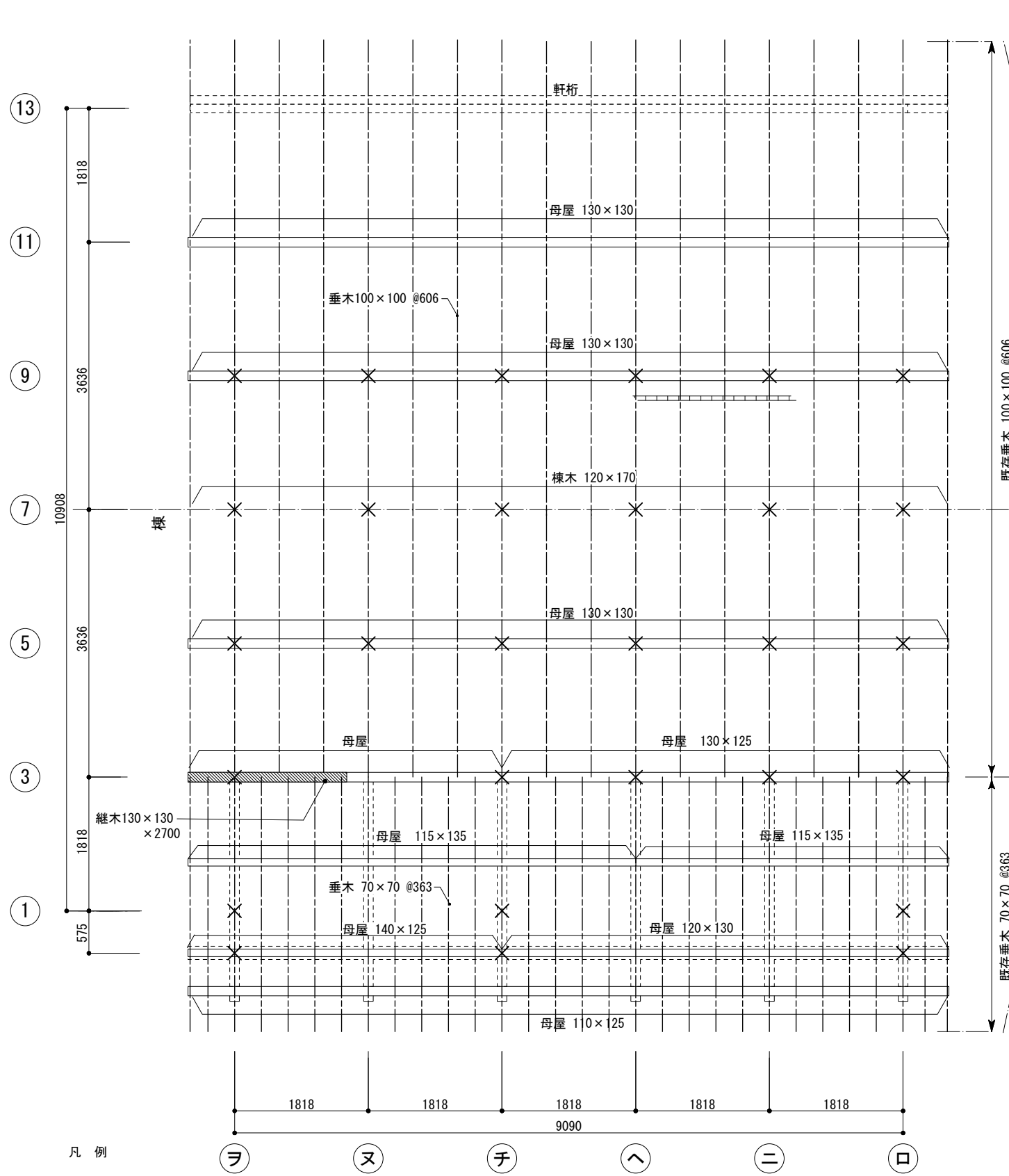
2階 小屋 梁伏図 S=1:50

凡例

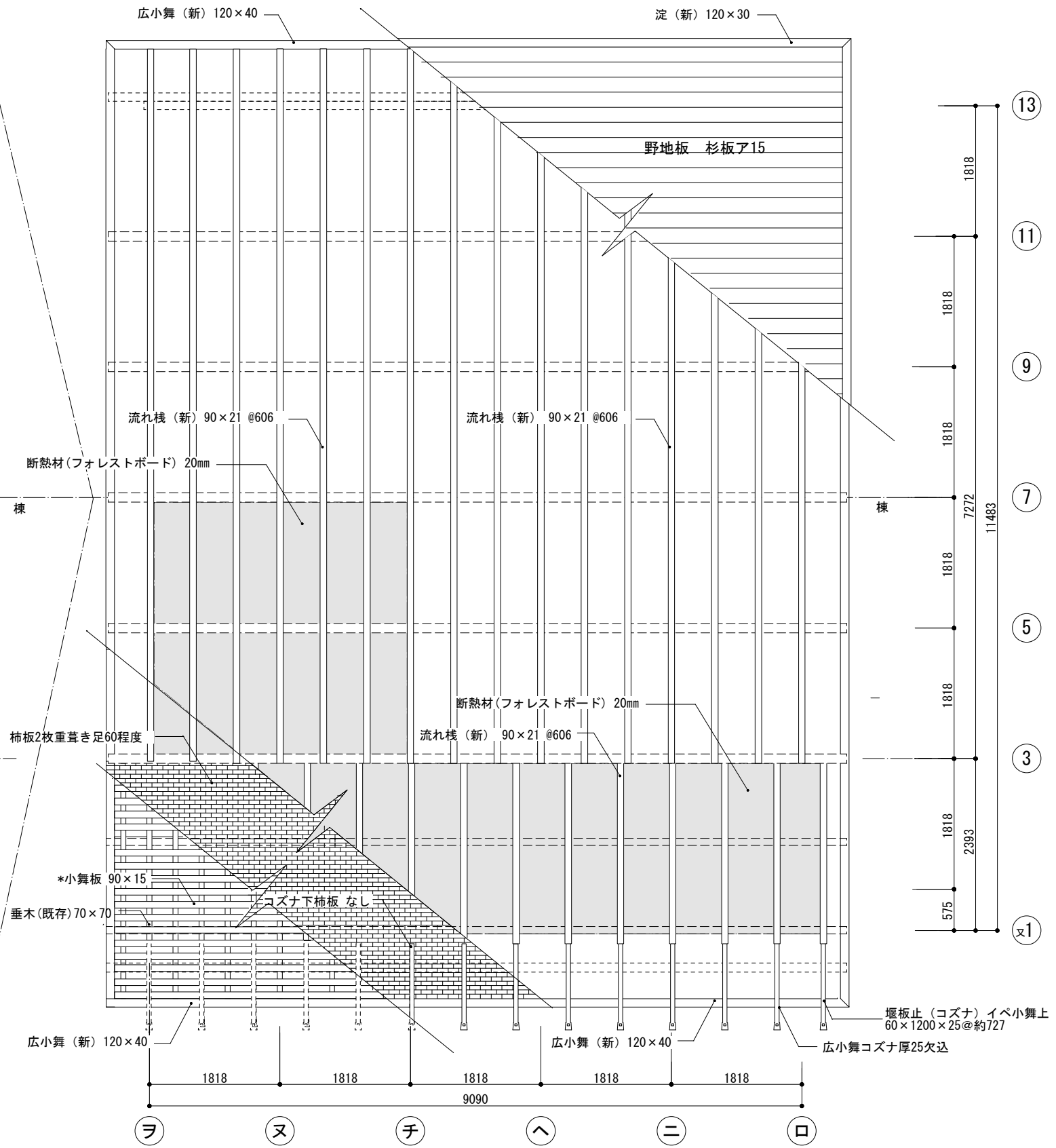
- ✕ 下側の柱
- 梁上の小屋束
- 既存材
- ▨ 新規材(化粧)
- ▩ 新規材(野物)

- 小屋裏の土壁
- 梁の緊結(梁の上にHD-(15, 25, 35) × 2 + 両引きボルトM16)
- 梁の緊結(ビス留め羽子板金物(10KN) × 2 + 六角ボルトM12)
- 梁の緊結(梁の横にビス留め短冊金物(10KN))

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 2階小屋 梁伏図	縮尺 S = 1:50 図面番号 A-46
		管理技術者 市村康子		図名 2階小屋 梁伏図	
		構造技術者 安達幸一		縮尺 S = 1:50 図面番号 A-46	




2階 小屋 母屋・垂木伏図 S=1:50



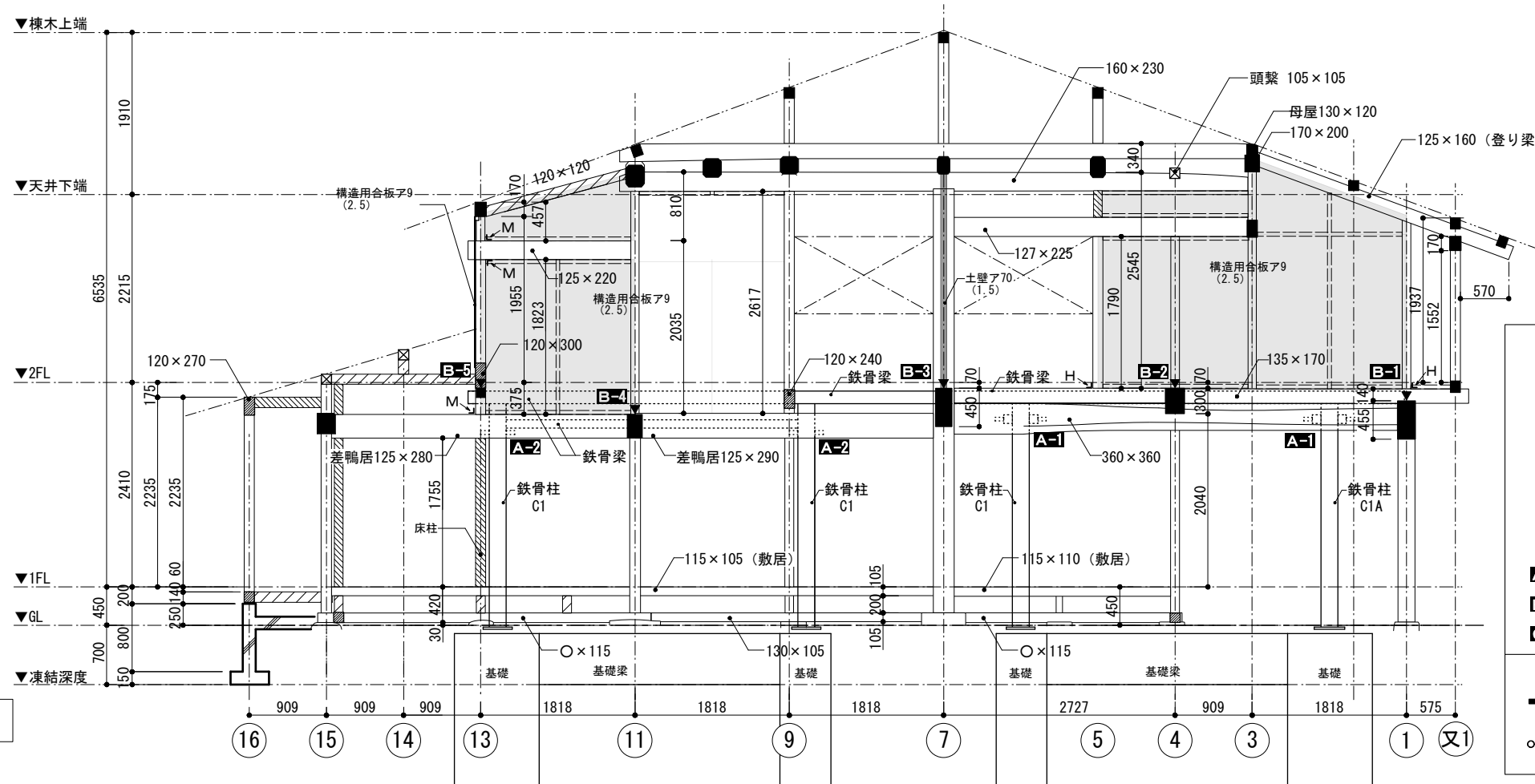
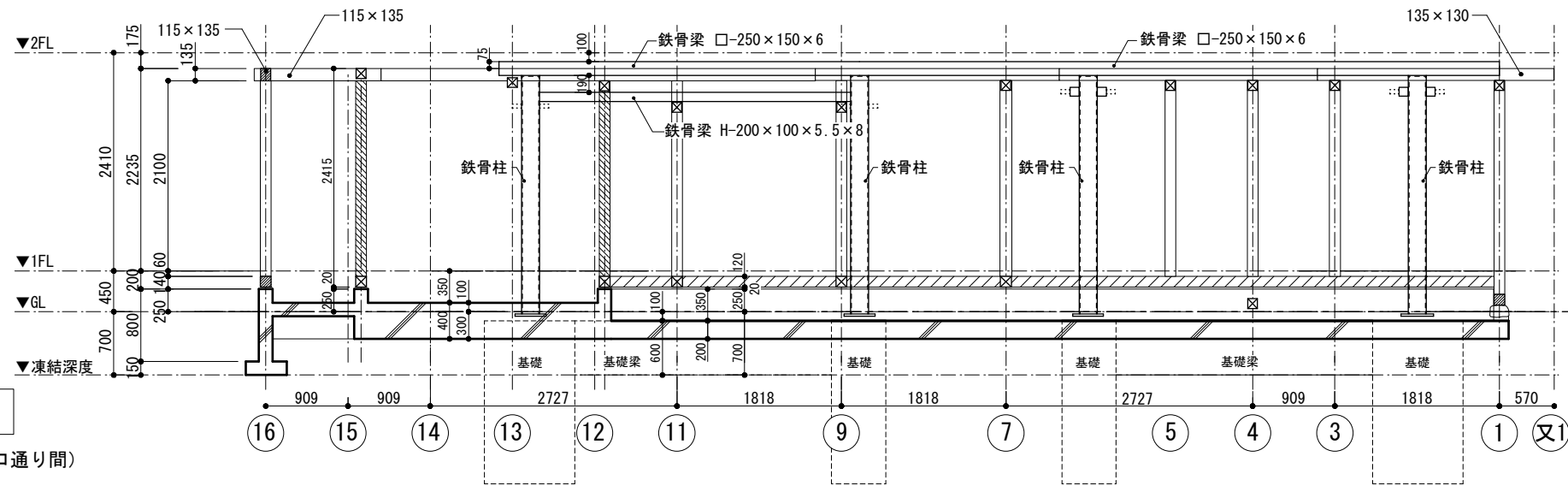
2階 小屋 流れ棧・野地板伏図 S=1:50

\*コズナ部詳細A-61参照  
\*小舞板は全て新規とするが、耐久上支障のないものは極力再使用する

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 2階 小屋 母屋・垂木・流れ棧・野地板伏図
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一		縮尺 S = 1:50

イ-通り

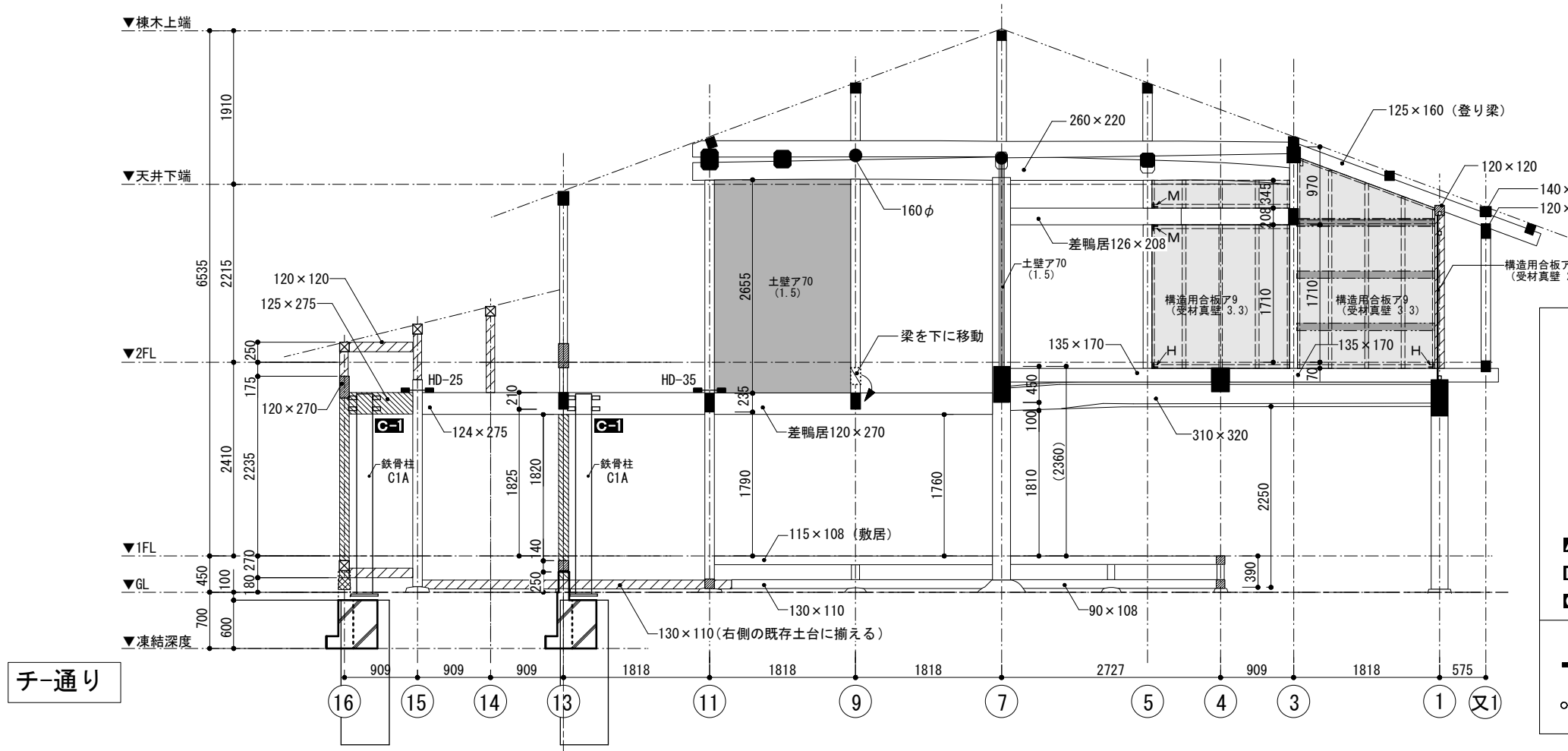
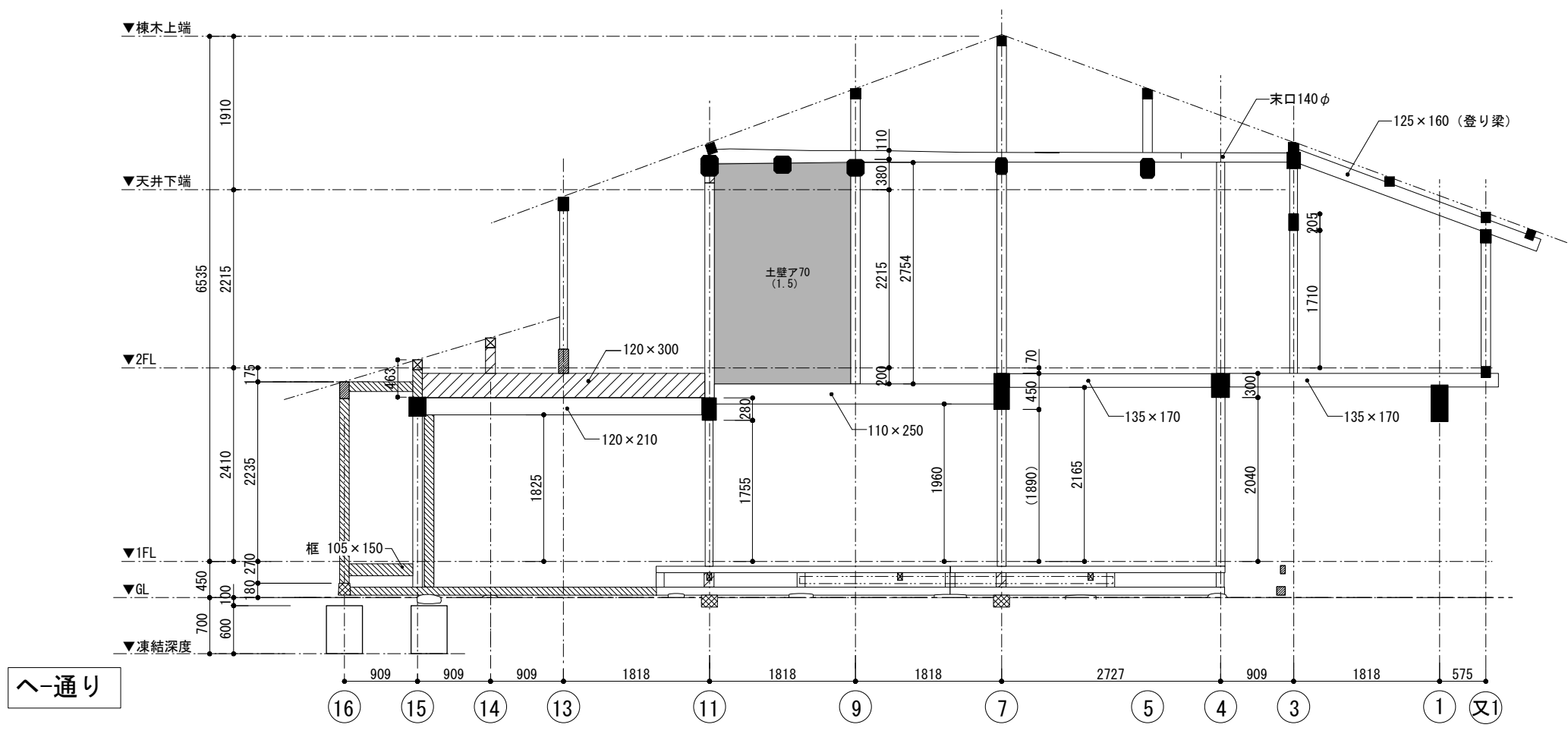
(鉄骨柱はイ-口通り間)



ロ-通り

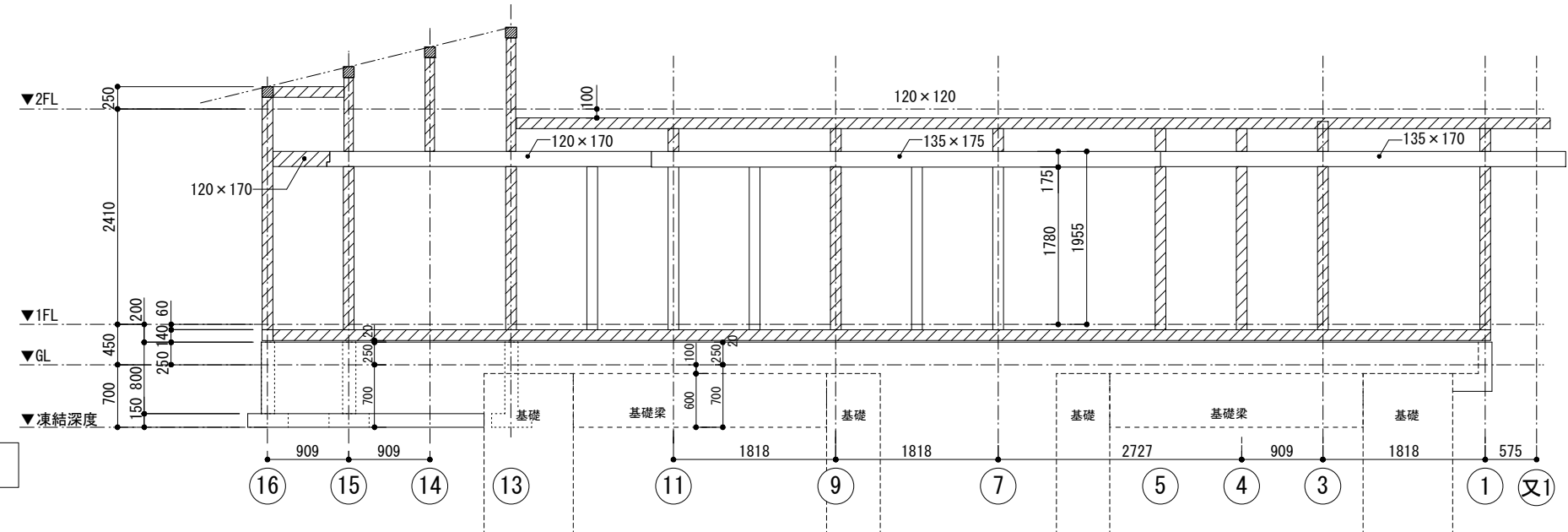
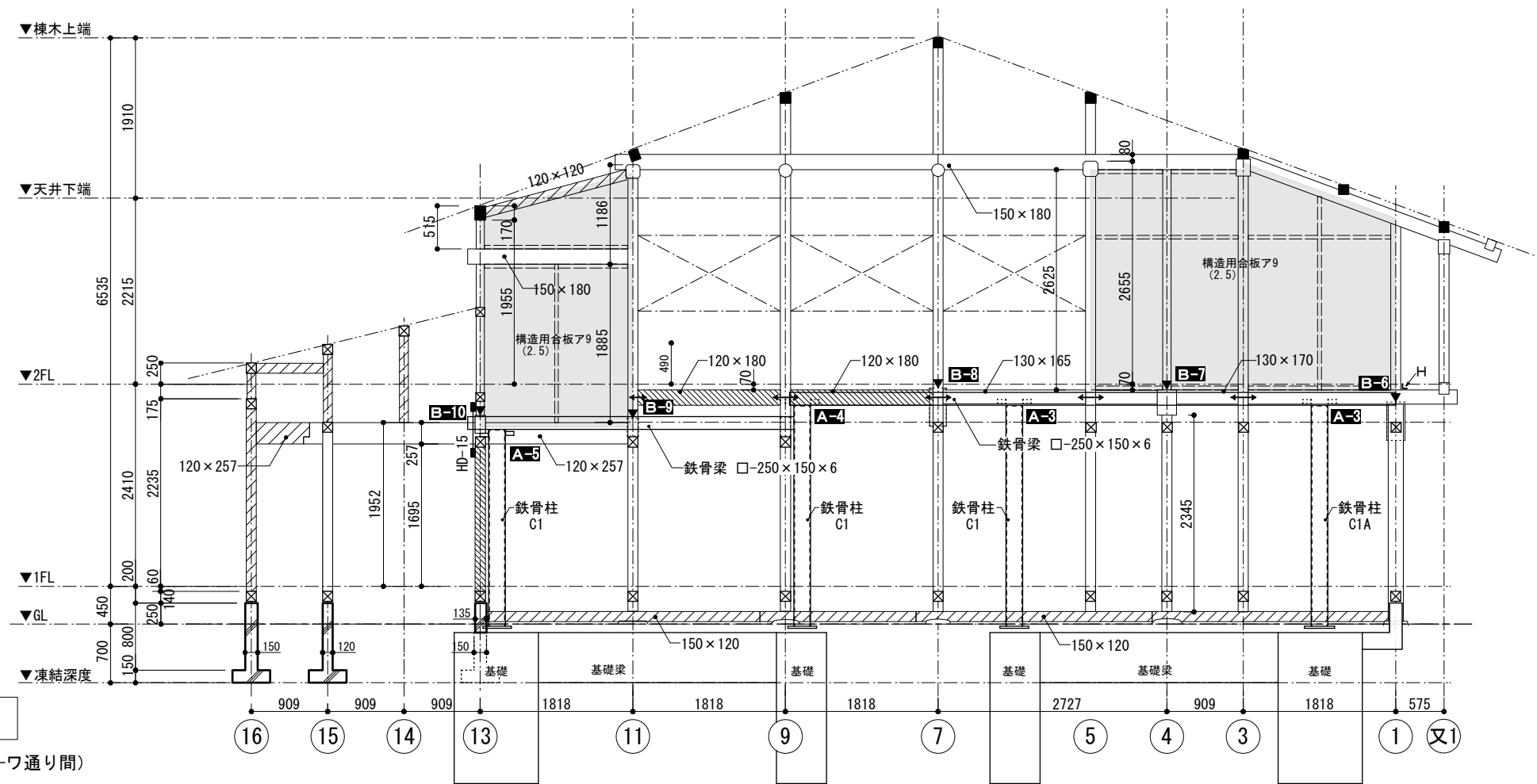
凡例

断面		姿面	
■	既存横架材	□	既存材
▨	新規横架材(化粧材)	▨	新材(化粧材)
▧	新規横架材(野物材)	▧	新材(野物材)
⊠	新規礎石	▨	貫(21×90:既存に倣う)
鉄骨と木造梁の緊結箇所		▨	構造用合板の下地材(45×40)
A-1	鉄骨柱と南北方向の梁	▨	構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
B-1	鉄骨梁と東西方向の梁	▨	土壁による構造壁
C-1	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
—	ホルダーダウン金物(HD-15, 25, 35) (HD×2+両引きボルトM16)	M	ミドルコーナー15
○	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物×2+六角ボルトM12)	H	PZハイバースリムII
↔		↔	ビス留め短冊金物(10KN)



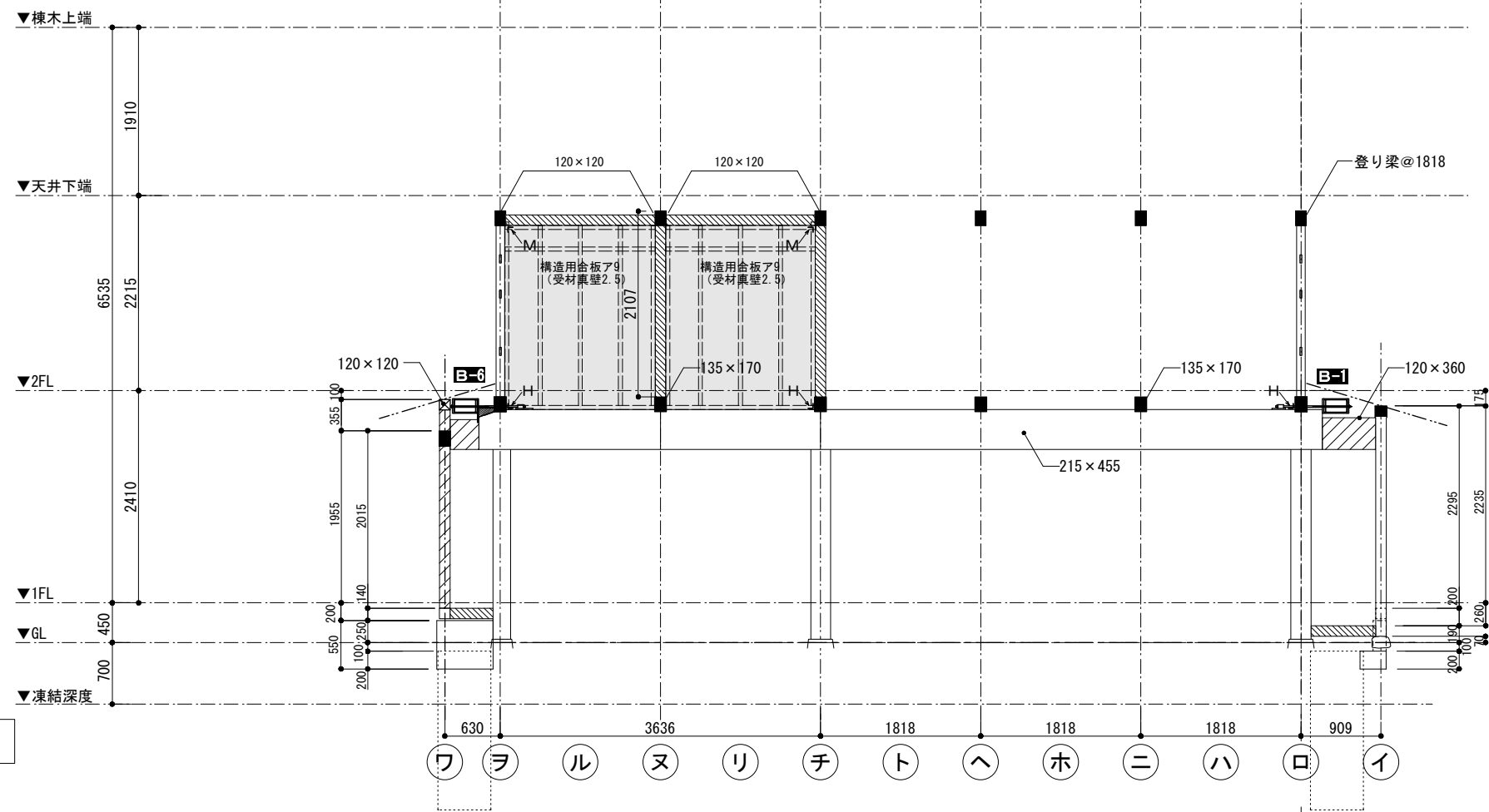
凡例

断面		姿面	
	既存横架材		既存材
	新規横架材(化粧材)		新材(化粧材)
	新規横架材(野物材)		新材(野物材)
	新規礎石		貫(21x90:既存に倣う)
鉄骨と木造梁の緊結箇所			構造用合板の下地材(45x40)
	鉄骨柱と南北方向の梁		構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
	鉄骨梁と東西方向の梁		土壁による構造壁
	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
	ホルダダウン金物(HD-15, 25, 35) (HD×2+両引きボルトM16)		M ミドルコーナー15
	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物×2+六角ボルトM12)		H PZハイバースリムII
			← ビス留め短冊金物(10KN)

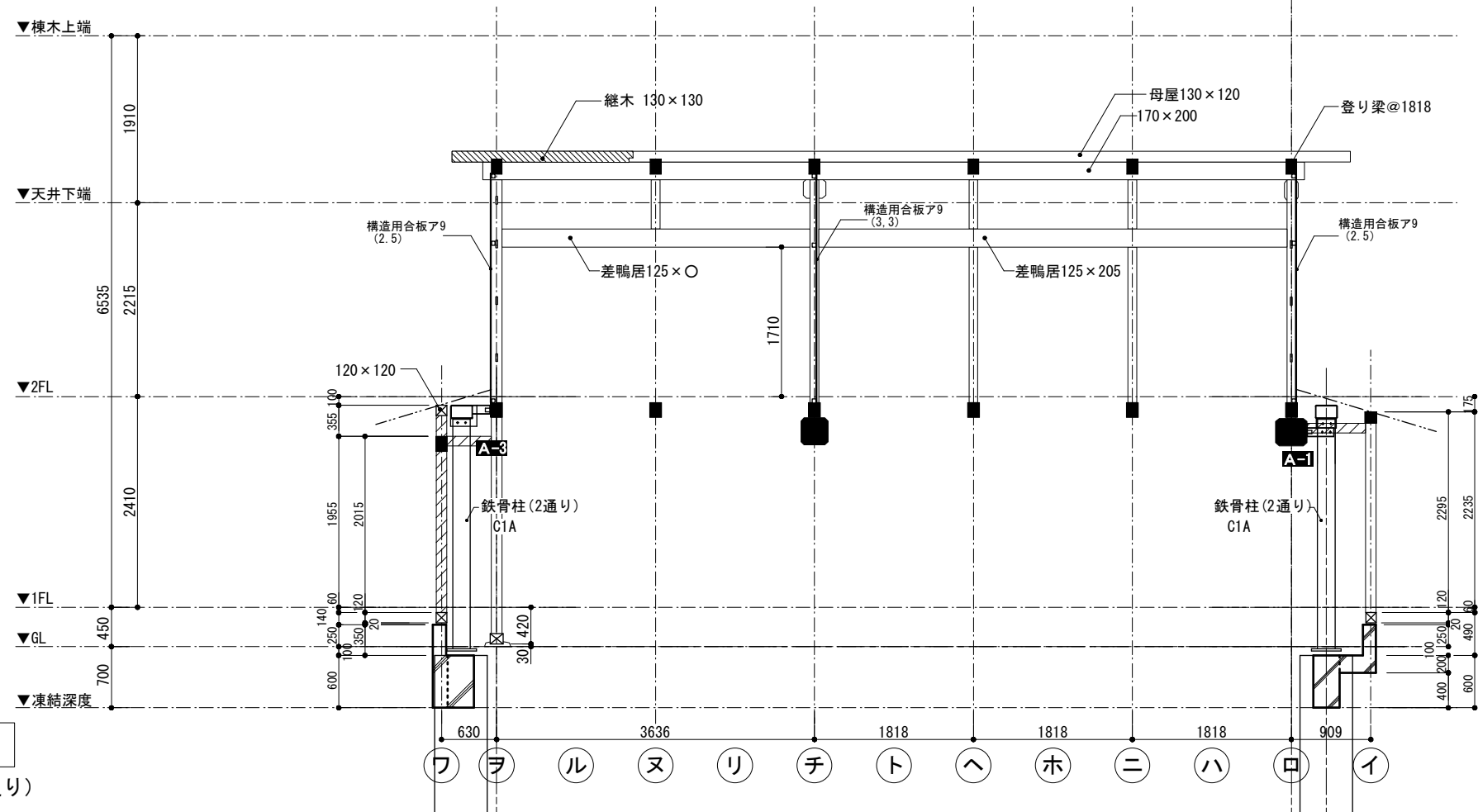


凡例

断面		姿面	
■	既存横架材	□	既存材
▨	新規横架材(化粧材)	▨	新規材(化粧材)
⊠	新規横架材(野物材)	▧	新規材(野物材)
⊞	新規礎石	▩	貫(21×90:既存に倣う)
鉄骨と木造梁の緊結箇所		▬	構造用合板の下地材(45×40)
A-1	鉄骨柱と南北方向の梁	■	構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
B-1	鉄骨梁と東西方向の梁	■	土壁による構造壁
C-1	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
—	ホルダーダウン金物(HD-15, 25, 35) (HD×2+両引きボルトM16)	M	ミドルコーナー15
○	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物×2+六角ボルトM12)	H	PZハイバースリムII
↔	ビス留め短冊金物(10KN)	↔	ビス留め短冊金物(10KN)



1-通り

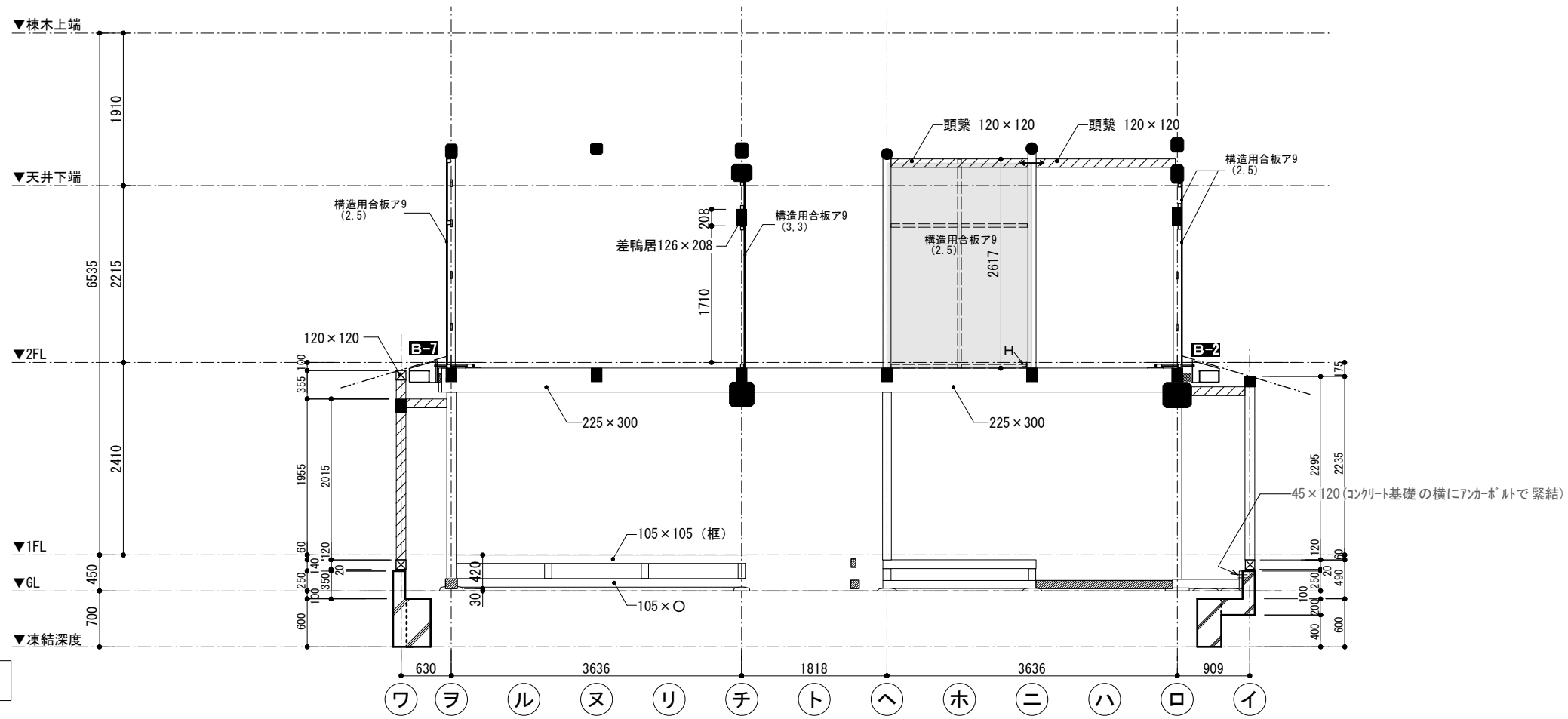


3-通り

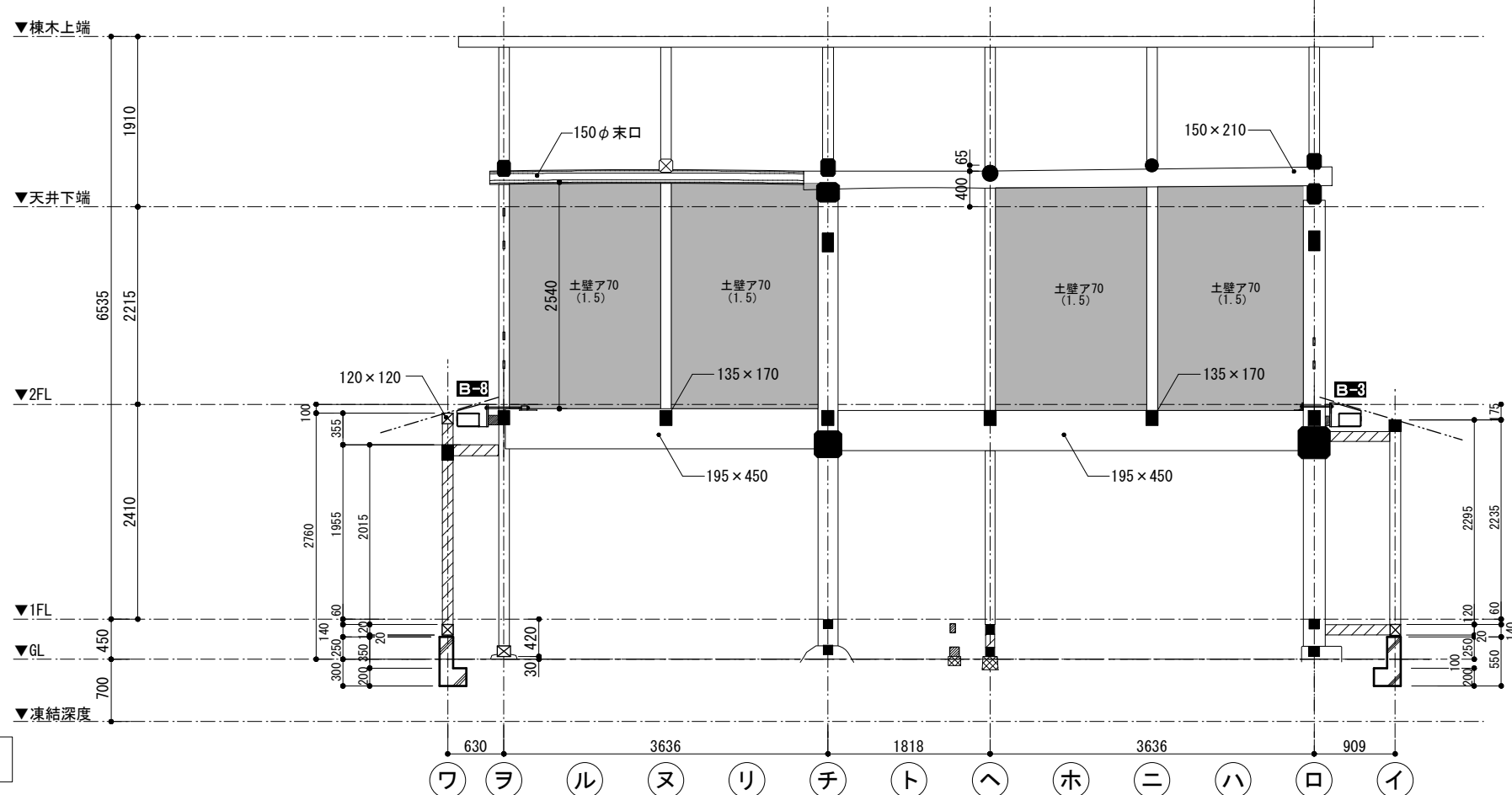
(鉄骨柱は2通り)

凡例

断面		姿面	
■	既存横架材	□	既存材
▨	新規横架材(化粧材)	▨	新規材(化粧材)
▧	新規横架材(野物材)	▧	新規材(野物材)
▩	新規礎石	▩	貫(21×90:既存に做う)
鉄骨と木造梁の緊結箇所		▨	構造用合板の下地材(45×40)
A-1	鉄骨柱と南北方向の梁	▨	構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
B-1	鉄骨梁と東西方向の梁	▨	土壁による構造壁
C-1	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
—	ホールダウン金物(HD-15, 25, 35) (HD×2+両引きボルトM16)	M	ミドルコーナー15
○	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物×2+六角ボルトM12)	H	PZハイパスリムII
		↔	ビス留め短冊金物(10KN)



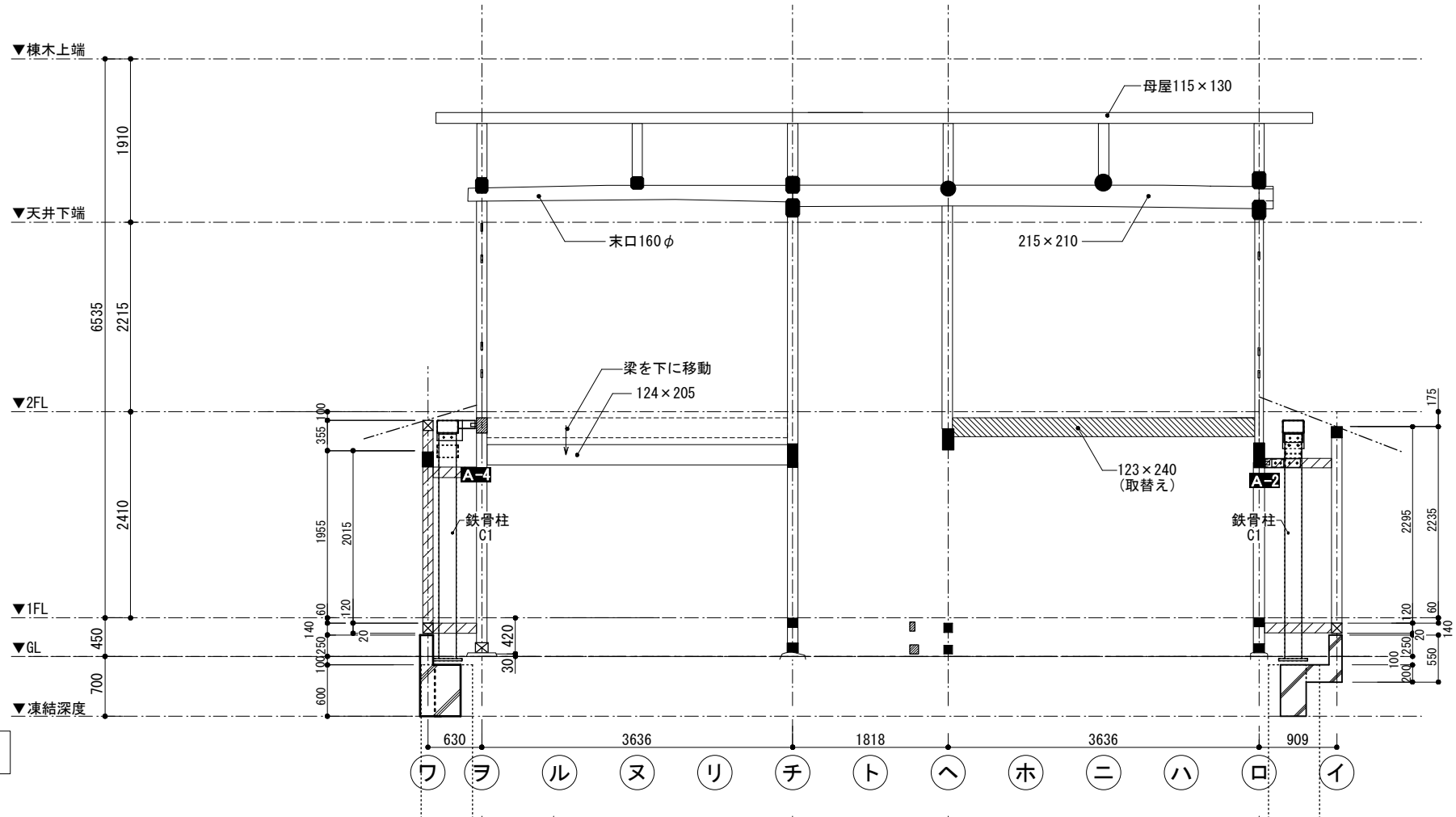
4-通り



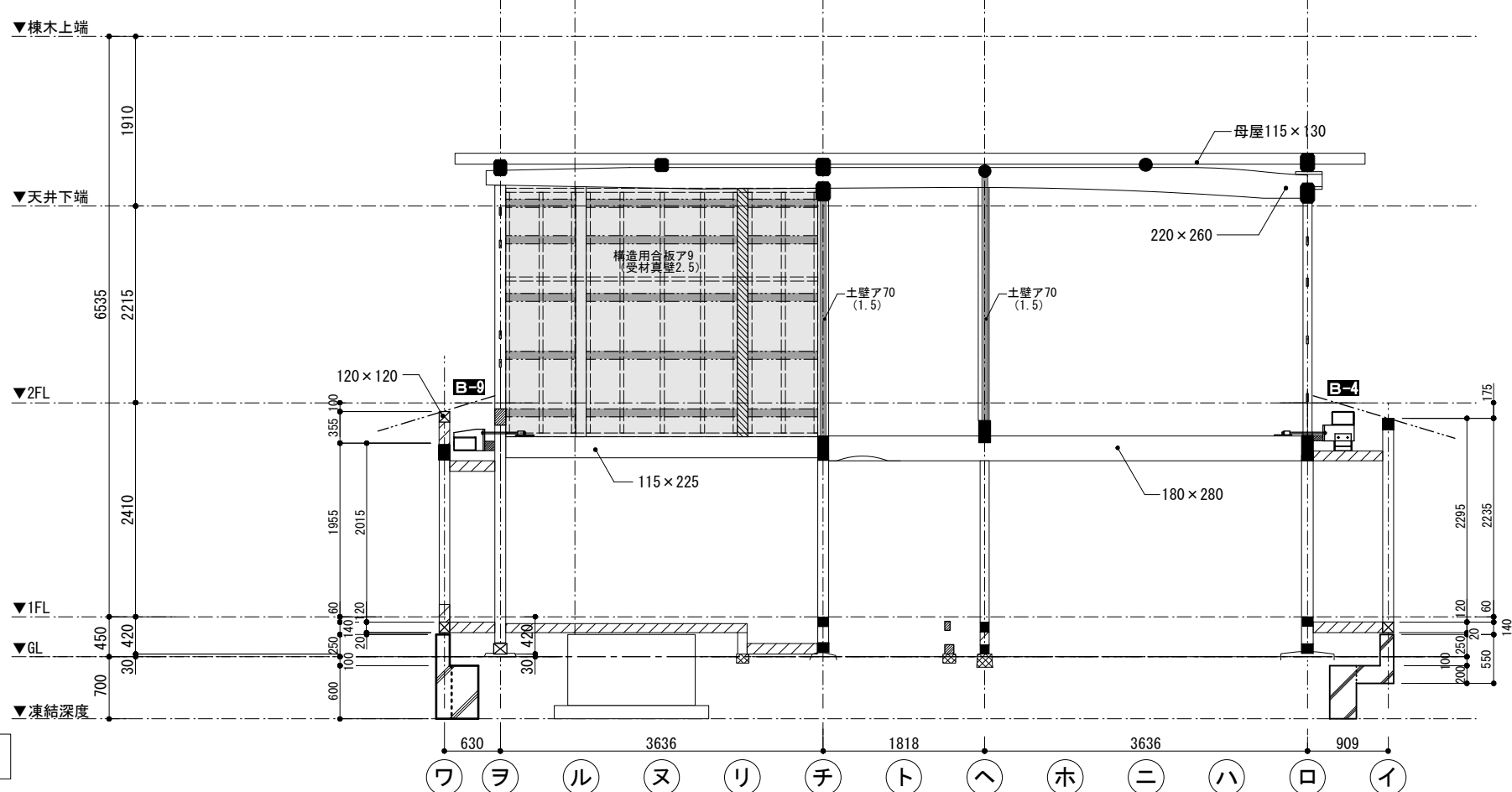
7-通り

凡例

断面		姿面	
	既存横架材		既存材
	新規横架材(化粧材)		新規材(化粧材)
	新規横架材(野物材)		新規材(野物材)
	新規礎石		貫(21 x 90: 既存に倣う)
	鉄骨と木造梁の緊結箇所		構造用合板の下地材(45 x 40)
	鉄骨柱と南北方向の梁		構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
	鉄骨梁と東西方向の梁		土壁による構造壁
	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
	ホールダウン金物(HD-15, 25, 35) (HD x 2 + 両引きボルトM16)	M	ミドルコーナー15
	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物 x 2 + 六角ボルトM12)	H	PZハイパスリムII
		←	ビス留め短冊金物(10KN)



9-通り

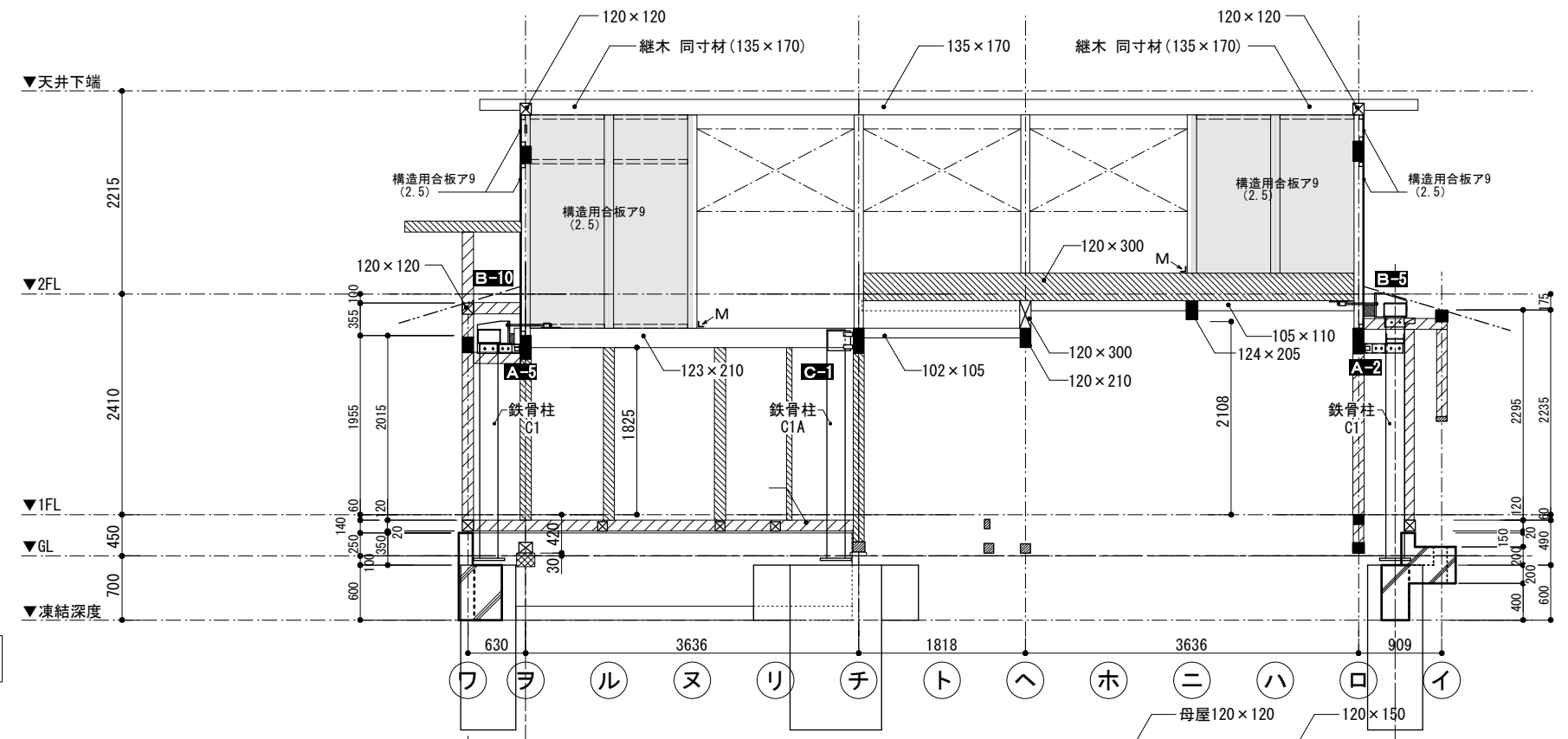


11-通り

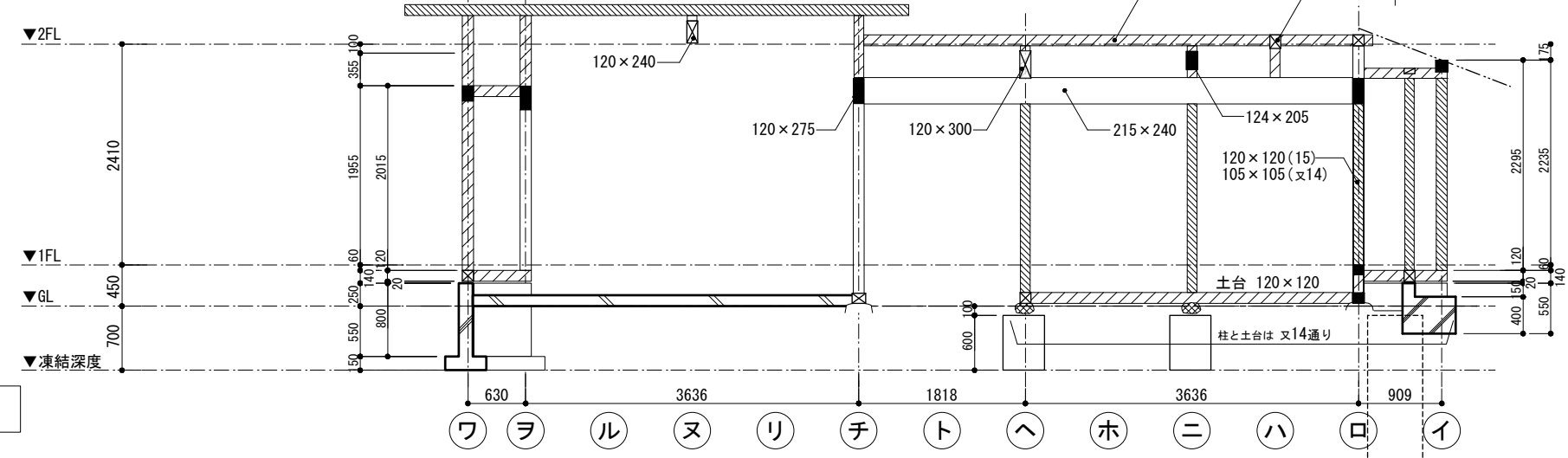
凡例

断面		姿面	
■	既存横架材	□	既存材
▨	新規横架材(化粧材)	▨	新材(化粧材)
⊠	新規横架材(野物材)	▧	新材(野物材)
⊞	新規礎石	▩	貫(21×90:既存に倣う)
鉄骨と木造梁の緊結箇所		▨	構造用合板の下地材(45×40)
A-1	鉄骨柱と南北方向の梁	▨	構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
B-1	鉄骨梁と東西方向の梁	▨	土壁による構造壁
C-1	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
—	ホルダウング物(HD-15, 25, 35) (HD×2+両引きボルトM16)	M	ミドルコーナー15
○	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物×2+六角ボルトM12)	H	PZハイパスリムII
		↔	ビス留め短冊金物(10KN)

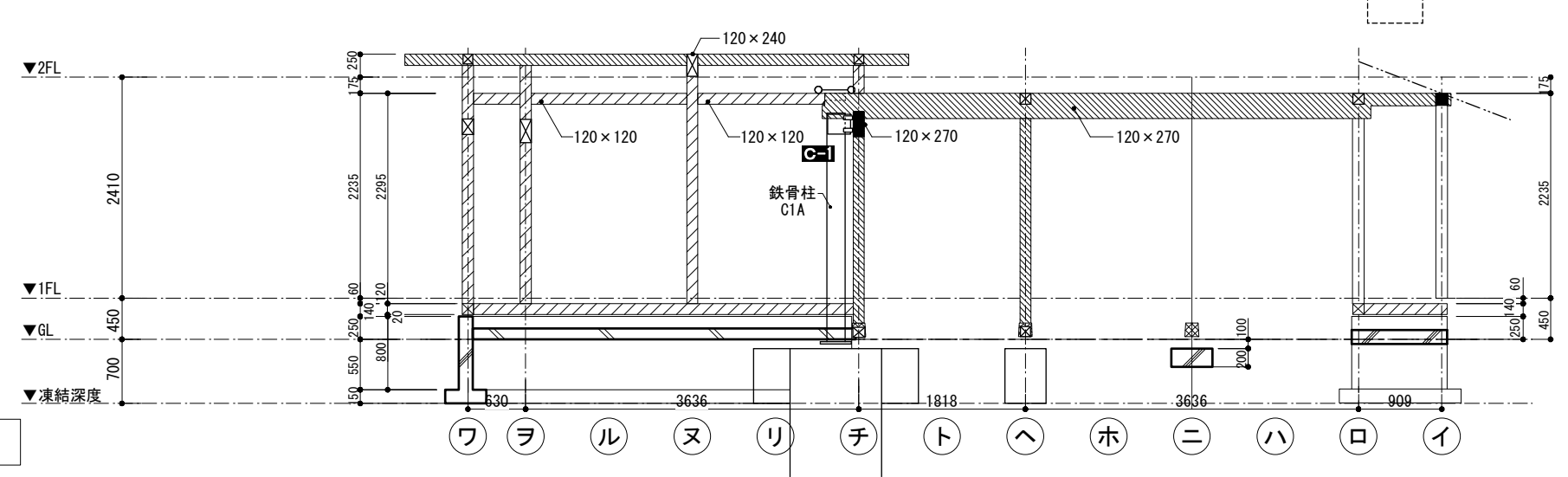
13-通り



15-通り

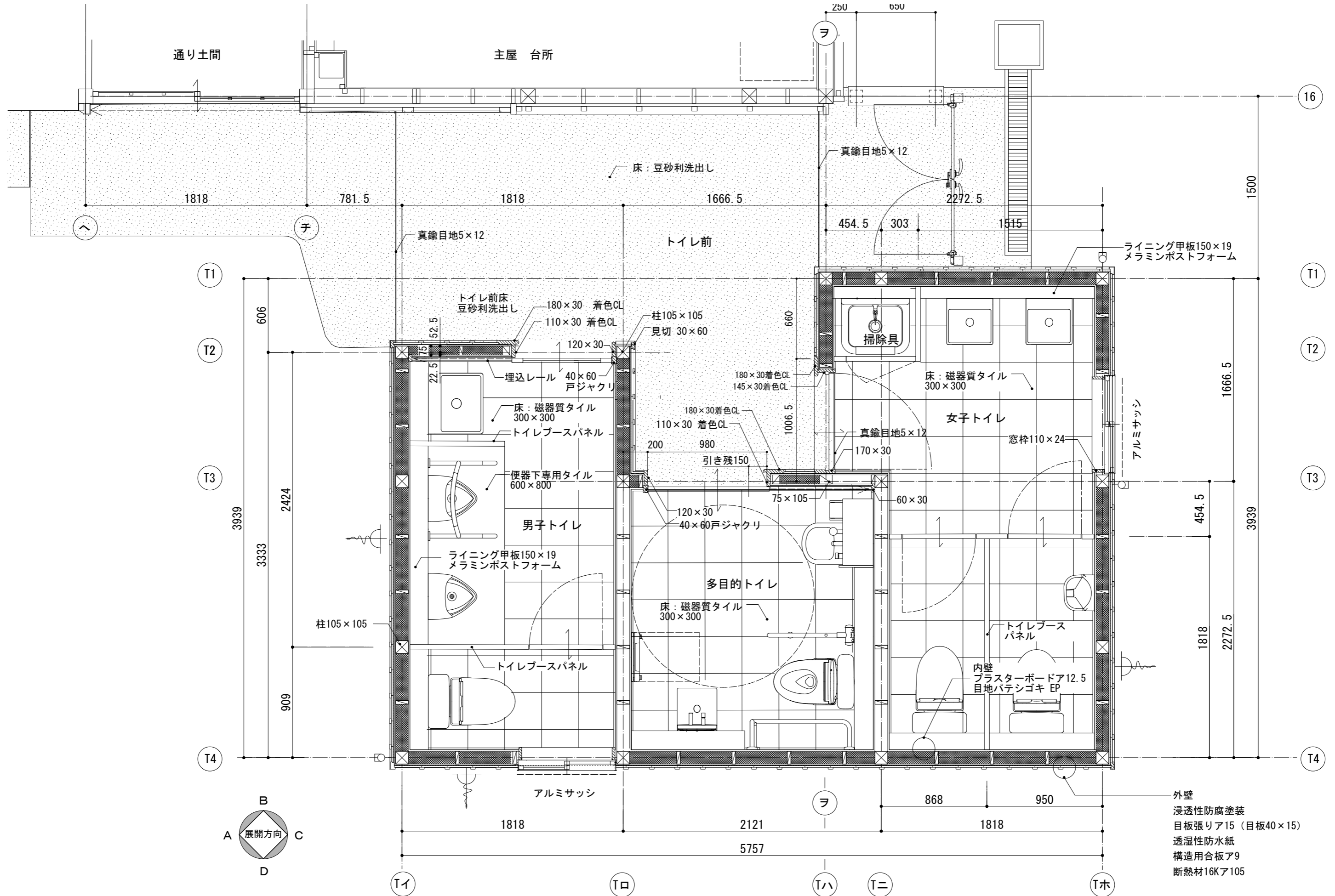


16-通り



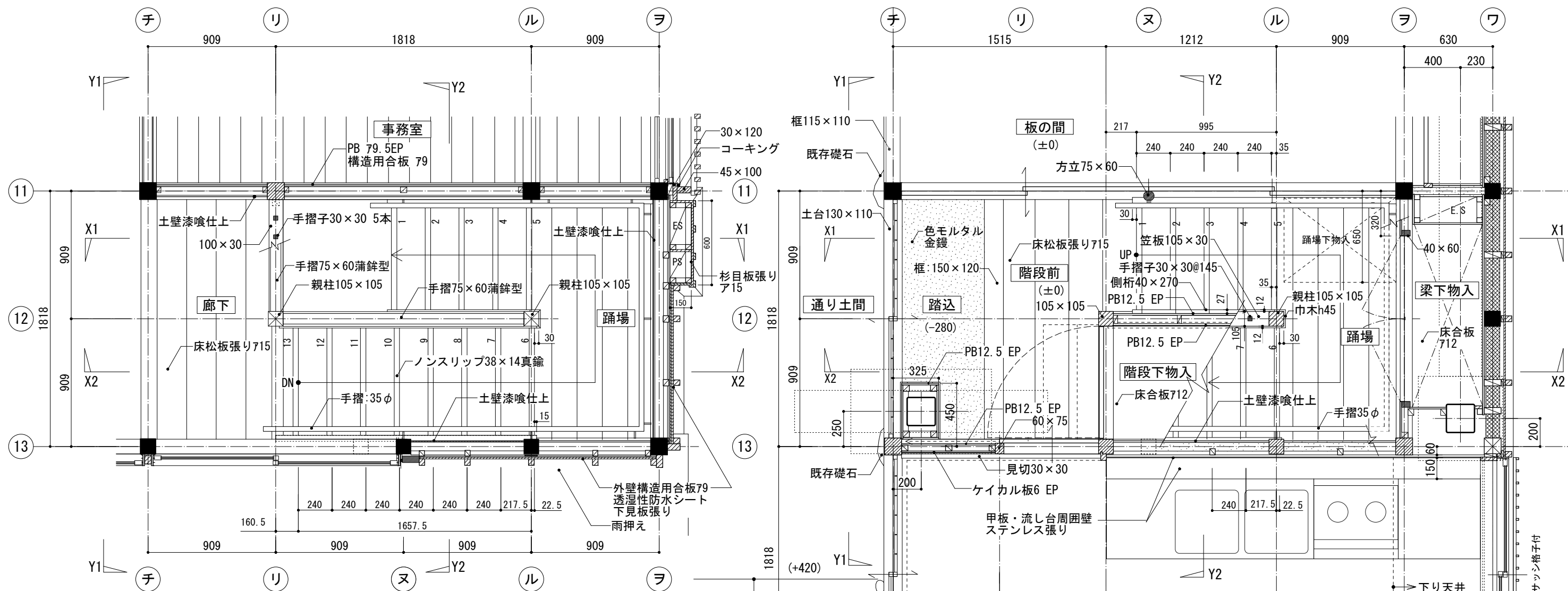
凡例

断面		姿面	
	既存横架材		既存材
	新規横架材(化粧材)		新規材(化粧材)
	新規横架材(野物材)		新規材(野物材)
	新規礎石		貫(21×90:既存に倣う)
	鉄骨と木造梁の緊結箇所		構造用合板の下地材(45×40)
	鉄骨柱と南北方向の梁		構造用合板を使用した構造壁( )内は壁倍率
	鉄骨梁と東西方向の梁		土壁による構造壁
	鉄骨柱と南北方向の梁		
緊結金物			
	ホルダウング物(HD-15, 25, 35) (HD×2+両引きボルトM16)		ミドルコーナー15
	ビス留め羽子板金物(10KN) (金物×2+六角ボルトM12)		PZハイバースリムII
			ビス留め短冊金物(10KN)

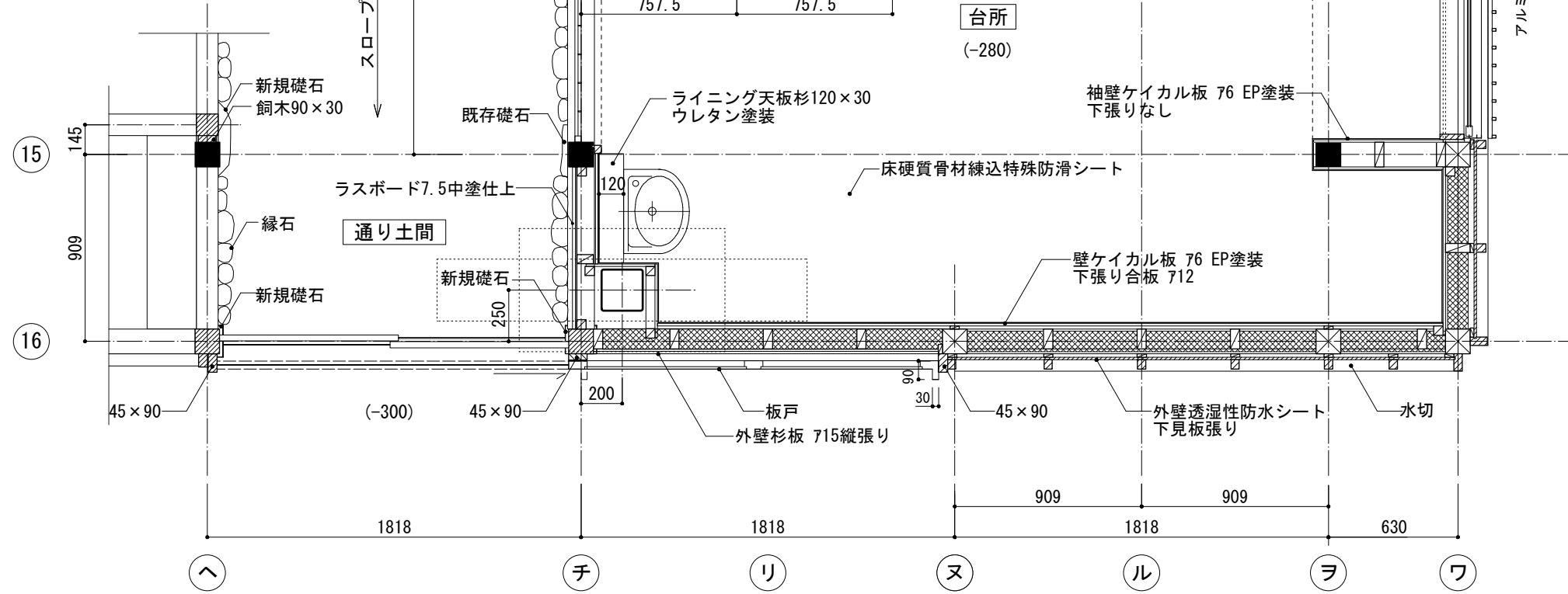


トイレ平面詳細図 S = 1:20

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 トイレ平面詳細図	縮尺 S = 1:20	図面番号 A-55
		管理技術者 市村康子				
		構造技術者 安達幸一				



2階 階段詳細図 S=1:20



階段・台所平面詳細図 S=1:20

凡例 ■ 既存材  
 ⊠ 新規材

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所  
 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子

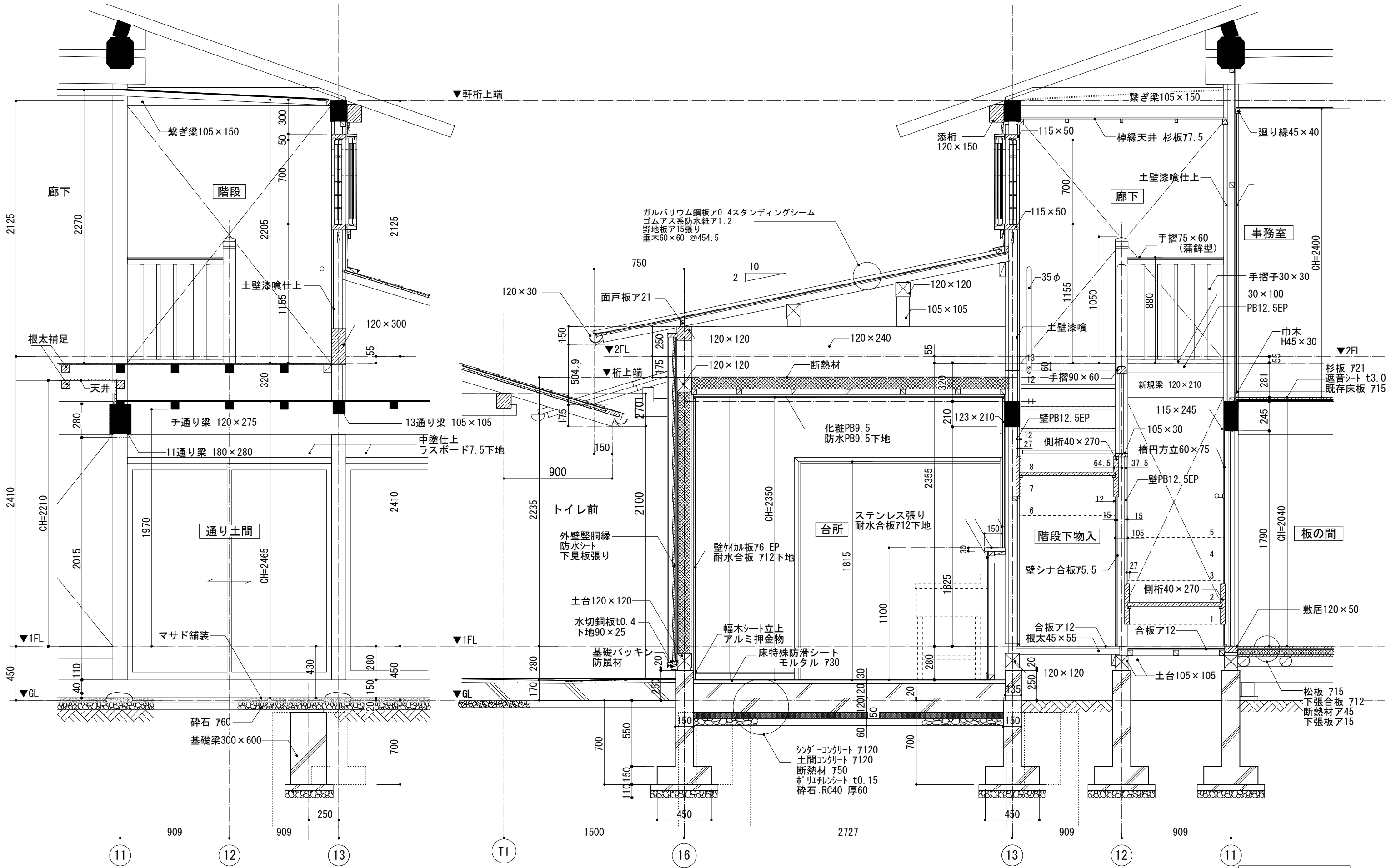
軽井沢町

総括技術者 大平茂男  
 管理技術者 市村康子  
 構造技術者 安達幸一

工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事  
 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568

図名 階段・台所 平面詳細図  
 縮尺 S = 1:20  
 図面番号 A-56



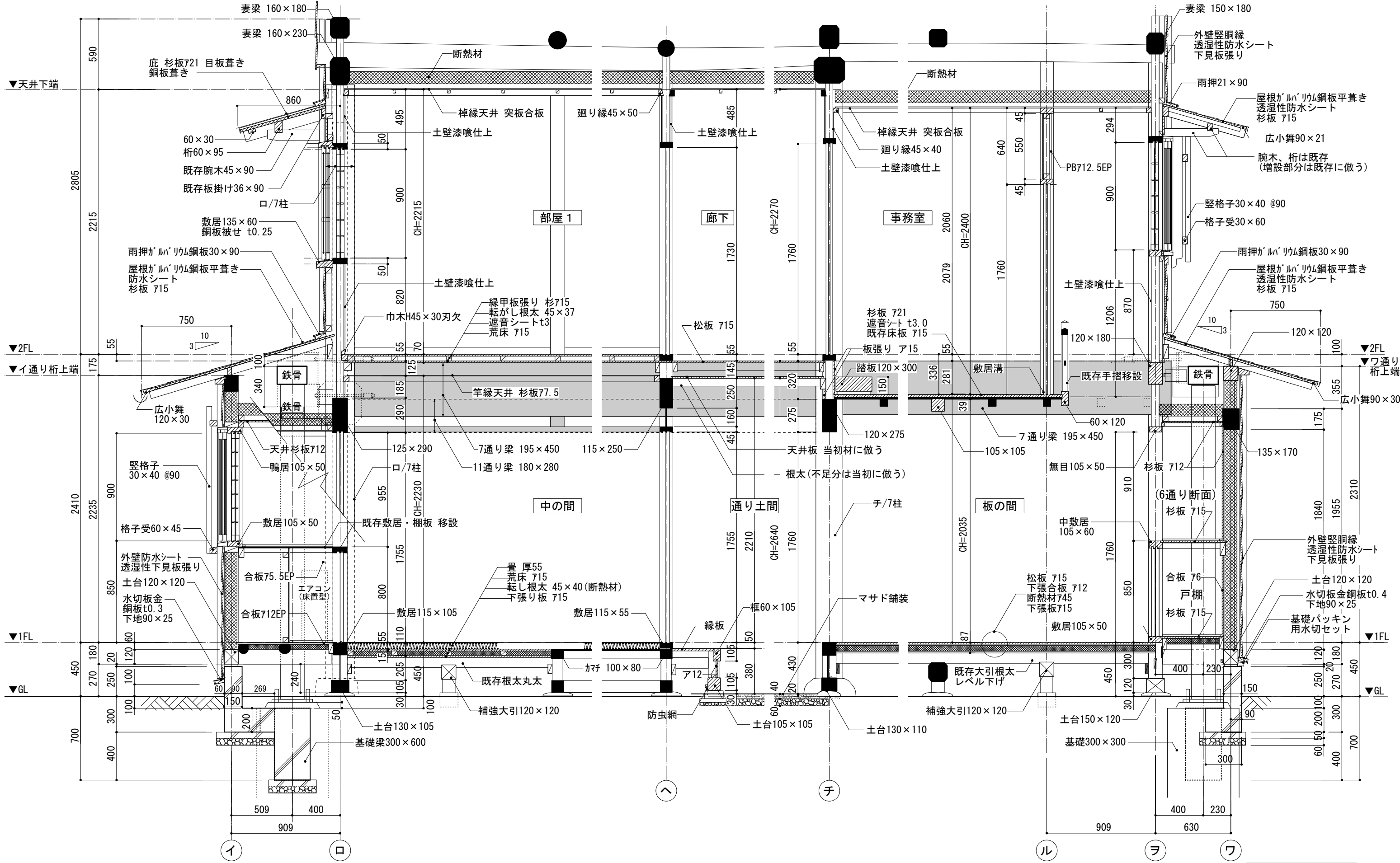


凡例

■ 既存材

▨ 新規材

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 断面詳細図-1 (階段・台所・通り土間) 縮尺 S = 1:20 図面番号 A-58
		管理技術者 市村康子		
		構造技術者 安達幸一		



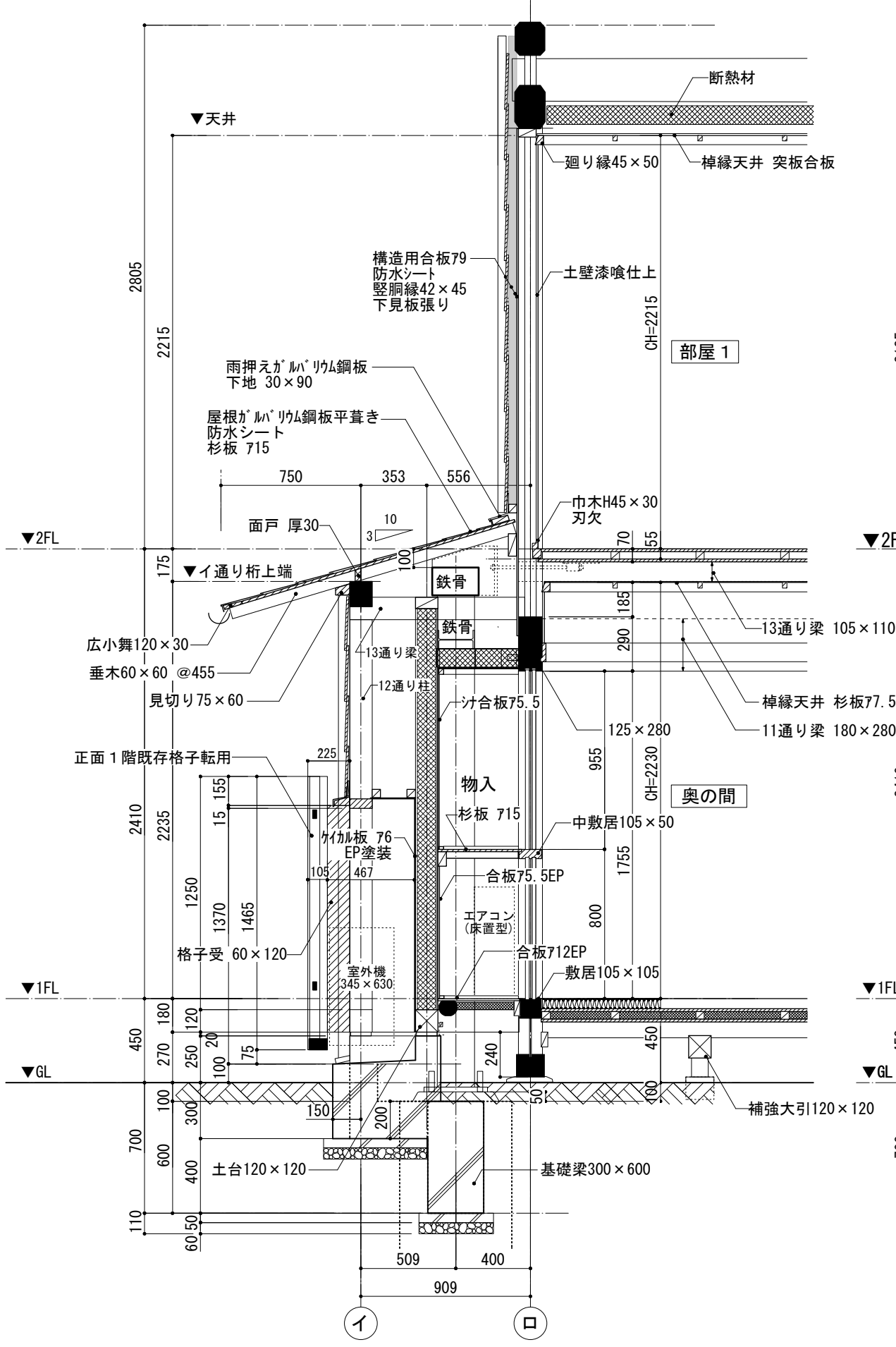
中の間 断面詳細図 S=1:20

板の間8通り 断面詳細図 S=1:20

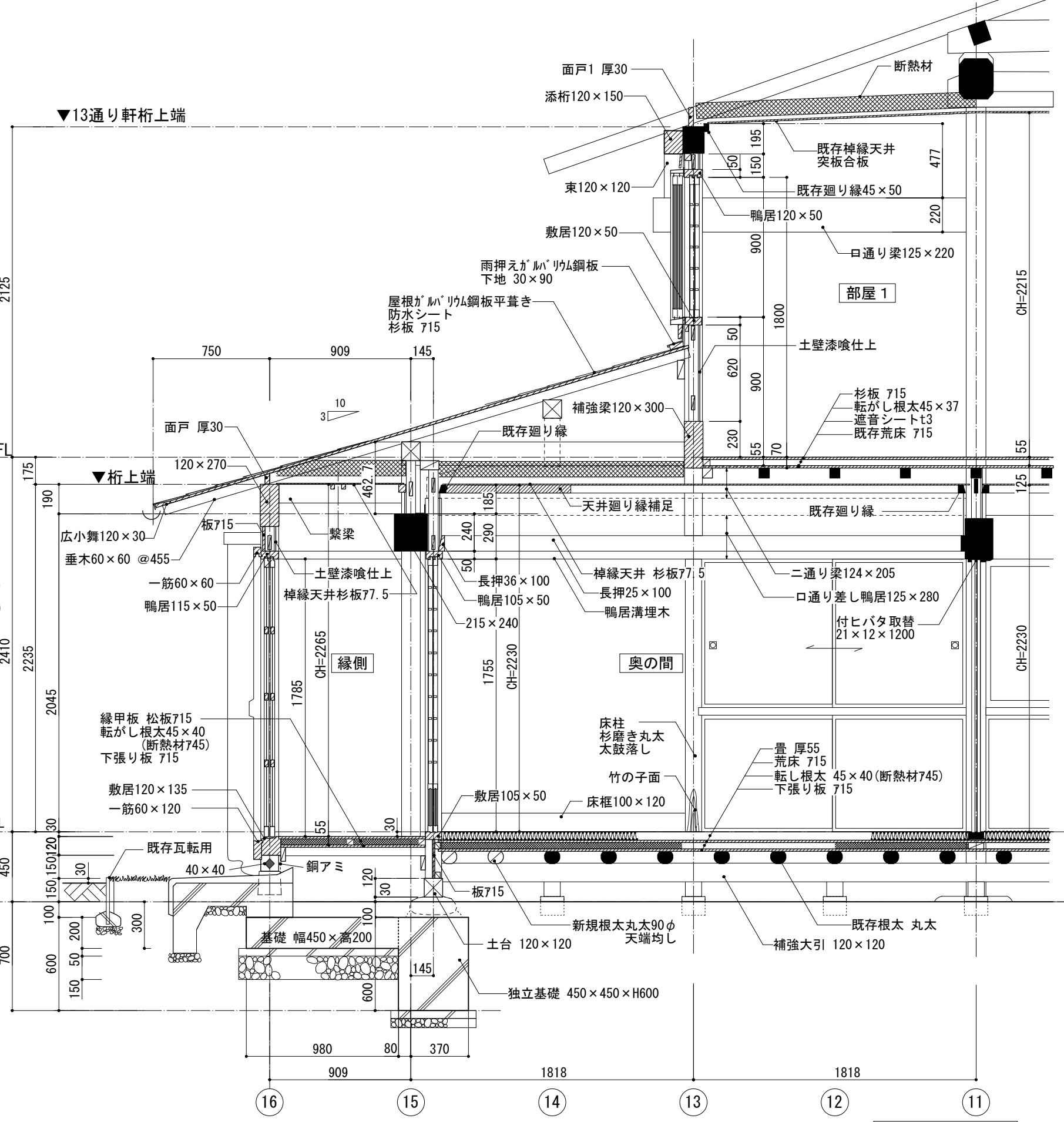
凡例

- 既存材
- ▨ 新規材

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 断面詳細図 - 2 (中の間・板の間8通り) 縮尺 S = 1:20	図面番号 A-59
		管理技術者 市村康子			
		構造技術者 安達幸一			



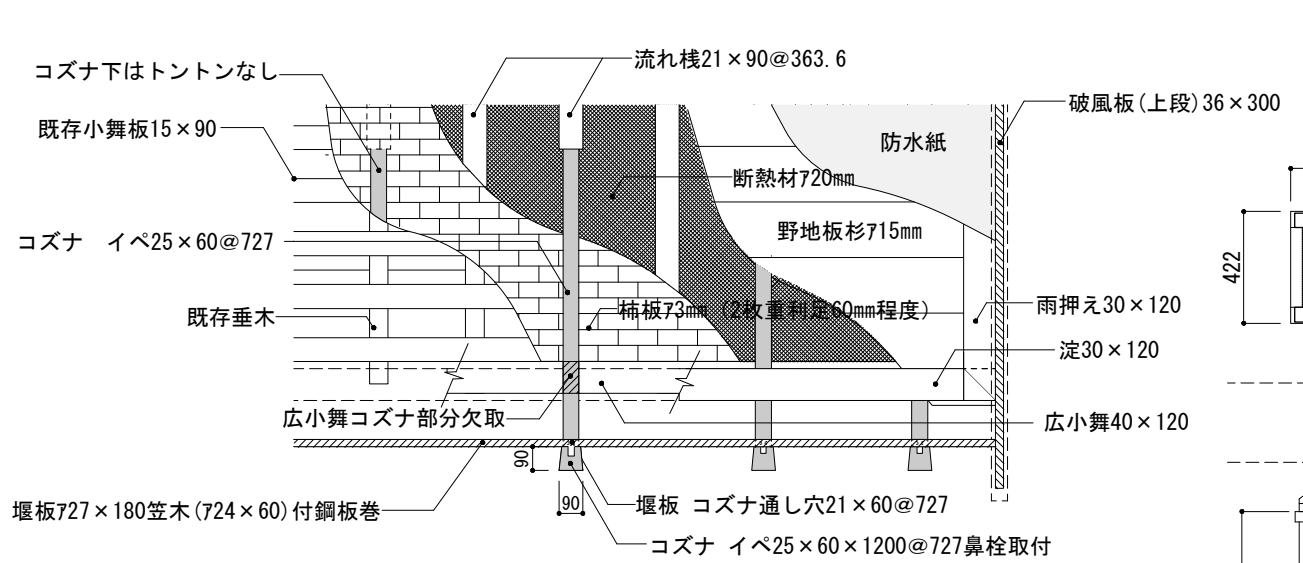
奥の間 断面詳細図-1 S=1:20



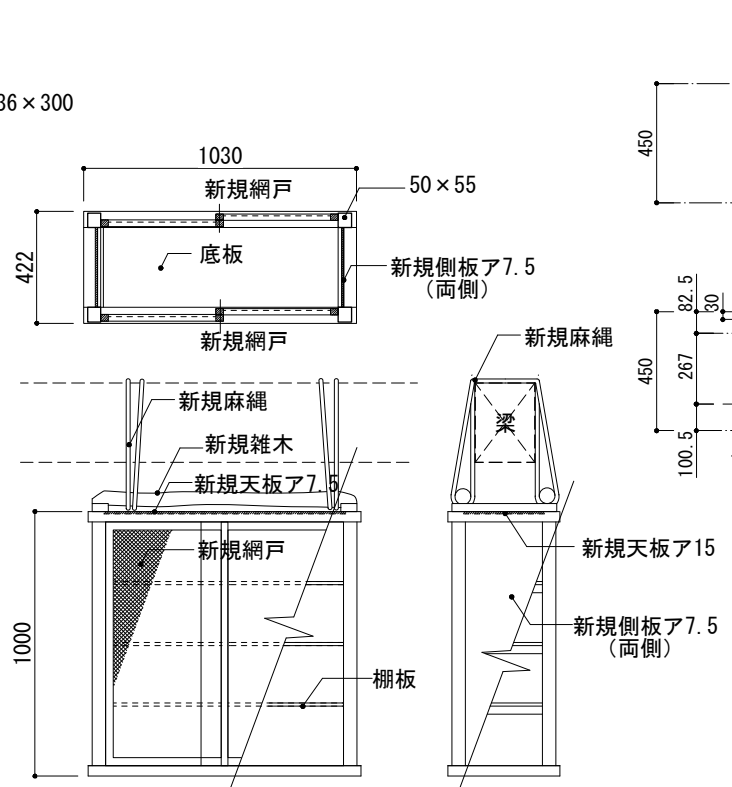
奥の間 断面詳細図-2 S=1:20

凡例 ■ 既存材  
 ▨ 新規材

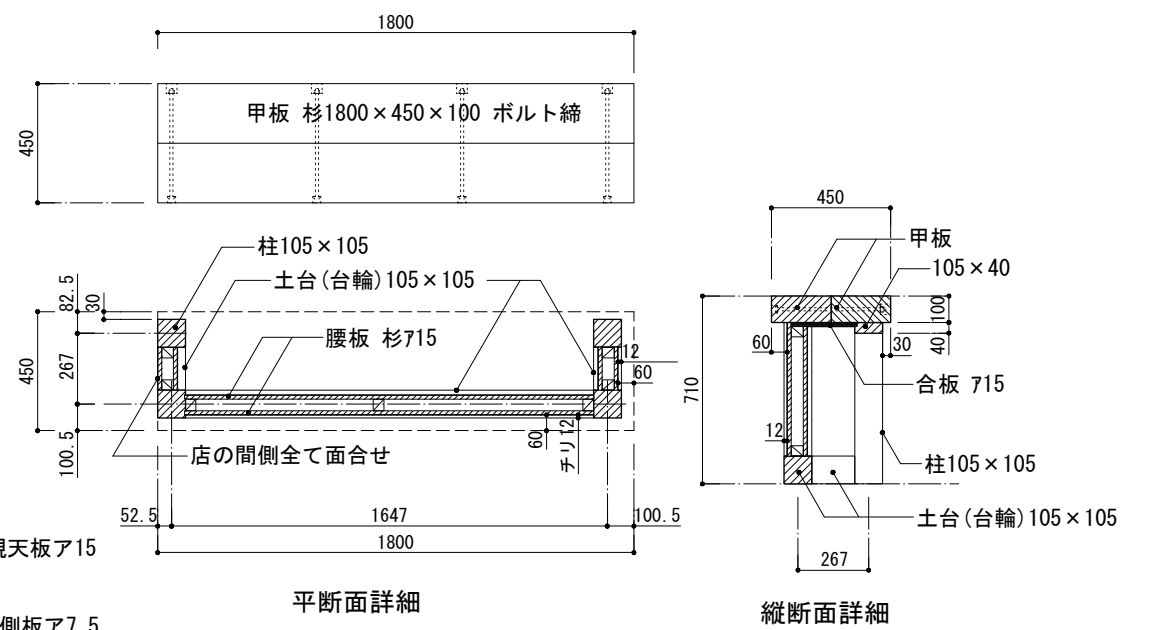
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男 管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 断面詳細図 - 3 (奥の間・部屋1) 縮尺 S = 1:20 図面番号 A-60
--	------	--	---	--



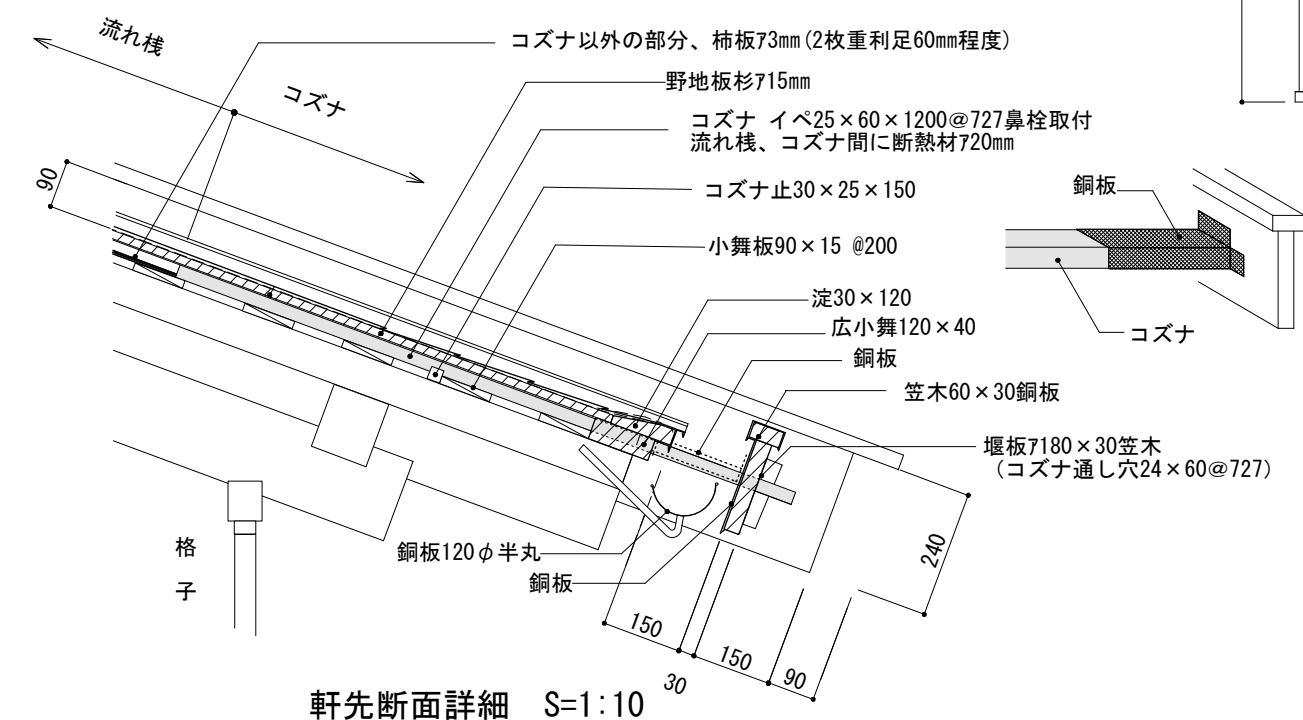
屋根下地平面詳細 S=1:20



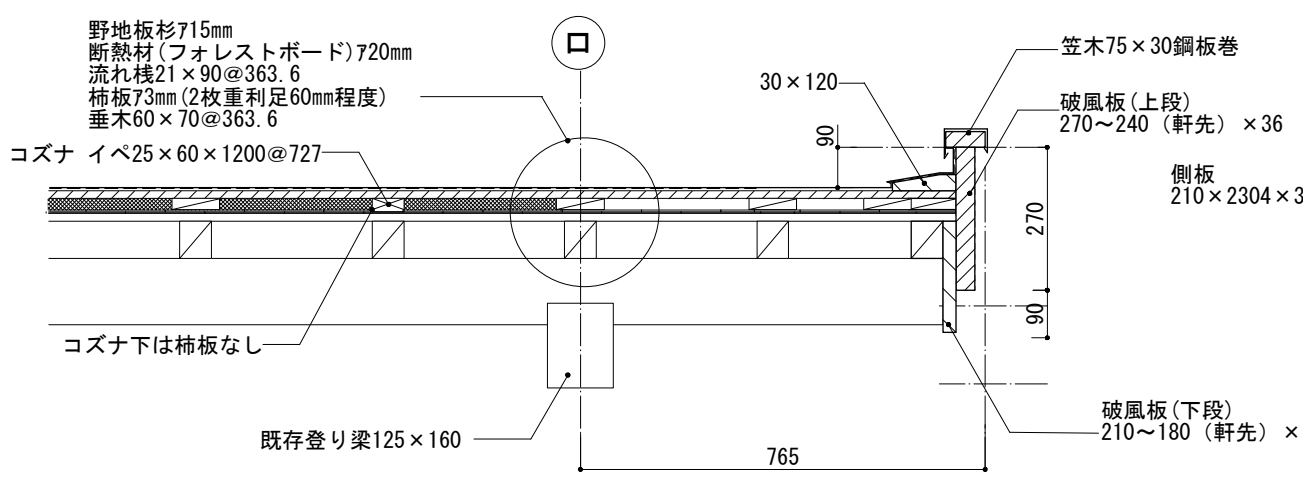
吊棚 (蠅帳) 詳細 S=1:20



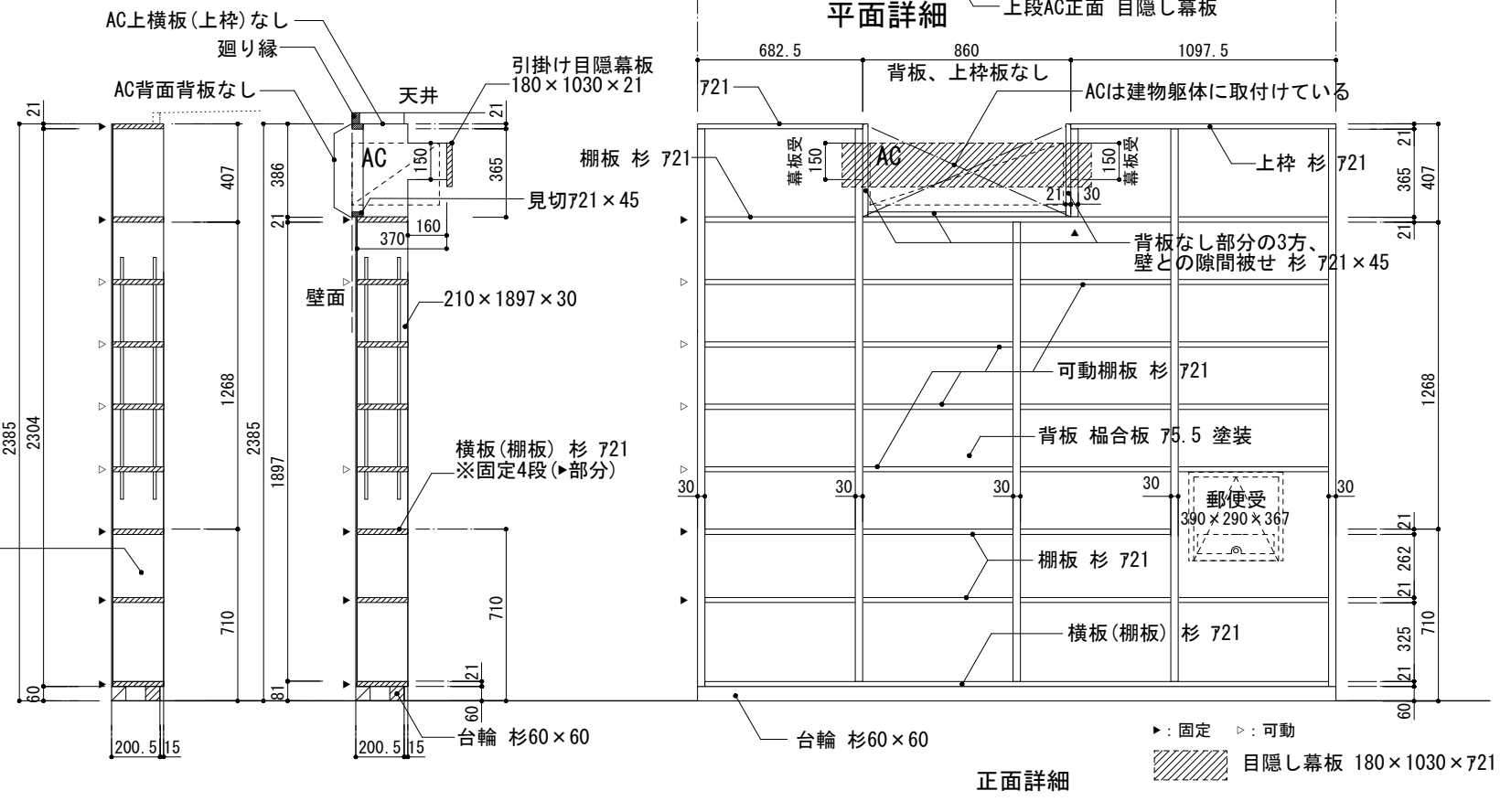
カウンター詳細図 S=1:20



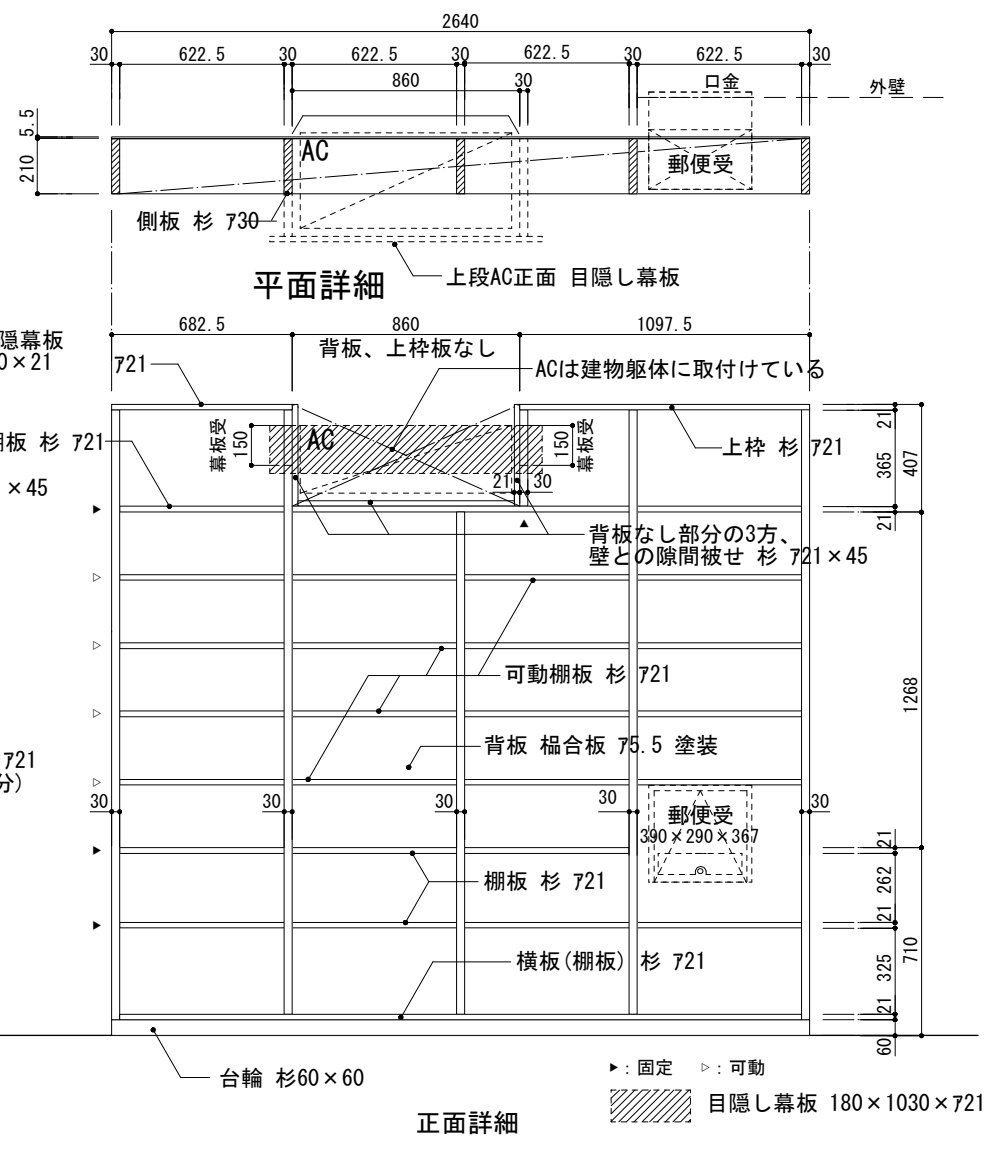
軒先断面詳細 S=1:10



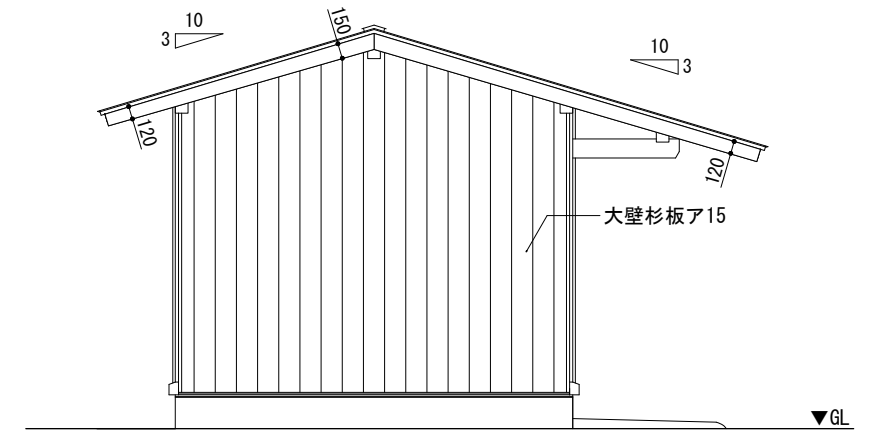
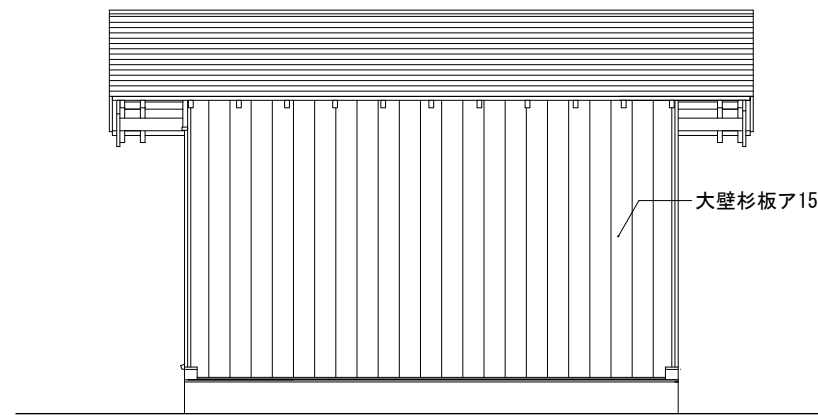
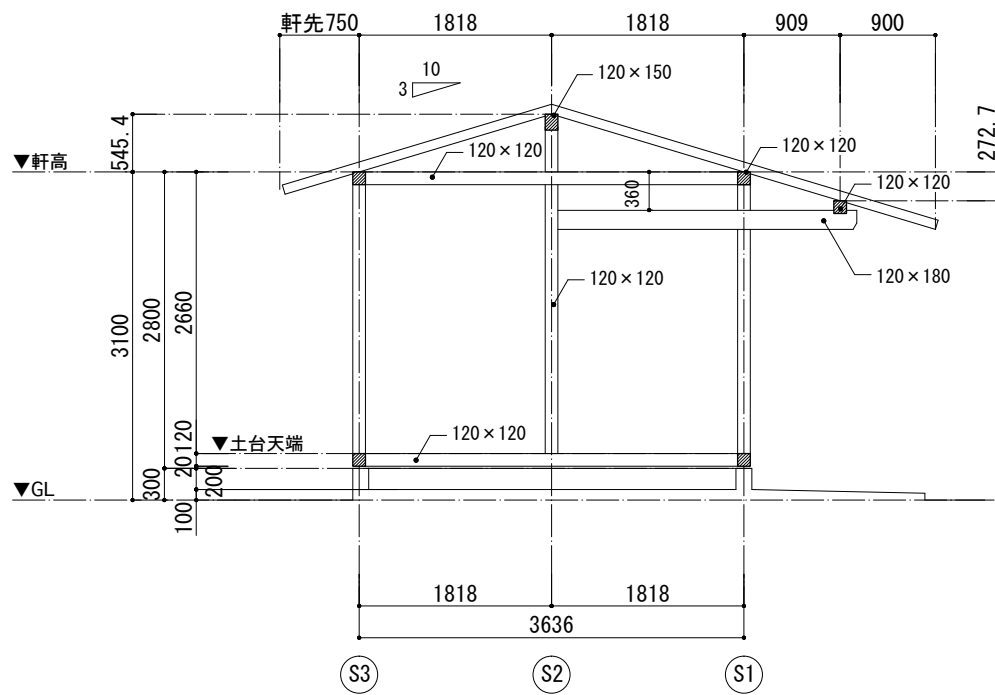
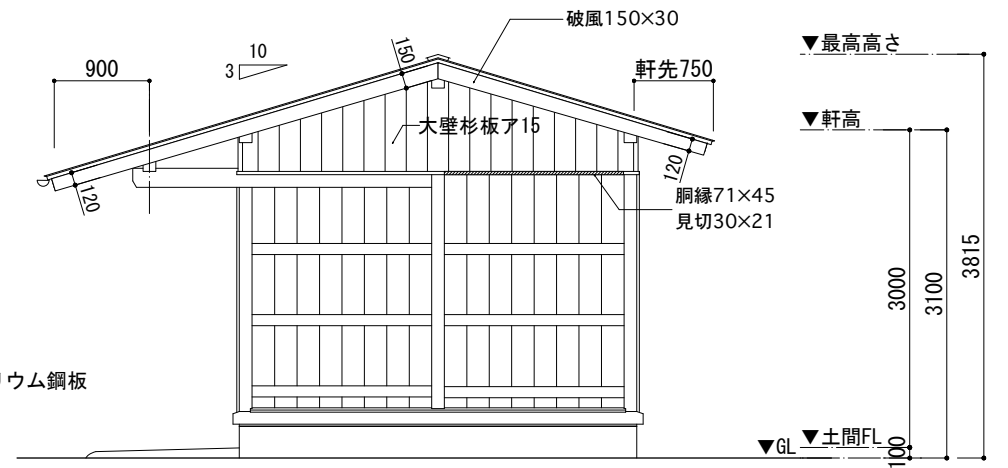
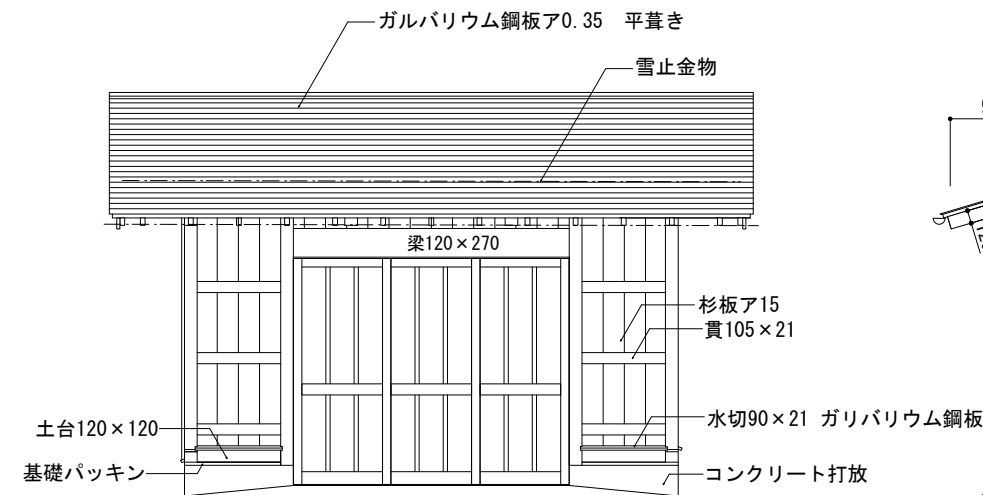
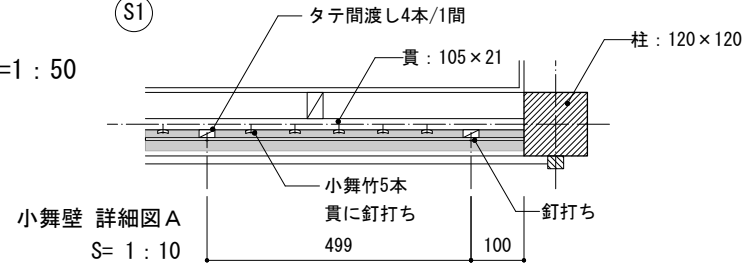
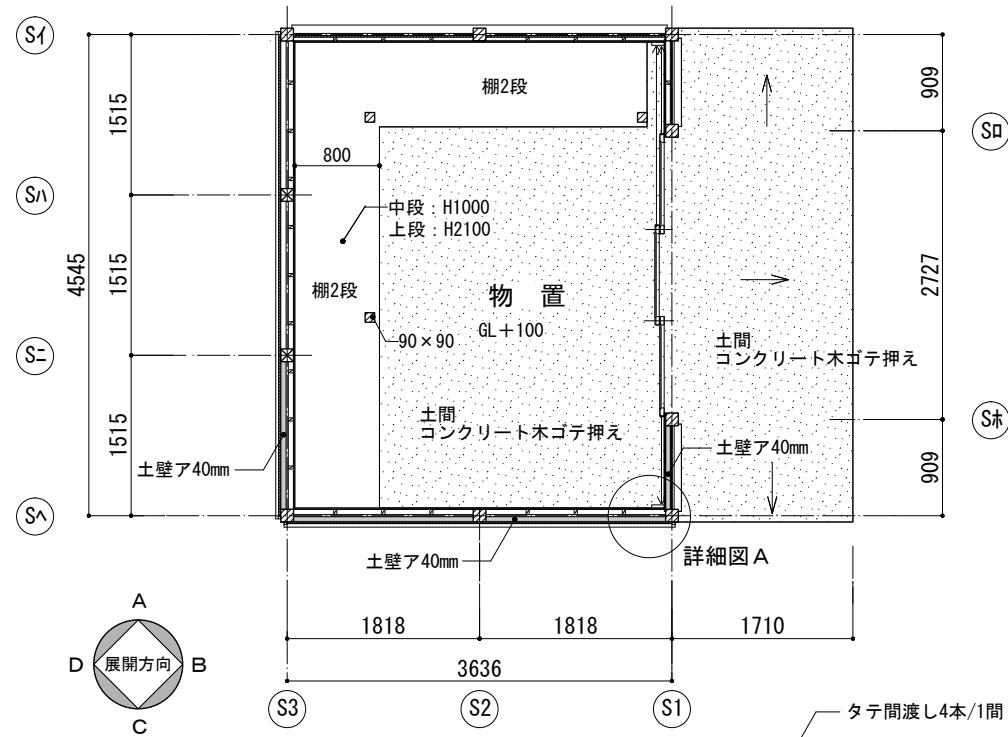
ケラバ断面詳細 S=1:10



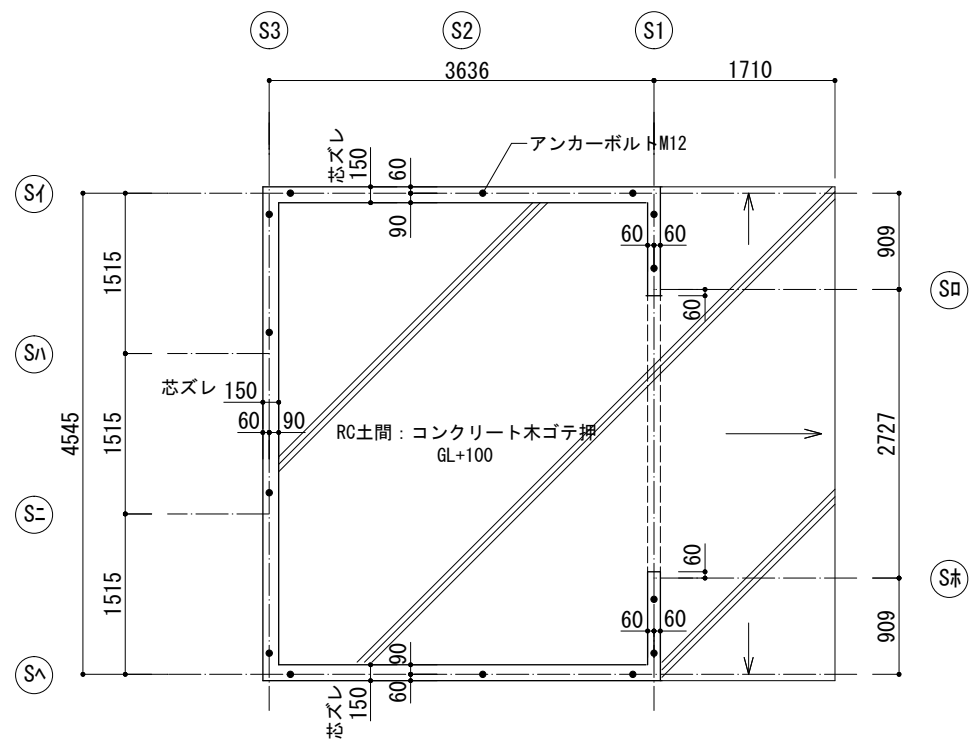
棚 詳細図 S=1:20



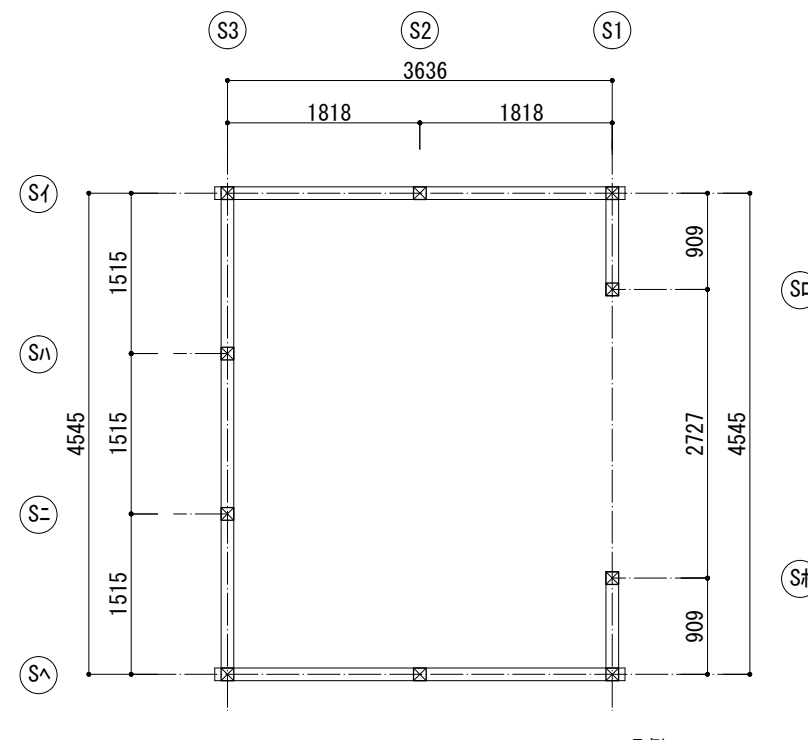
正面詳細



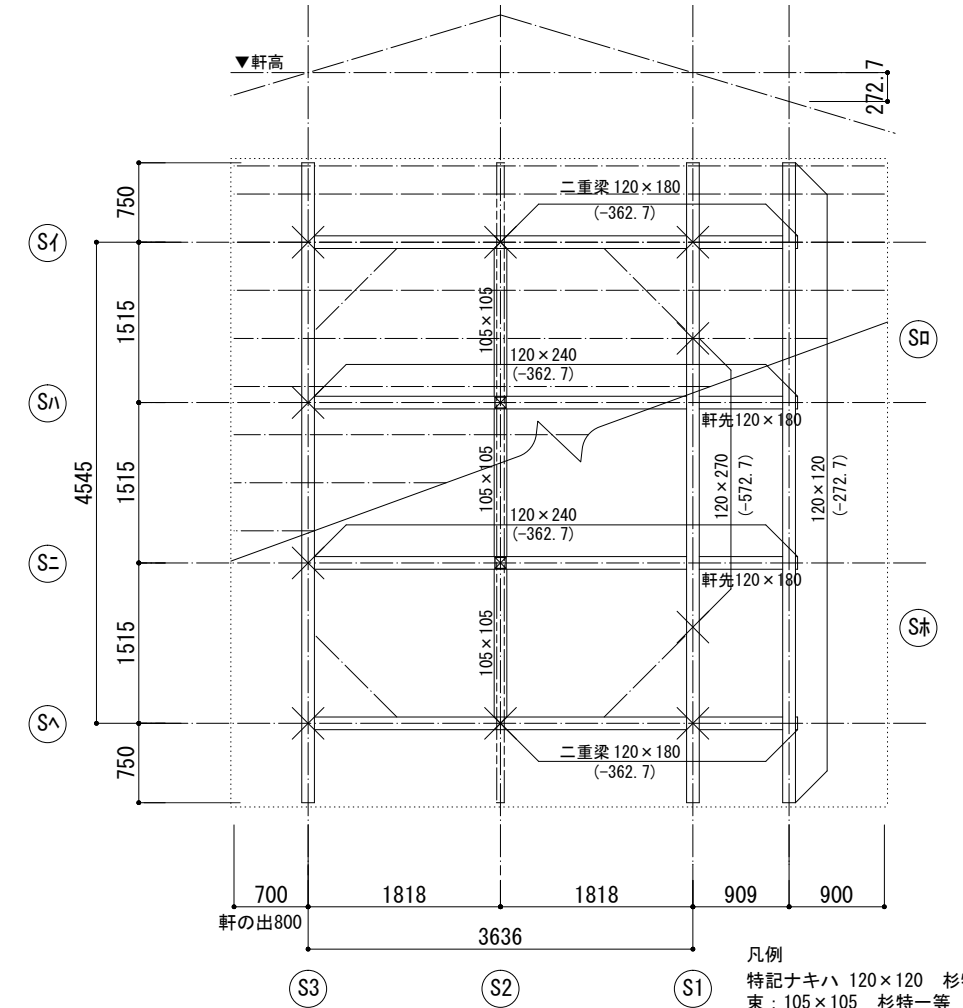
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 物置 平面図・立面図・軸組図	縮尺 S=1:50 図面番号 A-62
		管理技術者 市村康子			
		構造技術者 安達幸一			



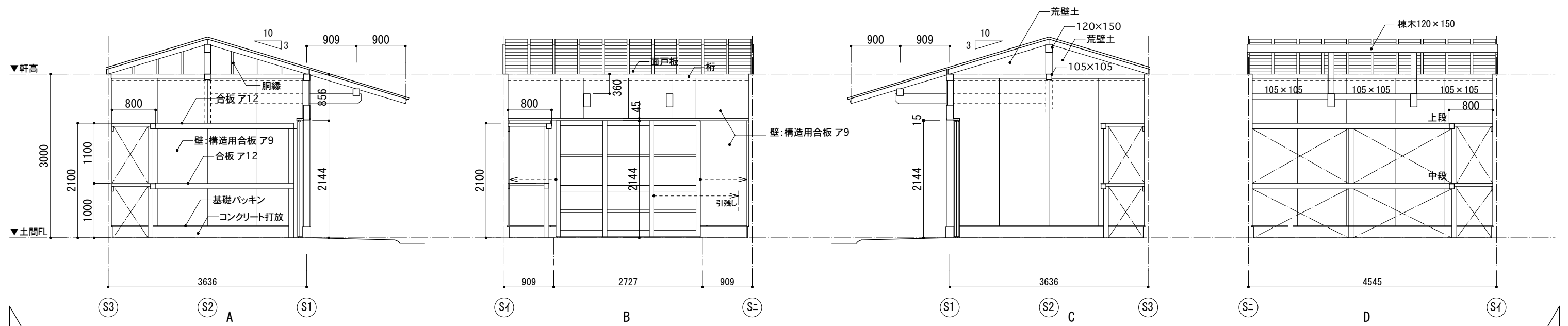
基礎伏図 S=1:50




土台伏図 S=1:50

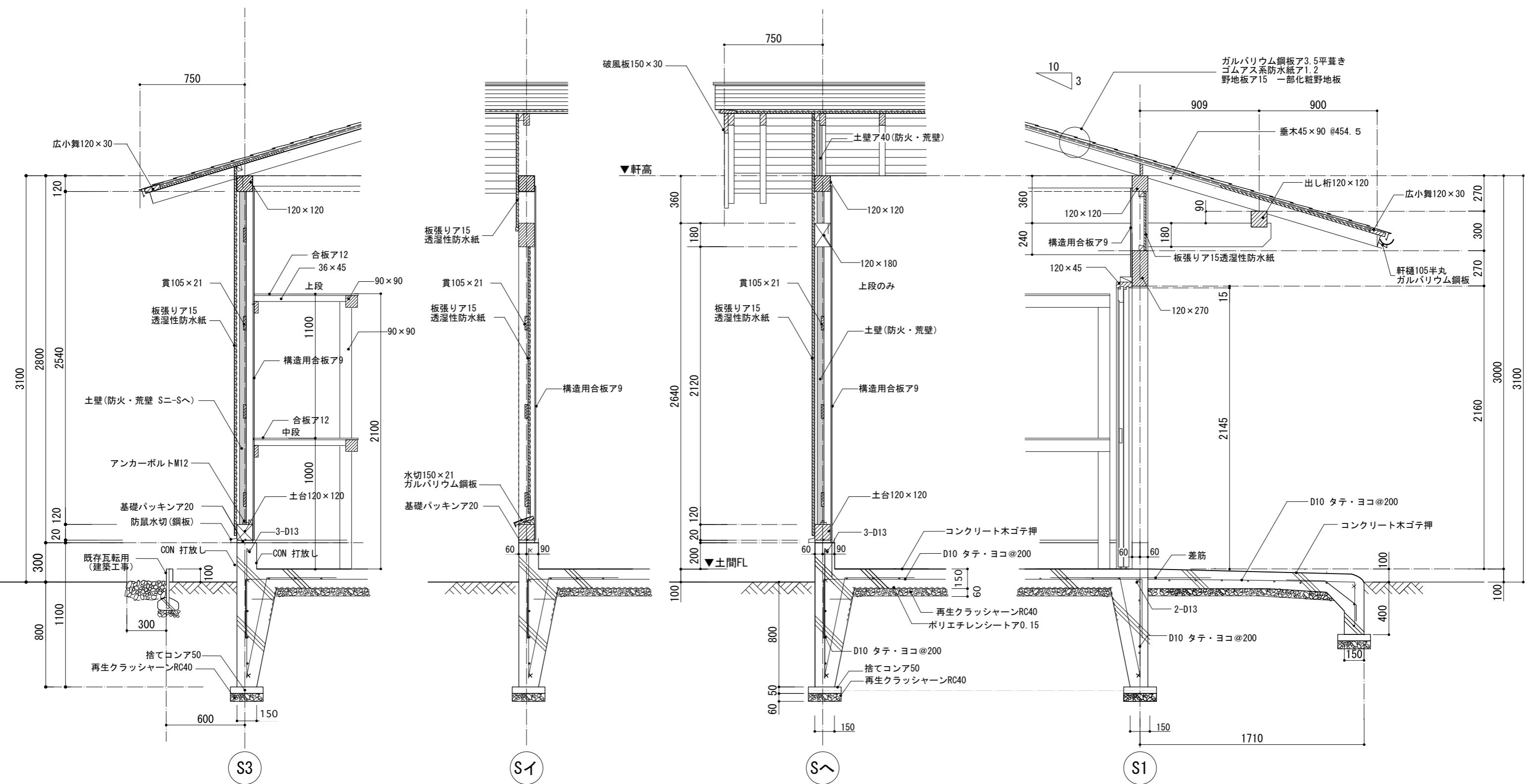


小屋伏図 S=1:50




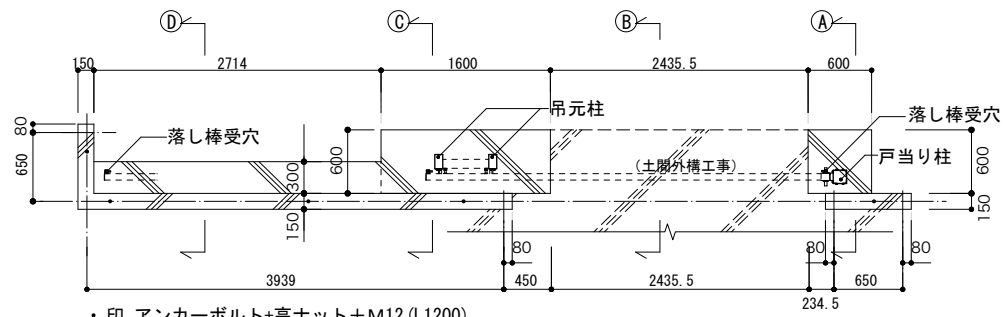
展開図 S=1:50

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 物置 基礎伏図・土台伏図・小屋伏図・展開図 縮尺 S=1:50	図面番号 A-63
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一			

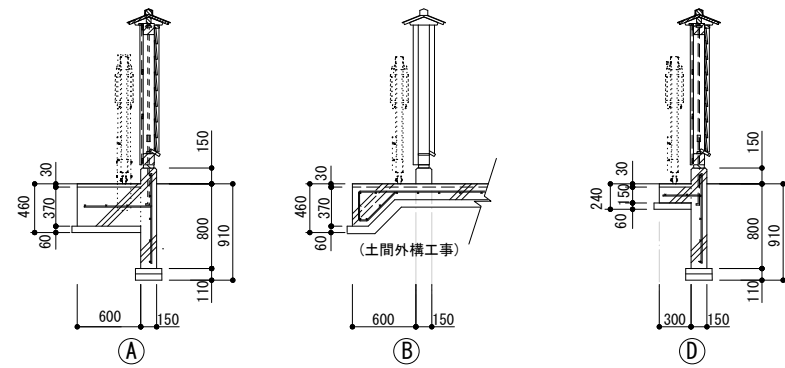


倉庫矩計詳細図 S=1:20

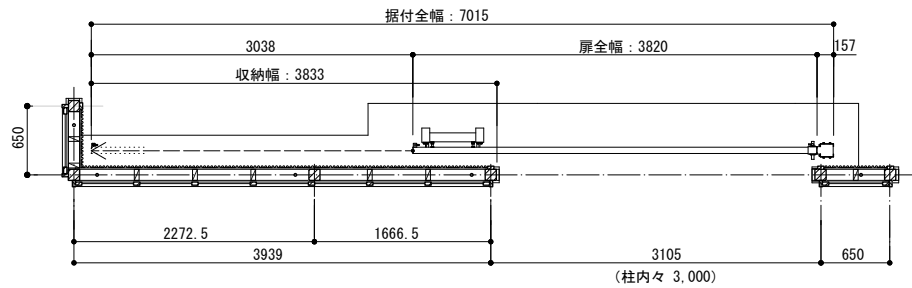
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	 軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 物置 矩計詳細図	縮尺 S = 1:20	図面番号 A-64
		管理技術者 市村康子				
		構造技術者 安達幸一				



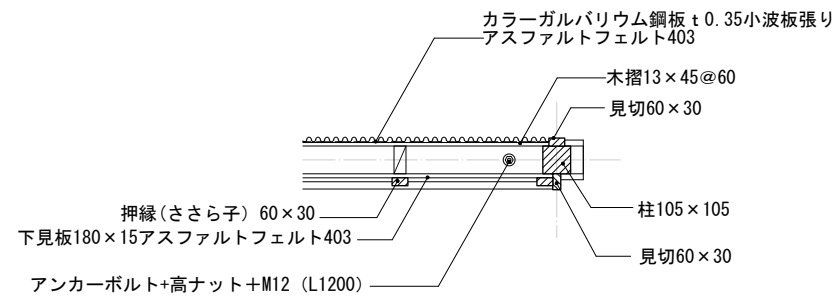
西側板塀基礎 伏図 S=1:50



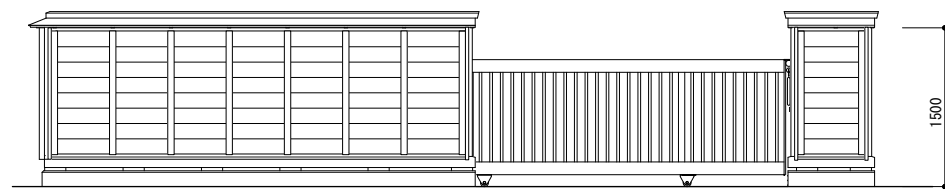
西側板塀基礎 断面図 S=1:50



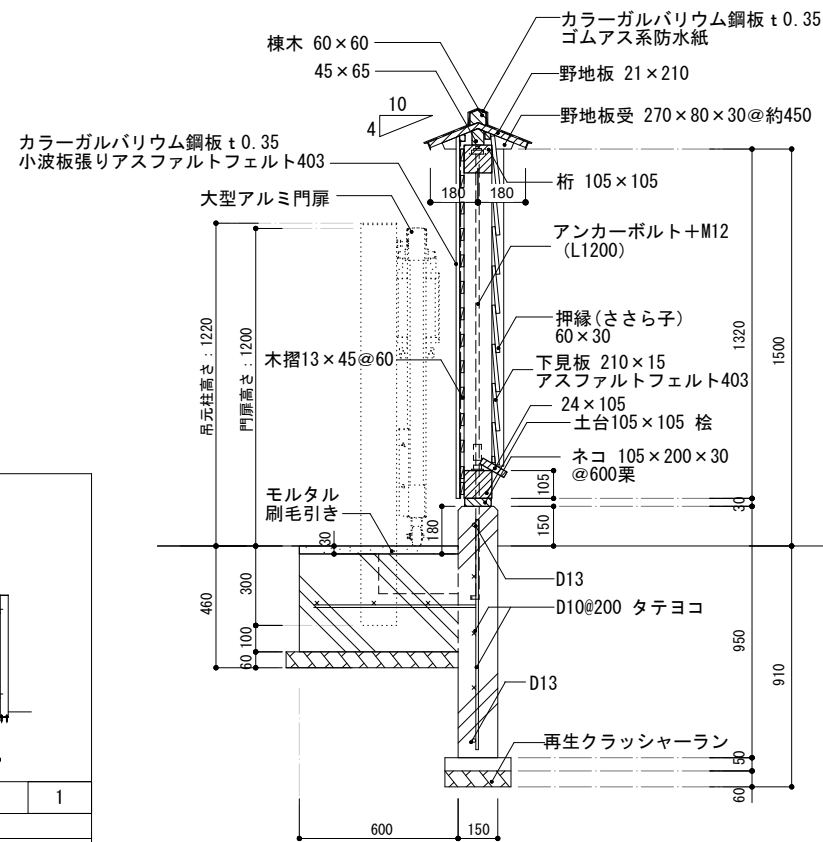
西側板塀・門扉 平面図 S=1:50



西側 平面詳細図 S=1:20

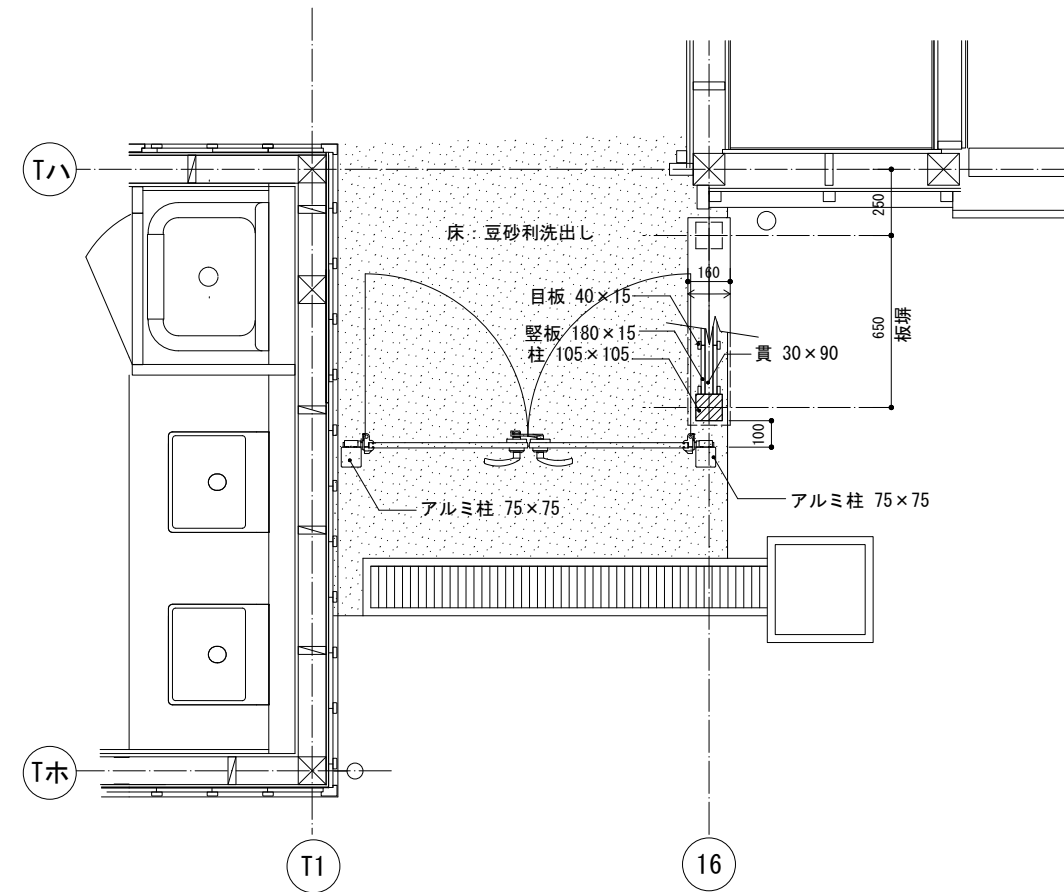


西側板塀 南側立面図 S=1:50

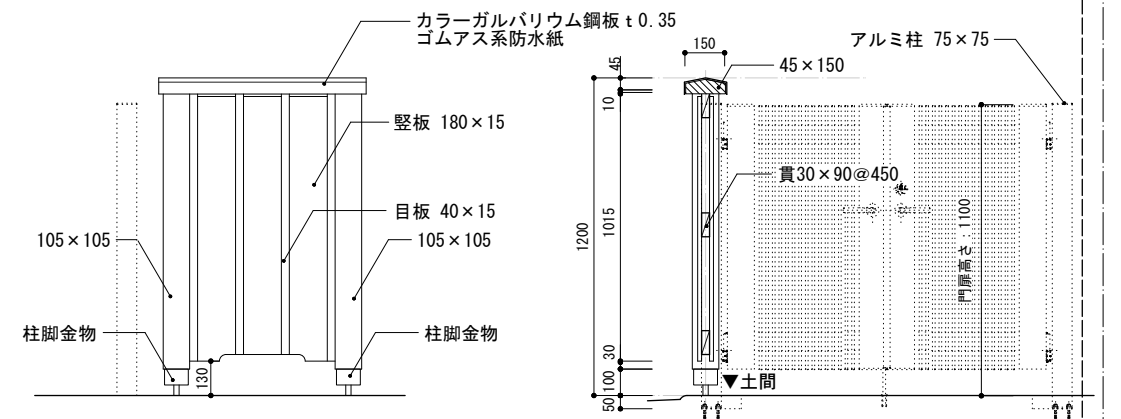


西側板塀断面詳細図(C) S=1:20

西側板塀・門扉 詳細図



トイレ横板塀 平面図 S=1:20



トイレ横板塀 立面図 S=1:20

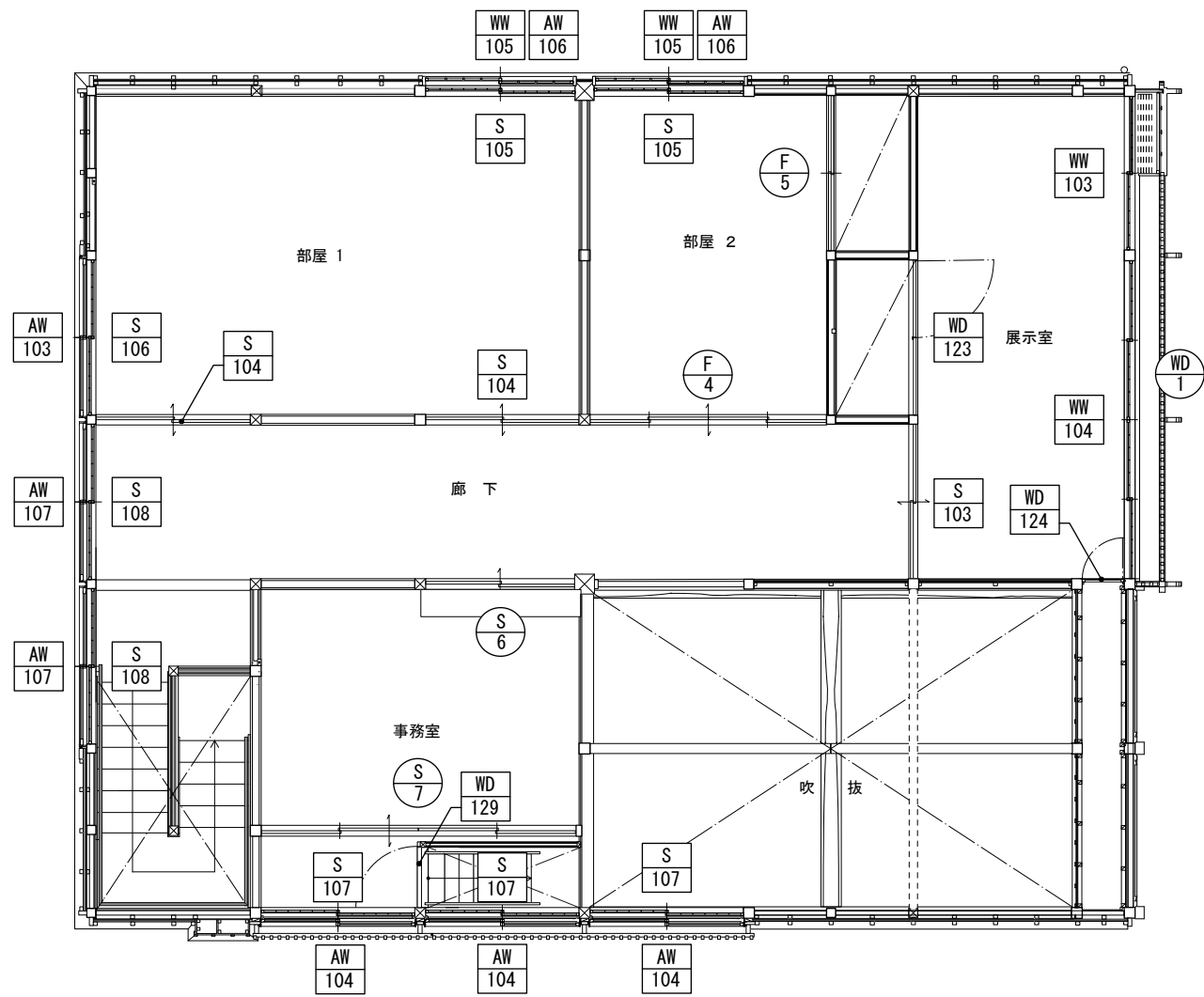
トイレ横板塀 断面図 S=1:20

凡例  
土台・柱105×105・貫 桧 特1等  
その他特記なきは 杉  
板、目板、下見板 杉上小

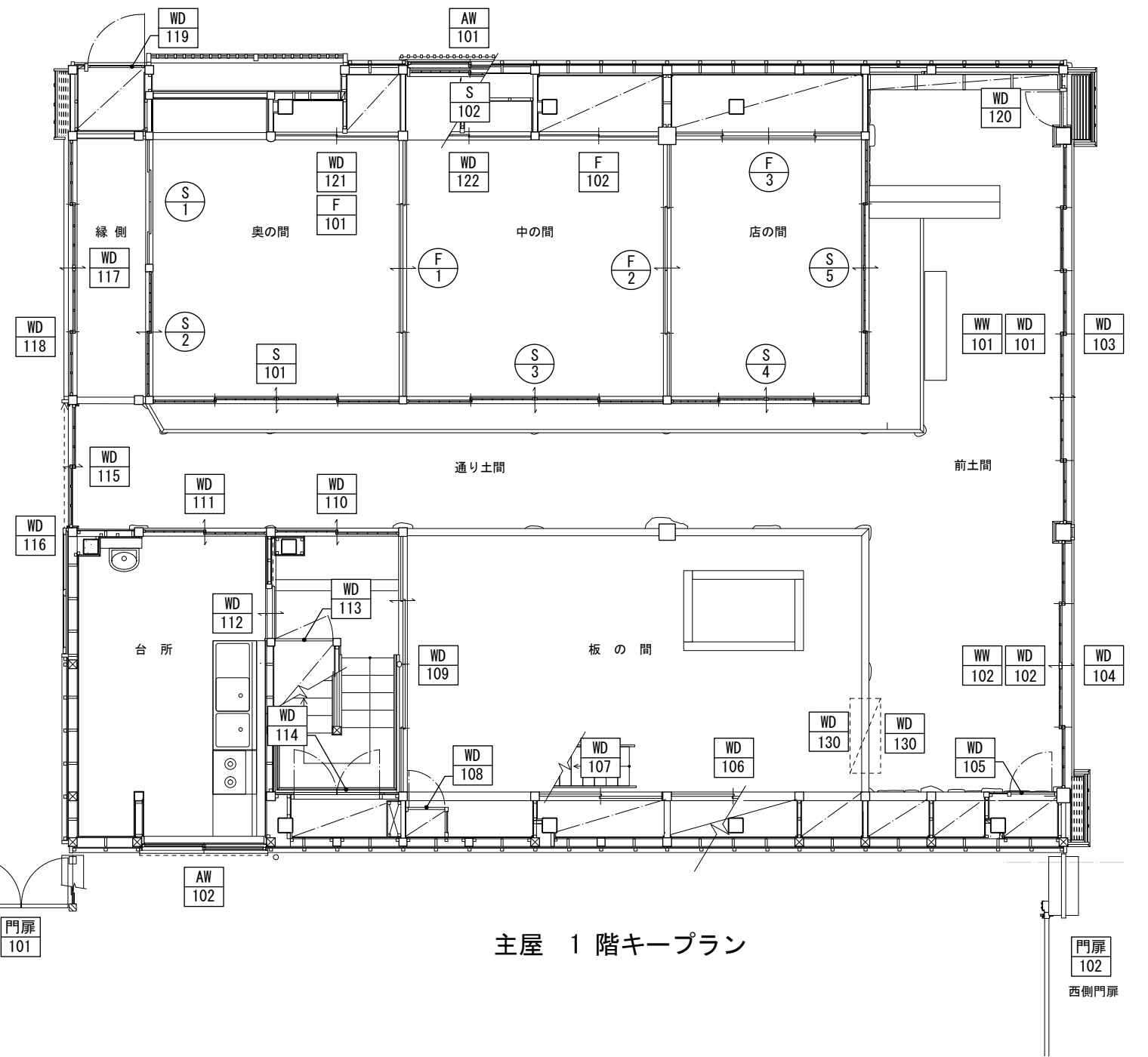
トイレ横板塀 門扉図

姿 図					
記 号	数量	門扉 - 101 新規	1	門扉- 102 新規	1
型 式		片引きアルミ門扉		両開きアルミ門扉	
場 所		西側板塀		トイレ横	
寸 法		3820×1200		1265(W600×2+65)×1000	
材質・仕上		アルミ ブラック		アルミ ブラック	
ガラス					
見 込					
金 物		鍵(両面シリンダー) 付属金物一式		鍵(駐車場側シリンダー) 付属金物一式	
新規金物					
備 考(同等品)		大型門扉 スケータラインNA1型、SKNA1A12R-3S (四国化成)		ブルーム門扉16型 MM7mm柱(四国化成)	

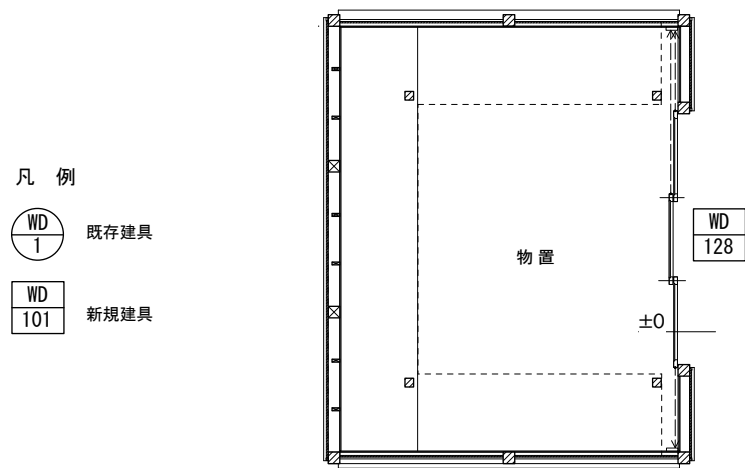
●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子		軽井沢町	総括技術者	大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事	図名 板塀・門扉等 詳細図	
			管理技術者	市村康子			場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568
			構造技術者	安達幸一			
						図面番号 A-65	



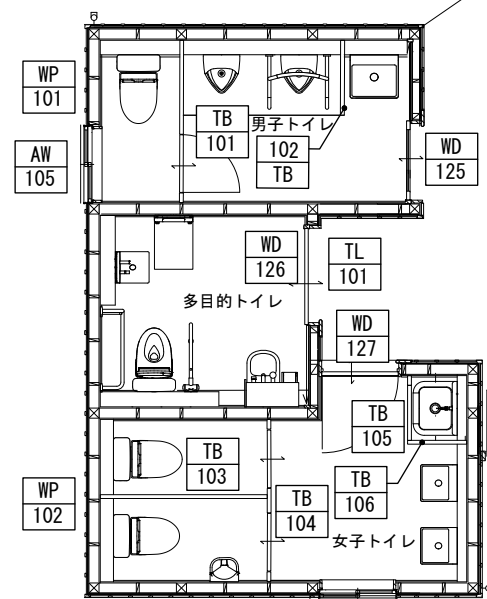
主屋 2階キープラン



主屋 1階キープラン



物置 キープラン



トイレ キープラン

- 凡例
- WD 1 既存建具
  - WD 101 新規建具

●● 協同組合 伝統技法研究会 一級建築士事務所 管理建築士 一級建築士 大臣登録 第235045号 市村康子	軽井沢町	総括技術者 大平茂男	工事名 令和8年度 町単 追分宿津軽屋保存修理工事 場所 津軽屋 北佐久郡軽井沢町大字追分568	図名 建具キープラン	縮尺 図面番号 A-66
		管理技術者 市村康子 構造技術者 安達幸一			

修理内容				
姿 図				
記 号	WD - 101	WD - 102	WD - 103	WD - 104
数量	1	1	1	1
型 式	6枚引違い障子戸	4枚引違い障子戸	6枚引き雨戸 (板戸)	4枚引き雨戸 (板戸)
場 所	前土間	前土間	前土間	前土間
寸 法	5454×1900	3636×1900	5454×1900	3636×1900
材質・仕上	杉・腰板 杉板目板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・腰板 杉板目板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板目板 ア7mm・浸透性防腐塗装	杉・板目板 ア7mm・浸透性防腐塗装
ガラス	フロストガラス5mm+障子紙	フロストガラス5mm+障子紙	ナシ	ナシ
見 込	36	36	30	30
金物/新規金物				
新規金物	ネジ締め錠4所・真鍮ベアリング戸車・真鍮T型埋込レール7mm	ネジ締め錠2所・真鍮ベアリング戸車・真鍮T型埋込レール7mm	真鍮コの字型レール	真鍮コの字型レール
備 考	黒檀木引手 8ヶ	黒檀木引手 8ヶ	上下サル	上下サル

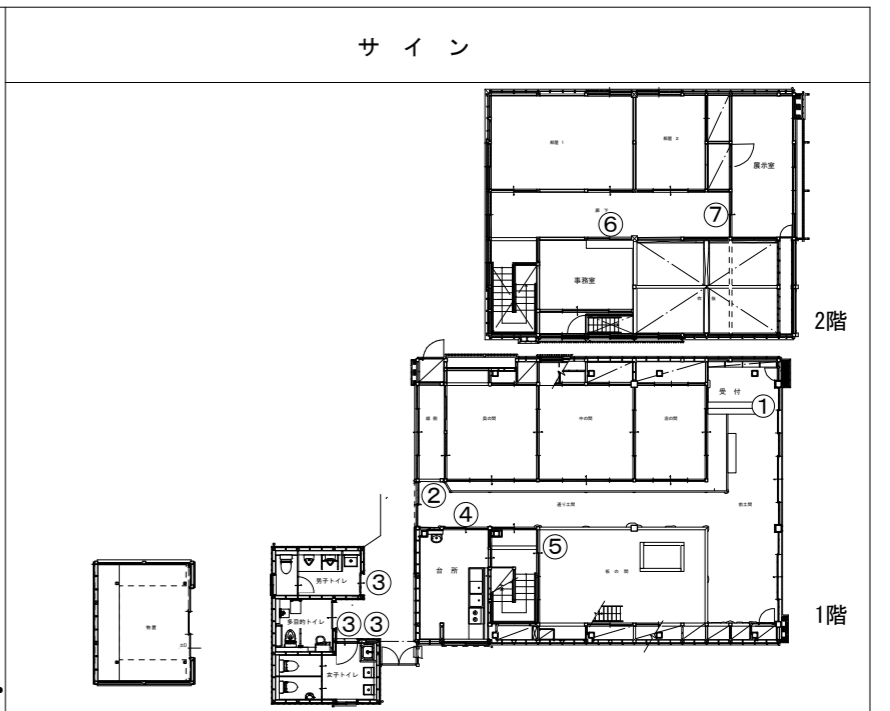
修理内容									
姿 図									
記 号	WD - 105	WD - 106	WD - 107	WD - 108	WD - 109	WD - 110	WD - 111	WD - 112	
数量	1	1	1	1	1	1	1	1	1
型 式	片開き板戸	引違い板戸	引違い舞良戸	片開き板戸	4枚引違い帯戸	引違い障子戸	引違い障子戸	片引きフラッシュ戸	
場 所	前土間 掃除具入	板の間	板の間	板の間 掃除具入	板の間	通り土間-階段	通り土間-台所	階段-台所	
寸 法	600×1700	1818×800	1818×1710	510×1710	3636×1790	1818×1800	1818×1800	750×1800	
材質・仕上	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉 シナ合板 75.5 EP	
ガラス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	
見 込	30	30	36	30	36	36	36	30	
金物/新規金物	丁番			丁番		真鍮ベアリング戸車・真鍮T型埋込レール7mm	引違い錠・真鍮ベアリング戸車・真鍮T型埋込レール7mm	掘込白引手両面・内締錠・真鍮ベアリング戸車	
新規金物								真鍮V型埋込レール12.2mm	
備 考	横サル取手	黒檀木引手 2ヶ所	黒檀木引手 2ヶ所	横サル取手	黒檀木引手 4ヶ	黒檀木引手 4ヶ	黒檀木引手 4ヶ・マスターキー	7mm換気グリッド付600×350	

修理内容									
姿 図									
記 号	WD - 113	WD - 114	WD - 115	WD - 116	WD - 117	WD - 118	WD - 119		
数量	1	1	1	1	1	1	1		
型 式	片開きフラッシュ戸	両開きフラッシュ戸	引違い障子戸	片引板戸	4枚引違いガラス戸	4枚引き雨戸 (板戸)	片開き板戸		
場 所	階段	階段	通り土間	通り土間	緑側	緑側	外物入		
寸 法	1650×800	1180×700	1818×1800	1730×1800	3636×1785	3636×1830	790×1815		
材質・仕上	杉 シナ合板 75.5 鳥の子張り	杉 シナ合板 75.5 鳥の子太鼓張り	杉・腰板 目板 ア7mm・古色オイル拭取	杉材・杉板目板 ア7mm・浸透性防腐塗装	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取	杉材・板目板 ア7mm・浸透性防腐塗装	杉・板目板 ア7mm・浸透性防腐塗装		
ガラス	ナシ	ナシ	フロストガラス5mm+障子紙	ナシ	透明ガラス3mm	ナシ	ナシ		
見 込	30	30	36	40	36	39	39		
金物/新規金物	丁番・掘込白引手・ローラー締め	5mm丁番厚厘サッシ付・フックつまみ 2ヶ所・ローラーキャッチ2ヶ所	引違い錠・真鍮ベアリング戸車	静音引手錠錠(リッパ/4ヶ所)・47mmドール 真鍮ベアリング戸車・真鍮T型埋込レール7mm	ネジ締め錠2所・真鍮ベアリング戸車・真鍮丸丸レール 3本	真鍮フラットバー	本締錠・丁番・アームストップ		
新規金物									
備 考			棒引手 L1500 両面・マスターキー	黒檀木引手・マスターキー	黒檀木引手 4ヶ 木製網戸 (杉) 2本	上下サル	横サル取手・マスターキー		

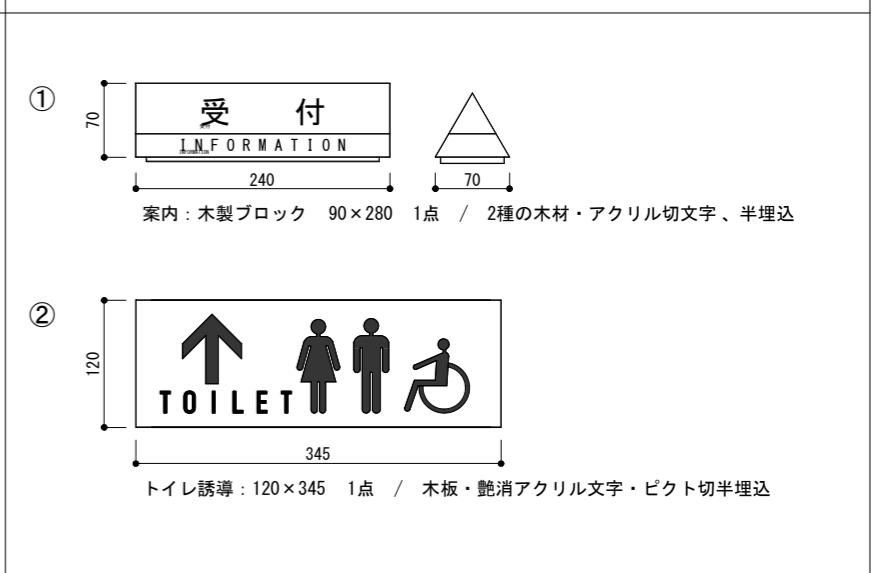
修理内容											
姿 図											
記 号	WD - 120 新規	WD - 121 新規	WD - 122 新規	WD - 123 新規	WD - 124 新規	WD - 125 新規	WD - 126 新規	WD - 127 新規	WD - 128 新規		
数 量	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
型 式	片開き板戸	引違い片ガラリ片板戸	引違い片ガラリ片板戸	片開き片引きフラッシュ戸	開き板戸	片引き板戸	片引き板戸	片開き板戸	3枚引違い板戸		
場 所	前土間 戸袋	奥の間 AC.押入	中の間	2階 展示室	2階 展示室	トイレ棟 男子トイレ	トイレ棟 多目的トイレ	トイレ棟 女子トイレ	物置棟 物置		
寸 法	500×1760	1818×755	1818×755	1818×755	460×1450	850×2000	1010×2000	800×2000	2680×2145		
材 質・仕上	杉・板 ア7mm・古色オイル拭取(表面)	杉 左側ガラリ/右側鳥の子張り/古色塗	杉 右側ガラリ/左側鳥の子張り/古色塗	杉 シナ合板 75.5 EP	杉 シナ合板 75.5 和紙貼り	杉・杉板 ア12mm・浸透性防腐塗装	杉・杉板 ア12mm・浸透性防腐塗装	杉・杉板 ア12mm・浸透性防腐塗装	杉・構造用合板ア9mm・浸透性防腐塗装		
ガ ラ ス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	型板ガラス5mm	型板ガラス5mm	型板ガラス5mm	ナシ		
見 込	30	30	30	30	30	36	36	36	36		
金物/新規金物	丁番	襖引手	襖引手	スライド丁番重量キャッチ付黒 3ヶ所・フックつまみ・垢込引手	スライド丁番重量キャッチ付黒2ヶ所・フックつまみ	静音引戸錠錠(シリンダー/空)・引手両面 真鍮ベアリング戸車・真鍮T型埋込レール7mm	大型非常開装置付表示装置と大型サムターン 静音引戸錠錠(シリンダー/空)・引手両面 自動閉止吊戸金物 付属金物一式	本締錠(シリンダー/空)・引手両面 丁番3ヶ所・ドアクローザー	SUS貫抜・南京錠・SUS大型引手・SUSフランス落しL300 2ヶ ステンレスベアリング戸車・ステンレスレール埋込T型2本		
備 考	横サル取手	ガラリの内に空調機内蔵	ガラリの内に空調機内蔵			マスターキー	マスターキー	マスターキー	マスターキー		
修理内容											・建付調整、釘の打直し ・再塗装
姿 図	その他は既存の手摺を転用 										
記 号	WD - 129 新規	WD - 130 新規	WW - 101 新規	WW - 102 新規	WW - 103 新規	WW - 104 新規	WW - 105 新規	WW - 106 新規	WW - 107 新規	WD - 1 修理	
数 量	1	2	3	2	1	1	2	2	3	1	
型 式	開き柵戸	引違い網戸	はめ殺し障子窓	はめ殺し障子窓	引違いガラス窓	引違いガラス窓	引違いガラス窓	引違いガラス窓	引違い障子	雨戸(板戸)5枚	
場 所	2階前室	板の間吊棚(縄張)	前土間	前土間	2階 展示室 出格子	2階 展示室 出格子	2階 部屋1 部屋2	2階 部屋1 部屋2	2階 事務室廊下・吹抜	2階 展示室 出格子	
寸 法	650×570	900×920	1818×200	1818×200	1818×1200	3636×1200	1818×925	4250×1190	1818×700	4250×1190	
材 質・仕上	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 古色オイル拭取	杉 障子紙・古色オイル拭取	杉 片面と大手塗装 浸透性木材保護塗料	
ガ ラ ス	ナシ	ナシ	フロストガラス5mm	フロストガラス5mm	型板ガラス5mm	型板ガラス5mm	型板ガラス5mm	型板ガラス5mm			
見 込	45	30	30	30	30	30	30	30			
金物/新規金物	丁番・マグネットキャッチ	黒檀木引手2ヶ所			ネジ締め錠	ネジ締め錠	ネジ締め錠	ネジ締め錠		真鍮丸丸レール・真鍮ベアリング戸車	
新規金物		真鍮金網			真鍮ベアリング戸車・真鍮丸丸レール	真鍮ベアリング戸車・真鍮丸丸レール					
備 考	既存の階段の手摺を一部利用						アルミ網戸(鋼製建具表参照 AW-106)			横桟と縦柵に緩みあり締め直し調整	
修理内容											
姿 図											
記 号	S - 101 新規	S - 102 新規	S - 103 新規	S - 104 新規	S - 105 新規	S - 106 新規	S - 107 新規	S - 108 新規	S - 109 新規	S - 110 新規	
数 量	1	1	1	2	2	1	3	2	3	2	
型 式	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	引違い障子	
場 所	奥の間 通り土間	中の間	2階 展示室 廊下	2階 部屋1 廊下	2階 部屋1 部屋2	2階 部屋1	2階 事務室廊下・吹抜	2階 廊下・階段	2階 廊下・階段	2階 廊下・階段	
寸 法	3636×1755	1818×900	1818×1730	1818×900	1818×900	1818×900	1818×700	1818×700	1818×700	1818×700	
材 質・仕上	杉・腰板 ア7mm・障子紙	杉・障子紙	杉・腰板 ア7mm・障子紙	杉・腰板 ア7mm・障子紙	杉・障子紙	杉・障子紙	杉・障子紙・古色オイル拭取	杉・障子紙	杉・障子紙	杉・障子紙	
ガ ラ ス											
見 込	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	
金物/新規金物											
新規金物											
備 考	黒檀木引手 4ヶ		黒檀木引手 4ヶ	黒檀木引手 4ヶ							

修理内容	・建付調整、清掃 ・縦樞木、組子破損補修15ヶ所 ・古色オイル拭取 ・障子紙張替		・建付調整、清掃 ・組子破損補修15ヶ所・古色オイル拭取 ・障子紙張替・引手取付		・建付調整、清掃 ・組子破損補修10ヶ所・古色オイル拭取 ・障子紙張替・引手取付		・建付調整、清掃 ・組子破損補修10ヶ所・古色オイル拭取 ・障子紙張替・引手取付		・建付調整、清掃 ・組子破損補修10ヶ所・古色オイル拭取 ・障子紙張替・引手取付		金物リスト 全て同等品				
姿 図											本締錠(シ/空) U9 DN-2 (CB)美和ロック	2			
記 号	数量	S - 1 修理	1	S - 2 修理	1	S - 3 修理	1	S - 4 修理	1	S - 5 修理	1	静音引戸錠錠(シ/サ)U9 FG3-1(CB)美和ロック	1		
型 式	4枚引違い障子欄間付き		引違い障子		引違い障子		引違い障子		引違い障子		静音引戸錠錠(シ/空)U9 FG3-2(CB)美和ロック		2		
場 所	奥の間-縁側		奥の間-縁側		中の間-通り土間		店の間-通り土間		店の間-前土間		大型非常開装置付表示装置 U9 FG3-8BG(CB) 大型サマタン 美和ロック		1		
寸 法	1818×1120+410		1818×1760		3636×1760		3636×1760		3636×1760		引違戸錠(シ/サ) U9 SL99-1V(DB) 美和ロック		2		
材質・仕上	杉 障子紙 古色オイル拭取		杉 障子紙 古色オイル拭取		杉 障子紙 古色オイル拭取		杉 障子紙 古色オイル拭取		杉 障子紙 古色オイル拭取		南京錠 U9APL 美和ロック		1		
ガラス	ナシ		ナシ		ナシ		ナシ		ナシ		美和ロック U9の鍵はマスターキーを作成		8		
見 込	24		30		30		30		30		内締錠 NO. 542 ベスト		1		
金 物											ネジ締め錠 477-B BY 堀金物		16		
新規金物											堀込引手 MHD-240 マッドブラック MARUKI		1		
備 考			黒檀木引手 4ヶ		黒檀木引手 4ヶ		黒檀木引手 4ヶ		黒檀木引手 4ヶ		黒檀木引手 W-960-7 MARUKI		71		
修理内容	・建付調整、清掃 ・縦樞木、組子取替、古色オイル拭取 ・障子紙張替・錠、引手取付		・建付調整、清掃 ・組子取替、古色オイル拭取 ・障子紙張替・錠、取手取付								堀込白引手 スカイ引手 白塗装 105 アトム		3		
姿 図											ブッシュつまみ PK04DN スガツネ		4		
記 号	数量	S - 6 修理	1	S - 7 修理	1							ローラー締め S-320 HL アトム	1		
型 式	引違い障子戸		4枚引違い障子								襖引手 真鍮 黒 No. 350 (寸法105) ベスト		14		
場 所	2階 部屋1-廊下		2階 事務室								自動閉止吊戸金物 LM-80 スガツネ 他一式		1		
寸 法	1818×1730		3636×1800								引手(トイレ)両面 L524黒 AGH-T500BL スガツネ		2		
材質・仕上	杉 障子紙 古色オイル拭取		杉 障子紙 古色オイル拭取								引手(トイレ)両面 L374黒 AGH-T350BL スガツネ		4		
ガラス	ナシ		ナシ								貫抜 SUS貫抜 木製用 杉田エース		1		
見 込	30		30								SUS304大型引手 No. 995 ベスト		1		
金 物											SUSフランス落 L300 SUS門落とし MOS-270M杉田エース		2		
新規金物	ネジ締め錠		ネジ締め錠 2ヶ所								ケアハンドル No. 997D オークブラウン ベスト		1		
備 考	黒檀木引手 4ヶ所		棒引手 L1500 両面								真鍮ベアリング戸車		64		
修理内容					・建付調整、清掃 ・緑塗装補修 ・襖紙張替		・建付調整、清掃 ・上縁欠損理木・縦縁欠損補修・緑塗装補修 ・襖紙張替		・建付調整、清掃 ・緑塗装補修 ・襖紙張替		SUSベアリング戸車		6		
姿 図													真鍮丁番	20	
記 号	数量	F - 101 新規	1	F - 102 新規	1	F - 1 修理	1	F - 2 修理	1	F - 3 修理	1	F - 4 修理	1	F - 5 修理	1
型 式	引違い襖戸		引違い襖戸		4枚引違い襖戸		4枚引違い襖戸		4枚引違い襖戸		4枚引違い襖戸		引違い襖戸		
場 所	奥の間 押入		中の間 押入		奥の間-中の間		中の間-店の間		店の間 押入		2階 部屋2-廊下		2階 部屋2 押入		
寸 法	1818×955		1818×1755		3636×1735		2727×1755		2727×1755		2727×1730		1818×1730		
材質・仕上	杉・古色オイル拭取・鳥の子紙		杉・カシュー塗・鳥の子紙		杉・カシュー塗・鳥の子(両面)		杉・カシュー塗・鳥の子(両面)		杉・カシュー塗・鳥の子(片面)		杉・カシュー塗・鳥の子(両面)		杉・カシュー塗・鳥の子(片面)		
ガラス	ナシ		ナシ		ナシ		ナシ		ナシ		ナシ		ナシ		
見 込	30(見付縁幅)		30(見付縁幅)		30		30		30		30		30		
金物/新規金物													新規襖引手に取替・襖引手 8ヶ		
備 考	襖引手 2ヶ		襖引手 2ヶ												

修理内容					
姿 図					
記 号	AW - 101 新規	AW - 102 新規	AW - 103 新規	AW - 104 新規	AW - 105 新規
数量	1	1	1	3	2
型 式	引違いガラス窓	引違いガラス窓	引違いガラス窓	引違いガラス窓	引違いガラス窓
場 所	中の間	台所	2階 部屋1	2階 事務室廊下	男子トイレ・女子トイレ
寸 法	1720×900	1720×900	1720×900	1720×900	740×700
材質・仕上	アルミ・硬質塩ビ複合サッシ	アルミ・硬質塩ビ複合サッシ	アルミ・硬質塩ビ複合サッシ	アルミ・硬質塩ビ複合サッシ	アルミ・硬質塩ビ複合サッシ
ガラス	型板複層ガラス	型板複層ガラス	透明複層ガラス	透明複層ガラス	型板複層ガラス
見 込	88	88	88	88	88
金 物	付属金物一式・水切 幅70・網戸	付属金物一式・水切 幅70・網戸・格子	付属金物一式・水切 幅70・網戸	付属金物一式・水切 幅70・網戸	付属金物一式・水切 幅70・網戸・格子
新規金物					
備 考					



修理内容						17240	
姿 図							門扉については、板塀・門扉等詳細図 A-65を参照
記 号	AW - 106 新規	AW - 107 新規	WP - 101 新規	WP - 102 新規	TL - 101 新規	門扉 - 101.102 新規	
数量	2	2	1	1	1		
型 式	片引きアルミ網戸	引違いガラス窓	FIX窓	FIX窓	FIX天窓		
場 所	2階 部屋1・部屋2	2階 廊下・階段	男子トイレ	女子トイレ	トイレ前 天井		
寸 法	850×925	1720×700	1740×520	1675×651~1153	546×695		
材質・仕上	アルミ オータムブラウン	アルミ・硬質塩ビ複合サッシ	木製押縁	木製押縁	アルミ+木製		
ガラス	ナシ	透明複層ガラス	複層ポリカポネート ア10mm	複層ポリカポネート ア10mm	複層ガラス Low-E強化3ミリ+G8		
見 込		88			+透明網入6.8ミリ		
金 物	アルミレール他、ピンチブロック	付属金物一式・水切 幅70・網戸			付属金物一式・水切		
新規金物							
備 考	WW-105用 網戸						

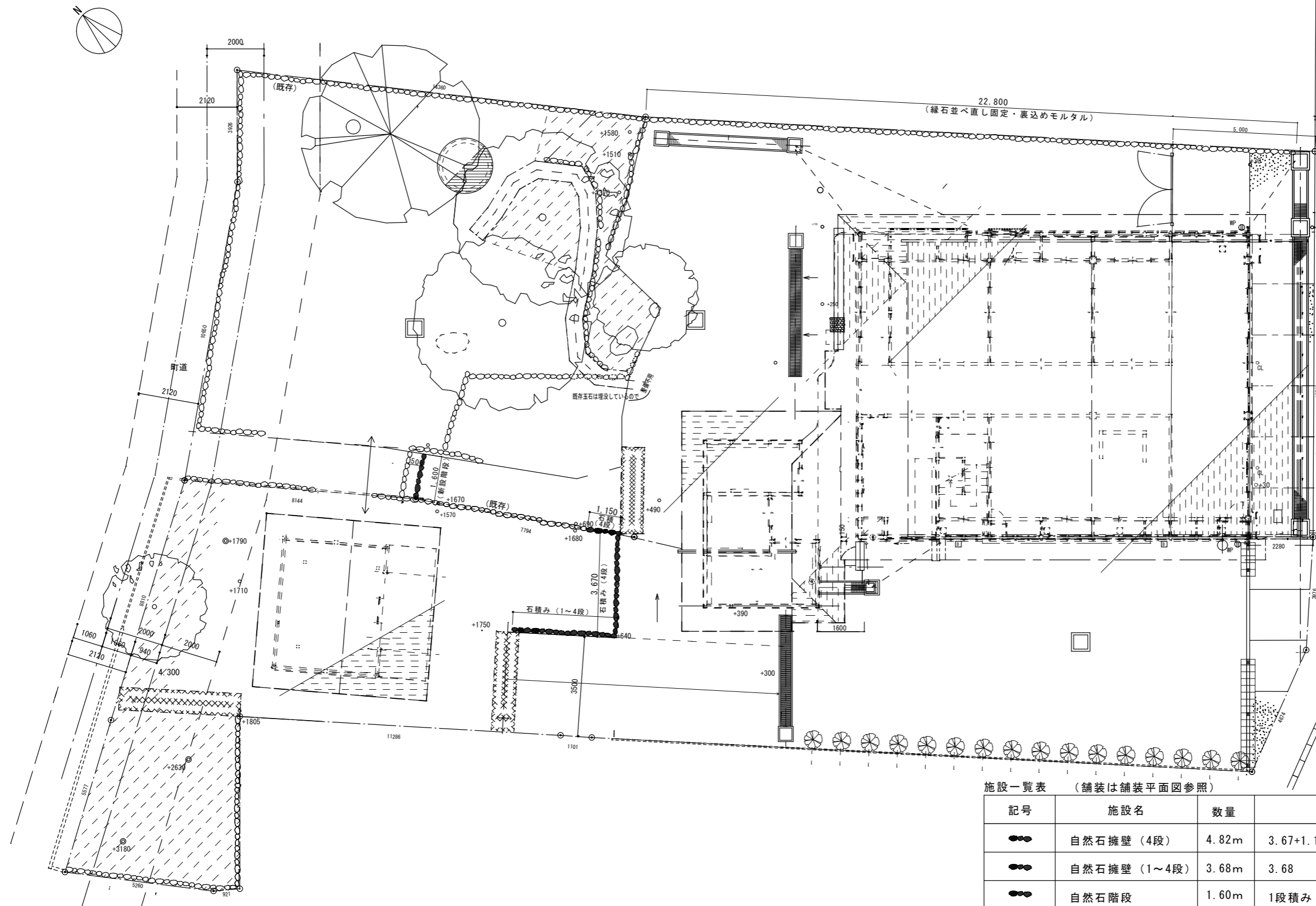


トイレブース

姿 図						
記 号	TB - 101 新規	TB - 102 新規	TB - 103 新規	TB - 104 新規	TB - 105 新規	TB - 106 新規
数量	1	1	1	1	1	1
型 式	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース	トイレブース
場 所	男子トイレ	男子トイレ	女子トイレ	女子トイレ	女子トイレ	女子トイレ
寸 法	1680×2000	790×1600	1735×2000	1680×2000	675×2000	650×2000
材質・仕上	メラミン化粧板・ステンレス・7mm	メラミン化粧板・ステンレス・7mm	メラミン化粧板・ステンレス・7mm	メラミン化粧板・ステンレス・7mm	メラミン化粧板・ステンレス・7mm	メラミン化粧板・ステンレス・7mm
見 込	40	40	40	40	40	40
金 物	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式
備 考						





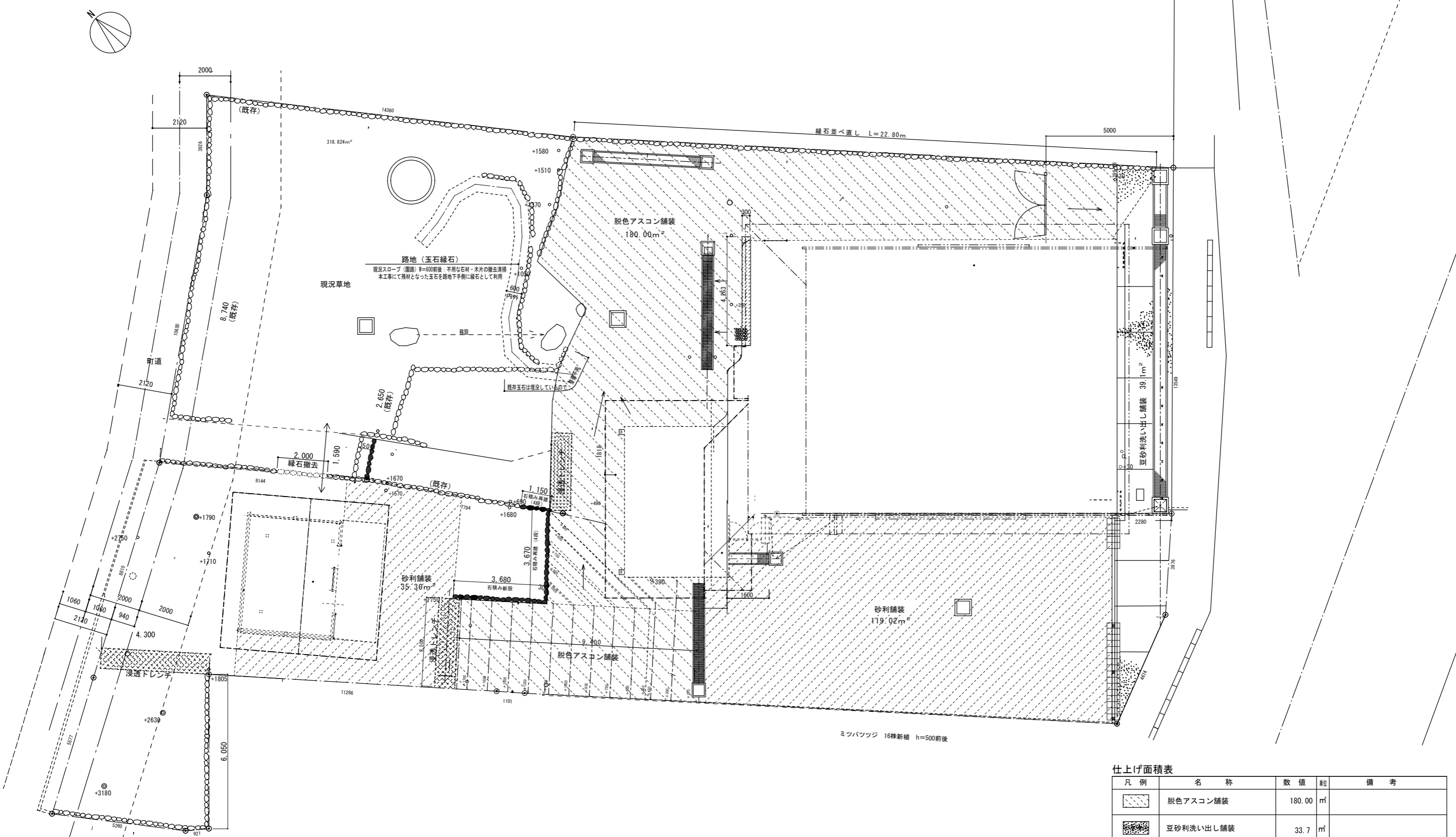


外構計画平面図 S=1:100

施設一覧表 (舗装は舗装平面図参照)

記号	施設名	数量	備考
●●	自然石擁壁 (4段)	4.82m	3.67+1.15
●●	自然石擁壁 (1~4段)	3.68m	3.68
●●	自然石階段	1.60m	1段積み
∞	緑石並べ直し (固定)	22.80m	裏込めモルタル固定処理
○	既存景石移動	1.0基	崖下に6.3m移動
●	サイロベンチ	1.0基	基礎は既存サイロ利用
?	露地 (再生)	1.0箇所	既存露地の修復 (約12.0m)
	門扉	1.0箇所	



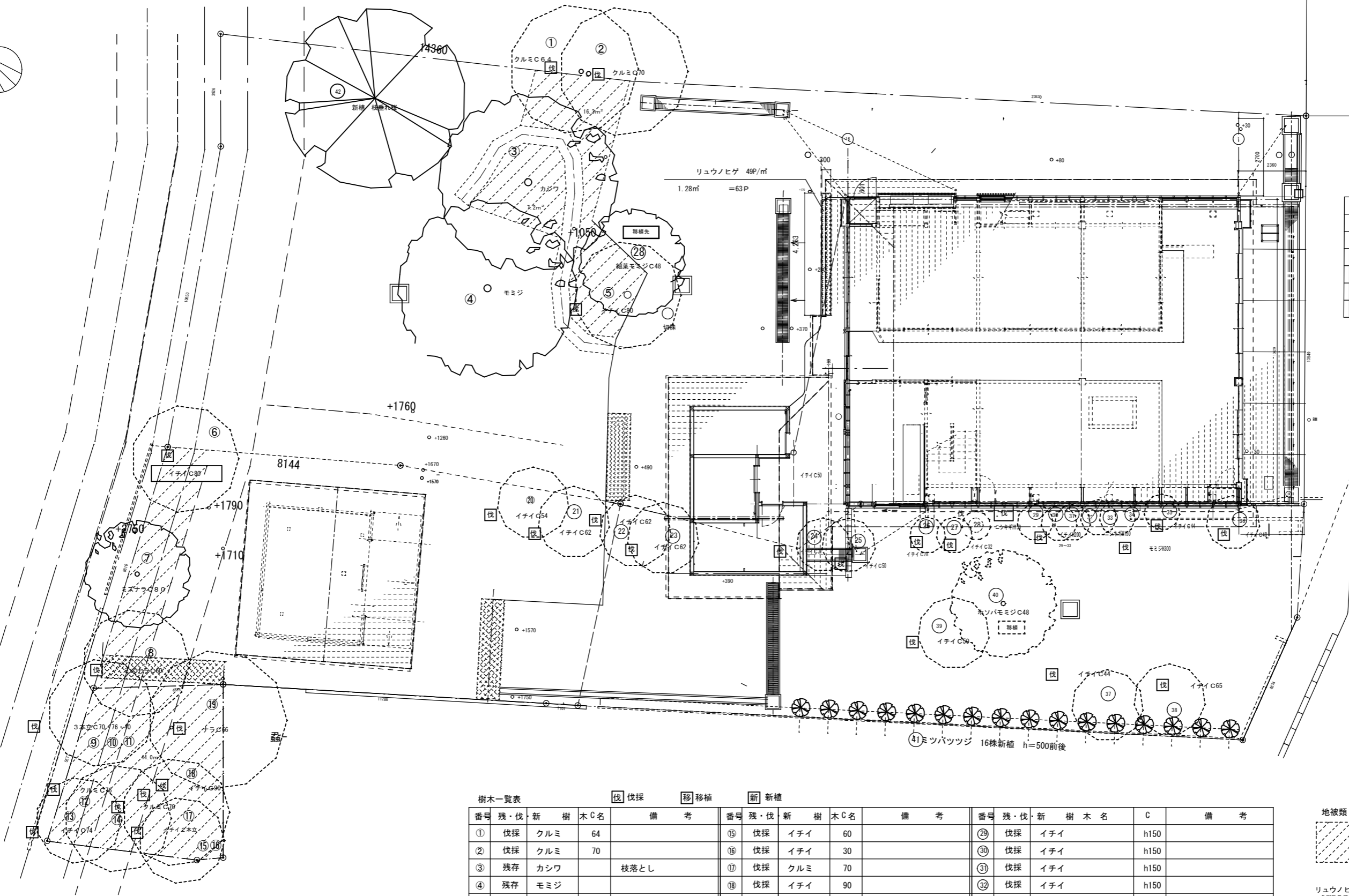
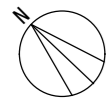


舗装計画平面図 S=1:100

仕上げ面積表

凡例	名称	数値	単位	備考
	脱色アスコン舗装	180.00	m <sup>2</sup>	
	豆砂利洗い出し舗装	33.7	m <sup>2</sup>	
	砂利舗装	154.32	m <sup>2</sup>	駐車場・倉庫前 119.02+35.30

(注) 雨水浸透面積は軒先までの面積なので数値に誤差が生じている。

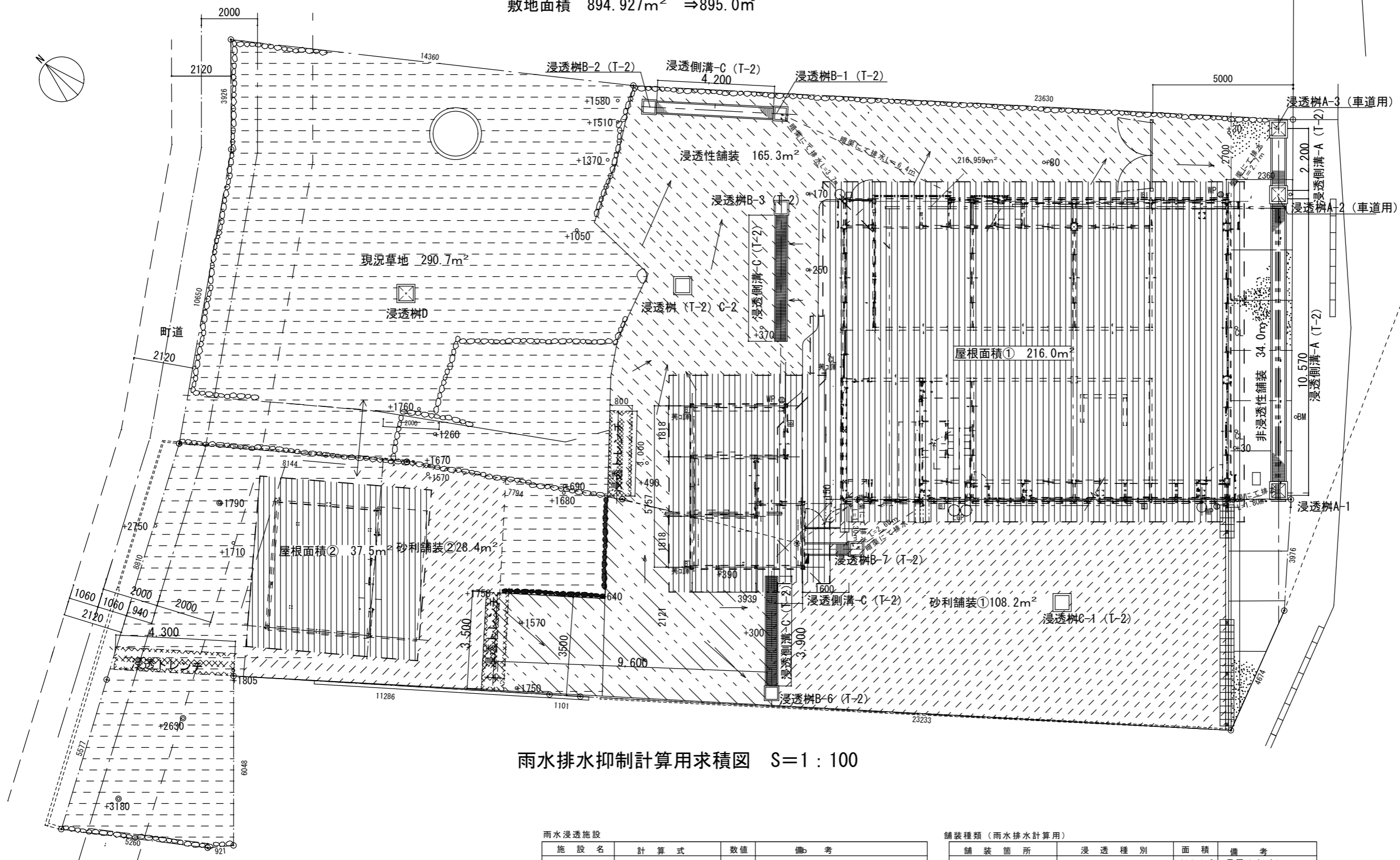


植栽計画平面図 S=1:100

樹木一覧表				伐採	移植	新植	樹木一覧表				伐採	移植	新植		
番号	残・伐	新	樹木C名	備考	番号	残・伐	新	樹木C名	備考	番号	残・伐	新	樹木C名	C	備考
①	伐採		クルミ 64		⑮	伐採		イチイ 60		⑳	伐採		イチイ	h150	
②	伐採		クルミ 70		⑯	伐採		イチイ 30		㉑	伐採		イチイ	h150	
③	残存		カシワ	枝落とし	⑰	伐採		クルミ 70		㉒	伐採		イチイ	h150	
④	残存		モミジ		⑱	伐採		イチイ 90		㉓	伐採		イチイ	h150	
⑤	伐採		イチイ 80		㉔	伐採		ナラ 66		㉕	伐採		イチイ	h150	
⑥	伐採		イチイ 80		㉕	伐採		イチイ 54		㉖	伐採		イチイ	44	
⑦	残存		ミズナラ 80		㉖	伐採		イチイ 62		㉗	伐採		イチイ	40	
⑧	伐採		ミズナラ 60		㉗	伐採		イチイ 62		㉘	伐採		イチイ	44	
⑨	伐採		ナラ 70		㉘	伐採		イチイ 62		㉙	伐採		イチイ	65	
⑩	伐採		ナラ 76		㉙	伐採		イチイ 37		㉚	伐採		イチイ	50	
⑪	伐採		ナラ 40		㉚	伐採		イチイ 50		㉛	伐採		イチイ	50	
⑫	伐採		クルミ 76		㉛	伐採		イチイ 28		㉜	移植		ホノバモミジ	48	
⑬	伐採		イチイ 74		㉜	伐採		イチイ 32		㉝	新植		ミツバツツジ	H50	16株新植
⑭	伐採		クルミ 70		㉝	伐採		ニシキギ h150		㉞	新植		枝垂サクラ	H350	二脚鳥居支柱

- 地被類
- 水仙植栽エリア  
概算 44.0×7.2+16.3=67.5㎡  
1平方メートルに3か所と仮定して約200球  
現況石材・既存樹の根元が障害にならない部分に適宜植栽
  - リュウノヒゲ  
49P/㎡×1.28㎡=63p
  - 残存樹木
  - 伐採樹木
  - 新植樹木

敷地面積 894.927m<sup>2</sup> ⇒895.0m<sup>2</sup>



雨水排水抑制計算用求積図 S=1:100

雨水浸透施設

施設名	計算式	数値	備考
浸透樹-A		3.0基	内径450角 入口U字溝に接続 (T-2)
浸透樹-B		5.0基	内径300角 車輦用U字溝に接続 (T-2)
浸透樹-C		2.0基	内径500角 広場雨水用CD樹 (T-2)
浸透樹-D		1.0基	内径600角 広場雨水用CD樹
浸透側溝-A	10.57+2.20	12.77m	W=300 入口 (T-2)
浸透側溝-B	—	—	—
浸透側溝-C	4.20+4.50+3.90+1.60	14.2m	W=240 園内 (T-2)
浸透トレンチ	4.30+3.00+3.50	10.8m	広場雨水用 (T-2)

注) 樹及び側溝のT-2とは車輦横断用であり、普通車輦の横断に耐えるものとする。

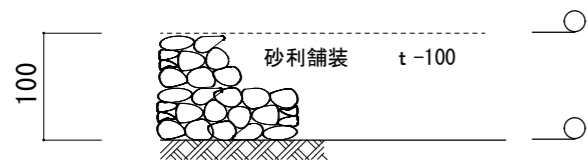
舗装種類 (雨水排水計算用)

舗装箇所	浸透種別	面積	備考
1. 屋根	屋根面積①	216.0m <sup>2</sup>	母屋+トイレ
	屋根面積②	37.5m <sup>2</sup>	倉庫
	合計	253.5m <sup>2</sup>	
2. 玄関前 (非浸透性)	豆砂利洗い出し舗装	34.0m <sup>2</sup>	
3. 草地・駐車場等	草地	290.7m <sup>2</sup>	
	砂利舗装①	108.2m <sup>2</sup>	
	砂利舗装②	28.4m <sup>2</sup>	
	合計	427.3m <sup>2</sup>	
4. 透水性舗装	脱色アスコン舗装 (浸透性)	165.3m <sup>2</sup>	

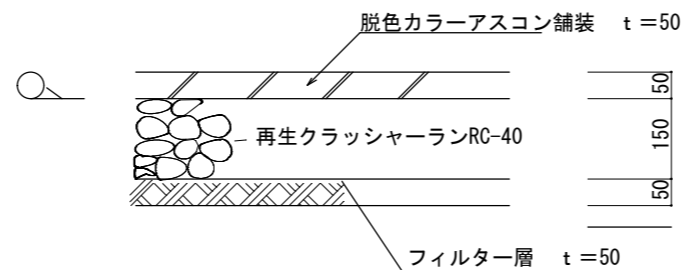
注意) 上記面積は雨水排水計算用面積であり、実面積は舗装平面図を参照の事。

暗渠屋根排水合計 ΣL=2.7+6.4+3.7+1.3+2.6+1.8=18.5m

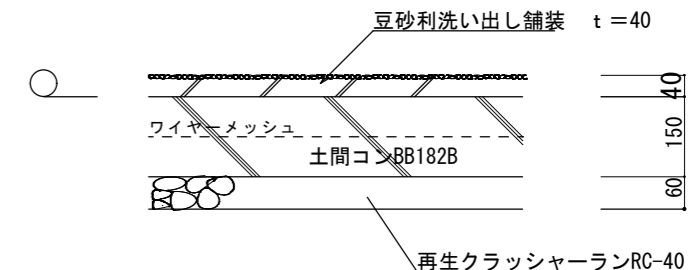
砂利舗装詳細図（駐車場） S=1:5



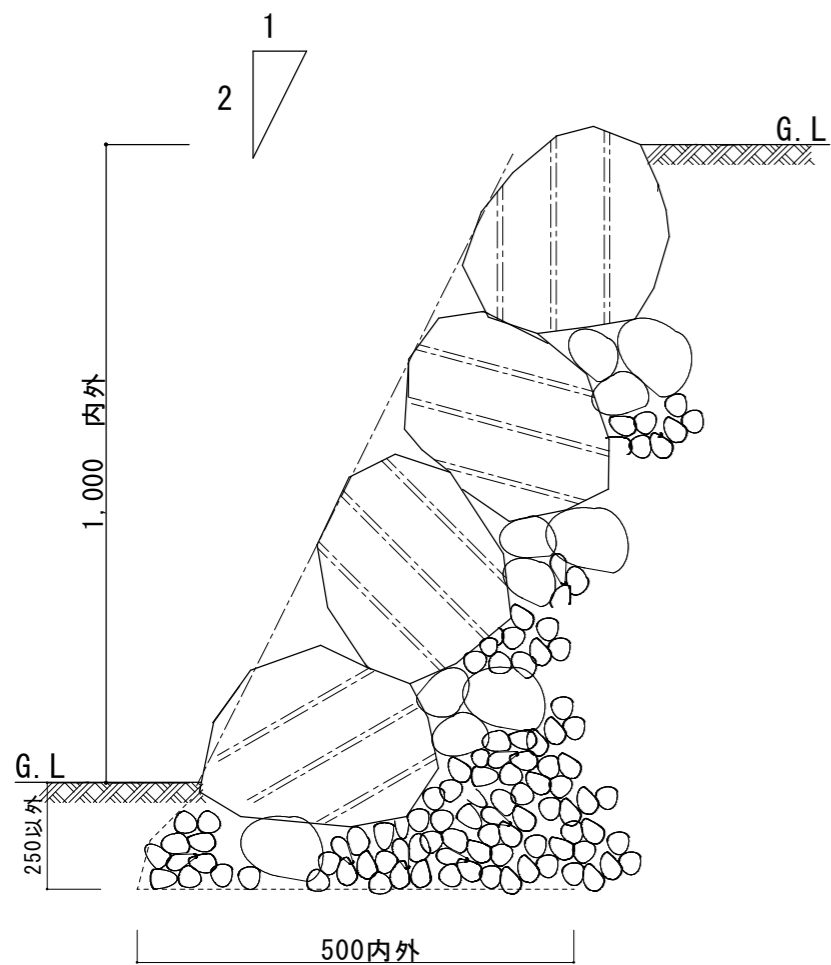
脱色カラーアスコン舗装詳細図 S=1:10



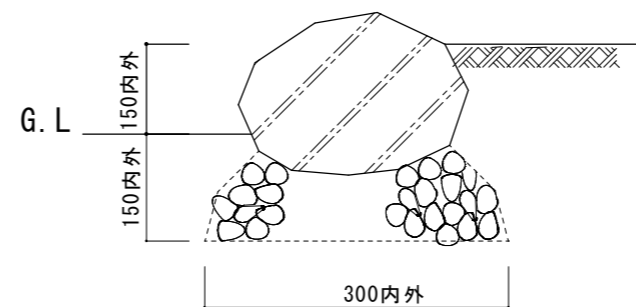
豆砂利洗い出し舗装詳細図 S=1:10



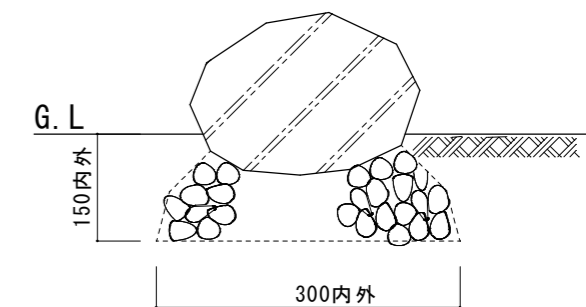
玉石擁壁詳細図 S=1:5



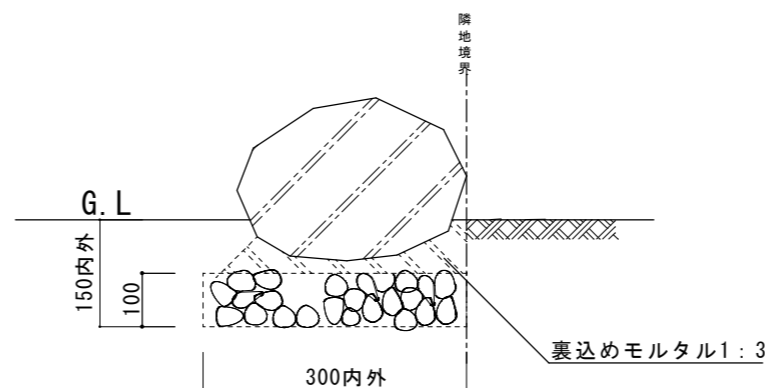
玉石階段詳細図 S=1:5



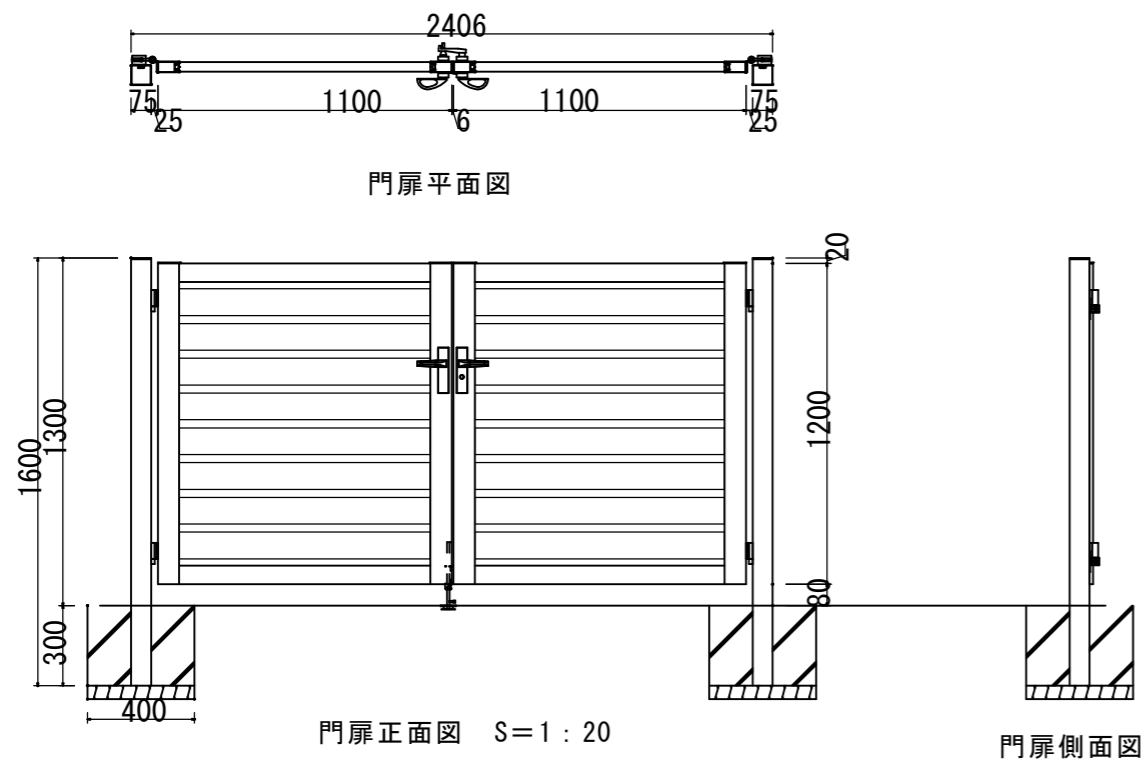
玉石縁石詳細図 S=1:5



玉石縁石（裏込めモルタル）細図 S=1:5



門扉詳細図 S=1:20

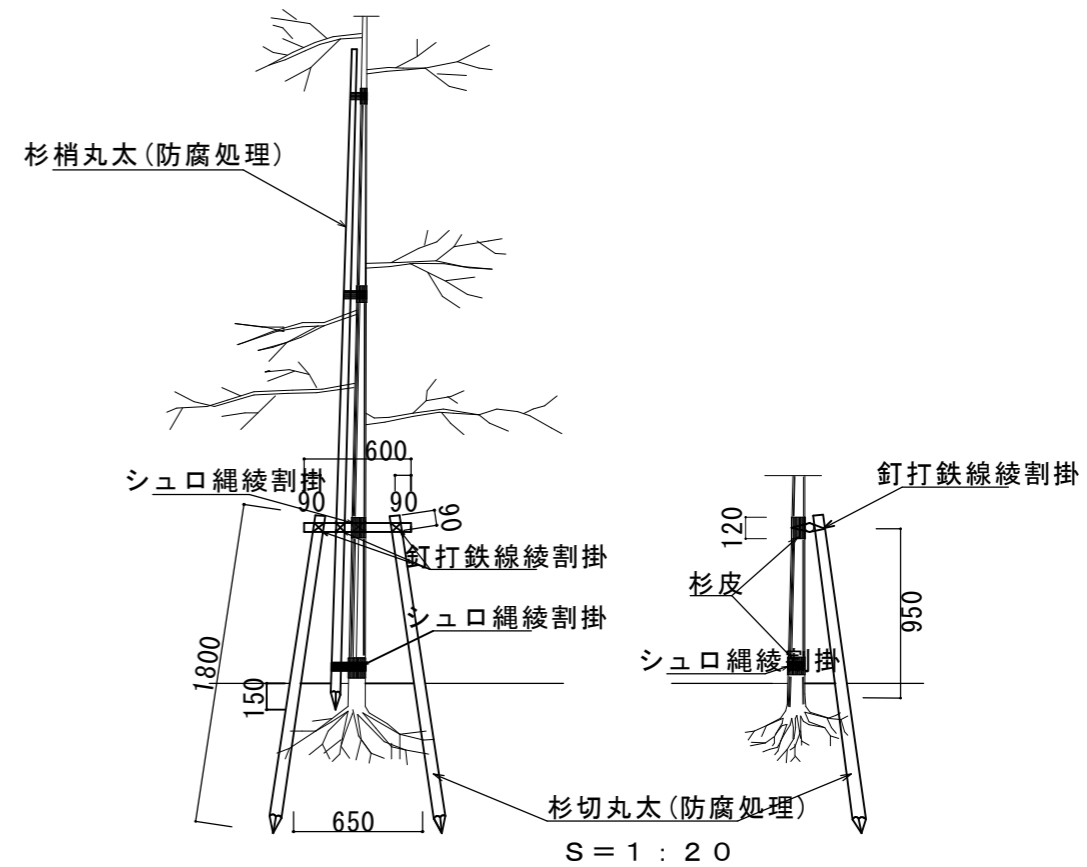


門扉正面図 S=1:20

門扉側面図

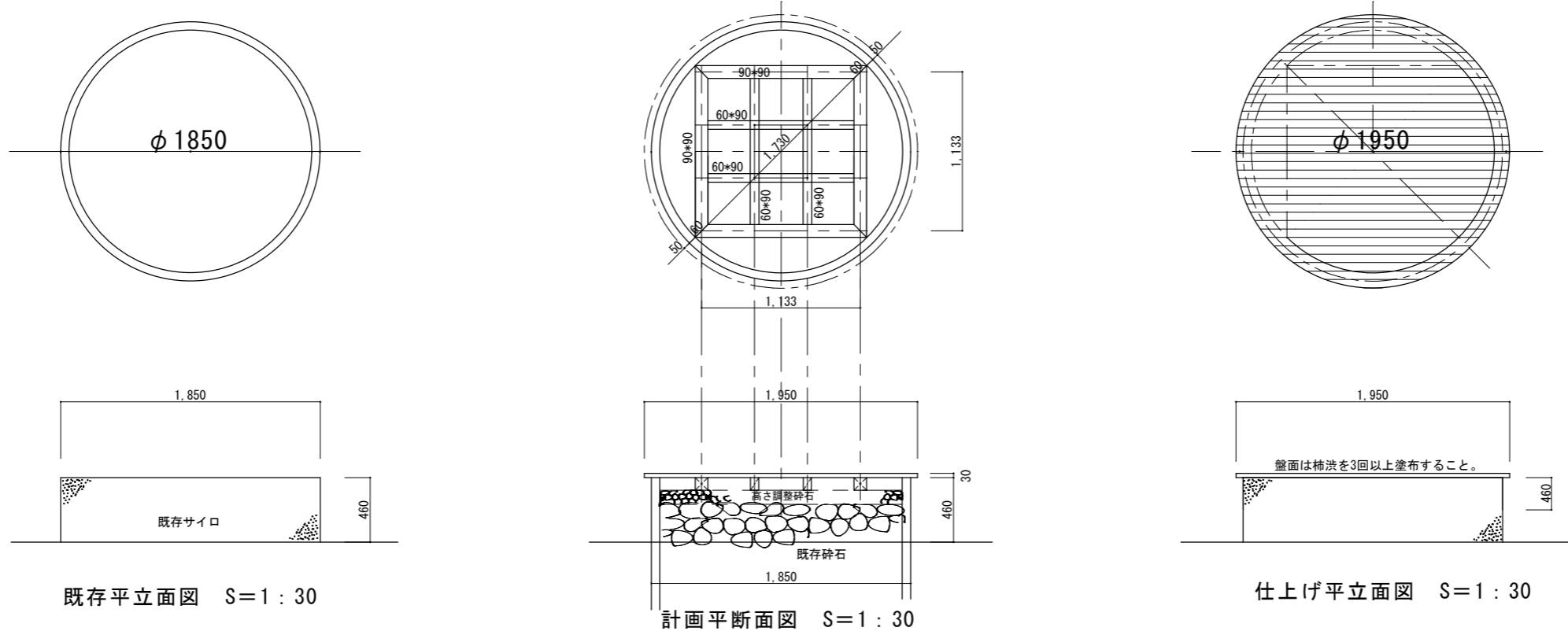
\* 門扉は (株) タカショーアートウッド門扉 こだわり板横型または同等品とする

二脚鳥居詳細図 S=1:15



S=1:20

サイロベンチ詳細図 S=1:30

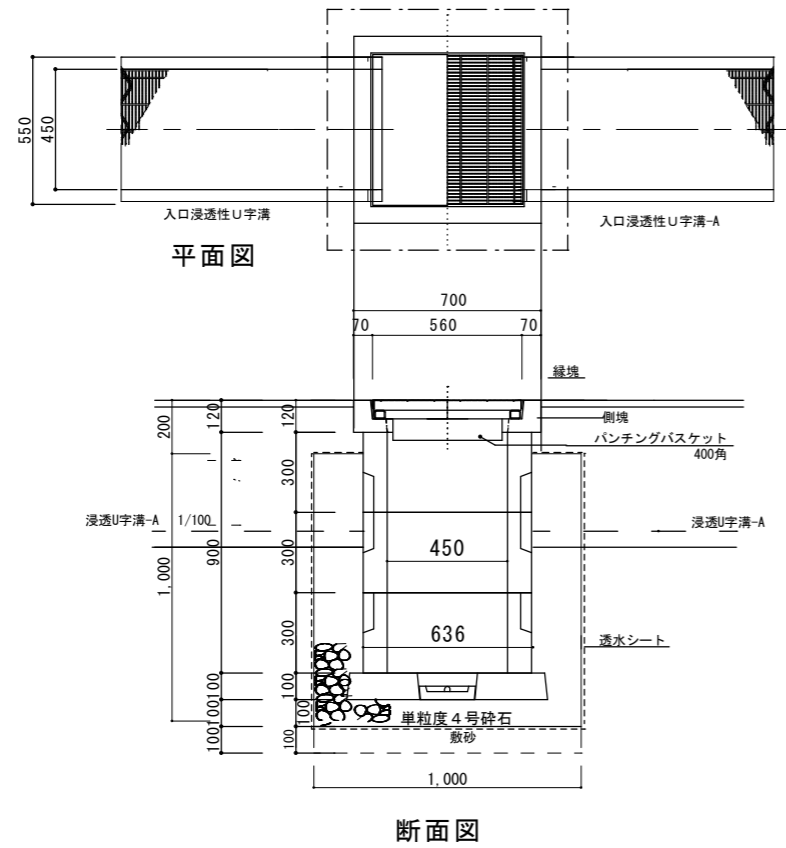


既存平立面図 S=1:30

計画平断面図 S=1:30

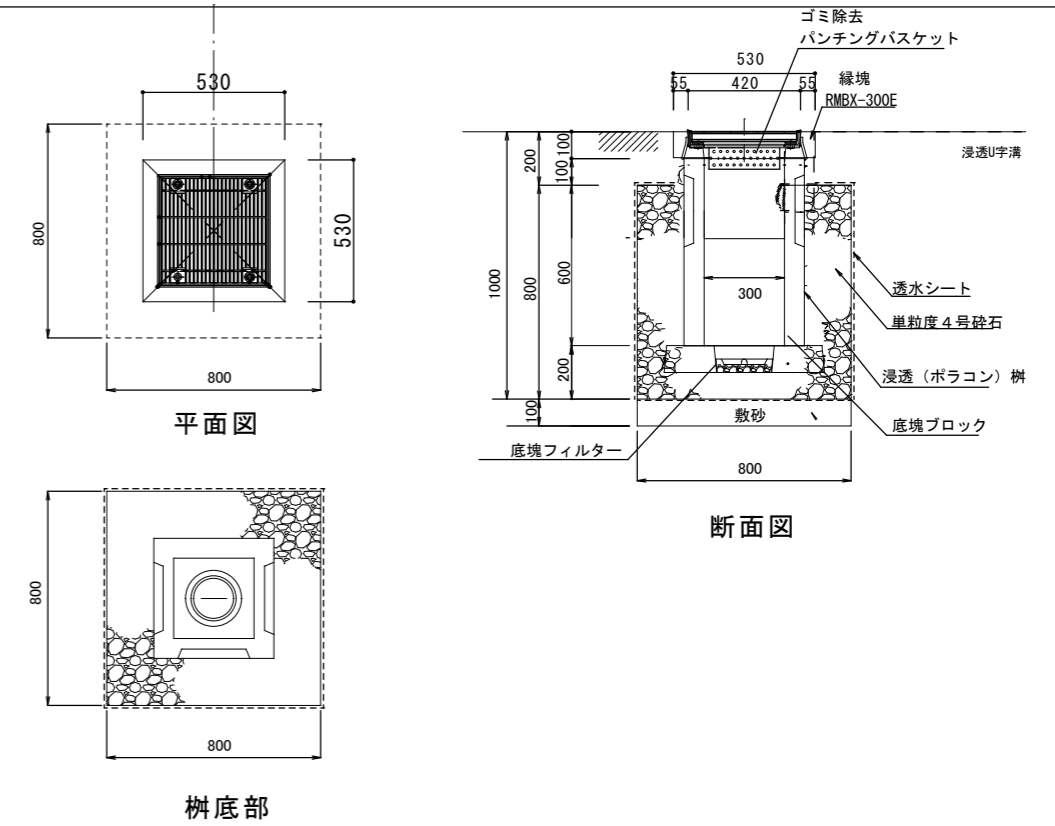
仕上げ平立面図 S=1:30

浸透樹A (耐車両用) S=1:20

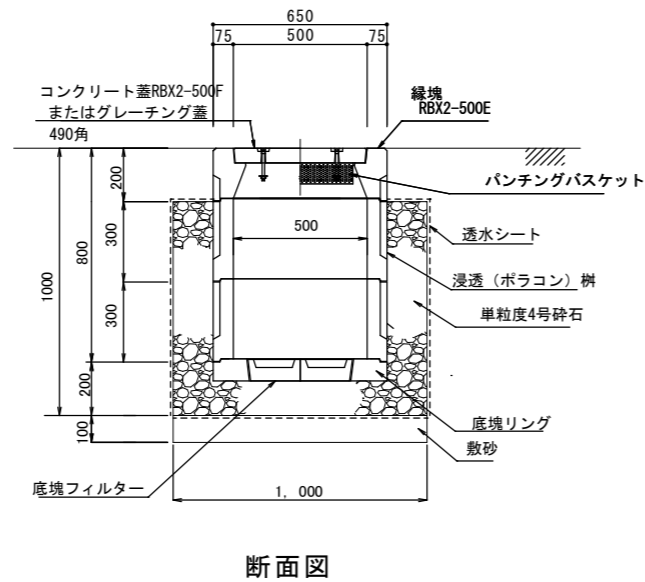
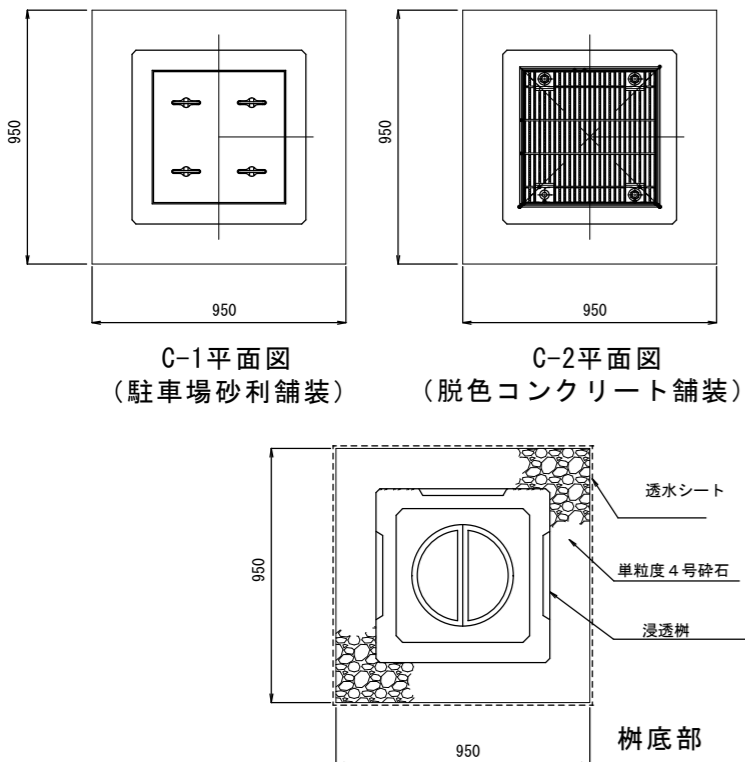


関西ポラコン(株) 図面より

浸透樹-B (耐車両用) S=1:20

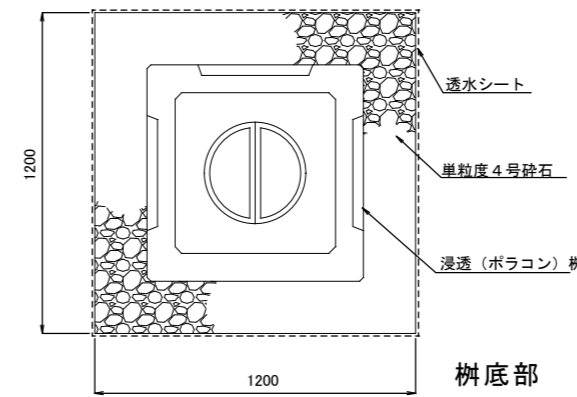
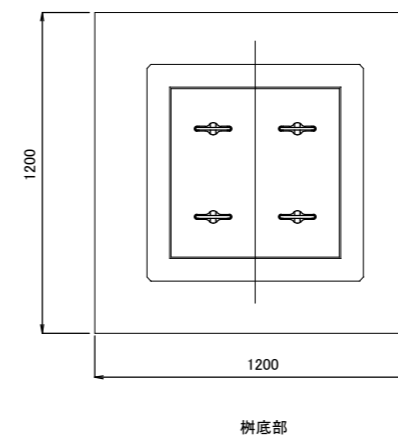
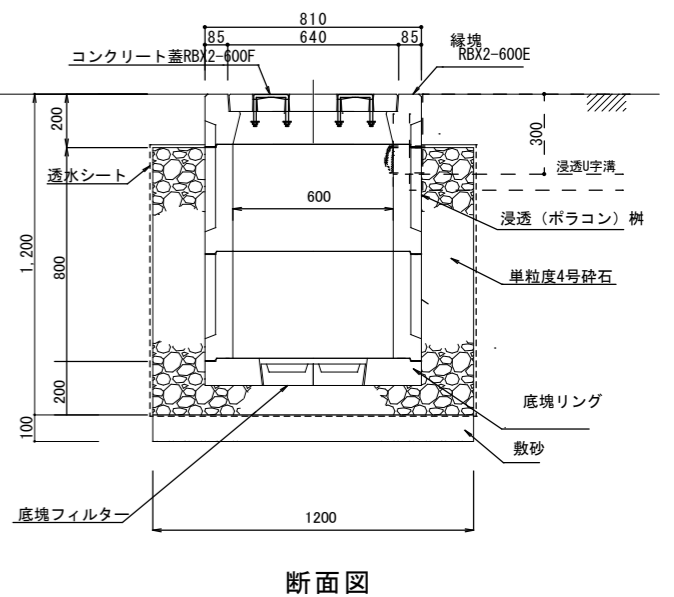


浸透樹-C1.2 (耐車両用) S=1:20



570角-700

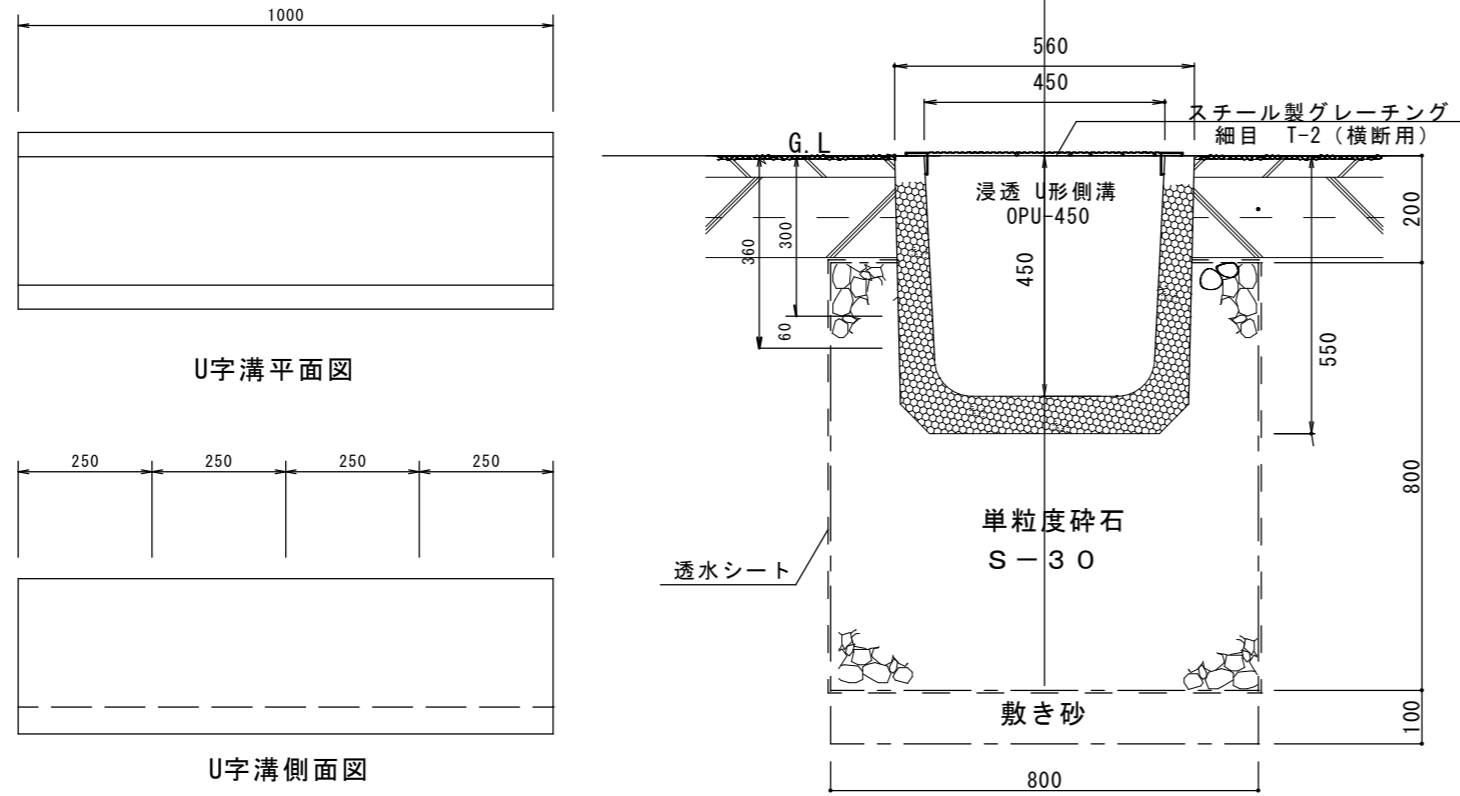
浸透樹-D (非車両用) S=1:20



浸透樹類は既製品なので、雨水浸透計算の断面サイズをクリアしてれば良い。



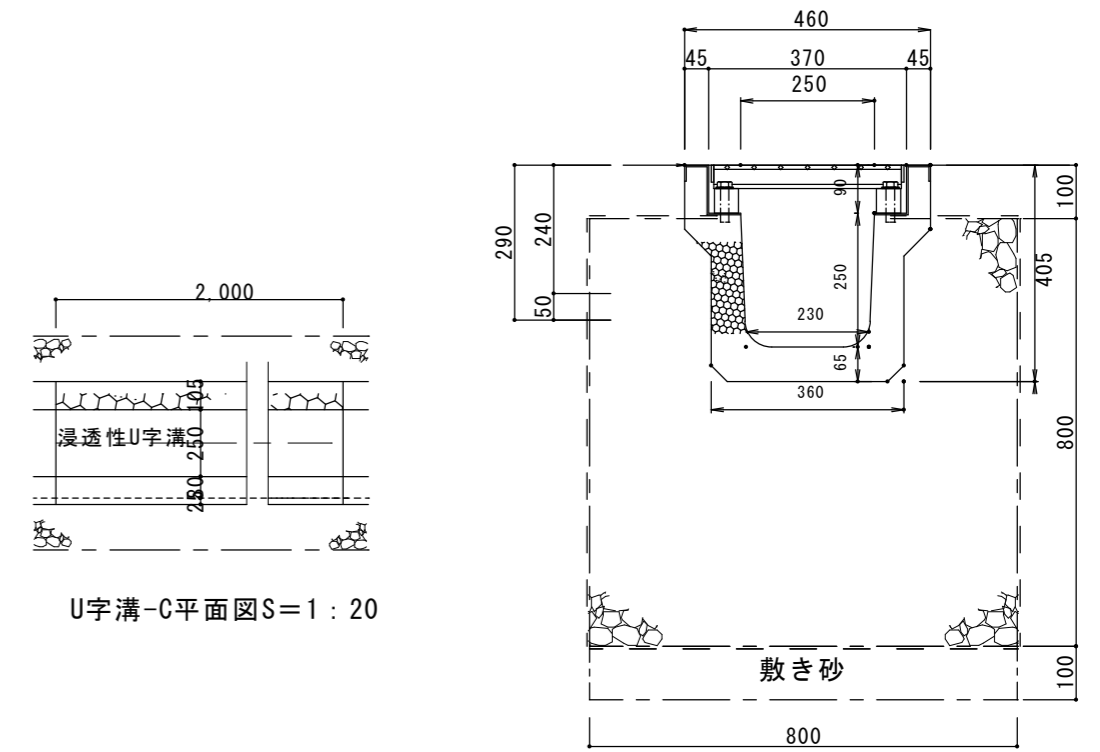
入口（玄関）U字溝A詳細図 S=1:10



断面図

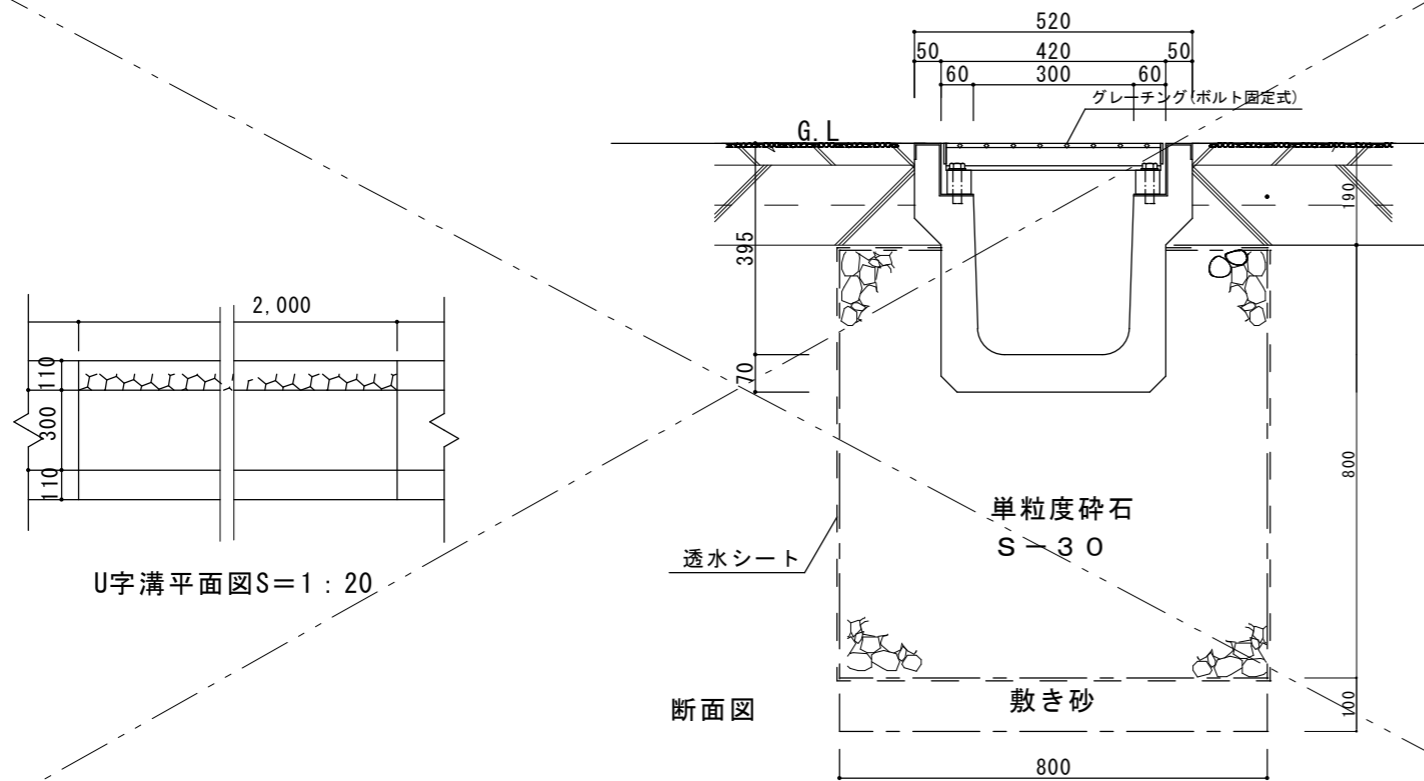
※適用荷重：T-2

浸透U字溝-C詳細図 S=1:10



※適用荷重：T-2

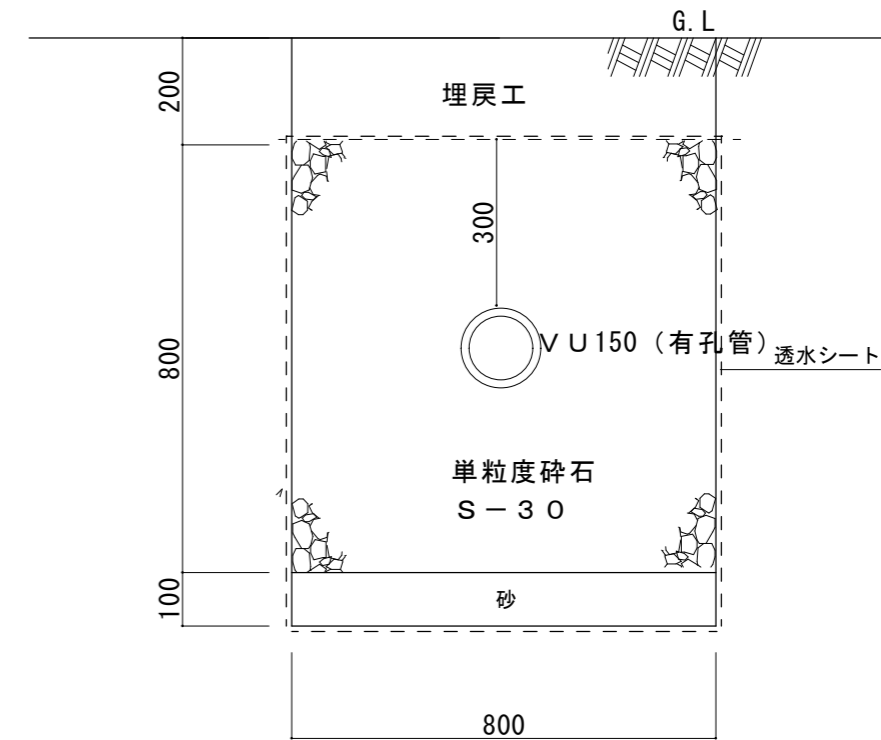
U字溝B詳細図 S=1:10



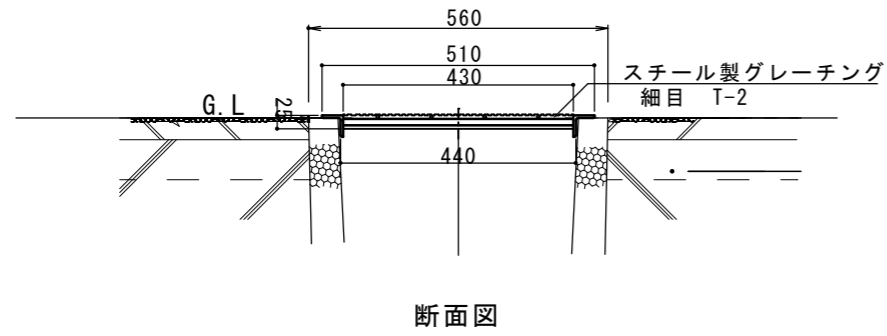
断面図

※適用荷重：T-2

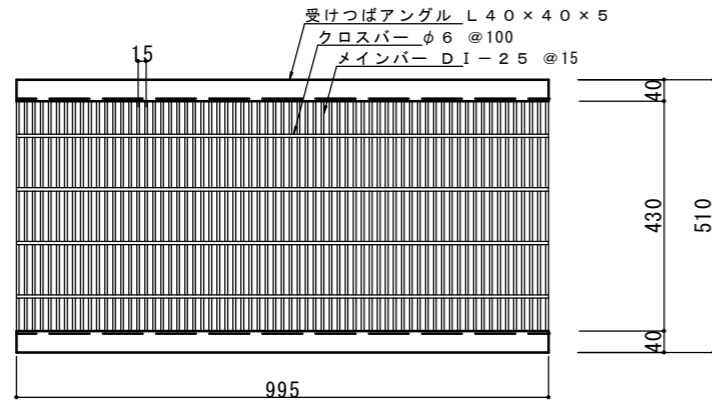
浸透トレンチ詳細図 S=1:10



入口（玄関）U字溝A詳細図 S=1:10



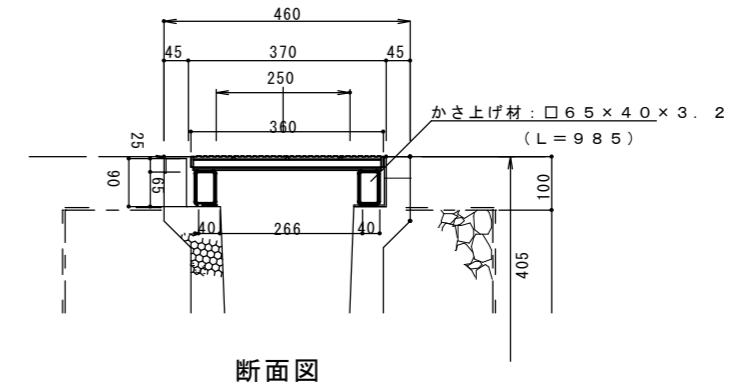
断面図



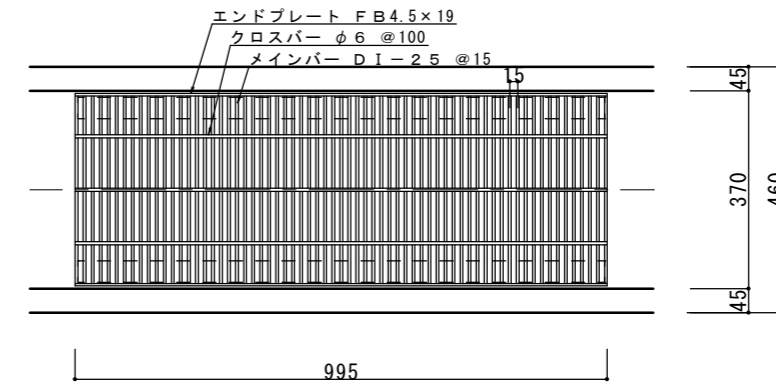
平面図

※適用荷重：T-2

浸透U字溝-C詳細図 S=1:10



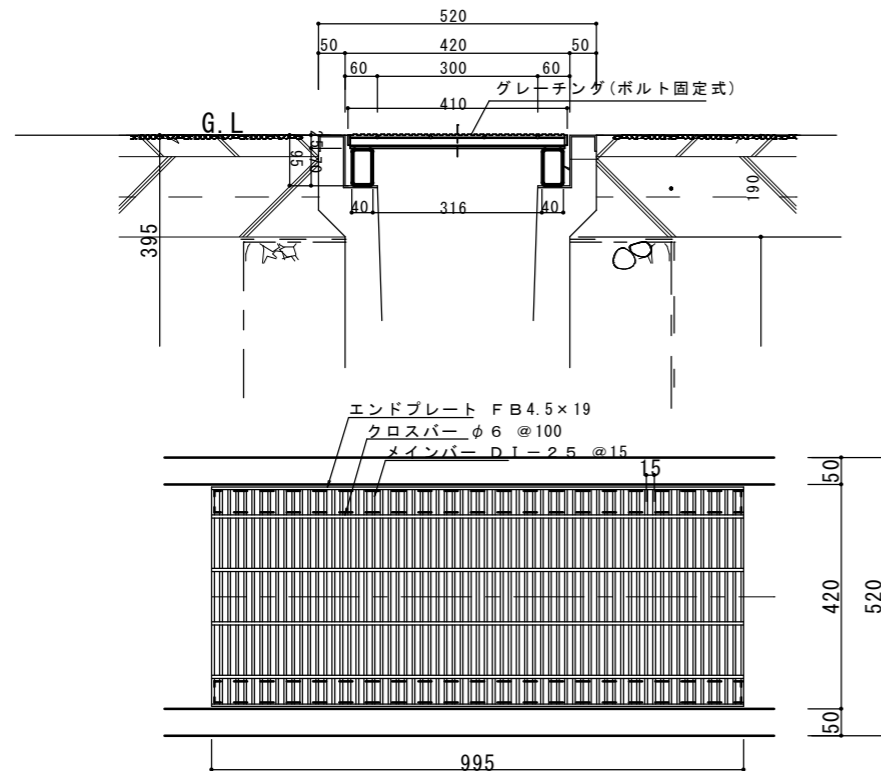
断面図



平面図

※適用荷重：T-2

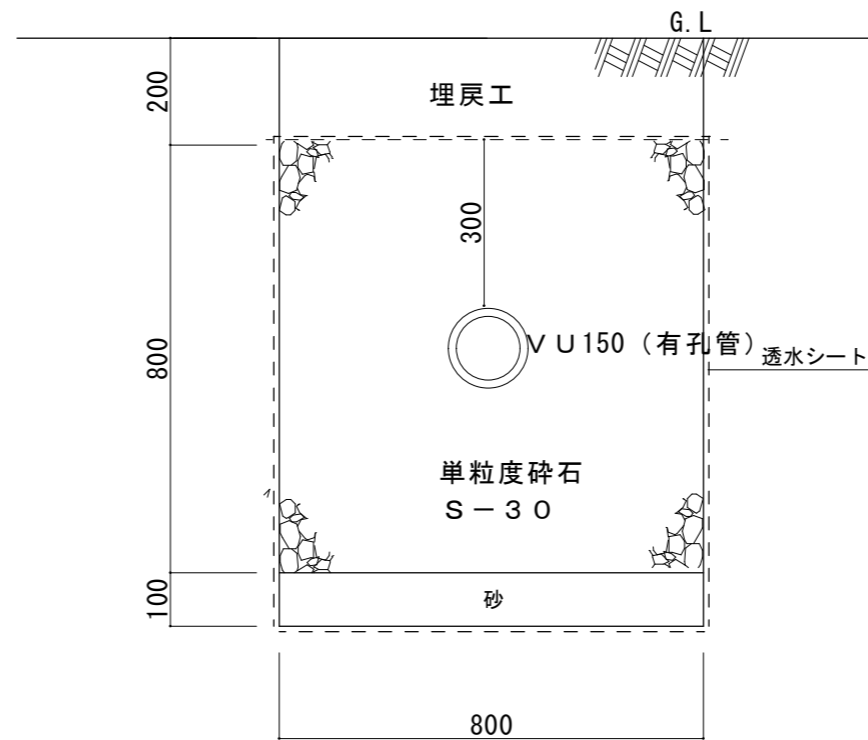
U字溝B詳細図 S=1:10



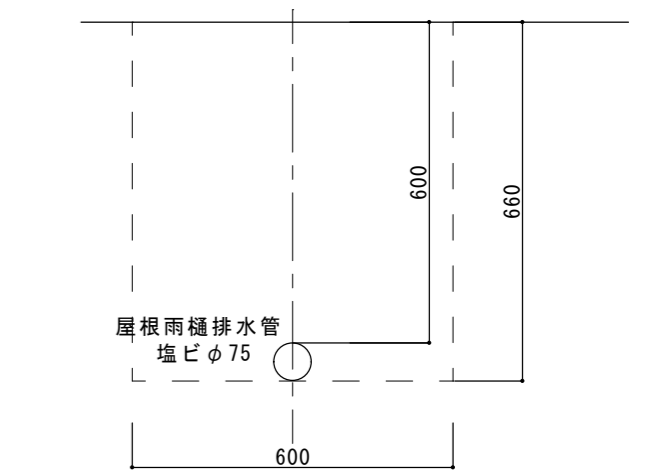
エンドプレート FB4.5x19  
クロスバー φ6 @100  
メインバー DI-25 @15

※適用荷重：T-2

浸透トレンチ詳細図 S=1:10



雨水地中埋設図 S=1:10



車両重量を考慮しGL-600以上の深さに埋設すること

